

まえがき

このたびは、BYD の車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。BYD の車を正しくご利用いただき、正しくメンテナンスするために、ご利用の前に必ず本マニュアルのすべての内容をよくお読みください。

特別説明:BYD は、純正部品を使用し、マニュアルにしたがって正しく利用、メンテナンス、整備することをおすすめしています。非純正部品への交換や車の改造を行うと、車両の性能、特に安全性や耐久性に影響を与えるおそれがあります。それにより発生した車の破損および性能上の不具合は品質保証対象外となります。また、車の改造は、国の法規や地方条例に違反する場合があります。

よりよいサービスをお届けするために、皆さまからの貴重なご意見やアドバイスをいただけましたら幸いです。そのためにも必ず正しい連絡先情報をご提供ください。また、変更がある場合は早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、システム上の情報更新を依頼してください。同時に、国の関係法規および地方条例に常にご関心をお寄せいただき、できるだけ早く車両登録をしていただきますようお願い申し上げます。そうされませんと、車両登録ができなくなるおそれがあります。

本マニュアルに「アドバイス」、「注意」および「警告」が記載されているところは、怪我や破損が発生しないように記載内容をお守りください。シンボルマークの表示や使い方は、次の通りです。

アドバイス

メンテナンスなどを容易にするために守らなければならない事項

注意

車両の損傷を避けるために守らなければならない事項

警告

身の安全を守るために守らなければならない事項



左図に示す禁止マークは、「このようなことをしてはいけません」、または「このようなことを起こしてはいけません」を意味します。

本マニュアルに*記号が付いている内容は、一部の車種にのみ適用され、それが搭載されていることを表しています。使われているイラストは代表例です。お買い上げの車と異なる場合は、実車を参考にしてください。

本マニュアルは、製品を正しくお使いいただくためのものであり、本製品の仕様およびソフトウェアバージョンに関する説明を表すものではありません。製品仕様やソフトウェアバージョンについては、本製品に関する契約書(もしあれば)を参照していただくか、製品をお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

環境を守ることは、一人ひとりの責任です。この車を正しくご利用いただき、また、関係の法規にしたがって、廃棄物やリサイクル材料を処分してください。

著作権は、BYD に帰属します。

BYD から書面による許可を得ずに、本マニュアルの一部、または全部の内容を転載、複製することを禁じます。

本マニュアルを複製する場合は、必ずその責任を追及します。

モデル概要

BYD ATTO 3（以降 ATTO 3）は、新しいパワートレインを搭載した純電気乗用車で、BYD が総力を結集したエコプロダクトです。ボディーはモノコック構造を採用しています。車両前後のメンバーと左右のサイドメンバーを有し、床下のブレードバッテリーはボディーと一体化しているため、バッテリーと車両双方の安全性を確保しています。

ATTO 3 は、それぞれのモードにおいて、すべてモーターで駆動するために、環境保全においてゼロエミッションを確実に達成しています。

車が電気によって駆動されるため、車内、車外の音が極めて小さく、ガソリン車とは比べものにならない運転環境、乗り心地のよさをユーザーにお届けします。

車両設計では、高電圧システムの安全性が十分に考慮されているため、衝突事故から乗員の安全を守ります。

バッテリーマネジメントシステムは、常にパワーバッテリーをモニタリングしています。バッテリーのセル毎の電圧や電流などの各性能指標に基づいて、過充電や過放電およびオーバーヒートなどのバッテリー性能に影響をおよぼす一連の問題がないようにバッテリーの出力を調整し、バッテリーが常に正常に機能していることを確保します。

150kW のモーターが ATTO 3 に高回転、高トルクを与えているため、発進加速能力が高められています。

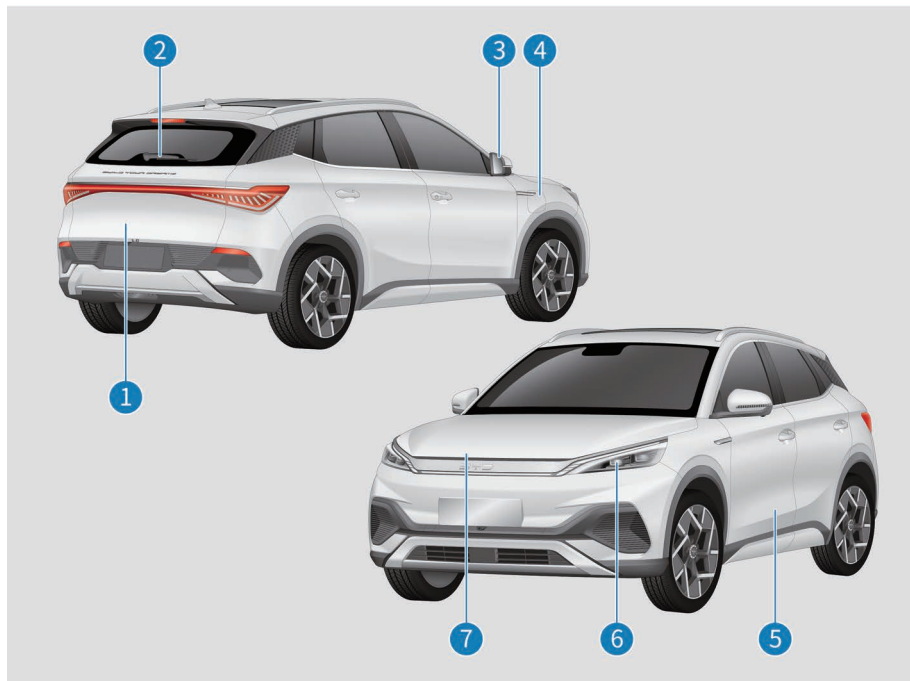
	イラスト目次	イラストで検索します
1	安全	本章の内容を一通りお読みください
2	コンビネーション メーター	メーター、各種警告灯および表示灯などの見方 について
3	コントローラーの 操作	ドアとウィンドウの開閉、運転開始前の調節な どについて
4	使用および運転	運転時の必要操作およびアドバイスについて
5	車内装置	車内装置などの使い方について
6	お手入れと メンテナンス	車のお手入れおよびメンテナンス手順につい て
7	故障が発生したとき	故障が発生したとき、または緊急時の対応策に ついて
8	車両仕様	車両仕様および指示メッセージについて
	さくいん	さくいん

まえがき	1	3-2 シート	78
モデル概要	3	シートについて	78
1 安全		フロントシートの調節	79
1-1 シートベルト	16	リアシートの収納	80
シートベルトについて	16	ヘッドレスト	81
シートベルトを着用するとき	18	3-3 ステアリングホイール	82
1-2 エアバッグ	22	ステアリングホイール	82
エアバッグについて	22	3-4 スイッチ	88
運転席および助手席エアバッグ	24	ライトスイッチ	88
前席サイドエアバッグ	25	ワイパースイッチ	94
サイドカーテンエアバッグ	26	走行距離切替スイッチ	100
エアバッグの作動条件	27	運転支援スイッチユニット	101
1-3 幼児用補助装置	33	助手席側ウィンドウスイッチ	101
幼児用補助装置 (チャイルドシート)	33	ハザードランプスイッチ	102
1-4 イモビライザー	38	モードスイッチユニット	102
イモビライザー	38	E-Call	104
1-5 データの収集および処理	40	サンルーフスイッチ	105
データの収集および処理	40	ルームランプスイッチ	108
2 コンビネーションメーター		4 使用および運転	
2-1 コンビネーションメーター	46	4-1 充電 / 放電について	111
コンビネーションメーター	46	充電について	111
イメージ	46	充電方法	117
メーター表示灯	47	外部給電方法 *	125
3 コントローラーの操作		充電ポート盗難防止	
3-1 ドアおよびキー	60	ロック機能	128
キーについて	60	航続距離の表示 *	129
ドアの施錠 / 解錠	64	回生ブレーキの設定	130
スマートエントリー& スタートシステム	75	4-2 バッテリー	131
チャイルドロック	77	パワーバッテリー	131
		起動バッテリー (12V)	135
		4-3 ご利用要領	137
		慣らし運転期間	137

トレーラーのけん引	137	ルームミラー	199
安全運転上のご注意	137	電動ドアミラー	200
車のご利用についての アドバイス	138	ワイパー	201
電気の省エネで車を 長持ちさせる方法について	139	ドライブレコーダー*	202
荷物の積み込み	141		
冠水路の走行	142		
火災の予防	144		
タイヤチェーン	146		
4-4 始動および運転	147		
車の始動	147		
車の運転	149		
シフト機構	150		
電動パーキングブレーキ (EPB)	152		
オートビークルホールド (AVH)	156		
4-5 運転支援機能	159		
運転要領	159		
アダプティブクルーズコント ロール (ACC) システム*	161		
予測緊急ブレーキシステム	167		
交通標識認識システム	171		
レーンサポートシステム*	173		
ナビゲーションパイロット*	176		
ブラインドスポット インフォメーション*	178		
タイヤ空気圧モニタリング	181		
BYD アラウンドビュー システム*	184		
駐車支援システム	187		
安全運転支援システム	192		
車両接近通報装置 (AVAS)	198		
4-6 他の主要機能について	199		
		5 車内装置	
		5-1 空調システム	207
		エアコンパネルイメージ	207
		エアコン操作画面	207
		機能定義	210
		吹き出し口	215
		空気清浄システム*	216
		クラウドサービス APP での エアコン操作	218
		5-2 小物入れ	219
		ドアポケット	219
		グローブボックス	219
		センターコンソールボックス	220
		シートバックポケット	220
		カップホルダー	220
		5-3 その他の装置	222
		サンバイザー	222
		アシストグリップ	222
		USB ポート	223
		12V アクセサリー電源	223
		ワイヤレス充電エリア	224
		リアシェルフ*	226
		カーペット	227
		5-4 マルチメディアシステム	228
		マルチメディアコントロール パネル PAD	228
		ナビゲーションバー	230
		ジェスチャーおよび応答	231

BYD インテリジェント 音声制御機能	231	フューズ	268
Bluetooth 電話	232	7 故障が発生したとき	
ファイル管理	233	7-1 故障が発生	274
5-5 BYD APP について	234	非常信号灯	274
BYD APP について	234	リモートキーのバッテリーが 切れたら	274
アカウント登録	234	緊急時シャットダウン システム	275
車両状態および 車両制御システム	235	車両火災が発生したら	276
個別センターおよび車両管理	235	バッテリーの液漏れが 発生したら	277
キャンプモード*	236	レッカー移動が必要なとき	279
6 お手入れとメンテナンス		タイヤの空気漏れが 発生したら	280
6-1 メンテナンス上のご注意	238	バッテリーが切れたら	284
メンテナンス周期および メンテナンス内容	238	車両をジャッキアップ するとき	286
6-2 定期メンテナンス	245	8 車両仕様	
定期メンテナンス	245	8-1 データ情報	288
車両の防食について	245	車両諸元	288
塗装メンテナンスのお願い	246	車両の表示	291
洗車	247	8-2 指示メッセージ	293
車内の清掃	249	警告ラベル	293
6-3 セルフメンテナンス	252	マイクロ波通信用ウィンドウ	295
セルフメンテナンス	252	8-3 適合証明	296
サンルーフの メンテナンスについて	256	リモートキー	296
車両の保管	258	さくいん	297
ボンネット	259	略語のまとめ	303
冷却システム	260		
ブレーキシステム	261		
ウォッシュャ	261		
空調システム	262		
ワイパーブレード	262		
タイヤ	264		

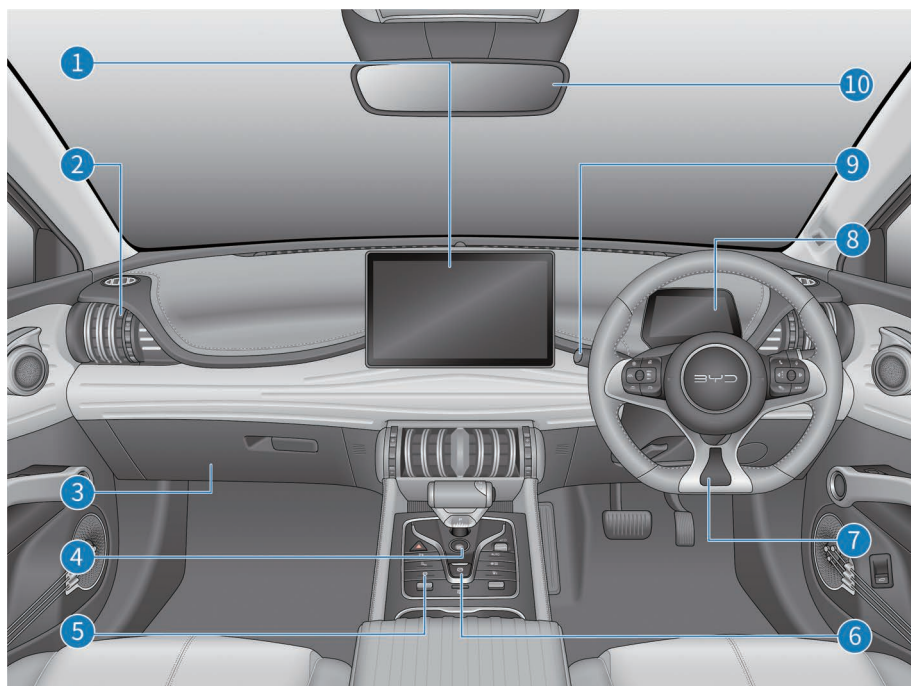
■ 車外



①	テールゲートの解錠・施錠……………	P 70
	荷物の積み込み……………	P 141
	車載工具……………	P 280
②	リアワイパー……………	P 201
③	ドアミラーの調節……………	P 200
④	家庭用 AC 普通充電での充電 ……	P 117
	AC 充電スタンドでの充電 ……	P 121
	DC 急速充電器での充電 ……	P 123
	外部給電……………	P 125

5	ドア	P 64
6	コンビネーションランプ	P 88
7	ボンネットの開け方	P 259
	冷却水	P 260
	ブレーキフルード	P 261
	モータールームの配電ボックス	P 269

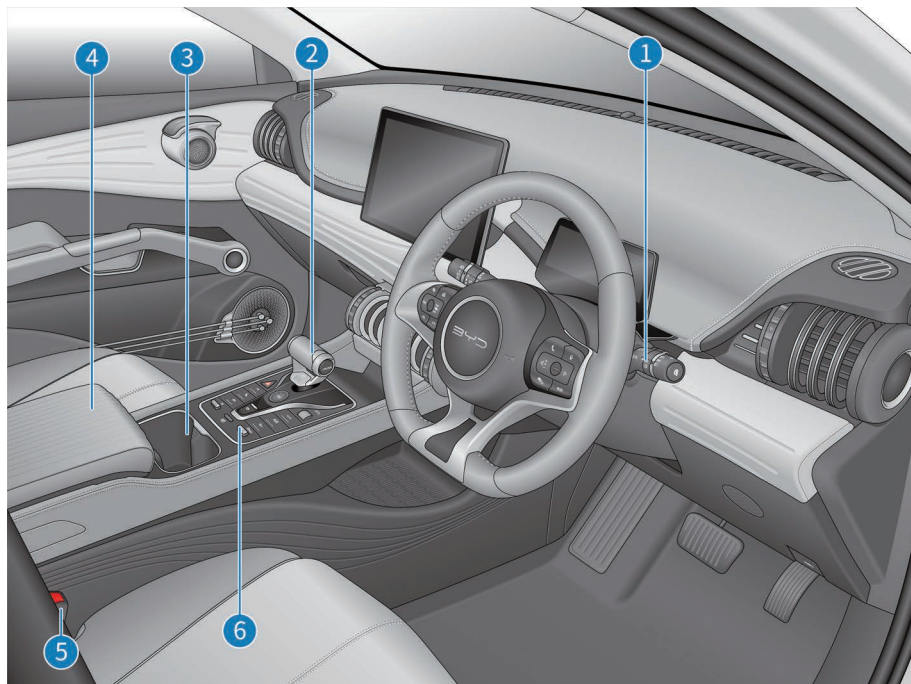
■ インストルメントパネル



①	マルチメディアコントロールパネル PAD	P 228
	エアコン設定画面	P 207
	エアコン機能定義	P 210
②	エアコンの吹き出し口	P 215
③	グローブボックス	P 219
④	スタート/ストップボタン	P 147
⑤	オートビークルホールド (AVH)	P 156
⑥	電動パーキングブレーキスイッチ	P 152

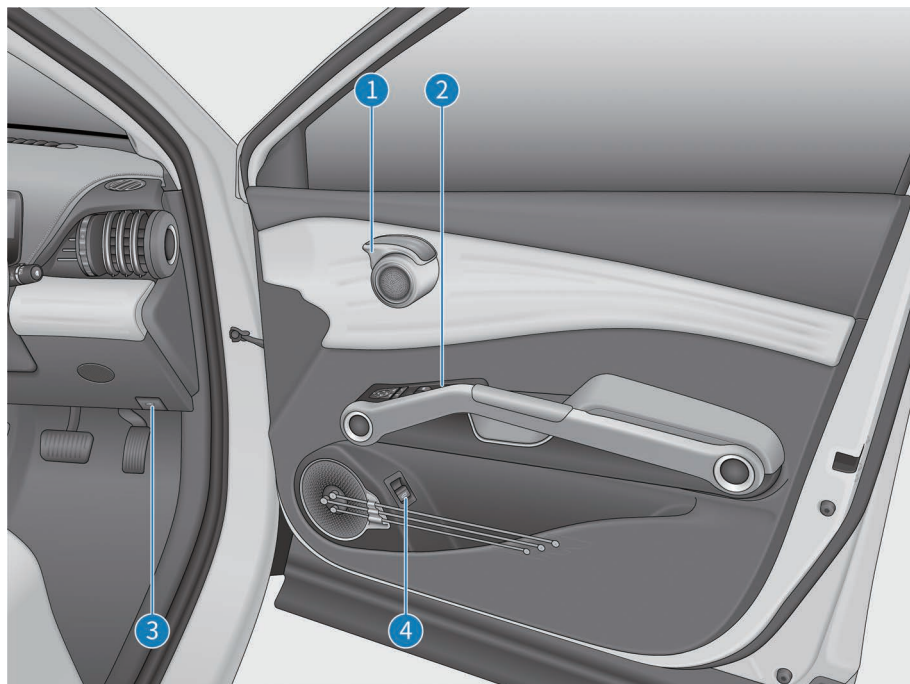
- 7 ステアリングホイールの調節…………… P 87
ステアリングホイールコンビネーションスイッチ…………… P 82
- 8 コンビネーションメーター…………… P 46
- 9 フロントワイパーおよびウォッシャー…………… P 94
リアワイパーおよびウォッシャー…………… P 95
- 10 ルームミラー…………… P 199

■ センターコンソール



- ① ライト調節スイッチ…………… P 88
- ② シフト機構…………… P 150
- ③ カップホルダー…………… P 220
- ④ センターコンソールボックス…………… P 220
- ⑤ シートベルトを着用するとき…………… P 18
- ⑥ モードスイッチユニット…………… P 102

■ ドア



- ① ノブ操作でドアを開けるとき…………… P 64
- ② パワーウィンドウスイッチ…………… P 96
ウィンドウロックキー…………… P 99
集中ドアロック…………… P 99
ドアミラーの調節…………… P 200
- ③ ボンネットリリースレバー…………… P 259
- ④ テールゲートの解錠・施錠…………… P 70

1-1 シートベルト	16
シートベルトについて	16
シートベルトを着用するとき	18
1-2 エアバッグ	22
エアバッグについて	22
運転席および	
助手席エアバッグ	24
前席サイドエアバッグ	25
サイドカーテンエアバッグ	26
エアバッグの作動条件	27
1-3 幼児用補助装置	33
幼児用補助装置	
(チャイルドシート)	33
1-4 イモビライザー	38
イモビライザー	38
1-5 データの収集および処理	40
データの収集および処理	40

シートベルトについて

急ブレーキ、急ハンドル、衝突の際にシートベルトを正しく使用することで、乗員の死傷者数を大幅に減らすことが研究により明らかになっています。以下をよくお読みになり、厳守してください。

警告

- 走行中は常にシートベルトを着用してください。
- 事故による傷害または重傷を負わないために、ドライバーおよび乗員全員は常にシートベルトの着用を徹底してください。
- 発進前に、乗員全員がシートベルトを確実に締めていることを確認してください。シートベルトを締めていないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- 車両のシートベルトは大人のサイズに合わせて設計されているため、お子様向けではありません。お子様の年齢や体格にあった適切な幼児用補助装置（チャイルドシート）を選定してください（詳細は [幼児用補助装置（チャイルドシート）](#) の区分をご参照ください）。
- お子様を載せる場合は、必ずリアシートに乗せてシートベルトを確実に締めてください。事故の統計データによると、お子様をリアシートに乗せて幼児用補助装置を正しく使用することで、フロントシートに乗せるときよりも安全性が高くなります。
- お子様リアシートに立ったり、ひざまずくことがないようにしてください。緊急ブレーキや衝突事故発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。緊急ブレーキや衝突事故発生時にお子様を確実に守るため、お子様を膝の上に乗せないでください。
- シートベルトの破損または異常がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に点検や処置を依頼してください。それまでは該当シートを使用しないでください。

シートベルトの緊急ロック機能

- 急ハンドル、緊急ブレーキ、衝突事故があった場合や、乗員の身体が勢いよく前へ傾くと、シートベルトは自動的にロックし、乗員を効果的に拘束および保護します。
- 走行中は、シートベルトが乗員の動きに合わせて伸縮するため、身体を動かしても支障はありません。
- シートベルトの引き出し方が速く、シートベルトがロックされた場合は、シートベルトを少し巻き戻してからゆっくり引っ張り出すと、シートベルトをスムーズに引き出すことができます。

シートベルトのプリテンショナー / ロードリミット機能*

重大な正面衝突事故が発生し、プリテンショナーの作動条件が揃った場合、プリテンショナーはシートベルトの緩みを瞬時に巻き取りロックし、乗員の身体を拘束します。ロードリミッターは、乗員にかかるシートベルトの過度の負荷を回避するため拘束力を一定レベルに保ち、乗員にかかる拘束力の強さの衝撃を緩和します。

警告

- プリテンショナーの部品や配線を修理したり、テスターを使用してシステム回路を検査しないでください。誤作動を起こし、正常な作動ができなくなるおそれがあります。

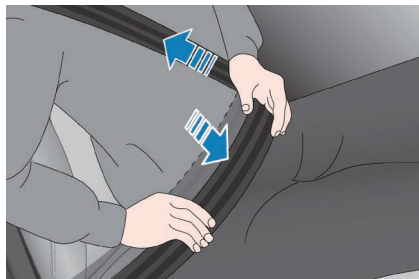
シートベルトを着用するとき

1. シートおよびシートバックを適切な位置や角度に調節します（詳細は[電動フロントシートの調節*](#)を参照してください）。

2. 3点式シートベルトの位置を調節します。

■ 正しい運転姿勢でシートベルトのストラップをゆっくり引っ張り出し、肩部から胸骨を通るように着用します。シートベルトは、脇の下や首の後部にかからないようにしてください。

■ 腰ベルトは腰部を押さえず、できる限り骨盤部を通るように着用してください。



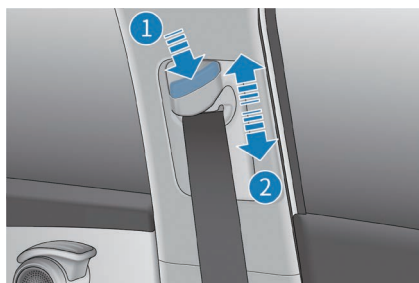
3. タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで挿し込んでから、反対方向にタングプレートを引っ張り、確実にロックできたかを確認します。シートベルトにねじれがないように注意してください。



4. シートベルトのアンカーアジャスター（前側）を調節して、適切な位置にします。

① シートベルトのアンカーアジャスターのリリースボタンを押します。

② シートベルトのアンカーアジャスターを上下に動かし、フロントシートのシートベルトを適切な高さまで調節してから、アンカーアジャスターから手を離します。



5. 調節完了後、肩ベルトを強く引っ張り、アンカーアジャスターがロックできるかをチェックします。

6. シートベルトのロックを解除します。

- バックルの赤い解除ボタンを押すと、タンブプレートが外れ、シートベルトが戻ります。
- シートベルトがスムーズに戻らない場合は、シートベルトを引っ張り出してねじれがないかをチェックしてください。



⚠ 警告

- 肩ベルトは、肩の真ん中を通してください。また、シートベルトは首から遠く離し、肩から簡単に外れないようにしてください。そうしないと、急ブレーキや事故時にシートベルトが十分に機能せず、乗員の重大な傷害につながるおそれがあります。
- 事故時に、乗員の腹部にベルトがかかったことで発生する傷害を避けるため、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- シートベルトの保護機能がより発揮できるように、シートベルトを身体に密着させてください。また、身体とシートベルトの間に、ものを挟まないでください。
- ベルトがねじれたまま着用しないでください。ねじれによりベルトの幅が狭くなり、事故のときに衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けるおそれがあります。
- シートベルトは 1 人用です。お子様も含めて、2 人以上で 1 本のシートベルトを使わないでください。
- シートバックを倒しすぎないでください。シートバックを直立にすることで、シートベルトの保護機能が十分に発揮できます。
- シートベルトが破損するおそれがあるため、シートベルトやタンブプレート、およびバックルを、ドアや後部席のシートバックに挟まないでください。
- シートベルトに、切れ、摩耗、緩みなどの異常がないかを定期的に点検してください。異常がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にチェックや処置を依頼し、それまでは該当シートを使用しないでください。
- シートベルトの取り外し、分解、改造を絶対にしないでください。
- 事故発生後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場ですシートベルトを点検してください。プリテンショナー機能が作動した場合は、シートベルトを交換してください。

⚠ 警告

- 重大な事故が発生した場合は、明らかな損傷がなくても、シート ASSY と一緒にシートベルトを交換し、エアバッグシステムを十分に点検してください。
- 廃車にする場合や、プリテンショナーおよびシートベルトを廃棄する場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へご相談ください。
- 妊娠中の方も、他の乗員と同じようにシートベルトを正しく着用してください。事故発生時にベルトが腹部にかかることで妊婦や胎児に重大な傷害を起こさないために、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- リアシートのシートベルト装着方法は、フロントシートと同じです。リアシートのシートベルト保護機能を確実に発揮させるために、タンクプレートを対応するバックルに確実に挿し込んでください。ドライバーには、乗員にシートベルトを正しく着用させる責任があります。
- タングプレートとバックルを確実に結合させるために、バックルには、コイン、クリップまたは他の異物を入れないでください。

シートベルトリマインダー

始動後に、ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していない場合、着用するまで音声・視覚警告システムが作動します。

■ シートベルト非着用警告灯

すべての席のシートベルトが使われていない場合、シートベルト非着用警告灯が点滅します。

■ 非着用座席の表示

シートベルトが使われていない座席の表示灯が点灯します。

電源ポジション「OK」時に運転席シートベルトを着用していない、または乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯し、該当座席の表示灯も点灯します。また、走行中もシートベルトを着用していないと、シートベルト非着用表示灯が点灯すると同時に警告音を鳴らし、ドライバーや乗員に注意喚起します。

■ ドライバーまたは乗員がシートベルト*を着用すると、シートベルト非着用警告灯が消灯し、該当座席の表示灯もすべて消灯します。

⚠ 警告

- エアバッグ故障警告灯が点灯しているときは走行しないでください。電源ポジションを「ON」にすると点灯し、システムチェック後に消灯するため、必ず消灯してから走行してください。
- 助手席やリアシートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。

ℹ アドバイス

- 上記機能の異常または故障がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場まで連絡し、機能が正常に戻るまでは、該当シートを使用しないでください。
- 走行中、乗員はシートに座ってシートベルトを確実に着用してください。着用しないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

エアバッグについて

- エアバッグシステムは補助拘束装置の一部で、シートやシートベルトの働きを補助します。大きな衝突事故が発生してシステムの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬時に膨張します。シートベルトと併用することで、ドライバーおよび乗員の頭部や胸部などを保護し、負傷や死亡の確率を軽減します。
- エアバッグシステムは、衝突の種類によって、フロントエアバッグとサイドエアバッグに大別されます。フロントエアバッグには、運転席エアバッグ、助手席エアバッグがあり、サイドエアバッグには、フロントシートのサイドエアバッグとサイドカーテンエアバッグがあります。
- エアバッグシステムはシートベルトに取って代わるものではなく、パッシブセーフティシステムの構成部分です。シートベルトを確実に締めていないと、エアバッグシステムは保護機能を最大限に発揮できません。

MCB (マルチコリジョンブレーキ) 機能

- 衝突後に MCB 機能が作動し、車両の二次衝突を回避します。
- 最初の衝突でドライバーが正しく判断できない場合、エアバッグコントロールユニットの衝突パターンに応じて、システムは MCB 機能を作動します。車両の速度を落とし停車させることで、二次衝突発生時の破損度合いを軽減し、周辺車両の巻き込みを防止します。

警告

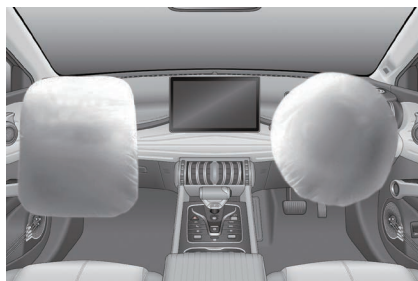
- シートベルトとエアバッグシステムの保護機能を最大限に発揮できるように、正しい姿勢でシートベルトを着用してください。
- エアバッグの部品を取り外さないでください。
- BYD が装着を認めていないシートカバーでは、エアバッグ性能の低下につながったり、乗員に思わぬ傷害をおよぼすおそれがあります。サイドエアバッグと乗員との間には、絶対にものを置かないでください。
- サイドエアバッグが搭載されているシートの側面には、大きな力を加えないでください。
- 衝突事故発生後にエアバッグモジュールが膨張せず、プリテンショナーシートベルトがロックされなくても、乗員を思わぬ膨張から保護するために、エアバッグコントロールユニットは暗号化されることがあります。このような場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場点検してください。

▲ 警告 (続き)

- エアバッグ故障警告灯で下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障しています。走行をやめて、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にて点検してください。
- 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

運転席および助手席エアバッグ

車両には、運転席エアバッグと助手席エアバッグが搭載されています。走行中、エアバッグシステムの電子コントロールユニット（ECU）が中程度から重度の正面衝突を感知し、エアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬間的に膨らみ上体への衝撃を軽減します。

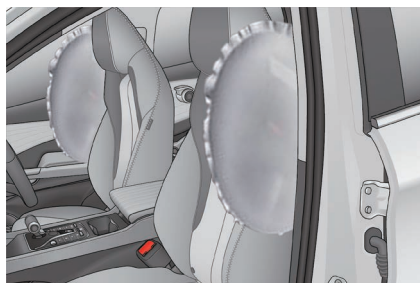


フロントエアバッグの作動プロセス

- 中程度から重度の正面衝突が発生すると、センサーが急激な減速を検知してコントロールユニットに信号を発信し、フロントエアバッグを瞬時に膨張させます。
- 正面衝突が発生した場合は、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束します。エアバッグは、エアクッションに相当するもので、頭部や胸部の拘束や保護をアシストします。
- 衝突の強さがエアバッグ作動のしきい値に達していない場合、シートベルトが保護機能を発揮します。エアバッグは最小限の補助保護を提供します。
- フロントエアバッグは、膨張するとすぐに収縮するため、ドライバーの視線やステアリングホイール、またはその他の制御装置の操作を妨げないようにします。
- エアバッグは、千分の一秒以内に作動できるため、事故発生時にドライバーや乗員をさらに保護することができます。
- エアバッグ作動時は大きな音が発生しますが、通常は人に傷害を与えることはありません（耳鳴り、または一時的な聴力障害を起こすことはありませんが、すぐに回復します）。
- 衝突後に煙のようなものが見えることがあります。これは、エアバッグ表面の貼り付き防止の粉末で毒性はありませんが、呼吸器疾患がある方は、一時的な不快感を覚える場合があります。

前席サイドエアバッグ

左右のフロントシートにサイドエアバッグが搭載されている場合（図のように、エアバッグがフロントシートバックの外側に取り付けられており、2箇所とも「AIRBAG」の表示があります）。



- 走行中に発生した中程度から重度の側面衝突により、エアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグは作動し、衝突を受けた側の乗員の胸部を保護し、怪我を軽減します。
- 側面衝突が発生したとき、通常衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。
- 助手席側が衝突された場合、シートには乗員が乗っていなくても、助手席側のエアバッグは作動します。
- シートサイドエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させる必要があります。

サイドエアバッグが搭載されている車両について

- シートバックを濡らさないでください。雨または水しぶきでシートバックが濡れた場合、サイドエアバッグシステムが正常に動作できなくなるおそれがあります。
- 絶対にシートバックにカバーをかけたり、自分でシートバックカバーを交換しないでください。不適切なシートバックカバーの交換、または不適切なカバーの使用は、衝突発生時のサイドエアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

サイドカーテンエアバッグ

- 左右サイドカーテンエアバッグが搭載されている場合（ボディーサイドとヘッドライニングの結合部に内蔵され、Aピラーパネル、Bピラーパネル、Cピラーパネルに「CURTAIN AIRBAG」の表示があります）。
- 中程度から重度の側面衝突を ECU が検知し、作動条件が揃うとサイドカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、衝突を受けた側の乗員の頭部を保護し、怪我を軽減します。
- 側面衝突が発生したとき、通常衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。
- サイドカーテンエアバッグの機能を最大限に発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させる必要があります。



エアバッグの作動条件

エアバッグが作動するケース

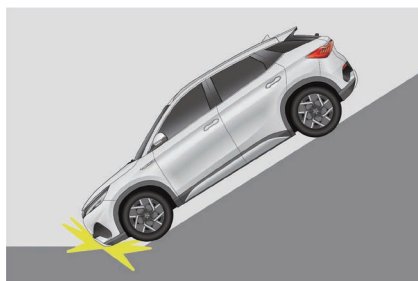
深い溝を通り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。



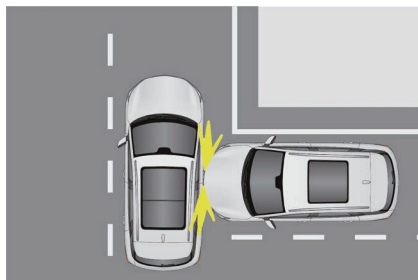
路肩の突起物、縁石などにぶつかったとき。



急な下り坂を走り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。



車両側面に他の車両がぶつかったとき。

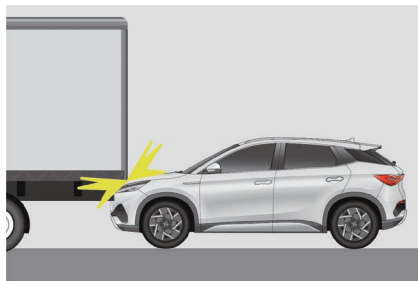


エアバッグが作動しないケース

コンクリートの柱、樹木または他の細長いものにぶつかったとき。



トラックの荷台の下に潜り込んだとき。



後方から追突されたとき。



車両が横転したとき。



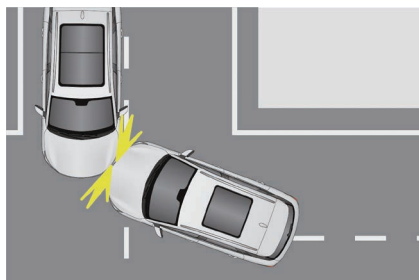
壁または車両に斜めにぶつかったとき。



車室以外の部位で側面から衝突を受けたとき。



側面に斜め方向から衝突されたとき。



側面が柱のようなものに衝突したとき。




▲ 警告

- エアバッグは指定車種を対象に開発されているため、サスペンション、タイヤ寸法、バンパー、シャーシおよびオリジナルデバイスを変更すると、エアバッグシステムに悪影響を与えます。また、エアバッグシステムのすべての部品を他車種へ流用しないでください。エアバッグシステムが故障し、身体に危害を与えるおそれがあります。
- 当該システム作動時に最も効果的に保護機能を発揮させるため、ドライバーの場合は、胸部からステアリングホイールの間を 25cm 以上離してください。
- 走行中はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ってください。シートベルトを着用せずに前かがみになるなど、正しく着席していない場合は、事故によりエアバッグが作動したときに怪我をする危険性が高まります。
- ステアリングホイールキャップの表面、インストルメントパネル右側エアバッグ近くの表面、A、B、C ピラーパネルの表面に何かを貼り付けたり、何かで覆う、または装飾を施さないでください。汚れは、乾いた布や水で湿らせた布で拭き取り、強く叩かないでください。
- お子様を補助装置なしで座らせる、または大人が抱いてフロントシートに座らないでください。事故の発生によりエアバッグが作動すると、生命にかかわる重大な怪我につながるおそれがあります。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。エアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグ作動時に衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあるため、助手席エアバッグの格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子様も近づかせないようにしてください。
- スマホホルダー、コップ、灰皿などのアクセサリーは、エアバッグカバーの上またはエアバッグが機能する範囲内に取り付けしないでください。取り付けた場合、事故が発生しエアバッグが展開することで、怪我をする危険性が高まります。
- サイドカーテンエアバッグは、展開速度が速く、かつ衝撃力が強いいため、このエアバッグを搭載している車両の走行中は、ドアに寄りかからないでください。寄りかかった状態で事故に遭うと、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ウィンドウガラス、A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネル、アシストグリップなど、サイドカーテンエアバッグが機能する範囲に、アクセサリーやものを置かないでください。サイドカーテンエアバッグの展開により、アクセサリーなどが強く飛ばされたり、サイドカーテンエアバッグが正常に展開できなくなることで、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

▲ 警告 (続き)

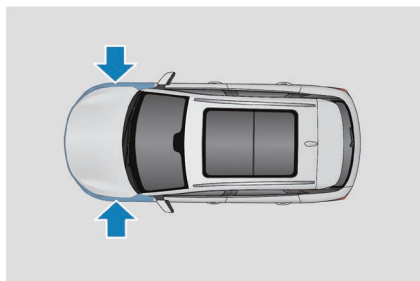
- 車両を譲渡する場合は、購入時に入手したすべての資料を新しい持ち主に渡してください。
- サイドカーテンエアバッグが内蔵されている A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルの分解や修理をしないでください。分解や修理により、システムが機能できなくなったり、サイドカーテンエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグシステムのすべての構成部品は、関連ラベルを含め、いかなる変更もしないでください。エアバッグに対するすべての作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- 展開したエアバッグは部分的に熱くなっており、やけどするおそれがあるため、熱がさめるまで触れないでください。
- エアバッグが作動すると微粉末が放出されます。目や皮膚に付着したときは、水で完全に洗い流してください。
- 展開したエアバッグが破裂して怪我をすることがあるため、エアバッグモジュールの上に身体を乗せないでください。
- エアバッグは、1 回限りの使い捨てです。エアバッグが作動または破損した場合、当該システムを交換してください。
- 車両またはエアバッグシステムの各部品を廃棄処分する場合は、関係する安全規定および廃却処分手順を守ってください。
- エアバッグシステムは、周囲の電磁環境に対して強い耐干渉性と耐妨害性を有します。事故を防ぐため、国が許可した電磁環境以外で車両を使わないでください。
- 一般的な誤操作や道路状況を考慮したエアバッグシステムとなっていますが、事故を防ぐため、車両の底部をぶついたり、悪路での乱暴な運転はしないでください。
- ドアが壊れるぐらい強く閉めないでください。エアバッグが誤作動するおそれがあります。
- 十分な検証を受け、オリジナルワイヤーハーネスシステムとエアバッグシステムが完全にマッチングしているエアバッグシステムのため、車両全体のワイヤーハーネスを改造や変更すると、エアバッグの誤作動または衝突発生時の不作動につながるおそれがあります。

下記のいずれかの場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

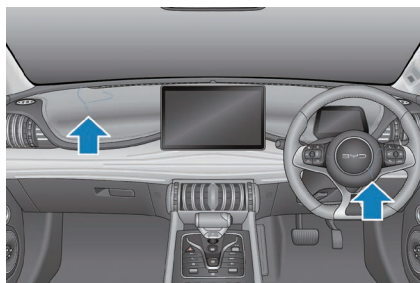
- エアバッグが展開したとき。
- コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯が異常点灯しているとき。
 - このエアバッグシステムは、電子コントロールユニットでモニタリングし、自己診断機能により、コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯でシステム状態を表示します。
 - 車両の電源ポジションを「OK」にした後、エアバッグ故障警告灯が約 5 秒間点灯後に消灯した場合、システムに異常がないことを示します。

下記のいずれかの場合は、当該エアバッグシステムが故障しています。

- 電源ポジションを「OK」にした後、警告灯が点灯しないとき。
- 電源ポジションを「OK」にしてから 5 秒後に警告灯が消灯しない、または消灯後に再度点灯するとき。
- 電源ポジションを「OFF」にした後、警告灯が点灯するとき。
走行中に、警告灯が点灯または点滅するとき。故障がある場合は、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で点検、修理を行ってください。
- 車両前方（図の網掛け部）で衝突事故が発生したが、フロントエアバッグが展開していないとき。



- エアバッグカバーに、破れ、割れまたは他の破損があるとき。



- エアバッグの取り外し、分解、取り付け、修理を行う必要があるとき。

幼児用補助装置（チャイルドシート）

お子様の年齢や体格にあった、適切な幼児用補助装置を選定してください。

- お子様のために適切な幼児用補助装置（ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシート）を選定してください。お子様の身体が大きくて幼児用補助装置が使えない場合は、リアシートに座らせ、シートベルトを着用させてください。

幼児用補助装置を使わないとき

- 幼児用補助装置をシートに正しく固定してください。絶対に助手席やトランクルーム内に置かないでください。

警告

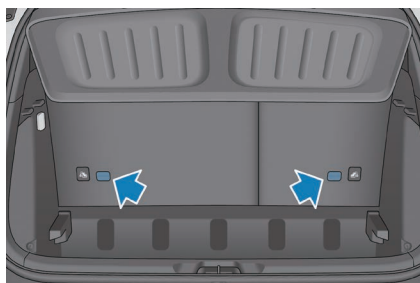
- 事故や急ブレーキ時にお子様を確実に守るため、お子様の年齢や体格にあったシートベルト、または幼児用補助装置を使用してください。お子様を腕に抱くことは、幼児用補助装置の代わりにはなりません。事故発生時に、お子様がガラスにぶつかったり、保護者と車両の間に挟まれるおそれがあります。
- 幼児用補助装置メーカーの取扱説明書に従って幼児用補助装置を正しく取り付けてください。正しく取り付けていないと、緊急ブレーキや事故時に、お子様が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- フロントシートに幼児用補助装置を取り付けしないでください。助手席に後ろ向きで幼児用補助装置を取り付けると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- 首や顔にシートベルトが当たって正しく着用できないお子様は、幼児用補助装置を使用してください。

アドバイス

- BYD は幼児用補助装置の使用を強くおすすめします。研究によると、フロントシートよりリアシートに幼児用補助装置を取り付ける方が、安全性が高くなります。
- 幼児用補助装置メーカーが提供する取扱説明書に従い、幼児用補助装置を外側リアシートにしっかり固定してください。
- 幼児用補助装置を取り付けるとき、トップテザーを確実に固定してください。

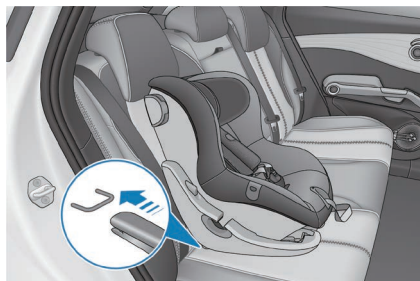
幼児用補助装置の取り付けについて

- 外側のリアシートには、専用のアンカーが装備されています（アンカー位置を表示するラベルはシートに付いています）。
- リアシートバックの裏側にはアンカーが装備されています。



幼児用補助装置の取り付けについて

1. 専用アンカーの位置をチェックし、幼児用補助装置をシートに取り付けます。



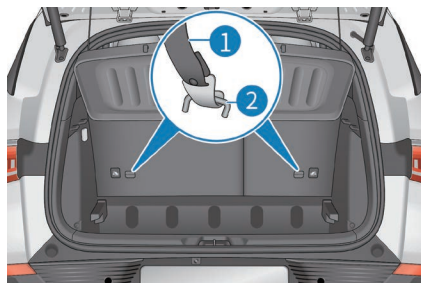
i アドバイス

- アンカーは、シートとシートバックの間隙に設置されています。

2. ヘッドレストを持ち上げ、取付金具をシートバック裏側のアンカーにしっかり取り付けます。トップテザーを締め付けて確実に取り付けます。

- ① トップテザー
- ② アンカー

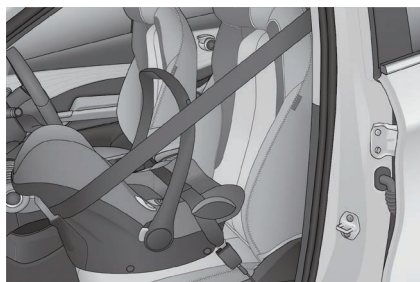
3. ヘッドレストを適切な位置に調整します。



- 運転席シートとの干渉により、幼児用補助装置が正しく取り付けられない場合は、幼児用補助装置を右側リアシートに取り付けます。

- ヘッドレストを取り外した場合は、安全確保のためにトランクルームに置いてください。

- BYD は、車両に装備されている ISOFIX アンカーを使用して、チャイルドシートを取り付けることを推奨しています。



⚠ 警告

- それぞれの方向に幼児用補助装置を揺らし、確実に取り付けられていることを確認します。
- ロアアンカーを使う場合、アンカーの周りに異物がなく、シートベルトが幼児用補助装置の裏側に引っかかっていないことを確認してください。また、幼児用補助装置が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、緊急ブレーキや事故時に、お子様が生命にかかわる重大な傷害を負わせるおそれがあります。
- 運転席後ろのシートに幼児用補助装置を取り付けている場合、リアシートとの間隔が狭くなると、運転席を動かすときにお子様の足に当たったり、幼児用補助装置を押してしまうおそれがあるため、確認してから動かしてください。
- 1つのアンカーポイントに、2つの幼児用補助装置を取り付けしないでください。事故発生時、1つのアンカーポイントで2つの幼児用補助装置を支えきれないおそれがあります。

座席位置別の幼児用補助装置適合表

重量グループ	座席位置（または他の位置）		
	フロントシート （助手席）	リアシート左右	リアシート中央
グループ0 （10kg まで）	×	U	×
グループ0+ （13kg まで）	×	U	×
グループI （9～18kg）	×	U/UF	×
グループII （15～25kg）	×	UF	×
グループIII （22～36kg）	×	UF	×

注：表に記載されるアルファベットの意味は次の通りです。

U = この重量グループでの使用を許可された汎用型「ベビーシート」に適合している

UF = この重量グループでの使用を許可された前向き汎用型「チャイルドシート」に適合している

× = このシートの位置は、この重量グループの「ジュニアシート」に適合していない

幼児用補助装置固定システム (ISOFIX) 位置別の ISOFIX 幼児用補助装置適合表

重量グループ	サイズ	固定具	座席位置 (または他の位置)		
			フロントシート (助手席)	リアシート 左右	リアシート 中央
キャリコット	F	ISO/L1	X	X	X
	G	ISO/L2	X	X	X
グループ 0 (10kg まで)	E	ISO/R1	X	X	X
グループ 0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	X	X	X
	D	ISO/R2	X	X	X
	C	ISO/R3	X	X	X
グループ I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	X	X	X
	C	ISO/R3	X	X	X
	B	ISO/F2	X	IUF	X
	B1	ISO/F2X	X	IUF	X
	A	ISO/F3	X	IUF	X

注 1：ISO/XX サイズ区分表示 (A ~ G) のない幼児用補助装置に適合する重量グループについて、各座席位置で使用できる専用の ISOFIX については、BYD Auto Japan にお問い合わせください。

注 2：表に記載されるアルファベットの意味は次の通りです。

IUF = この重量グループでの使用を許可された前向き汎用型 ISOFIX 幼児用補助装置に適合している

X = ISOFIX 位置は、この重量グループおよび / または本サイズ区分の ISOFIX 幼児用補助装置に適合していない

イモビライザー

イモビライザー

盗難防止機能が作動している状態でいずれかのドアを開けると、車両の盗難を防ぐためにシステムが警報音を鳴らすと同時にターンシグナルランプが点滅します。



イモビライザーを設定する

1. 電源ポジションを「OFF」にします。
2. すべての乗員が車両から降ります。
3. すべてのドアを施錠します。このとき、セキュリティ表示灯は点灯し続けます。8秒後にイモビライザーが自動的に設定され、システムの設定が完了すると、セキュリティ表示灯は点滅します。
4. 表示灯が点滅していることを確認し車両から離れます。車内からドアを解錠するとシステムが作動するため、システム設定中は車内に残らないでください。

警報の作動

- 下記のいずれかの場合、システムは警告音を鳴らします。
 - リモートキーを使わずに機能を ON にし、ドアやテールゲート、ボンネットを解錠したとき。
 - リモートキー始動機能を使用せずに車両の電源を入れたとき。

盗難防止警報の解除

- 下記の操作を行うと警報を解除できます。
 - リモートキーでドアを解錠する。
 - NFC キーでドアを解錠する。
 - マイクロスイッチでドアを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作でテールゲートを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作で車両を始動する。
 - リモートキーを携帯した状態で「スタート / ストップ」ボタンを押す。

⚠ 警告

■ 変更や追加によるイモビライザーの改造をしないでください。このような変更は、システム故障につながるおそれがあります。

セキュリティ表示灯

イモビライザーの設定中は、セキュリティ表示灯が8秒間点灯します。



データの収集および処理

- 本節では、BYD の車両をご利用いただく際のシステムが、個人データを収集および処理する方法について重要な情報を提供します。
- データ処理、データ保護およびデータ主体の権利についての詳細は、BYD のホームページにアクセスし、最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください。

車両データの処理

- 車両センサーやコントロールユニットが収集または送信するデータなど、車両利用時にシステムが収集したデータは、車両の安全運転に必要なものです。
- 収集されたデータは、運転支援（ドライバー補助システム）や、特定の快適機能、インフォテインメント機能の作動に利用されます。
- 収集、処理される個人データは、主に車載データ、遠隔サービス関係のデータおよび他のデータを含みます。詳細は次の通りです。

車載データ

走行データ

- 車両を使用している間、システムはそれぞれの車両状態データ（たとえば、速度、バッテリー残量、ブレーキシステム）、または周囲のモード（たとえば、距離センサー、温度など）の収集と処理をします。
- 通常、これらのデータは保存されませんが、コントロールユニット、センサー、または車両に取り付けられたデータを記録する他のユニットは、メンテナンス要求、エラー情報、その他の情報の記録に用いられます。
- 車載データは車載デバイスにのみ保存されますが、法律で義務付けられている OBD（「車載式故障診断装置」）のポートを介して、データを読み取ることができます。たとえば、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくは他の第三者がデータを読み取ることができます。
- 整備中にシステムへアクセスする場合、品質検査保証、製品不具合報告、またはユーザークレームの検証の目的として、これらの情報が BYD の技術者に提供されます。

遠隔サービス関係データ

遠隔監視サービス

- 本車両は、遠隔監視サービス機能を備えています。
- 安全性を確保するための遠隔診断や無線通信（OTA）によるアップデート、およびアップグレード（オーナーの了承が必要）などの遠隔監視サービスが含まれます。
- 監視サービスの目的：サービスの提供（遠隔支援 / 診断）、製品開発とセキュリティ / パブリックセーフティ。
- 使用する国または設定により、車両位置情報、車両状態（たとえば、電費、速度、シフトポジション、電源ポジション、エレクトロニクススピードコントローラーの状態、ステアリングシステムの状態、バッテリーの状態、パワーユニットの状態、車両の性能状態など）を含む各種の車両情報は、上記の目的でBYDのサーバーに送信されることがあります。

その他

インフォテインメントシステム

- 車両の仕様により、ドライバーは自らインフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどのデータを、インフォテインメントシステムに追加することができます。
- 車両の仕様により、これらのデータは、インフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどを含みます。
- 車両の仕様により、車両の個人設定にアクセスできます。車両に保存されているデータは、いつでも削除できます。
- BYDは、第三者に送信されたデータを管理することはできません（特に、オンラインサービスの一部として第三者のコンテンツを使用した場合）。

モバイルデバイスの集積

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムを介して、モバイルデバイスの接続や制御を行うことができます。
- デバイスの画面または音声は、インフォテインメントシステムを介して表示 / 再生、またはストリーミングが必要な場合があります。
- 位置情報や車両情報のような付加データは、アプリケーションを介して送信し、ナビゲーションシステムや通信、または他の第三者サービスに用いることができます。
- データ処理の具体的なパターンはそれぞれの機能に依存しており、ユーザーまたはデバイスや関係サービスを提供する第三者が制御します。



インターネットアクセスと接続サービス

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムのネットワークデバイスを介してインターネットにアクセスすることで、車両の特定の機能、または BYD のサービスを実現することができます。
- BYD は、いかなる相手側が提供するこのようなサービスのすべてについて責任を負いません。
- そのような場合には、データ使用に関する情報について、関連するオンラインサービスプロバイダーにお問い合わせください。

カメラ映像の記録 / 周辺区域の監視

- 車両には、複数のカメラ / センサーが搭載されています。
- 一部の機能は、車両の進路を感知して評価する必要があります。これは、車両周辺のもの（障害物など）を感知するカメラによって行われます。
- オペレーティングシステムで必要なさらなる分析を行うため、映像は関連する制御モジュールに送信されます。
- 一部の映像はランダムアクセスメモリ（RAM）でのみ処理され、その他の映像は、車両の装備に応じて保存されることがあります。
- 車両には、周囲の撮影に用いられる外向きカメラ（OFC）を搭載していることがあります（ドライブレコーダー）。また、車内の撮影に用いられる内向きカメラ（IFC）を 1 台搭載することができます。
- この二種類の映像はすべて車内に保存されます。
- カメラオプションの詳細については、本ユーザーマニュアルにおける [ドライブレコーダー*](#) と [BYD アラウンドビューシステム*](#) のセクションを参照してください。

車両の第三者への譲渡、およびオフラインモード

- 別の人が使用していた車両を購入、または譲渡された場合、新しい所有者は、インフォテインメントシステムを介して設定されたカスタマイズ / ユーザー設定のすべてにアクセスできます (アドレステーブル、ナビゲーションシステムなど)。
- 車両をオフラインモードに設定することで、車両と BYD データサーバー間の通信、車両の関係データや個人データの処理を制限することができます。
- マルチメディアタッチパネル PAD のショートカットメニューから、 をタッチして Wi-Fi を **OFF** にします。
- 次の操作でも、Wi-Fi を OFF にできます。  → **システム設定** → **インターネット** → **Wi-Fi** から、**OFF** にします。

当局への個人情報開示

- BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対し個人データを開示します。
- ただし、政府機関には、適用される法律に従って車両からデータを読み出す権限を付与されることがあります (たとえば、事故究明のためにデータをエアバッグコントロールユニットから読み出す)。
- 法律で義務付けられている場合、BYD は犯罪捜査などの要求に従って、お住まいの国 / 地域の政府当局に対してデータを開示する義務を負う場合があります。

ユーザーのデータ保護の権利

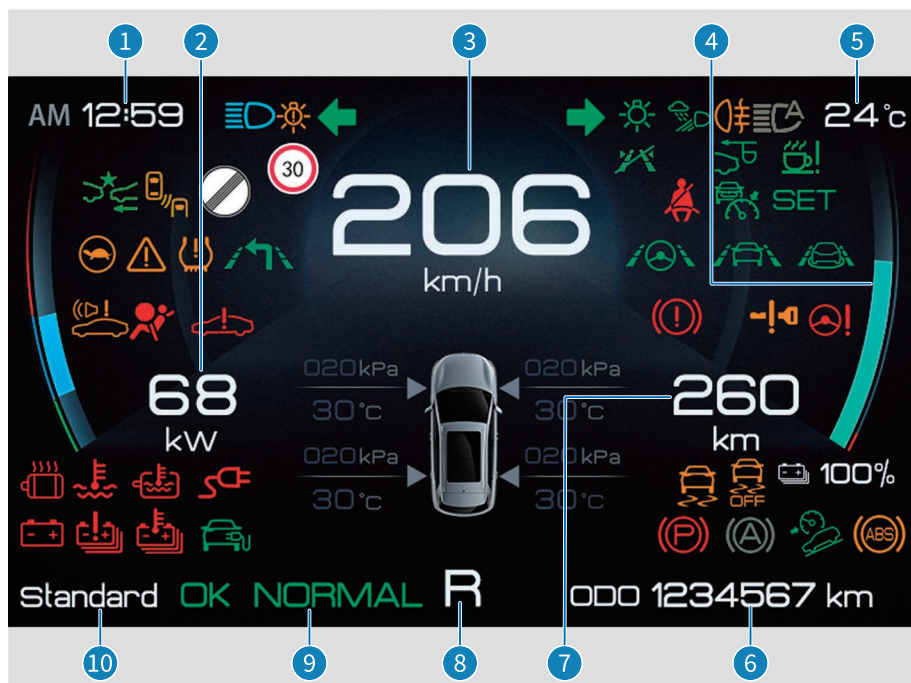
- BYD は、お客様のプライバシーを尊重し、すべてのデータ保護法、特に一般データ保護規則（GDPR）および適用する現地の法律を厳しく遵守します。
- これらの法律によって個人データが処理される際、オーナーは特定の権利を有します。
- データ主体は、情報の通知を受ける権利、アクセス権、訂正権、削除権（「忘れられる権利」）、および個人データの処理に異議を唱える、または制限する権利（または同意を撤回する権利、およびデータの移植性に対する権利）を有します。
- 場合によっては、これらの権利は制限されることがあります。たとえば、お客様のデータを処理する法的義務があると表明できる場合、または情報の提供により、別の人物に関する個人データが開示される場合、もしくは法律によりそれらの情報の開示が禁止される場合です。
- 場合によって、同意を撤回されたとしても、当社は関係データを保持できる場合があります。

2-1 コンビネーション

メーター	46
コンビネーションメーター イメージ	46
メーター表示灯	47

コンビネーションメーターイメージ













液晶コンビネーションメーター





























- | | |
|---------------|--------------|
| ① 時間 | ⑥ 総走行距離 |
| ② パワーメーター | ⑦ 航続可能距離 |
| ③ スピードメーター | ⑧ シフトポジション情報 |
| ④ パワーバッテリー残量計 | ⑨ 走行モード情報 |
| ⑤ 外気温度 | ⑩ 回生ブレーキ情報 |

メーター表示灯

表示灯 / 警告灯の標識

	方向指示表示灯		ポジションランプ表示灯
	ハイビーム表示灯		リアフォグランプ表示灯
	OK 表示灯		フロントフォグランプ表示灯 *
	ECO モード表示灯		SPORT モード表示灯
	オートビークルホールド 表示灯		ヒルディセントコントロール 表示灯 *
	ライトマスタースイッチ 表示灯		ハイビームアシスト表示灯 *
	給電表示灯		オールウェザーランプ表示灯
	ACC 待機状態表示灯 (グレー) *		ACC クルージングスピード 表示灯
	ACC 状態表示灯 *		オートビークルホールド スタンバイ表示灯 (ホワイト)
	クルーズコントロール表示灯		クルーズコントロールメイン 表示灯
	ナビゲーションパイロット 表示灯 *		衝突予測警告表示灯 (緑)
	自動緊急ブレーキ故障 警告灯 *		リモートキーシステム警告灯

2
コンビネーションメーター

	タイヤ空気圧警告灯		マスターウォーニング表示灯
	ESC OFF 警告灯		ESC 故障警告灯
	ABS 故障警告灯		駆動パワー制限警告灯
	ヘッドライト故障警告灯		スノーモード表示灯
	パワーバッテリー残量警告灯		ACC 故障警告灯
	ブラインドスポット インフォメーション表示灯 *		衝突予測警告表示灯 (赤)
	モーター過熱警告灯		モーター冷却水 オーバーヒート表示灯
	シートベルト非着用警告灯		エアバッグ故障警告灯
	電動パーキングブレーキ 表示灯		パーキングシステム故障 警告灯
	ステアリングシステム故障 警告灯		パワーバッテリー充電接続 表示灯
	低電圧給電システム故障 警告灯		パワーバッテリー過熱警告灯
	パワーバッテリー故障警告灯		パワートレイン故障警告灯
	交通標識認識システム 表示灯 *		AVAS (車両接近通報装置) 故障警告灯

警告灯 / 表示灯について

リモートキーシステム警告灯

- リモートキーが車内にない状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯が数秒間点灯すると同時にコンビネーションメーターのブザーが1回鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可 カードリーダーにキーを近づけて車始動」と表示されます。
- リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯は点灯せずに車両が始動します。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押した際に警告灯が点滅している場合は、リモートキーのバッテリー残量が低下しています。

ABS (アンチロックブレーキシステム) 故障警告灯

- ABS (アンチロックブレーキシステム) 故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。ABSが正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障などが発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- ABS 故障警告灯が点灯 (パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、ABSは作動していませんが、ブレーキシステムは正常に作動します。
- ABS 故障警告灯が点灯 (パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、ABSが作動しないため、急ブレーキ時や滑りやすい路面でブレーキを踏むと、ホイールがロックします。
- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障しています。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

アドバイス

- 作動中に警告灯がしばらく点灯しますが、異常ではありません。
- パーキングシステム故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯した場合は、ブレーキをかけても ABS が機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になるため、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯し、かつ EPB が完全に解除された場合は、前後タイヤの制動力配分システムも効かなくなったことを表します。

タイヤ空気圧警告灯

- タイヤ空気圧警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、警告灯が再度点灯します。
- タイヤ空気圧警告灯が点灯または点滅すると同時に、コンビネーションメーターのインフォメーションディスプレイに「チェック TPMS」と表示され、タイヤ空気圧表示画面の数値部に「---」が表示された場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障しています。
- タイヤから「信号異常」が発信された場合は、タイヤ空気圧信号が干渉を受けている、またはタイヤ空気圧モニタリングモジュールが破損しているおそれがあります。
- タイヤ空気圧警告灯が高速で点滅すると同時に、コンビネーションメーター内のインフォメーションディスプレイに表示される、タイヤ空気圧表示画面の数値表示部の一部が赤くなった場合は、該当タイヤに急激な空気圧の減少があります。
- タイヤ空気圧警告灯が常時点灯すると同時に、コンビネーションメーターのタイヤ空気圧表示画面の一部が黄色になった場合は、該当タイヤの空気圧が少ない状態を表します。1 つまたは複数のタイヤの温度数値が黄色になったときは、タイヤ温度が高すぎることを表します。

上記のいずれかが発生した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。



ESC (横滑り防止装置) 故障警告灯

- ESC (横滑り防止装置) 故障警告灯は、電源ポジションを「OK」にした場合に点灯します。ESC 機能が正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- 走行中に ESC 故障警告灯が点滅している場合は、ESC システムが作動していることを表します。
- ESC 故障警告灯が点灯 (ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、ESC の車両安定性制御が無効になりますが、ABS およびブレーキシステムは正常に作動します。
- ESC 故障警告灯が点灯 (ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、横滑り防止装置が作動しないため、急ハンドルや前方障害物の緊急回避時に、車両姿勢が極めて不安定な状態になります。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない (セルフテストなし)。
 - 運転中に警告灯が点灯し続ける。
 - 走行中に警告灯が点滅している場合は、システムが作動していることを表します。

i アドバイス


- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- ABS 故障警告灯、ブレーキシステム警告灯、ESC 故障警告灯が同時に点灯した場合、ブレーキを掛けると車両姿勢が極めて不安定な状態になります。このとき、ABS が完全に機能していないため、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



ESC OFF 警告灯

- ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が点灯し横滑り防止装置が機能しなくなります。再度 ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が消灯し、横滑り防止装置が機能します。

i アドバイス

- ESC OFF 警告灯が点灯している場合は、ブレーキをかけても横滑り防止装置が機能しないため、車両姿勢が不安定になります。ドライバーは、急ハンドルや突然現れた障害物の緊急回避時に、必ず警戒感を高めながら低速で走行してください。
- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面から、ESC OFF を操作することで解除できます。



駆動パワー制限警告灯

- 車両のパワーが制限された場合に点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



ヘッドライト故障警告灯

- 警告灯が黄色く点灯している場合は、ヘッドランプが故障していることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検してください。



マスターウォーニング表示灯

- 表示灯が点灯している場合は、要注意であることを表します。また、インフォメーション表示部に故障や警告のメッセージが表示されます。



AVAS（車両接近通報装置）故障警告灯

- AVAS（車両接近通報装置）が故障すると表示灯が点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。



シートベルト非着用警告灯

- 電源ポジション「OK」で、フロント側シートベルトが未着用の場合に点灯します。シートベルトが確実に装着されるまで点灯し続けます。



エアバッグ故障警告灯

- 電源ポジション「OK」時に点灯し、エアバッグシステムが正常に作動している場合は、数秒後に警告灯が消灯します。エアバッグ ECU、衝突センサー、インフレーター、警告灯、結線、および電源をモニタリングするものです。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。



パーキングシステム故障警告灯

ブレーキフルードの液量が低下している、またはブレーキシステムが故障している場合に警告灯が点灯します。下記状況のいずれかが発生した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- 電源ポジションが「OK」の状態ではブレーキフルードの液量が低下している場合に警告灯が点灯します。



アドバイス

- ブレーキフルードの液量が低下している状態での運転は非常に危険なため、運転を止めてください。
- 車両を始動後、ブレーキフルードの液量に問題がなく、電動パーキングブレーキシステムが正常に作動している（電動パーキングブレーキスイッチをスムーズに引き上げたり、解除ができ、「電動パーキングブレーキシステムを確認」のメッセージが出ていない）場合は、警告灯が常時点灯します。
- パーキングブレーキ故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯している場合。

i アドバイス

- 操作中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。

! ステアリングシステム故障警告灯

- ステアリングシステム警告灯が常時点灯している場合は、ステアリングシステムが故障しているため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

i アドバイス

- ステアリングシステムは、モーターによりステアリングホイールを回すための力を軽減するものです。
- ステアリングホイールを回すとき、モーターの動作音（「ぶんぶん」のような音）が聞こえることがありますが故障ではありません。
- ステアリングホイールを 5 秒以上全切り（限界位置を保持）のままにしないでください。5 秒を超えると過熱保護機能が作動し、操舵力が重くなる、または損傷します。

- 長時間頻繁に据え切りをした場合、ステアリングシステム故障警告灯が点灯していないのに操舵が重く感じられることがありますが、故障ではありません。
 - 長時間頻繁に据え切りした場合、ステアリングシステムの過熱を防ぐため、アシスト力が低下して操舵が重く感じられることがあります。このようなときは、頻繁なハンドル操作を避ける、または停車して電源を切ってください。システムは、10 分以内に正常な状態に戻ります。

! 警告

- ステアリングシステム故障警告灯が点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- + 低電圧給電システム故障警告灯

- 充電または給電しない場合は、DC モジュールおよびバッテリーモジュールの作動状態を知らせます。
- 充電時は、充電システムの故障を知らせます。

⚠ 警告

- 運転中に警告灯が点灯している場合は、DC システムまたは低電圧給電システムに不具合があることを表します。そのまま運転を続けると、突然停止などの思わぬ事故につながるおそれがあります。エアコンやファンなどを止めて安全な場所に停車し、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に救援を依頼してください。

 パワートレイン故障警告灯

- パワートレインが故障した場合に点灯します。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯している状態では、可能な限り運転しないでください。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検および問題の確認を依頼してください。

 パワーバッテリー過熱警告灯

- 警告灯が点灯している場合は、パワーバッテリーの温度が高すぎることを表します。車両を停車し、温度を下げてください。パワーバッテリー過熱警告灯が点滅しているときは、ただちに安全な場所に停車し、早めに車両から離れてください。
- 下記の条件で走行した場合、パワーバッテリーが過熱することがあります。
 - 炎天下や長時間・長距離で上り坂を走行するとき。
 - 長時間にわたり頻繁に発進・停止、急加速・急ブレーキ繰り返す交通状況、または長時間連続で走行するとき。



パワーバッテリー故障警告灯

- 電源ポジション「OK」時に点灯し、パワーバッテリーシステムが正常に作動している場合は、数秒後に警告灯が消灯します。システムの故障があった場合は、警告灯が再び点灯します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
 - 警告灯が電源ポジション「OK」時に点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が常時または時々点灯する。









モーター冷却水オーバーヒート表示灯

- 表示灯が点灯している場合は、モーターの温度が高すぎることを表します。
- ただちに安全な場所に停車してから車両を離れ、できるだけ早くBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に点検を依頼してください。

メーターのその他故障について

コンビネーションメーターには次のような故障メッセージが表示されることがあります。その都度、推奨される対応方法に従って操作してください。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	車載充電システムを確認してください	車載充電システムが故障しています。充電設備の接続異常がないか確認したうえで、新たな充電設備に接続してください。解消しなかった場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ネットワーク故障 安全に停車し、BYD サービスに連絡してください	車両のデータネットワークが故障していることを表します。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ヘッドライトシステムを確認	ヘッドライトシステムが故障していることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	衝突予測警告システム * を確認してください	衝突予測警告システムが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	自動緊急ブレーキ機能が制限中 *	自動緊急ブレーキシステムが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ブラインドスポットインフォメーションシステム * を確認してください	ブラインドスポットインフォメーションシステムが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ブラインドスポットインフォメーション機能制限中 *	ブラインドスポットインフォメーションシステムの機能が制限されていることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	シフト機構を確認してください	シフトコントローラーが故障していることを表します。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	マルチファンクションビデオコントローラー*を確認してください	マルチファンクションビデオコントローラーが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	マルチファンクションビデオコントローラー機能が制限中*	マルチファンクションビデオコントローラー機能が制限されていることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	インテリジェントカメラ機能制限あり 利用不可*	インテリジェントカメラが利用できないことを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	レーンサポートシステムを確認してください*	レーンサポートシステムが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ナビゲーションパイロット / レーンサポートシステムを確認してください*	ナビゲーションパイロット / レーンサポートシステムが故障していることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ナビゲーションパイロット / レーンサポートシステムが機能制限中*	ナビゲーションパイロット / レーンサポートシステム機能が制限されていることを表します。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

3-1 ドアおよびキー	60
キーについて	60
ドアの施錠 / 解錠	64
スマートエントリー& スタートシステム	75
チャイルドロック	77
3-2 シート	78
シートについて	78
フロントシートの調節	79
リアシートの収納	80
ヘッドレスト	81
3-3 ステアリングホイール	82
ステアリングホイール	82
3-4 スイッチ	88
ライトスイッチ	88
ワイパースイッチ	94
走行距離切替スイッチ	100
運転支援スイッチユニット	101
助手席側ウィンドウ スイッチ	101
ハザードランプスイッチ	102
モードスイッチユニット	102
E-Call	104
サンルーフスイッチ	105
ルームランプスイッチ	108

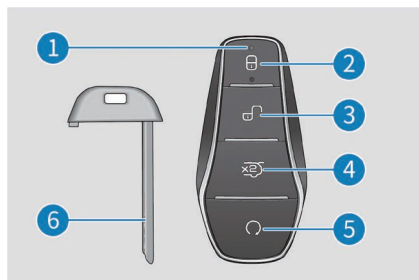
キーについて

キーは、リモートキー、メカニカルキー（リモートキー内）および NFC カードキーがあります*。

リモートキー

リモートキーを携帯した状態で運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの施錠 / 解錠ができます。リモートキーのボタン操作では、ドアの施錠 / 解錠に加えて、テールゲートを開いたり、リモートスタートなどができます。

- ① 表示灯
- ② ロックボタン
- ③ アンロックボタン
- ④ テールゲートオープンボタン
- ⑤ スタート / ストップボタン
- ⑥ メカニカルキー



⚠ 警告

- リモートキーの中に入っているボタン電池は危険なため、電池の新旧を問わずお子様の手の届かないところに置いてください。
- 電磁波による電子機器への影響があるため、植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートエントリー&スタートシステムのアンテナから遠く離れてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器、またはそれ以外の医療電子機器を使用されている方は、電磁波が機器に与える影響を製造メーカーに確認してください。電磁波が、医療機器の使用に予測できない悪影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

- リモートキーは電子部品です。リモートキーの破損を防ぐため次の説明に従ってください。
 - リモートキーをインストルメントパネルなどの温度が高いところに置かないでください。
 - リモートキーを勝手に分解しないでください。

▲ 注意 (続き)

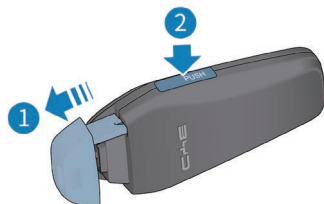
- リモートキーで他のものを強く叩いたり、キーを落とさないでください。
- リモートキーを水に浸けたり、超音波洗浄機で洗浄しないでください。
- リモートキーを携帯電話などの電磁波が発生する装置と一緒に置かないでください。
- リモートキーに電磁波を遮断するものを付けしないでください (例: 金属シール)。
- 同一の車両にエマージェンシーキーを登録することができます。詳細な説明については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- リモートキーの作動範囲内でドア操作ができない、またはキーの表示灯が暗く点灯しない場合:
 - 近くにリモートキーの動作を干渉するラジオ局や航空無線発信機がないかを確認してください。
 - リモートキーのバッテリーが切れている可能性があります。リモートキーのバッテリーを点検してください。バッテリーの交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- リモートキーを紛失した場合は、車両の盗難や予期せぬ事故を起こさないため、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 送信周波数の変更、送信電力の増加 (送信周波数アンプの追加を含む)、アンテナの外付けや他の送信アンテナの流用をしないでください。
- 使用時は、さまざまな無線通信業務に干渉がないようにしてください。干渉が見つかった場合は、ただちに使用を停止し、干渉の解消措置を取ってから使用してください。
- 小電力無線機を使用するときは、さまざまな無線通信業務の干渉、または産業用、研究用および医療用設備の放射干渉を避けてください。
- 飛行機や空港の近くで使わないでください。機内でスイッチが押されると電波が発信され、飛行機の運航に支障をきたすおそれがあります。
- 車両から離れる場合は、必ずキーを携帯して施錠してください。また、絶対にお子様を 1 人で車内に残さないでください。

メカニカルキー

メカニカルキー(リモートキー内):運転席側ドアハンドルに挿し込むことで、施錠/解錠ができます。使わないときは、メカニカルキーをリモートキーに収納してください。

メカニカルキーの取り出し

図のようにリモートキー上の「PUSH」ボタン②を押し、矢印①方向にメカニカルキーを取り出します。



■ メカニカルキーを使用した後は、「PUSH」ボタン②を押しながらメカニカルキーを戻してください。

NFCカードキー*

NFCカードキー——NFCカードキーを運転席側のドアミラーにあるNFCマークにかざすと、ドアの施錠/解錠ができます。



⚠ 注意

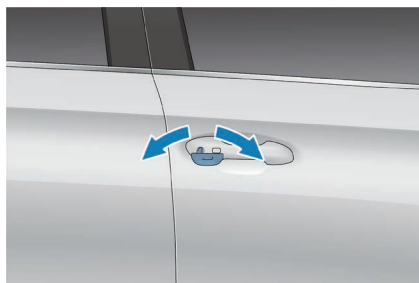
- NFCカードは電子機器です。NFCカードが機能しない、または破損しないように、次の説明に従ってください。
 - ワイヤレス充電器を ON している場合は、NFCカードを充電エリアに置かないでください。
 - NFCカードを使用する場合は、電磁波を遮断するものを付けしないでください(例:金属シール、携帯電話の金属製バックカバーなど)。
 - NFCカードをインストルメントパネルなどの高温部に置かないでください。NFCカードを強く曲げないでください。
 - NFCカードを他の固いものと一緒に置かないでください。
- NFCカードは近距離無線通信を行うもので、通信可能な距離は2cm以内になります。NFCカードをかざす場合は、ドアミラーに近づけて1~2秒キープしてください。
- NFCカードは、NFC通信規格に基づいたキーです。車両の安全性を確保するため、大切に保管してください。紛失した場合は、紛失したカードを解除するため、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場、新たにカードを作成してください。

ドアの施錠 / 解錠

メカニカルキーでの施錠 / 解錠

メカニカルキーを運転席側ドアハンドルの鍵穴に挿し込み、キー回してドアを開けます。

- ドアの解錠：時計回りにキーを回します。
- ドアの施錠：反時計方向にキーを回します。



⚠ 注意

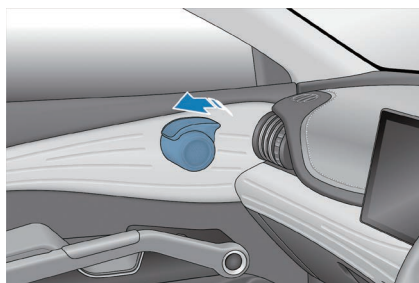
- メカニカルキーを抜き出した後、運転席側ドアハンドルを引いてドアを開けてください。

ℹ アドバイス

- メカニカルキーで解錠した場合は、イモビライザーが作動します。「スタート/ストップ」ボタンを押すとイモビライザーが停止します。

ノブ操作でドアを開けるときの

- 解錠している場合は、ノブを1回引き上げると車内からドアが開けられます。
- 施錠している状態でドアを開ける場合は、2回連続でノブを引き上げます。



⚠ 警告

- お子様が悪くてドアを開けてしまい、予期せぬ事故を起こすおそれがあるため、お子様にノブを触らせないでください。
- お子様を乗せている場合は、必ずチャイルドロック機能をONにしてください。

▲ 注意

- チャイルドロックを搭載しているため、チャイルドロックを解除していない場合は、リアドアのノブを引き上げても開けることができません。

リモートキー操作での施錠 / 解錠

- ワイヤレスリモートコントロール機能は、作動範囲内であればすべてのドアの解錠や施錠、付加機能が操作できます。
- 登録済みのリモートキーを携帯し、作動範囲内でリモートキーのボタンを押すと、すべてのドアの施錠 / 解錠ができます。

施錠：🔒

- 車両の電源ポジションが「OFF」の状態、すべてのドアおよびボンネットが閉まっている場合、「ロック」ボタンを押すとすべてのドアが施錠します。同時にドアミラーが格納し（スイッチは自動（AUTO）ポジション）、ターンシグナルランプが1回点滅します。その後、すべてのドアが確実に施錠しているかチェックします。
- ドア、ボンネット、またはテールゲートが開いている場合、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが1回鳴ります。

**解錠：🔓**

- ドアが施錠している状態で、リモートキーを携帯したままドアハンドルのマイクロスイッチボタンを押すと、すべてのドアを解錠できます。このとき、ドアミラーがオープンし、ターンシグナルランプが2回点滅します。

- 車両が始動している場合、「ロック」または「アンロック」ボタンを押しても、ドアの施錠 / 解錠はできません。
- リモートキーの操作ですべてのドアを解錠した場合、ドアが開いていない状態でも、ルームランプが 15 秒間点灯してから消灯することがあります（ルームランプスイッチの「ドア連動」ポジション時に点灯）。
- イモビライザーが作動している状態で、リモートキーを使って解錠したときは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に再度施錠されます。
- リモートキーの置き忘れを防ぐため、施錠した状態で車内やトランクルームにリモートキーを置いてテールゲートを閉めると、自動的にドアが解錠してターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- 4 ドアのウィンドウに挟み込み防止機能が搭載されている場合：挟み込み防止機能が作動すると、「ロック」または「アンロック」ボタンを押し続けても施錠 / 解錠できません。一度指をボタンから離し、再度「ロック」または「アンロック」ボタンを押すことで、4 ドアのウィンドウガラスが自動で閉まります。

アドバイス

- 車両の電源ポジションが「OFF」以外のポジションに入っている場合、解錠 / 施錠ボタンの操作でドアの解錠 / 施錠ができません。

リモートキー操作でテールゲートを開けるとき

- 2 回連続でリモートキーの「テールゲートオープンボタン」ボタンを押すと、テールゲートが開きます。このとき、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- 機械式駐車場などに駐車した際、誤って 2 回連続でリモートキーの「テールゲート解錠」ボタンを押さないようご注意ください。

アドバイス

- 車両から離れる場合は、リモートキーを携帯してください。

リモートキー操作での窓開 / 閉


■ 車両の電源ポジションを「OFF」にした場合：

- リモートキーの「ロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスが自動で閉まります。
- リモートキーの「アンロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスを自動で開きます。

警告

- リモコン操作でウィンドウガラスを閉じる際は、車内の乗員の安全に充分注意してください。ウィンドウガラスに乗員の身体が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。

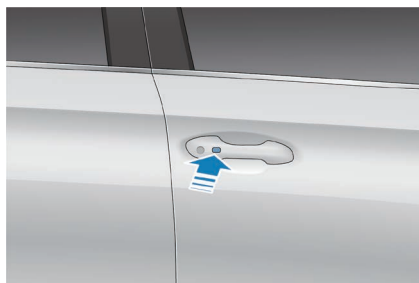
アドバイス

- ドライバーは  → **車両設定** → **ドアと窓** の設定画面から、リモートキーの長押し操作での施錠 / 解錠、ドアガラスの開 / 閉機能（実車仕様に準ずる）の ON/OFF を設定できます。

マイクロスイッチ操作での施錠 / 解錠

施錠

- 車両の電源ポジションが「OFF」の場合、ドアを閉めて施錠していない状態でリモートキーを携帯して運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に施錠されてターンシグナルランプが1回点滅します。
- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている状態でも、マイクロスイッチ操作で閉まっているドアを施錠することができます。ただし、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが1回鳴ります。




解錠

- 施錠されている状態でリモートキーを携帯し、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に解錠されてターンシグナルランプが2回点滅します。
- イモビライザーが作動している状態で解錠したときは、30秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアは自動的に再度施錠されます。
- 以下の場合、マイクロスイッチを押しても施錠 / 解錠はできません。
 - ドアを開閉時に、マイクロスイッチを押したとき。
 - 車両の電源ポジションが「OFF」以外のポジションに入っているとき。
 - リモートキーが車内に置いてあるとき。

i アドバイス

- リモートキーがドアハンドル、またはウィンドウに近すぎる場合は、この機能が有効にならず操作ができないことがあります。

マイクロスイッチ操作での窓開 / 閉

- 車両の電源ポジションを「OFF」で、リモートキーを携帯したまま運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを長押しすると、すべてのウィンドウガラスの自動開 / 閉ができます（ドライバーは、 → **車両設定** → **ドアと窓** の設定画面から、マイクロスイッチ長押し操作での施錠 / 解錠、またはウィンドウガラスを開 / 閉を ON/OFF できます）。

NFCカードでの施錠 / 解錠 *

- NFCカードを運転席側ドアミラーにあるNFCマークの感知エリアに近づけます。

ドアの施錠：

- 車両の電源ポジションを「OFF」にし、ドアを閉じた状態で NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に施錠し、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。

ドアの解錠：

- イモビライザーが作動している状態で、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に解錠し、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- イモビライザーが作動している状態で、NFC カードを使って解錠したときは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に再度施錠されます。
- NFCカードで解錠した場合、4分間はNFCカードで車両を始動することができ、4分以上経過すると、NFCカードで車両を始動できなくなります。この機能は、電話ポジションを「OFF」にしたときに解除されます。
- 以下の場合、NFC カードを右運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしても、施錠 / 解錠ができません。
 - ドアの開閉操作と同時に、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしたとき。
 - 車両の電源ポジションが「OFF」以外のポジションに入っているとき。

⚠ 注意

- キーレス操作権限の有効時間は最大 4 分間です。

テールゲートの施錠 / 解錠

リモートキーのリモコン操作でテールゲートの開 / 閉

パワーリフトゲートシステムを搭載している場合、リモートキーの「テールゲートオープン」ボタンを2回連続で押すと、テールゲートが開きます。このとき、ターンシグナルランプが2回点滅します。開いているときに「テールゲートオープン」ボタンを1回押すと、テールゲートが現在の位置で停止し、もう一度押すとテールゲートが反対側に動きます。



アドバイス

- テールゲートの開閉中に再びテールゲートオープンボタンを押すと、テールゲートがそのまま停止します。

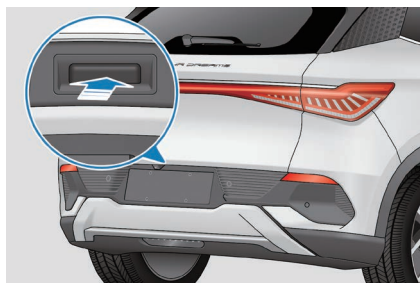
車内からテールゲートを開 / 閉する場合 *

- テールゲートが閉まっている状態で運転席側のドアのスイッチを引くと、テールゲートが設定位置まで開きます（初期設定は最大高さ）。
- テールゲートのオープン中に再度スイッチを引くと、テールゲートは現在の位置で止まります。
- テールゲートが開いている状態でスイッチを1秒以上引き続けると、テールゲートが自動的に閉まり、手を離すと止まります。



テールゲートオープンスイッチでテールゲートを開ける場合

- 解錠している状態でテールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートを開けることができます。
- 施錠しているときは、リモートキーを携帯した状態でテールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートを開けることができます。



i アドバイス

- テールゲートの動作中に、テールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートが止まります。

電動操作でテールゲートを開閉する場合*

- 1 テールゲートクローズボタン*
- テールゲートを開けて止まっている場合、テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが自動的に閉まります。
- テールゲートを閉めている途中で再度テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが現在の位置で止まります。テールゲートが止まった状態で再度テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが反対側に動きます。



2 全ドア施錠ボタン*

車両の電源ポジション「OFF」時にテールゲートが開いている場合、リモートキーを携帯したまま全ドア施錠ボタンを押すと、テールゲートが閉まって施錠されると同時にイモビライザーが作動します。

手動操作でテールゲートを閉める場合*

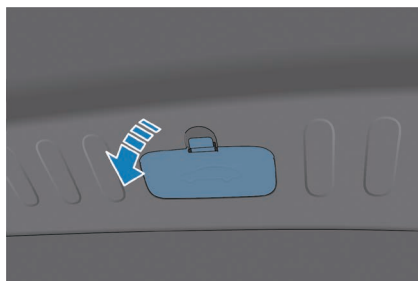
解錠されている場合は、手動でテールゲートを閉めることができます。

⚠ 注意

- 電動操作でテールゲートを閉める前に、物的損害がないようにドア、ウィンドウ、サンルーフなどが閉まっていることを確認してください。

テールゲートの緊急時解錠


緊急時解錠用蓋は、テールゲートのロックの真上にあります。この蓋を開け、中の緊急時解錠ワイヤーまたはレバーを引くと、車内側からテールゲートを解錠できます。



i アドバイス

- 車両が停電した場合は、車内からテールゲートの緊急時解錠ができます。

テールゲートの開口位置の設定 *

- 手動または自動でテールゲートを任意の位置まで開けて維持したまま、テールゲートクローズスイッチを3秒以上長押しします。スピーカーが1秒鳴れば、テールゲートの開口位置の設定が完了します。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **ドアと窓** の設定画面から **トランクオープン時高さ** を操作することで、テールゲートの開口位置を設定できます。

挟み込み防止機能

電動操作でテールゲートを閉める途中で一定以上の力が加わった場合、テールゲートは自動的に反対側へ動きます。また、電動操作でテールゲートを開く途中で一定以上の力が加わると、テールゲートは現在の位置で停止します。

テールゲートのモーターが動かなくなったら

手動操作でテールゲートを閉めると、モーターの機能を復旧させることができます。

モータールームのバッテリーを新たに接続した場合

電動でテールゲートの操作ができないため、手動でテールゲートを閉めてください。


警告

- テールゲートを操作する場合は、下記の注意事項を守ってください。そうしないと、身体の一部が挟まれて生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能を身体の一部で故意に作動させないください。
 - 近くに人がいるときは、安全を確認してからテールゲートを開閉してください。
 - テールゲートを閉めるときは、指などを挟まないように注意してください。
 - テールゲートの開閉するときには、周りの安全を充分確認してください。
 - 発進するときには、テールゲートを確実に閉めてください。
 - テールゲートを開ける前に、付着している雪や氷などを取り除いてください。そうしないと、開いたテールゲートが突然閉まるおそれがあります。
 - 電動操作でテールゲートを開閉している途中で、手動でテールゲートを操作しないでください。
 - 風が強いときに開閉すると、風にあおられ急に動くことがありますので特に注意してください。
 - テールゲートが閉まり切る直前に、挟まれるものによっては、挟み込み防止機能が作動しない場合があります。
 - テールゲートが最後まで開いていない場合、突然閉まるおそれがあります。坂道でテールゲートの開閉操作をするときは、水平な地面より力がかかるため、テールゲートの思わぬ開閉に気を付けてください。また、トランクルームを使用する前に、テールゲートが最後まで開いて止まっていることを確認してください。
 - 挟まれたものの形状によっては、挟み込み防止機能が作動しない場合があります。指などが挟まれないように注意してください。

集中ドアロックの施錠 / 解錠**集中ドアロックスイッチでの車両の施錠 / 解錠**

本章の運転席側ドアスイッチユニットの**集中ドアロック**を参照してください。

ドアの自動施錠 / 解錠

-  → **車両設定** → **ドアと窓** の設定画面から **運転中に自動施錠** を ON にすると、車両の電源ポジションが「OK」状態で速度が8km/h以下から8km/h以上に上がったとき、すべてのドアが閉まっており施錠されていないドアがあると、4つのドアのロックモーターを制御して自動で施錠します。

- 「スタート / ストップ」 ボタンを押して、車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると、すべてのドアが自動的に解錠されます。

すべてのドアを同時に施錠 / 解錠する

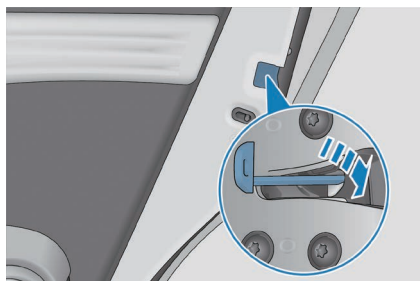
- イモビライザーが作動していない状態で施錠すると、集中ドアロックの施錠ボタンのバックライトが点灯します。車両を解錠すると、バックライトが消灯します。
- 集中ドアロックの施錠ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。この場合、車外からの解錠操作はできなくなります。ドアを開けるときは、車内のドアノブを1回引いてロックが解錠されてから、もう一度車内のドアノブを引くとドアを開けることができます。

メカニカルキーでの全ドア緊急施錠

集中ドアロックシステムやリモートキーが作動しない場合は、メカニカルキーで施錠 / 解錠ができます。

施錠：

1. リモートキーからメカニカルキーを取り出します。
2. 運転席側ドア以外の3つのドアを開けた状態で、図のように、メカニカルキーで矢印方向に白いノブを動かします。



3. 3つのドアを閉め、運転席側ドアを開けます。
4. メカニカルキーを使用して運転席側ドアを施錠し、メカニカルキーを抜き出します（[メカニカルキーでの施錠 / 解錠](#)を参照してください）。

解錠：

1. リモートキーからメカニカルキーを取り出します。
2. メカニカルキーを使用して運転席側ドアを解錠し、メカニカルキーを抜き出します。
3. 車両に乗り込み、運転席側ドア以外のドアのインナーノブを2回連続で引くと、該当のドアが解錠されます。

スマートエントリー&スタートシステム

リモートキーを使用して、ドアの施錠 / 解錠、および車両の始動ができます。

機能を ON にする場合

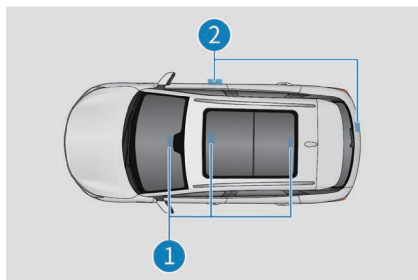
リモートキーの「ロック / アンロック」ボタンを押すと、ドアの施錠 / 解錠ができます（詳細は [リモートキー操作での施錠 / 解錠](#) を参照してください）。

車を始動する場合

リモートキーを携帯した状態でブレーキペダルを踏みながら「スタート / ストップ」ボタンを押すと、車両を始動できます（詳細は [車の始動](#) を参照してください）。

アンテナの搭載位置

- 1 室内アンテナ
- 2 室外アンテナ

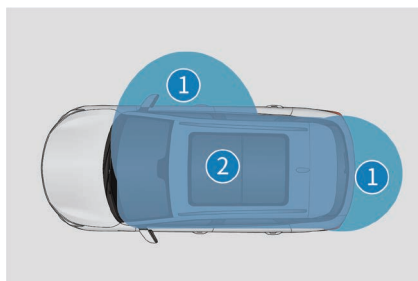


作動範囲

登録済みのリモートキーが作動範囲内にはない場合は、スマートエントリー&スタートシステム機能を使用できません。

- 1 機能が ON になる作動範囲——運転席側ドアハンドルおよびテールゲートオープンスイッチから約 1m の範囲内。
- 2 機能が作動する作動範囲——室内。

他車のリモートキーが、本車両のリモートキーの近くにある場合は、ドアの解錠時間が通常より長くなりますが異常ではありません。



i アドバイス

次の場合は、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しない場合があります。

- 近くにテレビ塔、発電所、ラジオ放送局などの強い電磁波を発生する施設があるとき。
- リモートキーを、双方向無線電話や携帯電話などの通信装置と一緒に携帯しているとき。
- リモートキーが金属に接触したり、覆われているとき。
- ドアハンドルを素早く操作しているとき。
- リモートキーがドアハンドルに近づいたとき。
- 近くにある別の車両の中で、ワイヤレスリモートコントロール機能を操作しているとき。
- リモートキーのバッテリーが切れているとき。
- リモートキーが、高電圧設備またはノイズが発生する設備の近くにあるとき。
- リモートキーを、他車のスマートエントリー&スタートシステムのキーや、無線電波を発する他の装置と一緒に携帯しているとき。
- 作動範囲内であっても、一部の場所（インストールメントパネルの上、グローブボックスの中、床）では、リモートキーが正常に作動しないことがあります。

- スマートエントリーシステムが正常に作動せず車両に乗り込めない場合は、リモートキーに内蔵されているメカニカルキーで運転席側ドアの施錠/解錠を操作する、またはワイヤレスリモートコントロール機能ですべてのドアの施錠/解錠を操作できます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押してもスタート機能が正常に作動しない場合は、下記の要因が考えられます。
 - リモートキーが作動せずにコンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点灯し、コンビネーションメーターに「キーのバッテリー残量が少なくなっています。できるだけ早くバッテリーを交換してください」のメッセージが表示されているときは、リモートキーのバッテリーが切れていることが考えられます。
- スマートエントリー&スタートシステムが故障で正常に作動しない場合は、すべてのリモートキーをお持ちいただき、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での修理をしてください。

節電

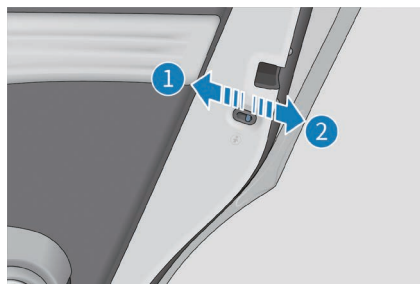
- 運転していない場合でも、リモートキーと車両は常に通信を行っています。そのため、リモートキーを車内または車両から 2m 以内に置かないでください。
- リモートキーは長時間強い電磁波を受信すると、バッテリーを急速に消耗するため、以下のような機材から 1m 以上離してください。
 - テレビ
 - パソコン
 - ワイヤレス充電器
 - 電気スタンド
 - 電気蛍光灯スタンド

チャイルドロック

チャイルドロックは、リアシートに座っている子供が不注意でリアドアを開けるのを防ぐための機能です。チャイルドロック装置は、左リアドアおよび右リアドアの側面にあります。

- ① チャイルドロックボタン ON
- ② チャイルドロックボタン OFF

チャイルドロックボタンを ON にすると、車内からリアドアを開けることができません。リアドアを開けるには、車外のドアハンドルを使用してください。



⚠ 注意

- 特にお子様を乗せている場合は、運転前にドアが閉まり、かつチャイルドロック機能が作動していることを確認してください。
- シートベルトを正しく着用し、チャイルドロックを作動させることで、交通事故によるドライバーや乗客の車外放出を防止すると同時に、ドアが不意に開くことも防止します。

シートについて

走行中は乗員全員がシートバックを垂直にし、背中をシートバックに密着した状態でシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

- 乗員が正しく着座するまで、車両を発進させないでください。
- 倒したシートバックの上、トランクルームの中、または荷物の上に座らないでください。そうしないと、緊急ブレーキや衝突発生時に、シートに正しく着座していない、またはシートベルトを正しく着用していない方は、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 走行中に乗員を立たせたり、シート間を移動しないでください。そうしないと、急ブレーキや衝突発生時に重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの思わぬ移動によって車両が制御不能にならないように、走行中は運転席シートの調節をしないでください。
- シートバックを調節した後、後ろへ身体を寄せてシートバックがロックされていることを確認してください。
- シートを調節する際は、手をシートの下に入れたり、動作中の部品に近づけたりしないでください。手や指が挟まれるおそれがあります。
- シートバックを必要以上に倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を発揮せず、衝突時に重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートバックと背中の中にクッションなどを入れしないでください。運転姿勢が安定せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- リアシートを折りたたんだとき、折りたたんだシートバックの上に乗らないでください。シートの損傷や転倒によって思わぬ怪我をするおそれがあります。

⚠ 注意

- ペダル、ステアリングホイールおよびインストルメントパネル上のコントローラーなどが、ドライバーの操作しやすい範囲にあるように、運転席シートを調節してください。
- シートを調節するときは、シートが乗員、または荷物に当たらないように注意してください。

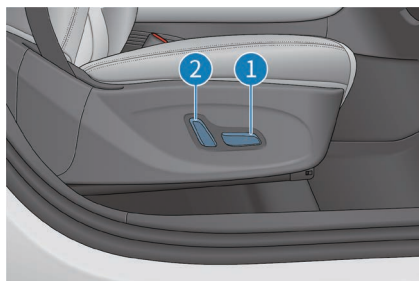
フロントシートの調節

電動フロントシートの調節*

電動フロントシートの位置調節は、シートの前後位置、シートクッションの高さ、およびシートバック角度調節を含みます。車両に搭載されている機能に応じて、次の調節方法で調整してください。

① シートポジション調節スイッチ

- 前後方向にシートポジション調節スイッチを操作すると、シートポジションを前後方向に調節することができます。
- スイッチの後部を上下方向に操作すると、シートの高さを調節することができます。



② シートバック角度調節スイッチ

前後方向にシートバック角度調節スイッチの上端を操作すると、シートバックの角度を調節することができます。

⚠ 注意

- スイッチから手を離すと、シートは現在の位置に止まります。シートの下にものを置かないでください。シートの動作を妨げるおそれがあります。

シートヒーターシステム*

- シートヒーターシステムは、 → 車両設定 → シートのシート用換気&ヒーター から、フロントシートヒーター機能のON/OFFを設定できます。
- マルチメディアトップページの **プルダウンメニュー** から、シートヒーター設定アイコンを呼び出すことができます。



ヒーターシステムの調節

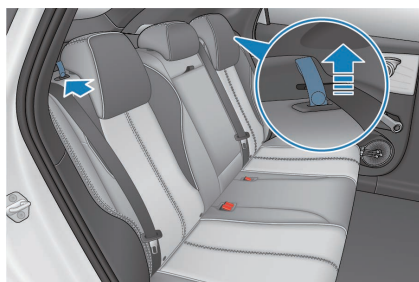
- シートヒーター：シートヒーターアイコンを操作してモードを選択します。ヒーター機能は、高温、低温の2段切替となっています。
- 車両始動時、初期状態としてシートヒーター表示灯は消灯しています。

警告

- 低温やけどの原因になるため、長時間連続して使わないでください。特に、乳幼児や高齢者、身体の不自由な方、薬を服用された方、糖尿病などの症状が原因で、痛みを感じる機能が低下している方は注意してください。
- 突起があるものをシートに載せたり、ピンなどの尖ったもので突き刺したりしないでください。

リアシートの収納

- シートバックを倒す
 - ストラップを引きます。
 - シートバックを前、または後ろに押し倒します。前に倒す場合は、シートバックがシートクッションに当たるまで倒します。後ろに倒す場合は、シートバックがロックされるまで（ロック音が聞こえるまで）倒します。



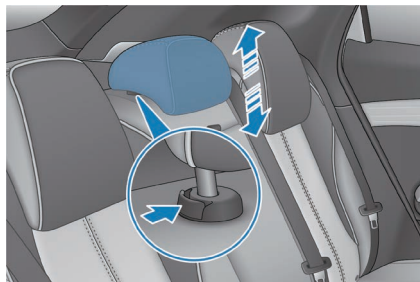
警告

- シートバックを起こすときは、ゆっくりと手で戻してください。急に戻すと身体に当たり、思わぬ怪我をするおそれがあります。
- シートバックを起こすときは、シートベルトを挟み込まないでください。挟み込まれているとシートベルトを正しく着用できません。

ヘッドレスト

ヘッドレストの調節

1. ヘッドレストを高くする
ヘッドレストを適切な位置まで引き上げ、ロック音が聞こえたら手を離します。
2. ヘッドレストを低くする
ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを適切な位置まで下げ、ロック音が聞こえたら手を離します。
3. ヘッドレストの取り外し
ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを抜き出してからノブを離します。
4. ヘッドレストの取り付け
ヘッドレストの足を元の位置に差し込み、切り欠きが前に向くように保ちます。ヘッドレスト高さ調節ノブを押したまま、ヘッドレストを適切な位置まで下げてから手を離します。



3

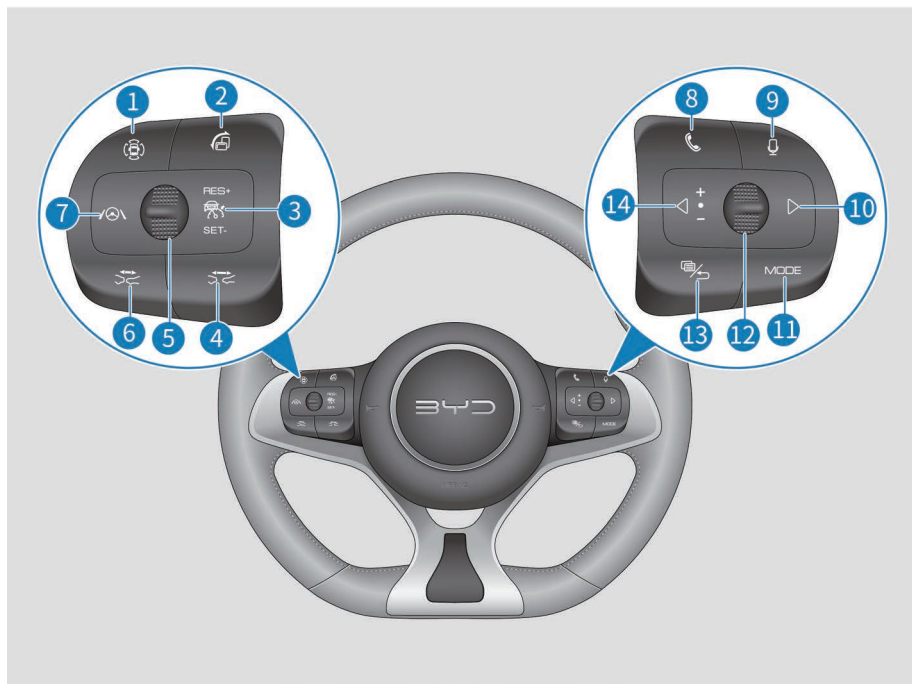
コントローラーの操作

警告

- ヘッドレストは、首や頭部の傷害を避けることができます。後頭部がヘッドレストの中心になるように、乗員の実際の身長に合わせてヘッドレストを適切な位置に調節してください。調節していないと、ヘッドレストの効果を最大限に発揮できません。
- ヘッドレストの中心が耳の上部になるように位置を調節してください。
- ヘッドレスト調節後、調整した位置で確実にロックされていることを確認してください。
- ヘッドレストが装着されていない状態で運転しないでください。
- ヘッドレストのステーにもものをかけないでください。

ステアリングホイール

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ



- | | | | |
|---|---------------------|----|----------------|
| 1 | BYD アラウンドビューシステム * | 8 | 電話ボタン |
| 2 | スクリーン回転ボタン | 9 | 音声制御ボタン |
| 3 | アダプティブクルーズコントロールボタン | 10 | 右矢印ボタン |
| 4 | 車間距離+ * | 11 | モードボタン |
| 5 | 設定速度レバー | 12 | ホイールボタン |
| 6 | 車間距離- * | 13 | メーター / リターンボタン |
| 7 | ナビゲーションパイロットボタン | 14 | 左矢印ボタン |

電源ポジションを「OK」にすると、オーディオコントロールスイッチが使えるようになります。

左側ボタン

アダプティブクルーズコントロールボタン *

- アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) の ON/OFF を操作します。

アドバイス

- アダプティブクルーズコントロール機能の使い方については、[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム *](#) を参照してください。

RES+ (設定速度レバーを上方向に) *

- ACC を有効にして、前回のシステム設定値を呼び出します。

SET- (設定速度レバーを下方向に) *

- 現在の速度を ACC の設定速度として設定します。

警告

- ACC の初期設定速度は 30km/h になっています。その設定のまま高速道路などを走行中に RES+ を押すと 30km/h に急減速し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。高速道路などで ACC を使用する場合は、SET- で速度設定を行った後、設定が解除されたときのみ RES+ で設定速度に戻すことをおすすめします。

車間距離- *

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段下がります。

車間距離+ *

- ACC 追従走行機能作動中に、前の車両との車間距離を 4 段切替で調整できます。1 回押すと 1 段上がります。

キャンセルボタン

- ACC ON 状態をキャンセルすると、システムは、作動状態から待機状態に入ります。

ナビゲーションパイロットボタン

- ナビゲーションパイロット機能の ON/OFF を操作します。

スクリーン回転ボタン

- スクリーン回転ボタンを押すと、マルチメディアコントロールパネル PAD が回転します。

BYD アラウンドビューシステム *

- BYD アラウンドビューモードの場合は、BYD アラウンドビューシステムを OFF にします。BYD アラウンドビューモード以外の場合は、BYD アラウンドビューシステムを ON にします。

右側ボタン

ホイールボタン

1. マルチメディア

- 上方向にホイールを回す：最大音量になるまで音量を 1 段ずつ上げます。
- 下方向にホイールを回す：最小音量になるまで音量を 1 段ずつ下げます。
- ホイールを押す：ミュートモードになります。

2. コンビネーションメーター

- 上方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールアップで第 2 階層 / 第 3 階層メニューを選びます。
- 下方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールダウンで第 2 階層 / 第 3 階層メニューを選びます。
- ホイールを押す：
 - メーターメニューモードでは、現在のオプションの詳細メニューに入るか、現在の設定を確定します。

左矢印 / 右矢印ボタン

1. マルチメディア

- ラジオモードの場合：
 - ◀ ボタンを長押しすると、前の放送局へ自動選局を開始します（周波数を下げる）。
 - ▶ ボタンを短く押しと、プリセットされた前の放送局を選局します。
 - ▶ ボタンを長押しすると、次の放送局へ自動選局を開始します（周波数を上げる）。
 - ▶ ボタンを短く押しと、プリセットされた次の放送局を選局します。
- USB / Bluetooth® 音楽 / サードパーティ APP などのモードの場合：

- ◀ボタンを短く押すと、前の曲を再生します（曲番号- 1）。
- ◀ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。短く押すと、スクロールアップで希望の項目を選びます。
- ▶ボタンを短く押すと、次の曲を再生します（曲番号+ 1）。
- ▶ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。短く押すと、スクロールダウンで希望の項目を選びます。

2. コンビネーションメーター

■ メーターメニューモードの場合：

- ◀ボタンを押すと、左へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。
- ▶ボタンを押すと、右へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。

電話ボタン

- 電話をかける、または電話に出れます（このボタンを押すと、オーディオシステムがミュートモードに入ります）。
- システムが Bluetooth と関係のない画面を表示しており、Bluetooth を接続していない場合、ボタンを短く押すと、電話機選択メイン画面に切り替わります。Bluetooth に接続されている場合は、ダイヤル画面に切り替わります。
- ダイヤル画面に電話番号を入力するか、通話記録、電話帳画面で電話番号を選んでボタンを短く押すと、ダイヤル機能が作動します。
- Bluetooth に接続した状態で、ダイヤル画面に番号が入力されていない場合、ボタンを短く押すと、通話記録画面の発信履歴画面に直接切り替わります。再度押すと、発信履歴画面の一番上の電話番号を自動的にダイヤルします。

音声制御ボタン

- ボタンを押すと、マルチメディアタッチスクリーンが音声制御画面に切り替わり、音声機能を操作することができます。
- 再度ボタンを押すと、新たに音声コマンドが入力できます。

メーター / リターンボタン

- コンビネーションメーターがメニューモード以外の場合、メーター / リターンボタンを押すと、メーターメニューが表示されます。
- コンビネーションメーターがメニューモードの場合、メーター / リターンボタンを押すと、前の画面に戻ります。前の画面がないときは、メニュー画面が閉じます。
- Bluetooth 通話画面の場合は、短く押すことで通話を終了できます。

モードボタン

- モード選択：モードボタンを押すと、メディア APP、周辺機器、プリインストール APP を切り替えることができます。
 - オーディオが OFF の状態で「モード」ボタンを短く押すと、オーディオが起動し、前回の設定の状態ですべて再生モードに入ります。前回設定した再生モードでソースが見つからない場合は（オーディオ周辺機器が接続されていないなど）、ラジオモードに切り替わります。

ホーンボタン

- ホーンのパッド面を押すと、ホーンが鳴ります。手を離すとホーンが止まります。

注意

- 長時間ホーンのパッド面を押さないでください。ホーンの破損につながるおそれがあります。

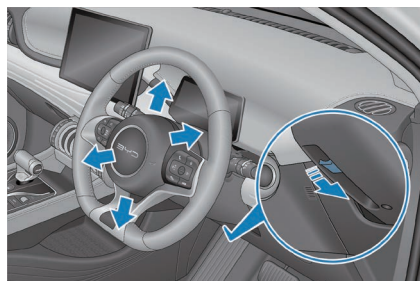
アドバイス

- 交通ルールを守り、ホーンを適切に使ってください。

ステアリングホイールの手動調節

ステアリングホイールの角度を調節するときは、ステアリングホイールを握りながら次の操作を行います。

- ステアリングホイールの調節レバーを下に押し、ステアリングホイールを必要な角度と必要な軸方向の位置に調節してから、レバーをロック位置に戻します。




3

コントローラーの操作

警告

- 走行中にステアリングホイールの調節をしないでください。操縦の誤りにより、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- ステアリングホイールを調節した後、上下方向に動かし、確実に固定されていることを確認してください。


パワーステアリングモードの設定

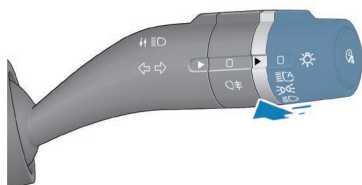
- パワーステアリングの感触は、人によって異なります。ドライバーにより、パワーステアリングの感触の評価やニーズも異なります。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から、**ステアリングアシスト** で **コンフォート/スポーツ** の操舵モードを選択できます。

アドバイス

- 高速走行時にステアリングの操作力が軽く感じる場合は、ステアリングアシストの設定を **スポーツモード** に設定することをおすすめします。

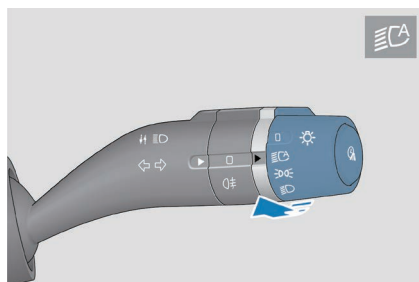
ライトスイッチ

ライトスイッチを  に回すと、デイトイムランニングライト以外のすべてのライトが消灯します。



オートライト

ライトスイッチを  に回すと、BCM (Body Control Module) が照度センサーで周囲の明るさを取得し、自動的にポジションランプやロービームの ON/OFF を制御します。



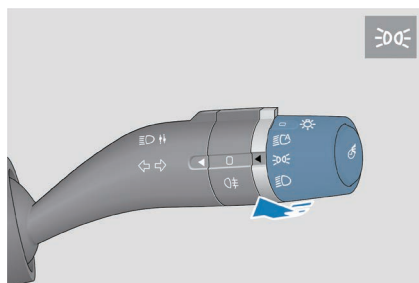
▲ 注意

■ 照度センサーは、インストルメントパネルの上端部にあり、センサーが遮られたり、その上に液体がかかったりすることを避けてください。

ポジションランプ

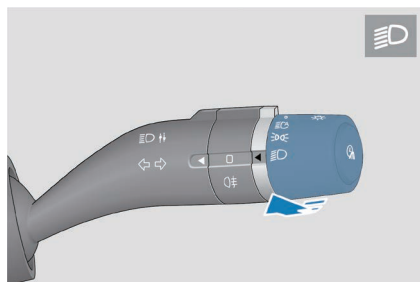
ライトスイッチを  に回すと、ポジションランプが点灯します。

(デイトイムランニングライト、ポジションランプ、リアライセンスプレートランプ、コンビネーションメーターバックライト、ポジションランプ表示灯、および一部のバックライトなど)



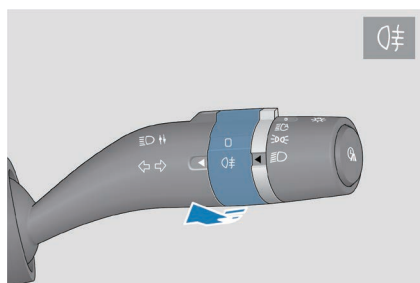
ロービーム

ライトスイッチを  に回すと、ロービームが点灯します。



リアフォグランプ

ライトスイッチを  に回し、リアフォグランプスイッチを  に回すと、リアフォグランプが点灯します。




3

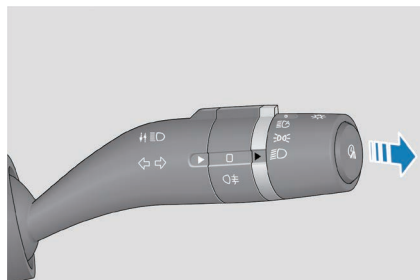
コントローラーの操作

⚠ 警告

- 晴天時には使用しないでください。後方車の視界を悪化させるおそれがあります。
- リアフォグランプは、霧や雨、雪などの悪天候で視界が悪いときに使用してください。

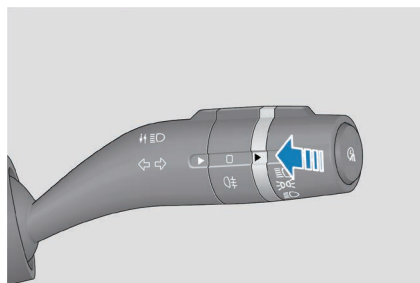
ハイビーム

ライトスイッチを  に回し、ライトスイッチのレバーを前方（ステアリングホイールから離れる方向）に押してレバーが自動的に初期位置に戻ると、ハイビームが点灯すると同時にコンビネーションメーターのハイビーム表示灯も点灯します。「前後」方向にライトスイッチのレバーを操作する、ロービームをOFFにする、または「OK」レンジにシフトすると、ハイビームが消灯します。



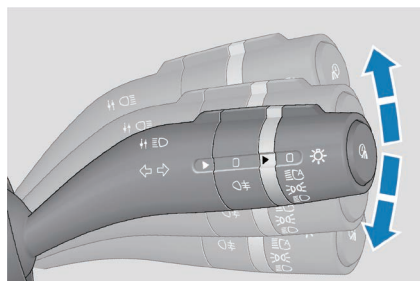
パッシングライト

ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引くと、パッシングライトが点灯し、手を離すとライトスイッチは自動的に戻り、パッシングライトが消灯します。




ターニングナルランプ

- コンビネーションスイッチのレバーを上方向に上げると、左ターニングナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- コンビネーションスイッチのレバーを下方向に下げると、右ターニングナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- ターニングナルランプをつけた後に手を放しても、ターニングナルランプは点滅し続けます。曲がり切った後は、自動的に消灯します。ドライバーの運転の違いにより、特別なケースでは、ステアリングホイールを1回転させないとリセットしない場合があります。




オート OFF 機能

- オート OFF 機能の作動条件：ライトスイッチを「」に回し、電源を「スタート」から「ストップ」に切り替えると ON になります。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが閉まっている場合、オート OFF 機能により、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが10秒後に消灯します。
- オート OFF 機能が ON の状態で運転席側ドアが開いている場合、オート OFF 機能により、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが10分後に消灯します。
- 自動的に消灯した後にライトスイッチのポジションを切り替えた場合、切り替えたポジションに応じてライトが点灯します。このとき、オート OFF 機能の作動条件が揃うと、再度オート OFF 機能が作動します。




- オート OFF 機能の解除：車両の電源を入れたら、オート OFF 機能が OFF になります。ライトスイッチは、通常通り操作できます。
- オート OFF 機能によりランプが消灯し、イモビライザー作動後に再度イモビライザーを OFF にした場合、消灯したランプが自動的に再度点灯します。運転席側ドアが開けていなければ、オート OFF 機能によりランプが 10 秒後に再度消灯します。ドアを開けると、オート OFF 機能によりランプが 10 分後に消灯します。

ヘッドライト残照機能

- ドライバーは、車両の電源ポジション「OK」の状態では  → **車両設定** → **照明&アンビエント** の設定画面から **降車後のヘッドライト点灯時間** を操作することで、残照時間を設定することができます。




- 降車後のヘッドライト点灯機能：

- ドライバーは、マルチメディアタッチスクリーンから降車後のヘッドライト点灯機能の点灯時間を設定できます。点灯時間の初期値は10秒です。ライトスイッチを「」、「」または「」に回し、電源ポジションが「OFF」にして、すべてのドアを施錠した状態で車両から離れようとするとき、該当ライトが10秒（または設定された時間）点灯します。


ハイビームアシストシステム

- ハイビームアシストシステムは、フロントガラス上部に設置されているマルチファンクションビデオコントローラーにより現在の走行モードを判断し、ハイビーム/ロービームを自動的に切り替えます。

ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** の設定画面から **ハイビームアシスト (HMA)** で、機能を ON/OFF できます。





ハイビームアシストシステムの作動

- ライトスイッチが  にあり、速度が 35km/h を超えている状態で明るさの条件を満たすと、ハイビームアシストシステムが自動的に作動します。作動中は、実際の走行環境に応じてハイビーム/ロービームを自動的に切り替えます。

アドバイス

- ハイビームアシストシステム作動時、コンビネーションメーター内のハイビームアシスト表示灯が点灯します。

ハイビームアシストシステムを OFF にするとき

- 以下の操作で、ハイビームアシストシステムを OFF にできます。
 - ライトスイッチを  以外のポジションに回します。
 - ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** の設定画面、または **ショートカットメニュー** からハイビームアシストを OFF にできます。
 - 手動でハイビームを ON にします。

システム作動を抑制する条件

- ハイビームアシストシステムは、下記の場合に作動が抑えられます。
 - 速度が 35km/h 未満の場合。
 - フロントフォグランプ*、ターンシグナルランプを ON にする、または急ハンドルを切った場合。

システムの限界性


⚠ 警告

- 下記の場合、ハイビームアシストシステムが誤作動したり、作動しないおそれがあるため、手動でライトを操作することをおすすめします。
- 照明が弱い交通参加者（歩行者や自転車など）、鉄道や水路に近隣する道路、または野生動物が出没している道路を走行するとき。
 - フロントガラスに霧や汚れが付いていたり、ラベルやアクセサリなどで遮られているとき。
 - 光を強く反射するものがあるとき（高速道路上の交通標識、路上の水たまり、先行車のトレーラーの反射する後端など）。
 - 雨や雪、強風などの悪天候のとき。
 - パンクなどによりタイヤの空気圧が低下して傾いているとき。

⚠ 注意

- 衝突事故が発生した、またはセンサーの脱着をした後は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

ヘッドライトの高さ調節

ドライバーは、ロービームを ONにした状態で  → **車両設定** → **照明&アンビエント** の設定画面から **ヘッドライト高さ調整** で、ヘッドライトの照射角を調整できます。



車両の負荷状況	ライトの推奨グレード
ドライバーおよび助手席の乗員	0 ~ 2
満員	0 ~ 2
満員、トランクルーム満載（均一分布）	1 ~ 3
ドライバーのみ、トランクルーム満載（均一分布）	1 ~ 3

- 車両により負荷状況が異なる場合があるため、実際の状況に応じて調整してください。

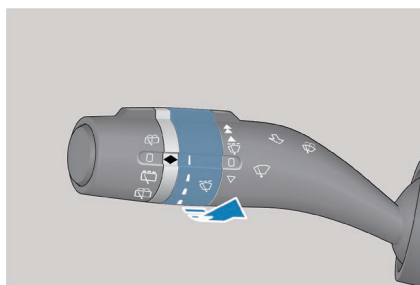
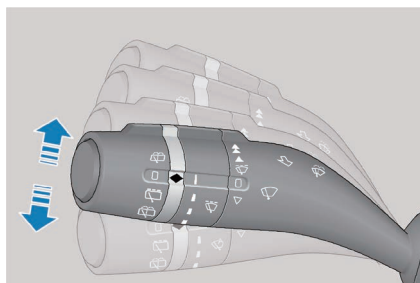
ワイパースイッチ

フロントワイパーとウォッシャー

- レバーを動かしてワイパーとウォッシャーを操作します。レバーは5段階切り替えとなっています。

- ▲：高速モード
- △：低速モード
- ☒：間欠モード
- □：停止
- ▽：ミストモード

- モードを切り替える場合は、上または下にレバーを操作します。
- 低速および高速モードの場合、ワイパーは連続的に作動します。
- ミストモード「▽」でワイパーを作動させるには、「□」位置からレバーを下方向に下げます。ワイパーは、レバーを離すまで低速で作動します。
- 間欠モード「☒」の間欠時間は、ワイパースイッチの間欠時間設定ツマミを回して調整します。雨量マークの幅が狭くなるほど間欠時間が長くなります。



フロントウォッシャー ☒





- フロントガラスを洗浄する場合は、レバーを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引くと、ウォッシャー液が噴射すると同時にワイパーが作動します。
- レバーを離すか10秒以上操作し続けると、ウォッシャー液の噴射が止まります。ワイパーが1～2回作動してから止まり、約5秒後に1回作動し、ガラスに残った水を拭き取ります。

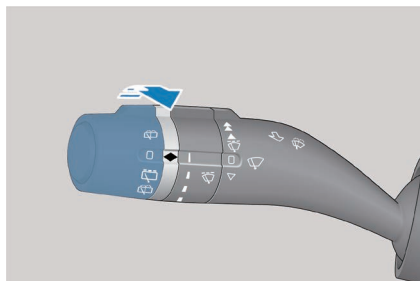
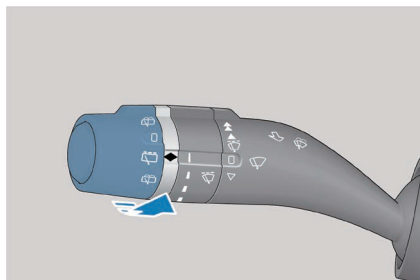
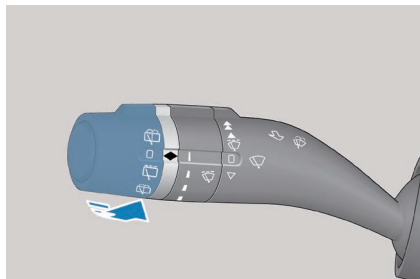


⚠ 警告

- 寒冷時は、ガラスに噴射したウォッシュ液が凍結することで視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシュ液を噴射する前に、ガラスをヒーターで温めてください。
- 寒冷地では不凍剤の含まれたウォッシュ液を使用してください。不凍剤が入っていないウォッシュ液を使用すると、ガラスの視界が妨げられることがあります。

リアワイパーとウォッシュ

- ワイパースイッチのツマミを  位置に回すと、リアワイパーが作動します。ツマミを  に回すかテルゲートを開けると、ワイパーが止まります。
- スイッチをリアワイパーの位置  に回して保持すると、リアワイパーとウォッシュが同時に作動します。
- スイッチをリアワイパーの位置  に回すと、ウォッシュ液が噴射された後、ワイパーが1～2回作動して停止します。



リアワイパーとテールゲートとの連動機能

- 車両の電源ポジションを「OK」にしてからテールゲートを開けた場合、リアワイパー/ウォッシャは作動しません。リアワイパー/ウォッシャ作動中にテールゲートを開けると、リアワイパー/ウォッシャは止まり、テールゲートを閉じると、5秒後に再度作動します。フロントワイパーを使う場合は、シフトレバーをRレンジに入れると、リアワイパーも自動的に作動します。

⚠ 注意

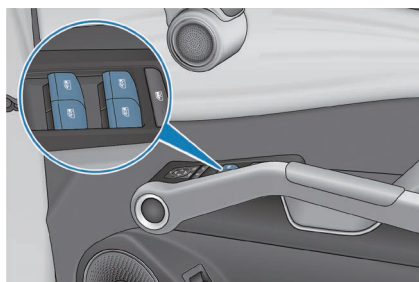
- ウォッシャを10秒以上連続作動させたり、ウォッシャ液が切れている状態で作動しないでください。オーバーヒートによりモーターが破損するおそれがあります。

ℹ アドバイス

- 定期的にブレードを点検し、ブレードの汚れを除去してください。
- 雨が降り出した直後にワイパーを作動させると、雨水に土砂やほこりが混じってしまうため、フロントガラスをきれいに拭き取れないことがあります。また、視界も一瞬でぼやけてしまうため、運転に影響を与えるおそれがあります。
- ガラス洗剤液を使ってください。水や他の洗剤液を使うと、ワイパーモーターの破損につながるおそれがあります。

パワーウィンドウスイッチ

- 車両の電源ポジションが「OK」の状態でごドアのコントロールスイッチを操作すると、ウィンドウガラスの開閉を制御できます。電源ポジションを「OFF」にすると、パワーウィンドウの開閉操作ができなくなります。
- 運転席側のウィンドウスイッチは4つあり、それぞれのウィンドウガラスの開閉を制御できます。
 - 下降：スイッチを押す。
 - 上昇：スイッチを引き上げる。



- パワーウィンドウを操作中に操作を止めると、ウィンドウガラスが途中で止まります。

- 自動下降：2段階までスイッチを押し込んでから手を離すと、ウィンドウガラスが自動的に下がります。
- 自動上昇：2段階までスイッチを引き上げてから手を離すと、ウィンドウガラスが自動的に上がります。
- 途中で止めるときは、反対方向に軽く押します。

電源ポジション OFF 後の作動機能*

- 電源ポジション「OFF」後にフロントドアを開けていない場合、10分以内は4ドアのガラス開閉操作ができます。
- 電源ポジション「OFF」後にフロントドアを開けると、4ドアのガラス開閉操作ができなくなります。

スマートウィンドウ制御機能*

- 車両設定から機能をONにした場合（詳細は、リモートキー操作での窓開/閉を参照してください）、リモートキーの「アンロック」ボタンを長押しすると、ガラスが自動的に下がります。リモートキーの「ロック」ボタンを長押しすると、ガラスが自動的に上がります。ガラス作動中にボタンを離すと、ウィンドウガラスの開閉が止まります。
- 車両設定から機能をONにした場合（詳細はマイクロスイッチ操作での窓開/閉を参照してください）、リモートキーを携帯した状態でフロントドアのマイクロスイッチを長押しして解錠すると、ウィンドウガラスが自動的に下がります。また、フロントドアのマイクロスイッチを長押しして施錠すると、ウィンドウガラスが自動的に上がります。ガラス作動中にボタンを離すと、ウィンドウガラスの開閉が止まります。
- 車両設定から **ロック後ウィンドウオートクローズ** をONにした場合、電源ポジションが「OFF」の状態ドアを施錠すると、すべてのドアが施錠され、4つのウィンドウガラスが自動的に上がります。

警告

- パワーウィンドウを閉じるときは、ウィンドウガラスで手や指を挟まないようにしてください。
- 走行中は顔や身体を車外に出さないでください。車外のもの当たり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ウィンドウガラスを開閉するときはお子様に声をかけ、手や指などを挟まないことを確認してから操作してください。
- リアシートにお子様に乗っている場合は、リアウィンドウスイッチをロックすることをおすすめします。

挟み込み防止機能

挟み込み防止機能

ウィンドウガラス上昇中に人やものが挟まれると、ウィンドウガラスの上昇が止まり、自動的に下がります。

挟み込み防止機能の初期化

- ウィンドウガラスの上昇または下降中に起動バッテリーの接続を解除すると、ウィンドウガラスの自動上昇および挟み込み防止機能が無効になります。再度機能を使う場合は、起動バッテリーを接続してウィンドウスイッチを閉めてから、再度ウィンドウスイッチを3秒以上長押ししてください。
- ウィンドウガラスを閉じてスイッチから手を離し、再度上昇操作を行って3秒以上ホールドします。

⚠ 警告

生命にかかわる重大な傷害を防止するために、ドアガラスを閉じる場合は、下記の注意事項を守ってください。

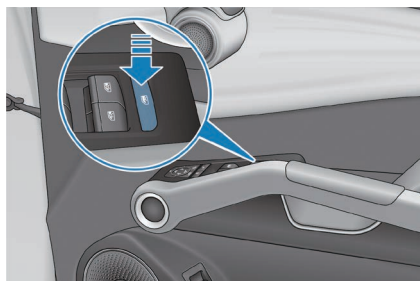
- ウィンドウガラスを操作するときは、ドライバーや乗員の身体が挟まれないようにきちんと確認してから操作してください。
- 絶対に、お子様にパワーウィンドウを操作させないでください。
- 身体の一部で、挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- ウィンドウガラスが閉まり切る直前に挟まれたとき、ものによっては、挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。

⚠ 注意

- 挟み込み防止機能の初期化を頻繁に行うと、パワーウィンドウモーターの過熱保護機能が作動します。
- ドアガラス自動上昇機能と挟み込み防止機能が作動しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼してください。

ウィンドウロックキー*

- ウィンドウロックキーを押すと、運転席側のパワーウィンドウスイッチでは、すべてのウィンドウガラスの開閉ができ、助手席側のスイッチでは助手席側のウィンドウガラスの開閉ができますが、リアウィンドウスイッチは操作できません。



- 再度ウィンドウロックキーを押すと、表示灯が消灯し、それぞれのウィンドウガラス開閉を操作できます。

集中ドアロック

運転席側のドアには電動ドアロックを搭載しています。2つのボタンですべてのドアの施錠や解錠ができます。

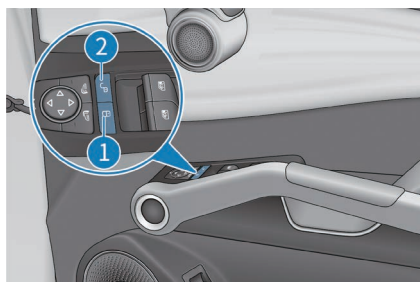
① 施錠

「集中ドアロック施錠」ボタンを押すと、すべてのドアロックが同時に施錠され、施錠の表示灯が赤く点灯します。

② 解錠

「集中ドアロック解錠」ボタンを押すと、すべてのドアロックが同時に解錠され、施錠の赤の表示灯が消灯します。

- 車両が強い衝突を受けた場合は、すべてのドアが自動的に解錠されます。衝撃の強さや事故などのパターンにより自動的に解錠されるかを決定しています。



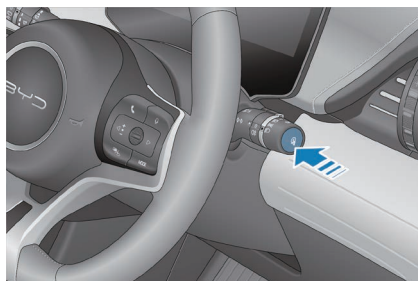
テールゲートスイッチ

- スイッチを押すと、車内でテールゲートの開 / 閉操作ができます。



走行距離切替スイッチ

- 「走行距離切替」スイッチを押すと、「odo メーター」——「TRIP A」——「TRIP B」の切り替えができます。それと同時に、コンビネーションメーターには切替状態が表示されます。
- 「TRIP A」、「TRIP B」を長押しすると、走行距離がリセットできます。



運転支援スイッチユニット

センターコンソールにあるスイッチユニットには、後方レーダースイッチ*、ブラインドスポットインフォメーションスイッチ*、オートビークルホールドスイッチ*があります。

① 後方レーダースイッチ

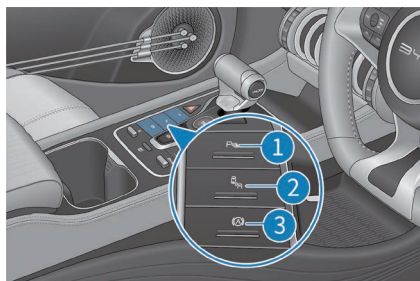
このスイッチを押すと、後方レーダースystem機能がONになります（詳細は[後方レーダーの電源スイッチ](#)を参照してください）。

② ブラインドスポットインフォメーションスイッチ*

このスイッチを押すと、ブラインドスポットインフォメーション機能がONになります（詳細は[ブラインドスポットインフォメーション*](#)の設定を参照してください）。

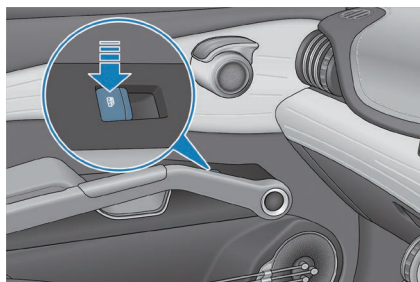
③ オートビークルホールドスイッチ*

このスイッチを押すと、オートビークルホールド機能がONになります（詳細は[オートビークルホールド \(AVH\)](#)を参照してください）。



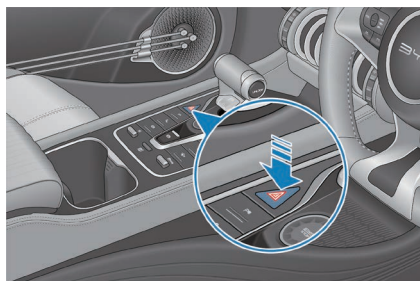
助手席側ウィンドウスイッチ

車両の電源ポジションが「OK」の場合は、助手席側およびリアドアのウィンドウスイッチで、助手席側ウィンドウガラスおよびリアウィンドウガラスの上昇/下降を操作できます。



ハザードランプスイッチ

⚠ スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅すると共に、コンビネーションメーター内の方向指示表示灯が点滅します。再度 ⚠ スイッチを押すと、点滅が止まります。



⚠ 注意

■ ハザードランプを点灯させることで、歩行者や他車に危険を知らせることができます。

モードスイッチユニット

「回生ブレーキモード」、「スノーモード」、「走行モード」を操作し、該当の作動モードを選ぶことができます。

① 回生ブレーキモード

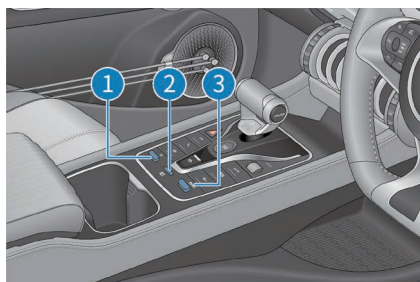
- デフォルトとして、スタンダードに設定されています。
- 前方向にレバー①を操作すると、回生ブレーキの効きが強くなります。

② スノーモード

- スイッチを押すと、雪道走行専用モードに入ります。
 - 表面が固いものや滑りやすいもの（草、雪、氷や砂利など）で覆われている路面で使用します。
 - スノーモードは、滑りやすい状況でのトラクション、乗り心地、ハンドリング特性、アクセルペダルの慎重な操作を最適化します。

③ 走行モード

- デフォルトとして、ECO モードに設定されています。



- 前方向にレバー③を操作すると、SPORT モードに切り替わります。
- 手前方向にレバー③を操作すると、NORMAL モードに切り替わります。
- 繰り返して手前方向にレバー③を操作すると、NORMAL → SPORT → ECO → NORMAL の順に切り替わります。
- 繰り返して前方向にレバー③を操作すると、NORMAL → ECO → SPORT → NORMAL の順に切り替わります。
- エコモード (ECO) :
モーター出力を抑制し電費を向上させ、快適なドライブ体験が得られるモードです。
- ノーマルモード (NORMAL) :
モーター出力と経済性の両方に配慮しているモードです。
- スポーツモード (SPORT) :
良好なモーター出力が得られますが、バッテリーの残量が少ない、または車両が高温や低温などの環境である場合は、加速性能がやや低下します。

アドバイス

- ドライバーが「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモード」の切り替えを操作し、アクセルペダルを完全に離すと、モーターの出力特性がドライバーのニーズに応じて変わるため、安全に注意してください。
- 「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモード」では、電源 OFF 時の記憶機能を備えており、電源を切ってから再始動した場合、前回電源 OFF 時のモードを維持します。

注意

- 雪道走行時、ダイナミックスタビリティコントロールを作動することでモーター性能が低下する場合は、ESC システムを OFF にすれば、改善されることがあります。解消した後、ESC は新たに ON する必要があります。

E-Call

自動緊急通報システム E-Call

- E-Call とは、緊急通報システムのことです。
E-Call を手動で利用する場合は、SOS と表記された呼び出しボタンを 2 秒以上押してください。
- エアバッグが展開したり、激しい衝突を検出した場合は、E-Call が自動的に緊急通報します。
- E-Call は、緊急通報専用のコールセンターへ手動または自動で通報し、緊急通報をします。オペレーターの問いかけに回答できる場合は、質問に合わせて状況の説明をお願いいたします。



⚠ 警告

- SOS の呼び出しボタンを押すときは、安全なところに停車してから行ってください。走行中に押そうとすると注意が散漫になり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- E-Call を発報すると、以下の条件以外で車両側からの操作で E-Call をキャンセルすることはできません。
 - E-Call システムから 10 回以上 E-Call 専用コールセンターを呼び出しても応答がない。
 - E-Call 専用コールセンター側から E-Call を終了する。

ℹ アドバイス

- E-Call とは、事故や急病などの緊急時に、消防や警察、医療機関への連絡を補助するサービスです。
- エアバッグが展開する自動緊急通報後は、自動通報機能が使用できなくなりますので、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

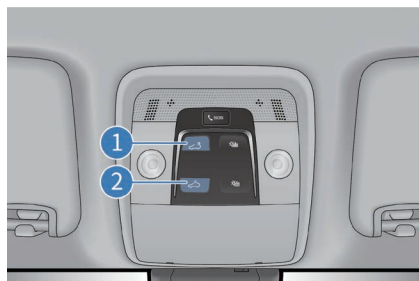
サンルーフスイッチ

パノラマサンルーフ

サンルーフを操作する場合は、電源ポジションを「OK」にする、または「OFF」にしてから作動できる時間内に操作してください。

サンルーフを開ける

- サンルーフオープンボタン①を押し続けると、手動でサンルーフが開きます。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。



- サンルーフの初期化をしている場合（「[初期化方法](#)」参照）、サンルーフオープンボタン①を押した直後に離すと、サンルーフはチルトアップして換気をします。再度押すと、サンルーフが自動に約80%まで開きます。もう一度押すと、サンルーフが自動的に全開になります。自動に開いている途中で、ボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

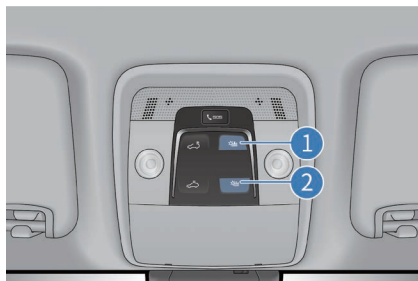
サンルーフを閉める

- サンルーフクローズボタン②を押し続けると、手動でサンルーフが閉まります。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンルーフの初期化をしている場合、サンルーフクローズボタン②を押した直後に離すと、サンルーフが自動で全閉します。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

サンシェードスイッチ

サンシェードを開ける

- サンシェードオープンボタン①を押し続けると、サンシェードが開きます。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードオープンボタン①を押した直後に離すと、サンシェードは自動で開きます。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。



サンシェードを閉める

- サンシェードクローズボタン②を押し続けると、サンシェードが閉まります。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードの初期化をしている場合、サンシェードクローズボタン②を押した直後に離すと、サンシェードが自動で閉まります。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

アドバイス

- サンルーフが閉まっていない（途中で止まっている）場合は、サンシェードをサンルーフの閉位置まで閉めることができます（サンルーフを閉めていないときに、サンシェードが邪魔にならないようにするため）。

連動してサンシェードを開く機能

- サンルーフを開けると、サンシェードはサンルーフに連動して開きます。

サンルーフの挟み込み防止機能

サンルーフまたはサンシェードを閉める途中に人やものが挟まれた場合、サンルーフまたはサンシェードが自動的に止まり、反対方向に少し開きます。

⚠ 警告

- サンルーフを開閉する場合は、手や頭部を挟まないように注意してください。サンルーフに挟まされると、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 走行中にサンルーフから頭部、手など身体の一部を出さないでください。生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 気温が0℃以下の中、または雪や霜が積もっている状態でサンルーフを開けると、サンルーフまたはモーターを破損させるおそれがあります。

初期化方法

- 車両の電源ポジションが「OK」で、サンルーフを初期化していない場合、下記の手順で初期化設定をします。
- 手動でサンルーフまたはサンシェードを全閉にして、ボタン②を0.5秒以上長押しした後に離すと、サンルーフまたはサンシェードの初期化が完了します。
- サンルーフまたはサンシェードが閉まり切らない場合は、手動でサンルーフまたはサンシェードクローズボタン②を長押しし、サンルーフまたはサンシェードが止まってから手を離します。再度サンシェードクローズボタン②を7秒以上長押しし、サンルーフまたはサンシェードが閉まって「カチッ」と音が聞こえたら手を離します。
- サンルーフとサンシェードの初期化は、個別にしてください。

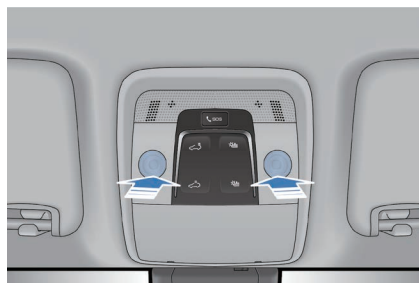
ルームランプスイッチ

フロントルームランプ

左側ルームランプスイッチ

右側ルームランプスイッチ

- 左側 / 右側フロントルームランプスイッチを押すと、左側 / 右側フロントルームランプが点灯します。左側 / 右側フロントルームランプスイッチを再度押すと、左側 / 右側フロントルームランプが消灯します。




左側 / 右側リアルームランプスイッチ *

- 電源ポジションを問わず、リアルームランプスイッチを押すと、左側 / 右側リアルームランプが点灯します。
- 再度スイッチを押すと、左側 / 右側リアルームランプが消灯します。



インテリジェントアンビエントライト

ドアを開けると、室内のインテリジェントアンビエントライトが自動的に点灯し、快適な運転環境を作り出します。

- ドライバーは、 → **車両設定** → **照明&アンビエント** の設定画面から、以下の設定ができます。

- アンビエントライト色調
- アンビエントライト明るさ
- アンビエントライト照明範囲
- ダイナミックカラー
- ミュージックリズム



4-1 充電 / 放電について	111
充電について	111
充電方法	117
外部給電方法 *	125
充電ポート盗難防止	
ロック機能	128
航続距離の表示 *	129
回生ブレーキの設定	130
4-2 バッテリー	131
パワーバッテリー	131
起動バッテリー (12V)	135
4-3 ご利用要領	137
慣らし運転期間	137
トレーラーのけん引	137
安全運転上のご注意	137
車のご利用についての	
アドバイス	138
電気の省エネで車を	
長持ちさせる方法について ...	139
荷物の積み込み	141
冠水路の走行	142
火災の予防	144
タイヤチェーン	146
4-4 始動および運転	147
車の始動	147
車の運転	149
シフト機構	150
電動パーキングブレーキ	
(EPB)	152
オートビークルホールド	
(AVH)	156
運転要領	159

4-5 運転支援機能…………… 161

アダプティブクルーズコント ロール (ACC) システム * …	161
予測緊急ブレーキシステム …	167
交通標識認識システム ……	171
レーンサポートシステム * …	173
ナビゲーションパイロット * …	176
ブラインドスポット インフォメーション * ……	178
タイヤ空気圧モニタリング …	181
BYD アラウンドビュー システム * ……	184
駐車支援システム ……	187
安全運転支援システム ……	192
車両接近通報装置 (AVAS) ……	198

4-6 他の主要機能について… 199

ルームミラー……………	199
電動ドアミラー……………	200
ワイパー……………	201
ドライブレコーダー * ……	202

充電について

⚠ 警告

- 充電設備は高電圧が掛かっているため、お子様だけで充電をしたり充電設備を使わないでください。また、充電中はお子様を充電設備に近づけないでください。
- 充電が医療電子機器や植え込み型電子機器に与える影響については、電子機器メーカーへ確認してから充電作業を行ってください。
- 安全な場所で充電してください（液体、火元、熱源などがある環境を避けるなど）。
 - 雨の中で充電するときは、水が掛からないように充電装置を保護してください。
 - 雷が鳴っているときは落雷で感電するおそれがあるため、車両、充電器、充電ケーブルに触れないでください。
- 充電前の設備点検および操作について
 - 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗やポートの錆び、ケースの割れ、またはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
 - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートの金属端子が錆びや腐食で破損している場合、または緩みがある場合は充電しないでください。
 - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートが明らかに汚れている場合、または濡れている場合は、乾燥している清潔な布で拭いてください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、プラグやコード、ケーブルを動かすと充電が停止する場合は、使用を中止してください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、コードやケーブルを引く、ねじる、曲げる、踏む行為はしないでください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、コードやケーブルをコネクタやコントロールボックスなどに巻き付けしないでください。
 - 給電プラグは本体部分を持ち、コンセントに対して真っすぐ奥まで押し込んでください。確実に押し込めていないと、発熱して発火するおそれがあります。

⚠ 警告 (続き)

- 規格に適合する充電設備で充電してください。
 - 誤って使用すると感電のおそれがあるため、充電用コンセントは電気工事の資格を有する専門業者が施工したものを使用してください。
 - 誤って使用すると感電のおそれがあるため、アースがつながっている充電用コンセントを使用してください。
 - 故障や火災を防ぐため、充電設備および関係ポートの改造や取り外し、修理はしないでください。
 - 安全基準を満たさない充電設備、または潜在的危険性がある充電設備で充電しないでください。また、充電中はお子様やペットを充電設備に近づけないでください。
- 感電による傷害につながるおそれがあるため、手が濡れている状態で操作しないでください。
- 充電中に車両や充電設備に異常が見つかった場合は、ただちに充電を停止し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 充電中は、モータールームを開ける必要がある修理をしないでください。
- 感電による傷害につながるおそれがあるため、充電完了後は、濡れた手や水の中などに入った状態で充電設備を切り離さないでください。
 - 発進する前に、充電設備が充電ポートから切り離されていることを確認してください。

充電上のご注意

- コンビネーションメーター内のパワーバッテリー残量 (SOC) 表示が赤いエリアにある場合は、パワーバッテリーの残量が低下しています。残量が赤いエリアまで低下しているときは早めに充電してください。また、パワーバッテリーの寿命を縮めてしまうため、バッテリーが切れてから充電することは避けてください。
- 家庭用 AC 普通充電とは、車両に装備されている車載 AC 充電ケーブルを使用して充電することです。規格に適合する専用交流回路と電源ソケットを使用してください。専用回路は、回路の破損またはパワーバッテリーへの高出力充電による回路トリップから、安全を守るためのものです。専用回路を使用せずに充電すると、回線上の他の機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 車両の破損を防ぐため、充電時は下記の内容に注意して充電してください。
 - 車両の充電ポートの破損を招くおそれがあるために、充電コネクタを揺らさないでください。
 - 雷雨時はバッテリーを充電しないでください。落雷による車両の破損につながるおそれがあります。
- 充電設備の破損を防ぐために（充電設備利用上のご注意）：
 - 充電設備に衝撃を与えないでください。落下や外部からの衝撃などによる機械的破損がないように注意してください。
 - 充電設備をヒーターや他の熱源の近くに置かないでください。
- 充電前に充電コネクタを挿し込む：
 - 充電前に、充電コネクタと充電ポートに異物が付着していない、充電コネクタ端子の絶縁キャップに緩みや変形がないことを確認します。
 - 充電コネクタを持ち、充電コネクタを充電ポートに合わせてから押し込み、充電コネクタを充電ポートに確実に取り付けます。
- 充電完了後に充電コネクタを抜き出す：
 - 充電を停止し、充電ポートのロックが解錠されていることを確認します。
 - 充電コネクタを持って、抜き出します。
 - 充電ポートがロックされたまま充電コネクタを抜き出さないでください。充電ポートを破損させるおそれがあります。
- 充電中に車両を始動してエアコンを使用できますが、充電電力を確保するため、エアコンを使用しないことをおすすめします。
- 充電時は換気の良い場所に車両を止め、車両から降りるようおすすめします。
- パワーバッテリーがフル充電になると、システムが自動的に充電を停止します。充電ポートには盗難防止ロックが装備されているため、ロックを解錠してから充電コネクタを抜き出してください。
- DC 充電を停止する場合は、充電器を OFF にしてから充電コネクタを切り離してください。家庭用 AC 普通充電で充電する場合は、車両側の充電コネクタを切り離してから電源側のプラグを抜き出してください。
- 充電が完了し充電コネクタを抜き出した後、充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを確実に閉じてください。水や異物が充電ポートに入ると正常に使用できなくなるおそれがあります。

- 車両を始動させる前に、充電設備が切り離されていることを確認してください。充電コネクタを最後まで挿し込まないと、充電設備のロック機構が機能しないため、充電コネクタをつないだまま車両を発進させてしまうと、充電設備および車両の破損につながるおそれがあります。
- バッテリー温度が低すぎる、または高すぎる場合、バッテリーの充電性能に影響を与えるおそれがあります。
 - 低温の環境で充電する場合、温度コントロールシステムでバッテリー低温時の充電能力を改善させることができます。充電スタンド出力の制限により、充電時間や加熱時間が延び、加熱による電気消費が増えますが異常ではありません。
 - DC 充電時に気温が低く残量が多い場合は、バッテリーの低温特性により充電電流が小さくなります。残量が少ない状態でバッテリーを充電すると、充電スピードを上げることができます。
 - 車両の使用直後は、バッテリーの温度が相対的に高く充電性能が優れているため、車両の使用直後の充電をおすすめします。
- 低温の環境で充電中にエアコンを使用する場合、バッテリー温度コントロールシステムの性能および充電性能に影響を与えるおそれがあります。
- 充電中にバッテリー温度コントロールシステムが作動した場合、コンビネーションメーターやマルチメディアタッチスクリーンの充電電力が、一時的に変動して表示されることがありますが異常ではありません。
- バッテリーを長持ちさせるため、充電が完了前にバッテリー補正機能が作動することがあります。バッテリー補正機能が作動すると、充電時間が長くなることがあります。
- 高温の環境で、DC による高出力充電を行う場合は、バッテリー温度コントロールシステムの充電性能がエアコンの使用により低下し、充電時間が長くなることがあります。充電効率を確保するため、充電中はエアコンを使用しないことをおすすめします。
- 充電中に加熱や冷却を行う場合、充電時間が延び、充電中の電気消費も増えますが異常ではありません。
- バッテリー温度を最適な温度に維持するため、充電完了後もバッテリー冷却システムが停止しないことがあります。異常ではありません。
- 充電時、コンビネーションメーターやマルチメディアタッチスクリーンにフル充電の所要時間が表示されます。温度や残量、または充電施設などにより、フル充電目安時間は多少異なりますが異常ではありません。充電が完了するまでは、コンビネーションメーターに「計算中 ...」と表示されますが異常ではありません。

- 車両を長期間使用しない場合は、フル充電してから利用することをおすすめします。パワーバッテリーを長持ちさせるため、放置期間中は、3ヶ月毎に充電することをおすすめします。

i アドバイス

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
- 充電ポートキャップを外した状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。
- 充電中、放熱ファンとエアコンのコンプレッサーがパワーバッテリーの加熱や冷却の必要性により、自動的に作動することがありますが異常ではありません。

一般充電故障の診断

症状	考えられる原因	対処方法
充電されないとき: 充電設備に接続して充電をスタートしている	充電カードの残高不足、または充電スタンドの故障	充電カードの残高を確認する、または充電場所のスタッフに連絡してください。
	AC 充電コネクタを正しく接続していない	充電器のスイッチが入っていることを確認し、車載充電装置の給電プラグの長さや接続位置、充電ケーブルの長さに注意してください。
	モータールームの起動バッテリーが過放電になっている	ブースターケーブルで他車の 12V 電源と接続し、救援車を始動させた後、モータールームのバッテリーを充電してください。
	規格に適合するコンセントに電気が流れていない	電源の過電流保護が作動しているかを確認してください。また、充電専用のアース付きコンセントを使用してください。

4
使用および運転

症状	考えられる原因	対処方法
充電されないとき: 充電設備に接続し て充電をスタート している	車両や AC 充電コネクタが 故障している	コンビネーションメーター内のパ ワートレイン故障警告灯が点灯し ている場合、または充電システム 故障メッセージが表示されている 場合は、充電を停止して BYD 正規 ディーラーまたは BYD 指定サービ ス工場に連絡してください。
	パワーバッテリー温度が 設定温度より低い / 高い	パワーバッテリーが加熱、または 冷却されるまで適切な場所に停車 し、温度が正常になるのを待つて から充電してください。
	パワーバッテリーが フル充電になっている	パワーバッテリーがフル充電に なっている場合は、自動的に充電 を停止します。
充電が途中で止 まった	充電コネクタがきちんと 接続されていない	充電コネクタが確実に接続されて いることを確認してください。
	交流回路が停電している	一定の時間内に電源が復旧すると、 自動的に充電を再開します。また は充電コネクタを挿し直してから 充電設備を立ち上げます。
	パワーバッテリーの温度 が高すぎる	コンビネーションメーター内のパ ワーバッテリー過熱警告灯が点灯 すると、充電が自動的に止まります。 バッテリーを冷却してから充 電を再開してください。
	車両や充電スタンドが 故障している	充電スタンドや故障メッセー ジが表示されていないかを確認し、 BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してくだ さい。

充電方法

■ 充電前の点検：

- 充電装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、または異物の付着などの異常がないことを確認します。
- 充電コネクタを挿し込んででも緩みがある場合は、充電しないことを確認します。
- 充電ポートに水または異物がない、金属端子に錆や腐食がないことを確認します。

■ 上記のことがあるときは、充電をしないでください。ショートや感電などにより、身体に危害を与えるおそれがあります。

家庭用 AC 普通充電

1. 充電器について

- 車両と規格に適合するコンセントを接続し、バッテリーを充電します。仕様は、AC200V です。
- 高出力充電による回路焼損や自動保護ブレーカーが誤作動し、他の設備へ影響を与えることを避けるため、ソケットは規格に適合する家庭用コンセントを選択してください。
- 車載された装置は AC200V 用で、規格に適合する給電プラグ、充電コネクタ、コントロールボックス、充電ケーブルで構成された、Mode 2 タイプです。給電プラグを家庭用コンセントに挿し込み、充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込みます。
- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

⚠ 警告

- 充電に関する警告の詳細は、「[充電について](#)」における充電関係の警告を参照してください。
- 周囲温度：最大 50℃ までとし、充電装置を使わないときは、乾燥した冷暗所に保管してください。
- 充電中、充電装置をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれたり地面に落とす、または人に踏まれることがないようにしてください。

⚠ 警告 (続き)

- 充電装置を移動するために直接ケーブルを引っ張る、または落下させることは禁止されています。
- 充電装置を移動させるときは取り扱いに注意してください。また、充電設備や関係ポートに対する改造や取り外し、修理は禁止されています。
- 後付けの電線やアダプター / コンバーターを使わないでください。
- 家庭用給電コンセントのコードが柔らかくなった場合や、充電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電コネクタ、給電プラグ、家庭用コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電ポートフラップの故障を防ぐため、必要以上に充電ポートフラップを開閉しないでください。

⚠ 注意

- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場や認定技術者に連絡し、充電設備の要求事項に従い、適切な電源を選択してください。
- 充電設備のアースについて：設備のアース工事を確実にしてください。充電設備に故障や破損が起きた場合、アース線は最小抵抗の回路を介して電流を逃し、感電の危険性を下げます。
- 給電プラグは、安全基準に適合し正しく設置されており、アースを確実に取っている家庭用コンセントと合っているものを使用してください。

i アドバイス

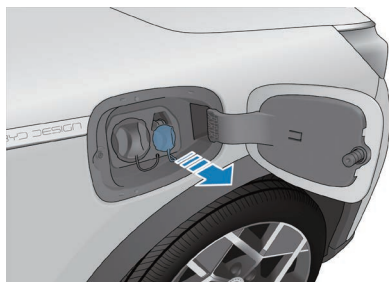
- 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルを巻いたまま使用しないでください。
- 充電に関する注意の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

2. 充電をする

- 電源ポジションを「OFF」にします。
- ドアロックを解錠し、充電ポートフラップを押し込んで開けます。



- 充電ポートキャップと充電コネクタのカバーを開け、充電コネクタのプラグと車両側コンセントの部分に、障害物がないかを確認します。




- 給電ポート側の接続：
 - Mode 2 タイプの給電プラグを家庭用コンセントに挿し込みます。
- 車側の接続：
 - 充電コネクタを車両側充電ポートに挿し込みます。
 - 充電コネクタを適切に挿し込むと、コンビネーションメーターまたはマルチメディアの充電接続表示灯が点灯します。

4

使用および運転

⚠ 注意

- 充電中は、コンビネーションメーターに関係充電パラメーターと充電画面が表示されます。
- このとき、ドライバーは  → エネルギー → 充電設定 の設定画面から、スマート充電 の設定をすることができます。
- スマート充電が設定されている場合、普通充電はできません。
- 充電中は、コンビネーションメーターにフル充電までの目安時間が表示されます。目安時間は、温度や残量、充電施設などにより多少増減をしますが異常ではありません。
- バッテリー残量が少ない場合、スマート充電機は使用できません。

3. 充電を停止する


■ 充電が完了する：

- フル充電になると、自動的に充電が完了します。
- 早めに充電を終了する場合は、下記の手順を行ってください。

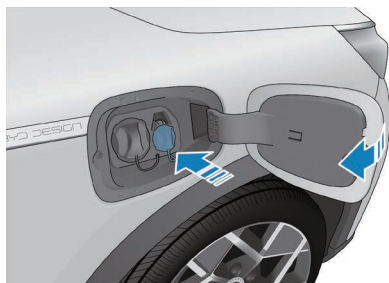
■ 充電ポートの接続を切る：

- 盗難防止機能が有効になっている場合は、リモートキーのアンロックボタン、またはドアハンドルのマイクロスイッチを押して、充電コネクタを外します。

アドバイス

- 車両を解錠した状態でリモートキーの「アンロック」ボタンを押す（電源ポジション「OFF」で充電するとき）、または運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押します（リモートキーが近くにあるとき）。
- 充電ポート盗難防止ロック機能が作動している場合は、充電コネクタを抜き出す前に車両を解錠し、充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。抜き出さないと、充電ポート盗難防止ロック機能が作動して再度施錠します。
- 充電ポート盗難防止ロック機能は、 → エネルギー → 充電設定 の設定画面から、**充電ポート盗難防止ロック機能** を ON にすることで設定できます。詳細は、**充電ポート盗難防止ロック機能** を参照してください。
- ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、**非常解錠** を操作してください。詳細は、**充電ポート盗難防止ロックの非常解錠** を参照してください。

- 給電プラグを外します。
- 車両の充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- 使用した充電設備を元に戻します。



⚠ 警告

- Mode 2 equipment を移動するために直接ケーブルを引っ張る、または落下させることは禁止されています。設備を移動させるときは取り扱いに注意し、使用後は充電装置を冷暗所に保管してください。

ℹ アドバイス


- 充電ポートキャップを全開している状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

AC 充電スタンドでの充電 *

1. 充電器について

- 単相 (AC) 壁掛け式充電ボックス *
 - 基準に適合する家庭用充電ボックスで車両のバッテリーを充電します。充電設備の使い方は、使用する充電設備のマニュアルを参照する、または本マニュアルに従って操作してください。
 - 単相 (AC) 壁掛け式充電ボックス：この装置は、充電ボックス、充電コネクタ、およびケーブルで構成されています。断路器、非常停止スイッチなどについては、充電ボックスの取扱説明書を参照してください。
- 単相 AC 充電スタンド
 - 公共の場に設置される AC 充電スタンドで車両のバッテリーを充電します。
 - 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

2. 充電をする

- 車両を解錠し、充電ポートフラップを開けます。
 - **家庭用 AC 普通充電**の充電を参照し、充電ポートフラップを解錠して開けます。
- 車両側の接続：
 - 充電装置の充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込み、確実に施錠します。
- 充電の設定：
 - 認証を必要とする AC 充電スタンド / ボックスについては、カードをかざす、または QR コードをスキャンしてください。取り扱い方法の詳細は、充電スタンド / ボックスの取扱説明書を参照してください。
- コンビネーションメーター充電接続表示灯  が点灯します。
- 充電中、コンビネーションメーターには関係充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。
 - このとき、マルチメディアの設定で充電を予約することができます。

3. 充電を停止する

- 充電完了：
 - 任意で充電を終了させる、またはフル充電になると、充電が自動的に止まります。
- 充電ポートの接続を切る：
 - **家庭用 AC 普通充電**の充電を参照し、充電ポートの接続を切り離します。
- AC 充電ポートフラップを閉めます（**家庭用 AC 普通充電**を参照してください）。
- 充電設備を整理し、適切に保管してください。
 - AC 充電スタンド / ボックスの場合は、充電コネクタを充電スタンド / ボックスの指定位置に戻します。


DC 急速充電

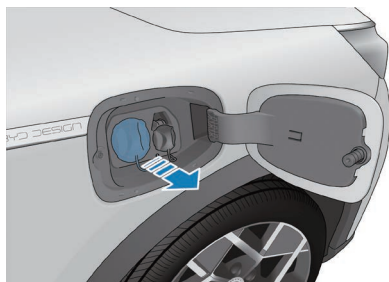
1. 充電器について

- 公共の DC 急速充電器で車両のバッテリーを充電します。DC 急速充電器は、特定の充電スポットに設置されています。
- 設備規格：CHAdeMO 対応。充電器関連の説明を読んでください。
- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

2. 充電をする

CHAdeMO の充電コネクタを使って車両と DC 充電スタンドを接続し、DC 急速充電をします。

- 充電ポートフラップを解錠し、充電ポートフラップおよび充電ポートキャップを開けます。
- 車側の接続：
 - CHAdeMO の充電コネクタを車両の充電ポートに確実に挿し込みます。
- 充電設備の操作手順で操作し、充電を開始します。
- コンビネーションメーター充電接続表示灯  が点灯します。
- 充電中、コンビネーションメーターまたはマルチメディアには関係充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。



3. 充電を停止する

- 充電が完了する：
 - 予定の時間になる、または充電が完了すると、充電器は自動的に充電を終了します。
 - 3 秒以内にアンロックボタンを 2 回押すと充電が停止します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - リモートキーのアンロックボタン、またはドアハンドルのマイクロスイッチを押してから（リモートキーが近くにある場合）、充電コネクタを外します。
- 充電器で DC 急速充電が完了したら、充電設備を整理して充電コネクタを指定の位置に戻します。

- DC 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。

⚠ 警告

- 充電に関する警告の詳細は、[充電について](#)を参照してください。

⚠ 注意

- 充電完了後、ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠を操作してください。詳細は、[充電ポート盗難防止ロックの非常解錠](#)を参照してください。
- DC 充電時のロック解錠は、3 秒以内に 2 回連続でリモートキーの「アンロック」ボタンを押さないと解錠できません。
- 充電に関する注意の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

ℹ アドバイス

- 充電ポートキャップを外した状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

スマート充電機能

- バッテリーマネジメントシステムが、起動バッテリーの電圧低下を検知した場合、パワーバッテリーで起動バッテリーを充電することができます。このとき、車両をしばらく放置してから再度始動すると、コンビネーションメーターに表示されたパワーバッテリー残量、または航続可能距離が減少することがありますが異常ではありません。

ℹ アドバイス

- 長時間車両を放置すると、自動的にスマート充電機能が作動することがあります。これは、制御プログラムにより自動的に作動しており、車両が故障しているわけではありません。
- スマート充電に必要な電気エネルギーはパワーバッテリーパックから取り出しているため、スマート充電機能が作動すると、パワーバッテリーの残量が低下することがありますが、車両の故障ではありません。

外部給電方法 *

- 本車は DC 外部給電機能を搭載しています (DC V2L 給電機能および DC V2H 充放電機能に対応)。出力電圧範囲は、基準に定められる電圧範囲 (DC150V-450V) を満たしています。最大給電電力は 10kW です。

⚠ 警告

- 外部給電中に、外部給電用ソケットや車両側ポートの金属端子を触らないでください。
- 外部給電中に異臭や煙立ちなどの異常がある場合は、ただちに外部給電を停止してください。
- 外部給電についての警告は、充電警告と同じです (充電についてを参照してください)。
- コンセントのコードが柔らかくなった場合や、給電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。
- 給電コネクタ、給電コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。

⚠ 注意

- 外部給電装置使用上の注意事項については、外部給電装置使用マニュアルを参照してください。
- 外部給電前にパワーバッテリーの残量を確認し、外部給電後の航続可能距離を予測してください。
- 外部給電前に、負荷が OFF になっていることを確認してください。
- V2L 外部給電装置は、規格 EVPS-004:2014 に適合している必要があります。また、V2H 外部給電装置は、規格 EVPS-002:2014、または EVPS-002:2018 に適合している必要があります。
- 外部給電中に給電コネクタを抜き出さないでください。外部給電完了後は、外部給電装置の作動が止まっていることを確認してから、給電コネクタを外してください。

i アドバイス

- 外部給電は、可能な限りパワーバッテリー残量が多い状態で使用してください。
- パワーバッテリー残量が少ないときは、外部給電の使用が制限されます。
- 電源ポジション「OFF」で、車両を長時間外部給電器に接続した状態で電気エネルギーを出力しない場合、車両の漏洩電力が多くなるため、給電コネクタを外すようおすすめします。

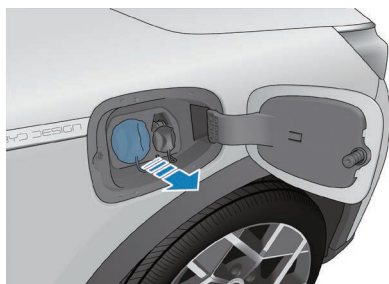
外部給電方法

外部給電の開始について

- すべての電源ポジションでも外部給電を行えますが、外部給電をする場合は、電源ポジションを「OFF」にすることをおすすめします。
- 充電ポートフラップのロックを解錠し、車両の充電ポートフラップとDC充電ポートフラップを開けます。
- 外部給電前の点検：
 - 車両のパワーバッテリー残量が15%以上であることを確認します。
 - 外部給電器キャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆、および異物の付着などの異常がないかを確認します。
 - 充電ポートに水分または異物がない、金属端子に錆や腐食による破損などの異常がないことを確認します。
 - 上記の異常がある場合は、ショートや感電などにより身体に危害およびすおそれがあるため、外部給電を中止してください。

外部給電器の接続：

- 外部給電器のDC給電コネクタを車両のDC充電ポートに挿し込み、しっかりとロックします。



外部給電を開始する：

- 外部給電器をしっかりと接続し、外部給電器のスタートボタンを押すと外部給電が開始します。コンビネーションメーターには、外部給電に関するデータや給電画面が表示されます。


外部給電を停止する

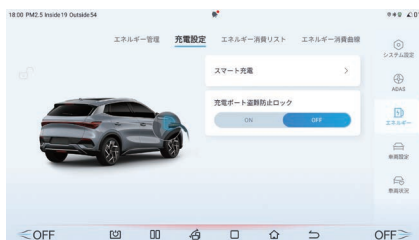
- 外部給電を終了する：
 - 運転席側ドアの解錠ボタンを2回連続で押す、またはリモートキーの「アンロック」ボタンを押すと、外部給電が終了します。
 - 外部給電器のストップボタンを押すと、外部給電が終了します。
- 外部給電器を切り離す：
 - DC 給電コネクタのメカニカルボタンを押して、給電コネクタを充電ポートから抜き出します。
 - DC 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- V2L 外部給電装置を片づける：
 - 外部給電完了後に片づけた外部給電器は、トランクルームに格納できます。

V2H 設備での充放電について

- V2H 設備で充電する場合は、パワーバッテリー残量が100%まで充電されると、自動的に充電を停止します。このとき、V2H 設備で外部給電ができます。
- V2H 設備で外部給電を行う場合は、パワーバッテリー残量が15%まで給電すると、外部給電を停止します。このとき、V2H 設備で車両のバッテリーを充電できます。
- V2H 設備で外部給電から充電への切り替え、または充電から外部給電への切り替えを自由に操作できます。
- V2H 設備で外部給電を行う場合、取り扱い方法は V2L 設備での外部給電と同じです。
- V2H 機器で充電する場合、操作方法は DC 充電スタンドで充電する方法と同じです。

充電ポート盗難防止ロック機能

充電コネクタの盗難を防ぐため、充電ポートには車両に対する充電・給電中の盗難防止機能が備わっています。初期設定はOFFのため、ONにするときは  → エネルギー → 充電設定 の設定画面から、**充電ポート盗難防止ロック機能** をONにしてください。



ON モードで充電する場合、ドライバーは次の方法で盗難防止機能を解除し、充電コネクタを抜き出すことができます。

- OFFにした状態でリモートキーのアンロックボタンを押して解錠します。
- 運転席側ドアハンドルにあるマイクロスイッチを押して解錠します。
- 運転席内側の下にある集中ドアロックを押して解錠します。

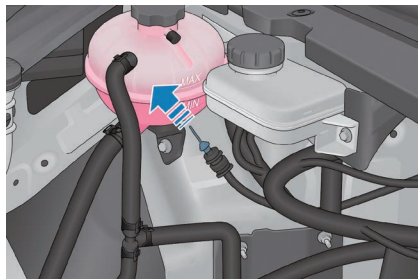
注意

- 充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30秒以内に充電コネクタを抜き出してください。30秒経過すると、充電ポート盗難防止ロック機能が再度作動して施錠するため、新たに解錠してから充電コネクタを抜き出してください。

充電ポート盗難防止ロックの非常解錠


■ 充電ポート盗難防止ロックが故障して充電コネクタを抜き出せない場合、手動で非常解錠の操作をして、充電コネクタを抜き出せます。

■ ボンネットを開け、充電ポート盗難防止ロック解錠用のワイヤーを引くと、充電コネクタを解錠できます。



航続距離の表示 *

■ ドライバーがより良い運転体験を得るために、本車には航続距離の表示モード 2 種類をオプション機能として備えています。初期設定はスタンダードです。

■ ドライバーは、 → エネルギー → エネルギー管理 → 航続距離表示モード の設定画面から、スタンダード / ダイナミック を設定することができます。

● **スタンダード**：総合モードのテスト結果から走行距離を表示します。

● **ダイナミック**：利用可能なパワーバッテリー残量と現在のエネルギー消費平均値に基づき、計算された予測走行距離を表示します。

■ 航続距離表示モードは、設定されたモードを記憶します。

● 車両の電源ポジションを「OFF」にして再度「ON」にした場合、前回の設定モードを維持して表示します。

4

使用および運転


アドバイス

■ 航続距離表示モードを **ダイナミック** に設定した場合：

● フル充電毎に表示される航続距離は、前回の走行で消費したエネルギーに基づき計算されるため、前回と異なる場合があります。

● 実際に表示される航続距離は、エアコンの使用状態、選択された運転モード (ECO、NORMAL、SPORT など)、およびドライバーの運転習慣により調整されるため、実際の走行距離により近いものになります。

回生ブレーキの設定

- 回生ブレーキにより、走行中にエネルギーを回収できます。より効率的に使用するため、不必要な加速や減速をしないでください。
- 回生ブレーキモードスイッチ、またはマルチメディアシステムから、回生ブレーキの強さを設定することができます。
 - **スタンダード**：アクセルペダルを離すと、通常の回生エネルギー量を回収します。このとき、車両の減速度は通常です。
 - **強**：アクセルペダルを離したとき、スタンダードに比べてより多くの回生エネルギー量を回収します。このとき、車両の減速度はスタンダードより減速します。
- ドライバーは、 → **エネルギー** → **エネルギー管理** → **回生ブレーキ強度** の設定画面から、**回生ブレーキの強さ** を設定できます。
- ドライバーは、アクセルペダルから足を離したときの回生ブレーキの強さを、ニーズに合わせて自由に選択できます。
- 回生ブレーキの強さは、設定されたモードを記憶します。車両の電源ポジションを「OFF」にして再度「ON」にした場合、前回の設定モードを維持しします。

アドバイス

- 高速走行中は、回生ブレーキ強度の設定を変更しないでください。注意が散漫になり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 車両の動力は、パワーバッテリー残量残量が多い状態より、少ない状態の方が弱くなります。

パワーバッテリー

- パワーバッテリーは車両の動力源で、充放電を繰り返すことができます。また、外部電源でパワーバッテリーを充電することができ、制動時や惰性走行時には、回生ブレーキによりパワーバッテリーの充電ができます。
- パワーバッテリーはボディの底部にあるため、悪路や冠水した道路を走行する場合は、バッテリーが破損しないよう慎重に運転してください。

バッテリー特性

- バッテリー本体の電気化学特性の影響、およびパワーバッテリーを保護する目的から、以下の条件では、性能に一定のばらつきがありますが異常ではありません。
 - パワーバッテリーの残量が多い場合は、回生ブレーキ性能が低下することがあります。
 - フル充電に近づくまでパワーバッテリーを充電すると、トリクル充電モードに切り替わるため、コンビネーションメーターに表示されるフル充電までの予測時間が変化します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、加速性能が低下します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、V2L* が正常に使えないため、早めに充電してください。
 - 高温や低温の環境では、パワーバッテリーの充放電能力が弱くなるため、充電時間が延びますが異常ではありません。この場合、高出力充電設備で充電するようおすすめします。また、気温が極端に低い状態で走行する場合は、動力性能が低下することがあります。
 - 温度制御機能により、低温の環境でパワーバッテリーを充電する場合の充電能力を大幅に改善しています。低温時の充電については、[充電上のご注意](#)を参照してください。
 - バッテリー温度制御機能は、低温の環境で運転する際に適切なタイミングで自動的に加熱を開始し、低温走行時の動力性能や放電性能を確保することで走行性能を向上させます。走行距離が短い場合は、加熱が十分にできないため、電気消費が増えてしまい航続可能距離が短くなることがあります。

- パワーバッテリーが通常通りに使用されている場合、車両の航続可能距離は以下の要因により影響を受けます。
 - 運転習慣：一定速度で走行する場合に比べ、加速や減速を頻繁に繰り返すと、航続可能距離が短くなります。また、低速時よりも高速時の方が、航続距離は短くなります。
 - 道路状況：平坦で乾燥している路面を走行する場合に比べ、悪路が続く道路や長い上り坂を走行する方が、航続可能距離は短くなります。
 - 気温：通常環境で走行する場合に比べ、低温環境で走行する場合の方が、航続可能距離は短くなります。
 - 電気機器の使用状況：運転中にエアコンを使わない場合に比べ、エアコンを付けた場合の方が、航続可能距離は短くなります。
 - 低温環境では、温度が下がると同時にパワーバッテリーの利用可能残量も低下します。低温環境に停車しているバッテリー残量が多い車両に対して充電すると、バッテリー残量が急に 100% になることがあります。

バッテリーの使い方について

- 周辺温度が -10 ~ 40℃ の環境で使用することをおすすめします。バッテリー残量が少ない場合は、十分な航続可能距離や良好な加速性能を確保するため、早めに充電してください。
- 長期間性能を維持するため、高温や極端な低温の環境に 24 時間以上駐車することは避けてください。
- 周辺温度が低い環境で長時間駐車する場合は、バッテリーの熱放散を低減させて使用性能を確保するため、地下駐車場や暖房付き駐車場などの温度が高い場所に駐車してください。
- 頻繁な急加速や急減速を避ける、平坦で乾燥している道路を走行する、または必要に応じてエアコンなどの消費電力の大きい電装部品を消したり、エアコンの温度を上げたりして航続可能距離を伸ばすことをおすすめします。
- 普通充電は、パワーバッテリーを長持ちさせる方法です。
- 車両を初めて使用する、または長時間放置した後に使用する場合は、コンビネーションメーターに表示されるバッテリー残量がばらつくことがあります。そのため、運転前にパワーバッテリーをフル充電することをおすすめします。

- 日常的に使用する場合は、定期的に車両のパワーバッテリーをフル充電してください（推奨：充電は週に1回以上）。また、3ヶ月～半年毎に、バッテリー残量が少ない状態（10%以下）からフル充電することをすすめます。
- 極端な走行（急加速や急減速の繰り返しなど）によりパワーバッテリーの温度が高くなった場合は、パワーバッテリーの放電能力が少しずつ低下しますが異常ではありません。また、パワーバッテリーの温度が高すぎてコンビネーションメーターのパワーバッテリー加熱警告灯が点灯したときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- パワーバッテリーの残量が異常に上がる、または下がる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検してください。

警告

非常時や事故発生時は、次の事項に注意してください。

- 怪我などを避けるため、パワーバッテリーは直接触らないでください。早急に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- パワーバッテリーが破損し液体が漏れ出した場合、漏れ出した液体を絶対に触らないでください。
- 不注意で皮膚や目に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 車両火災が起きたときは専用消火器で消化し、水系の消火器は使わないでください。
- パワーバッテリーは専門の技術者のみしか整備できないため、ご自身でバッテリーの蓋を開けたり改造しないでください。

▲ 注意

- パワーバッテリーの安全を確保するため、引火性や爆発性があるもの、火元および各種の危険化学品から遠く離れた場所に駐車してください。
- 利用可能なバッテリー残量は、車両の使用時間の増加につれて低下します。
- パワーバッテリーの寿命を縮めるおそれがあるため、駐車時は熱源から遠く離れ、日光が長時間当たる場所を避けてください。
- 長期間（7日以上）車両を使用しない場合は、パワーバッテリーを長持ちさせるために、バッテリーの充電を40%～60%に保つことをおすすめします。3ヶ月以上使用しないときは、パワーバッテリーを3ヶ月毎にフル充電し、その後40%～60%まで放電してください。そうしないと、パワーバッテリーの過放電によるバッテリー性能の低下、または破損を引き起こすおそれがあります。また、このような車両故障は、品質保証の対象外となります。
- パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、悪路を走る場合は慎重に運転してください。
- パワーバッテリーが何かにぶつかった場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。

パワーバッテリーの回収

廃車やパワーバッテリーの処分については、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。

起動バッテリー（12V）

モータールームにある起動バッテリーには、プラス端子（「+」）とマイナス端子（「-」）の2本の端子があります。

- 起動バッテリーの電圧不足を避けるため、条件（車両の電源ポジションが「OFF」でパワーバッテリーから給電ができ、起動バッテリーの電圧が設計値以下）を満たしている場合は、自動的に「スマート充電」機能が作動します。
- 起動バッテリーの電圧が低すぎると、車両の低圧電源が使用できないため、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。
- 毎月1回、起動バッテリー端子の腐食具合などを点検してください。端子に腐食が発生している場合は、起動バッテリーのマイナス端子の結線を取り外し、端子表面に重曹水を塗り付けます。気泡が発生すると同時に重曹水が徐々に褐色になります。気泡の発生が止まったら、水で洗浄して布で水分を拭き取ります。腐食を防ぐため、最後に端子の表面にグリスを塗り付けます。
- 結線の緩みがある場合は、圧着用ナットの増し締めをし、起動バッテリーがしっかり固定されるまで圧着金具を締め付けてください。このとき、締めすぎないように注意してください。締めすぎると、バッテリーケースを破損させるおそれがあります。

4

使用および運転

警告

- 起動バッテリーには、腐食性のある溶液が入っています。起動バッテリーが破損したり、人身事故を起こさないために、起動バッテリーの分解や修理はしないでください。
- 起動バッテリーの取り外し、分解はしないでください。環境汚染や事故を起こした場合、相応の責任を負う必要があります。
- 起動バッテリーは可燃性、爆発性のある水素ガスが発生します。工具を使う場合は、起動バッテリーからの火花の発生を避けてください。また、起動バッテリーの近くでタバコを吸ったり、火を付けないでください。
- 電解液が皮膚や目、服に付着しないように注意してください。電解液が皮膚や目に付着したときは重曹水で皮膚を洗い、多量の水で目を洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤って電解液を飲み込まないでください。
- お子様を起動バッテリーに近づけないでください。

⚠ 注意

- 起動バッテリーを点検する場合は、始めにマイナス端子（「-」表示）に付いているアース線を外し、取り付け時は最後に取り付けてください。
- 起動バッテリーを洗浄するときは、液体が起動バッテリーの中に入らないように注意してください。

i アドバイス

- 電源ポジションを「OFF」にしてスマート充電をする場合、電源ポジション「OK」時に音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- スマート充電中は修理作業をしないでください。
- 車両から離れる場合はきちんとドアを閉め、すべての電気機器をOFFにしてください。長期間車両を放置する場合は、ご自身で起動バッテリーのマイナス端子を外してください。

慣らし運転期間

- パワーユニットが起動しにくい、または回転がよく止まってしまう場合は、ただちに車両を点検してください。
- パワーユニットから異音が発生している場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- パワーユニットから冷却水や潤滑油が漏れている場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- パワーユニットは慣らし運転が必要です。最初の約 2000km は高速走行を避け、エコモードで可能な限り一定の速度で走行し、慣らし運転することをおすすめします。以下の操作を避けることで、車両を長持ちさせることができます。
 - 始動や運転時、アクセルペダルを強く踏み込まないでください。
 - 長時間、一定速度での高速走行や低速走行をしないでください。
 - 最初の 300km までは、急ブレーキを避けてください。

トレーラーのけん引

- 本車は乗用車として設計されています。自分や他人の安全のため、定員超過で人を乗せたり、トレーラーをけん引しないでください。
- トレーラーのけん引は、車両の操縦、動力、制動、耐久性、エコ運転および電気消費などに悪影響を与えます。
- 運転の安全や快適性は、正しい設備の使い方や慎重な運転習慣により決まります。
- BYD は、商用目的でのトレーラーけん引による破損や故障を保証しません。

安全運転上のご注意

飲酒運転厳禁

少量の飲酒でも、交通条件の変化に対する反応が遅くなります。飲酒量が多いほど反応が鈍くなるため、飲酒運転は絶対にしないでください。

速度の抑制

スピードの出し過ぎは、衝突事故や死傷事故を引き起こす主な原因です。通常は速度が速いほど危険性が高まります。道路状況に応じて安全な速度で走行してください。

車両を安全運転可能な状態に保つ

タイヤのバーストや機械の故障は非常に危険です。故障の確率を下げるため、常に車両の状況を点検し、定められた点検を実施してください。

▲ 注意

- 疲れているときは運転しないでください。
- 運転時は、必ず交通ルールを守ってください。
- 運転中は必ず運転に集中し、運転とは無関係な操作（携帯電話の使用やボタンの調整など）をしないでください。

車のご利用についてのアドバイス

パワーバッテリーを長持ちさせるために、以下のことをおすすめします。

- 車両を長期間（7日以上）使用しない場合は、パワーバッテリーの充電を40%～60%に維持します。そうしないと、パワーバッテリーの寿命が短くなります。
- 車両を長期間（3ヶ月以上）使用しない場合は、パワーバッテリーをフル充電してから、充電率が40%～60%になるまで放電してください。パワーバッテリーの過放電により発生するパワーバッテリー性能の低下や、破損による車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- コンビネーションメーターに表示される航続可能距離が0の場合は、パワーバッテリー残量が不足しています。早めに充電し、長時間パワーバッテリー残量が少ない状態で使用することは避けてください。
- パワーバッテリーを最適な状態に維持するため、定期的にAC車載充電装置でパワーバッテリーをフル充電してください。毎週1回はフル充電するようおすすめします。
- 長期間にわたる性能を確保するため、温度が60℃より高い、または-30℃より低い環境に駐車するときは、24時間以内にしてください。

- トレイが凹んだ、またはパワーバッテリーパック底部のトレイ表面が傷ついた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
- 運転中、急加速や急減速を繰り返すことは避けてください。
- パワーバッテリー温度が上がってしまうと、車両性能に影響を与えるおそれがあるため、可能な限り長時間の車両の使用は避けてください。
- コンビネーションメーターに故障メッセージが表示された場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
- パワーバッテリー温度が比較的高い場合は、車両性能が一部制限されます。車両を安全な場所に駐車し、パワーバッテリー温度が下がってから使用してください。

i アドバイス

- コンビネーションメーターに表示されているパワーバッテリー残量が0のときは、7日以内に充電しないと、復旧不可能なパワーバッテリーの破損を引き起こすため、必ず充電してください。これによるパワーバッテリーパックの破損について、BYD は品質保証条項に定められる保証責任を負いません。
- 航続可能距離は、利用可能なパワーバッテリー残量、車齢（現在のパワーバッテリー寿命）、天気、気温、道路状況、運転習慣などで決まります。高温や低温の環境で走行する場合の航続可能距離は、常温の場合より多少短くなり動力性能も影響を受けます。

4

使用および運転

電気の省エネで車を長持ちさせる方法について

- 節電はシンプルであり、車両の寿命を延ばすことにもつながります。
- 電気エネルギーや修理代を節約する要領を次に示します。

1. 回生ブレーキ設定：

- 本車は、回生ブレーキ機能および回生ブレーキ強さの設定機能を搭載しており、回生ブレーキモードボタンやマルチメディアで設定ができます。回生ブレーキ強度が **強** の場合は、制動・惰行中に回収するエネルギーを増やすことができるため、運転習慣に合わせて設定してください。

2. 速度維持：

- 一定速度での運転は、電気の省エネに役立ちます。急アクセル、急ハンドルや急ブレーキは、より多くの電気エネルギーを消費します。

- アクセルペダルを踏むたびに余分な電気エネルギーを消費するため、交通状況に応じて一定速度で走行してください。
- 急発進、急アクセル、急ブレーキを避け、アクセルペダルをゆっくり踏んでください。
- 一定の速度を維持しながら運転することや、信号がない道路を先行車との車間距離を適切に保ち、急ブレーキを避けて走行することは、ブレーキの摩耗の軽減につながります。
- 渋滞している道路はなるべく避けてください。
- 高速道路走行時は適切な速度を維持してください。速度が速いほど、電気エネルギーの消費が多くなるため、エコ走行になる範囲内に速度を保つことで省エネにつながります。

3. 負荷の軽減：

- エアコンを作動するとモーターに余分な負荷が掛かるため、より多くの電気エネルギーが消費されます。エアコンを消すと電気エネルギーの消費を減らすことができ、また、外気温度が快適なときは、外気導入モードで外気を取り入れるようにします。
- 車両に積む荷物が多すぎると、車両の負荷が増えてより多くのエネルギーが消費されるため、不要な荷物を積むことは避けてください。

4. その他：

- タイヤの空気圧不足は、タイヤの摩耗や電気エネルギーの消費につながるため、タイヤの空気圧は適切に保ってください。
- フロントタイヤの正しいアライメント（取り付け角度）を保ってください。道路の縁石へ乗り上げる操作を避ける、また、悪路はゆっくり走行してください。フロントタイヤのアライメントが良くないと、タイヤの早期摩耗につながったり、電動パワートレインへの負荷も大きくなるため、電気エネルギーをより多く消費します。
- 泥シャーシは清潔な状態に保ち、泥などの付着がないようにしてください。これにより、ボディ重量を軽減するだけでなく、腐食を防ぐこともできます。

アドバイス

- 走行中は、ニュートラルギアでの惰性走行を厳禁します。

荷物の積み込み

- 本車には、便利な格納スペースを複数用意しています。積み込む荷物が
多い、または積み込み方が不安定な場合、車両の操縦性や安定性が悪く
なり、安全性が低下することがあります。
- グローブボックスやドアポケット、シートバックポケットなどは、小物
や軽量物を格納するために設計されています。トランクルームは、比較
的大きくて重たいものを収納するための空間です。
- シートを倒すことで長い荷物を積むことができます。ただし、積み込む
荷物が
多い、または積み込み方が不安定な場合、車両の操縦性や安定性
が悪くなり、安全性が低下することがあります。
- 荷物を積み込む場合は、車両本体、乗員全員、荷物の総重量が車両総重
量を超えないようにしてください。

⚠ 警告

- 積載オーバーや不適切な荷物の積み込み方は、車両の操縦性や安定性
に影響を与えるため、衝突事故を招くおそれがあります。
- 本マニュアルに記載される車両総重量や、他の積載ルールを守ってくだ
さい。
- 正常な運転への干渉を避けるため、強い磁気を持つものを車両に搭載
しないでください。

客室に荷物を積み込む場合

⚠ 警告

- 衝突時に車内へ投げ出されて乗員に怪我を負わせるおそれがあるもの
は、確実に収納または固定してください。
- 車両後方の安全確認を妨げたり、衝突時に車内へ投げ出されるおそれ
があるため、リアシェルフにもものを置かないでください。
- フロントシート後部の床にもものを置いている場合、ペダル操作やシー
ト調整の妨げにならないように、シートの下で転がらないようにして
ください。また、荷物を積み込むときはフロントシートバックを超え
ないでください。
- グローブボックスが開いていると、衝突時や急ブレーキ時に乗員の膝
などに怪我を負わせるおそれがあるため、運転時はグローブボックス
をきちんと閉めてください。

i アドバイス

- お子様のおもちゃを車内に積み込まないでください。急ブレーキや衝突事故などが発生した場合、おもちゃが安全走行を妨げるだけでなく、お子様に怪我をさせるおそれがあります。

トランクルームに荷物を積み込む場合

! 警告

- 走行中に移動しないように紐やチェーンで荷物をきちんと固定し、荷物は、フロントシートバックの高さ以上積み込まないでください。
- トランクルームに荷物を均一に入れ、最も重い荷物は一番下で、かつ前側の方に置きます。
- トランクルーム内で荷物を縛るための用品や固定装置などについては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

冠水路の走行

- 冠水路に進入する前に、水の深さをきちんと確認してください。水の深さは、ボディー下部の縁部を超えてはいけません。
- 冠水路を通り抜ける場合は、発進前にエアコンを消して低速で走行し、アクセルペダルを軽く踏み続けながら、ゆっくり走り抜けてください。
- 絶対に水の中で停車しないでください。また、水の中でバックしたり、モーターを OFF にしないでください。
- 無事に冠水路を走り抜けた後、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキローターに付着した水を落とし、できるだけ早く通常の制動性能に戻してください。
- 深い冠水路を通り抜けるとブレーキが濡れることがあるため、慎重に運転してください。



警告

- ブレーキシステムに水や泥などが侵入すると、ブレーキの利きが悪くなり制動距離が長くなるため、事故につながるおそれがあります。
- 冠水路を走り抜けた後、可能な限り急ブレーキは避けてください。
- モーターの重大な破損につながるおそれがあるため、車両がくぼんでいる冠水路を走る場合は、モーターに水が侵入しないように注意してください。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 冠水路を走り抜けた後は、ドライブトレインシステム、走行システム、電気システムなどの部品も大きな被害を受けているおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 水位がウィンドウガラスよりも高くなり緊急脱出ハンマーを使用した場合は、割れたガラスが室内に入って怪我をするおそれがあります。フロントガラスと前席のウィンドウガラスは合わせガラスで割れないため、後席のウィンドウガラスかテールゲートのガラスを割って脱出してください。

高電圧部品の内部に水が侵入した場合：

- 車両が浸水した場合、高電圧部品は電子部品のため、乾かしても十分に水切りできる保証はありません。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、部品自体の絶縁性に大きな影響を与えます。また、水分に多く含まれる導電性物質により、高電圧部品の内部ショートや高電圧システムのショートを引き起こすおそれがあるため、車両の安全性能や使用性能に重大な影響を与えます。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、製品のIP保護等級、耐電圧などの性能が大きな影響を受けるため、危険性が大きくなります。
- 台風などの荒れた天候で充電する場合、可能な限り雨が当たらないように注意してください。サイドシルの高さ以上に車両が浸水する、または冠水路を走行中に浸水すると、高電圧部品の内部に水が侵入するおそれがあります。そのため、タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路は走行せず、もし水が侵入した場合は、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検や処置を依頼してください。

火災の予防

車両火災を有効に防止するため、車両を使用する場合は下記の事項に注意してください。

- 車内に引火性・爆発性のあるものを格納しないでください。
 - 炎天下や日が当たる場所に駐車すると、車内の温度が60～70℃以上に達することがあります。そのため、車内にライター、洗浄剤、香水などの引火性、爆発性のあるものを置くと、火災や爆発が発生するおそれがあります。
- 喫煙後、吸い殻は火が完全に消えていることを確認してください。
 - 喫煙は身体の健康を害するだけでなく、火が完全に消えていない吸い殻は、火災を引き起こすおそれがあります。
- BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にて定期点検を依頼してください。
 - コネクタとワイヤーハーネスとの接続、絶縁、固定位置などに異常がないかを確認するため、車両全体の配線の定期点検を行う必要があります。不具合が見つかった場合は、早めに処置してください。
- 車両の配線の改造、電装品の後付けを禁止します。
 - 電装品（ハイパワーオーディオ、照明器具など）の後付けは、回路に過大な負荷が掛かり、ワイヤーハーネスの発熱による火災の原因になります。
 - 基準外の電器・配線の改造により抵抗が大きくなり、異常に発熱することで火災を引き起こすおそれがあります。電装品の定格から外れたフューズや金属ワイヤーをフューズの代わりに使用することは絶対にしないでください。
- 正しい駐車場所を選びます。
 - 停車時、日にさらされる場所は可能な限り避けてください。
 - 車載用の消火器を車両に搭載することをおすすめします。
 - 消火器を車両に搭載する場合、安全を確保するために定期的な点検や交換を行ってください。また、消火器の使い方を熟知し、非常時は迅速に対応できるようにしてください。
- 車両の修理やメンテナンスを行う場合は、モータールームにある起動バッテリーのマイナス端子を外します。

- 車両火災が発生した場合、迅速、冷静に効果的な方法で対処し、被害を最小限にしてください。
 - 火災の発生は、ボディーからの異音や異臭などのような前兆があります。異常を感じたら、できるだけ風が当たらない場所に停車し、車載用の消火器で初期消火を行います。
 - 早めに 119 番に通報すると同時に、該当の保険会社にも通報し現場対応を要請します。
 - 火元を特定します。モータールームから煙があがった場合は、ボンネットをすぐには開けないでください（ボンネットを開けると大量の空気が入り、火の勢いが強くなります。ボンネット閉めることで、火の勢いを抑えて消火を助けることができます）。車載用の消火器を使用し、ボンネットの隙間から火元に向けて消火剤を噴射する、または外部に助けを求めて複数の消火器を借りることができれば、外部から火が見えない状態でボンネットを開けて消火剤を噴射し続けることができます。
 - 事故発生後、早めに保険会社に対応などを依頼します。

アドバイス

- 思わぬ被害が発生することを防ぐため、車両保険に加入することをおすすめします。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは、緊急時対応またはチェーン規制が実施されている道路を通行するときには使用するものです。
- タイヤチェーンはフロントタイヤに装着してください。また、凍結路面や雪道でタイヤチェーンを装着して運転するときは、細心の注意を払って運転してください。タイヤチェーンによっては、タイヤ、ホイール、サスペンションおよびボディーを破損させるおそれがあるため、適切なサイズのタイヤチェーンを選定し、タイヤとホイールハウス内の他の部品との間に隙間を作るようにしてください。
- タイヤチェーンメーカーの取扱説明書をよく読んでください。
- タイヤチェーンを購入する前に、お買い上げのBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に問い合わせてください。
- タイヤチェーンを装着した状態で雪道を走行する場合は、タイヤチェーンの種類に合った速度に抑えて走行してください。
- タイヤとタイヤチェーンとの摩耗を軽減するため、タイヤチェーンを装着したまま積雪路や凍結路以外の道路を走行しないでください。

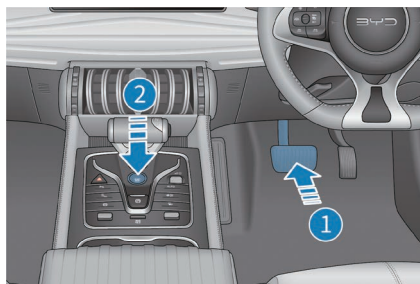
アドバイス

- 走行速度は、タイヤチェーンメーカーに推奨された速度を超えて走行しないでください。
- 突起物や穴、急カーブに注意しながら慎重に運転してください。乗り上げた場合、ジャンプするおそれがあります。
- 制御不能による事故を避けるため、タイヤチェーンを装着しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避け、カーブに進入する前にスピードを落としてください。
- タイヤチェーンは左右対称に装着し、積雪路を抜けたらすぐに取り外してください。

車の始動

通常の始動方法：

- パーキングブレーキを確実にかけます。
- シフトレバーを「P」または「N」レンジに入れます。
- リモートキーを携帯します。
- ブレーキペダル①を踏み込んだ状態で「スタート/ストップ」ボタン②を押します。
- コンビネーションメーターの「OK」表示灯が点灯すると、走行できる状態になります。



始動できない場合

- 次の場合は始動ができません。
 - 「スタート/ストップ」ボタンを押したとき、リモートキーシステム警告灯が点灯してスピーカーから警告音が鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可」と表示された（リモートキーが車内にない、または干渉によりキーが検知できない）。
 - リモートキーが車内にあるが、正しい位置に置かれていない（たとえば：床面、カップホルダー内、トランクルーム内、収納箱内など）。

緊急時の始動方法：

- パーキングブレーキを確実にかけます。
- 必要のないランプやアクセサリを OFF にします。
- 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
- リモートキーを車内に置きます。
- スタートボタンを 15 秒以上長押しすると、始動します。

⚠ 警告

- 運転中は「スタート/ストップ」ボタンを触らないでください。
- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながるため、始動する前にペダルの位置を確認し、位置を確実に覚えてください。
- 始動するときは、必ず運転席に座ってください。運転席以外から始動を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リモートスタート機能**始動前**

1. 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
2. シフトレバーを「P」レンジに入れます。
3. 速度を5km/h以下にします。

リモートキーの「リモートスタート機能」

1. リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを約2秒間長押しすると、車両を遠隔で始動させることができます。始動後、ターンシグナルランプが3回点滅します。
2. リモートスタート後、10分以内に有効な操作を行わないと、電源ポジションが「OFF」になりターンシグナルランプが2回点滅します。
3. リモートスタート後、リモートキーの「スタート/ストップ」ボタンを約2秒間長押しすると、電源ポジションが「OFF」になりターンシグナルランプが2回点滅します。



車の運転

運転前の点検

運転前に車両を点検することで、安全運転を確保するとともに運転を楽しむことができます。この点検は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼することもできます。

車両の外部

- タイヤ：タイヤの空気圧、タイヤトレッドに割れ、破損、異物の噛み込みがないか、タイヤに異常、過度な摩耗がないかを点検します。
- ホイールナット：ナットの緩みや外れがないかを点検します。
- 照明：ヘッドライト、ポジションランプ、ターンシグナルランプおよび他のライトの作動、ヘッドライトの明るさを点検します。

車両の内部

- シートベルト：バックルがしっかりロックでき、シートベルトに摩耗や擦り傷がないことを点検します。
- コンビネーションメーター：メンテナンス表示灯、コンビネーションメーター照明とデフロスターの作動に異常がないことを点検します。
- ブレーキペダル：ブレーキペダルの操作に必要なスペースがあることを点検します。

モータールーム内部

- モータールームの起動バッテリーとケーブル：つなぎ目に腐食や緩み、外れがなく、モータールームのバッテリーケースに割れ目がないことを点検します。
- バックアップ用フューズ：それぞれのフューズのバックアップがあることを点検します。フューズボックスには、各種の定格電荷量に対応する仕様が記載されている必要があります。
- 冷却水の量：冷却水の量が正しい範囲であることを点検します。

始動後の点検

- コンビネーションメーター：故障を示す警告灯およびスピードメーターの作動に異常がないことを点検します。
- ブレーキ：安全な場所で車両を直進走行し、ステアリングホイールをしっかりと維持した状態でブレーキを掛けたとき、偏りがなく真っすぐ走ることを点検します。

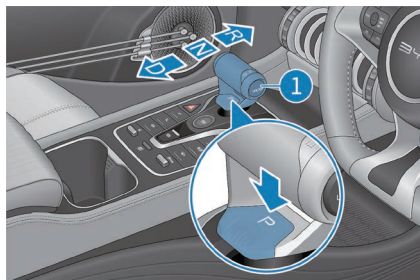
- その他の異常な現象：緩んだ部分や漏れ、異常な騒音がないかを点検します。
- すべて正常であれば、安心して運転を楽しむことができます。

運転前の準備について

- 乗り込む前に、車両周辺の状況を確認してください。
- シートポジション、シートバック角度、シートクッションの高さ、ヘッドレストの高さ、ステアリングホイールの角度と高さを調節します。
- ルームミラーとドアミラーを調節します。
- すべてのドアを閉めます。
- シートベルトを確実に締めます。

シフト機構

- ギアアクチュエーターのレンジマークは、右図のようにシフトレバーに表示されます。
- 「P」レンジ：パーキングレンジでボタンを押すと駐車できます。車両をスタートまたはストップする場合は、シフトレバーを「P」レンジに入れてください。



- 電源ポジションを「OK」時にブレーキペダルを踏み込み「UNLOCK」ボタンを押すと、「P」レンジから他のレンジに切り替えることができます。

▲ 注意

- 怪我を防ぐため、「P」レンジは車両が完全に止まってから押してください。
- 「R」レンジ：リバースレンジで、車両が完全に止まってから使用してください。
- 「N」レンジ：ニュートラルレンジで、一時的に停止する場合に使用します。
 - 何らかの理由により車両から降りる場合は、必ず「P」レンジに切り替えてください。

- 「D」レンジ：ドライブレンジで、通常の走行時に使用します。
- 車両の電源ポジションが「OK」以外のときは、「D」レンジに切り替えることができません。
- 「P」レンジから「D」レンジに切り替える場合、ブレーキペダルを踏み込むと同時に「UNLOCK」ボタンを押す必要があります。詳細は、コンビネーションメーターのインフォメーションを参照してください。
- シフトチェンジ後に手を離すと、シフトレバーは自動的にセンターポジションに戻ります。

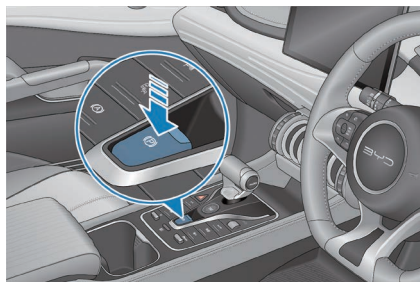
⚠ 警告

- 車両の電源ポジションを「OFF」にし、シフトレバーを「N」レンジに切り替えただけのまま長時間車両を移動させると、トランスミッションの潤滑ができずに破損するおそれがあります。
- 電源ポジションが「OK」で、かつシフトレバーを「R」または「D」レンジに入れる場合は、必ずブレーキペダルを踏み込んで車両を停止させてください。ニュートラル状態でもトランスミッションが動力を伝達しているため、車両がゆっくり動きます。
- 前進時にシフトポジションを切り替える場合、事故を防ぐため、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 事故を防ぐため、走行中はシフトレバーを「R」または「P」レンジにすることは絶対にやめてください。
- 事故を防ぐため、発進するときはアクセルペダルを踏んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- 車両が始動していない状態であっても、「N」または「P」レンジのまま坂を下ることはしないでください。
- 自然発車を防ぐため、車両がしっかり止まってからパーキングブレーキを引き上げ、「P」レンジにしてください。
- 思わぬシフトチェンジが起き、車両が突然発進するなど事故の原因になるおそれがあるため、シフトレバーにものをかけないでください。

電動パーキングブレーキ (EPB)

電動パーキングブレーキスイッチ

パーキング時や車両から離れるときは、EPB スイッチを引き上げてください。



手動で EPB をかける

EPB スイッチを引き上げると、EPB は適切な制動力を適応します。また、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)は、点滅してから点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されます。

⚠ 注意

- 電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点滅している場合は、EPB 作動中を表します。坂道では自然発車を防ぐため、電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点灯してからブレーキペダルを離してください。

自動で EPB が掛かる

ストップ時に自動的に EPB が掛かる

- 車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると、EPB が自動で作動しコンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点灯します。

「P」レンジ時に自動的に掛かる

- ブレーキペダルを踏み込んで車両を止めてから「P」レンジに入れると、EPB が自動で作動します。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。

▲ 注意

- EPB スイッチと「スタート/ストップ」ボタンを同時に押した場合、EPB は自動で作動しません。車両が故障などで走れなくなり、レッカーなどで移動する必要があるときに使用してください。
- 坂道で停止している場合は、少し離しただけでも車両が自然に動くおそれがあるため、ブレーキペダルを早めに離さないでください。
- この機能は車両の自主安全性を上げるものであるため、機能を過信したり頻繁に使用しないでください。安全を確保するため、車両から降りるときは、必ずシフトレバーを「P」レンジにする、または EPB スイッチを引き上げてください。
- 電源ポジションを「OK」にしてからの数秒間は、EPB システムが電源投入時のセルフテストをしている状態のため、すべての機能に応答していません。

手動で EPB を解除する

- 車両の電源ポジションが「OK」またはスタート状態にあり、かつ「P」レンジ以外のレンジに入っている場合は、ブレーキペダルを踏み続けた状態でコンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が消灯するまで EPB スイッチを押すと、パーキングブレーキが解除することができ、コンビネーションメーターに「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

▲ 注意

- 「P」レンジは駐車するためのレンジであり、「P」マークは安定な駐車状態にあることを表しています。これに対して、EPB は車両の主なパーキング装置です。安全な駐車を確保するために、EPB スイッチでパーキングブレーキを解除できる操作は、「P」レンジ以外のレンジにした前提に限られます。

発車時に自動的に EPB を解除する

- 「P」レンジで車両を始動し、ブレーキペダルを踏み続けながらレンジを「P」または「N」から「D」あるいは「R」などのレンジに切り替えると、EPB が自動で解除され、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が消灯し「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

▲ 注意

- 正しいシフトチェンジをしてください。シフトチェンジ中は最後までブレーキペダルを踏み続け、コンビネーションメーターに目的のレンジが表示されてから、ブレーキペダルを離してください。
- 車両を始動し、シフトレバーが「D」や「R」などのレンジに入っている場合、手動で EPB スイッチを引き上げてから、アクセルペダルをある程度までゆっくり踏み込むと、EPB が自動で解除され、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が消灯し「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

▲ 警告

- EPB によるブレーキの利用は、可能な限り避けてください。緊急ブレーキ機能の使用は、フットブレーキが利かない、または利きづらいなどの緊急時に限られます。
- EPB は、路面の摩擦力の物理限界を超えることはできないため、カーブや危険な道路、渋滞、悪天候などの走行時に緊急ブレーキ機能を作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあるため、事故につながらないように注意してください。

故障時のリリース機能

- 手動で EPB を解除することができない場合は、EPB スイッチを 2 秒以上押し続けてください。EPB が解除されたときは、最寄りの BYD 正規ディーラーでブレーキランプスイッチ信号、および関係部品、回路などを点検してください。EPB スイッチを 2 秒以上押し続けても解除できないときは、すぐに BYD 指定サービス工場まで連絡してください。
- 走行中にフットブレーキが利きにくい、または利かない場合は、EPB スイッチを引き上げ続けることで緊急ブレーキ機能が作動します。また、走行中の安全を確保するため、正常に走行しているときは EPB による緊急ブレーキを可能な限り避けてください。
インテリジェントパワーブレーキシステムの故障やフットブレーキが利きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら、正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。

EPB システム表示灯

- EPB スイッチが引き上げられている状態で車両の電源ポジションを「ON」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯状態になります。
- EPB スイッチが引き上げられている状態で車両の電源ポジションを「OFF」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯してから約 3 秒後に消灯します。
- 電源スイッチを入れると EPB システムはセルフテストを実施し、コンビネーションメーターのパーキングシステム故障警告灯 (P) が点灯してから約 3 秒後に消灯します。消灯しない場合は、EPB システムまたはブレーキシステムに不具合が発生しているおそれがあるため、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

EPB 作動音

- EPB スイッチが引き上げる、または EPB を解除すると、EPB モーターの作動音が聞こえます。
- 緊急ブレーキ機能を有効にしてから、焦げた臭いがする、または異常な音がする場合は、すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

警告

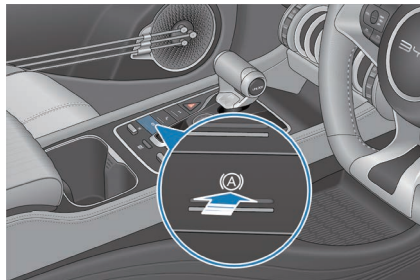
- 車両が坂道で下がることを防ぐため、車両から離れるときは、EPB の代わりに「P」レンジのみで駐車しないでください。駐車するときは、EPB を引き上げてシフトレバーを「P」レンジに入れてください。
- 重大な事故の発生を避けるため、走行中は EPB スイッチの操作をしないでください。
- EPB の制動力不足時の自然発車や、それによるシフトの引っ掛かりなどの異常を防ぐため、EPB スイッチを引き上げる、または解除するときは、できるだけブレーキペダルを踏まないでください。
- 急斜面や積雪、凍結した場所などでの駐車は避けてください。

オートビークルホールド (AVH)

オートビークルホールド (AVH) : 渋滞や信号待ちなどの長い間停車する必要がある場合、自動でブレーキを掛けることで長時間の停車を維持します。

オートビークルホールド (AVH) 待機状態

- 車両の電源ポジションが「OK」の場合、オートビークルホールド (AVH) スイッチを押して機能を ON にすると、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯します。
- 再度オートビークルホールド (AVH) スイッチを押すと、機能が OFF になります。



オートビークルホールド (AVH) 機能の有効化

- コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯している状態でブレーキペダルを踏み停車すると、オートビークルホールド (AVH) 機能が作動します。このとき、車両は自動で停車してオートビークルホールド表示灯(A)が点灯します。

⚠ 注意

- オートビークルホールド (AVH) 機能の作動に必要な条件 (同時に満たす必要があります) :
 - ドライバーがシートベルトを確実に締め、かつドアが閉まっていること。
 - インテリジェントパワーステアリングシステムおよび電動パーキングブレーキ (EPB) システムの故障がないこと。
- アクセルペダルを踏んで「P」レンジに切り替えたり、EPB スイッチを引き上げたりすると、オートビークルホールドが解除されて待機状態に戻ります。
- 電源ポジション「OK」時のオートビークルホールド (AVH) 機能は、デフォルトで OFF に設定されています。

オートビークルホールド (AVH) 機能の作動

- オートビークルホールド (AVH) 機能が作動すると、ブレーキランプとハイマウントストップランプが点灯します。コンビネーションメーターのオートビークルホールド表示灯(A)が常時点灯していれば、オートビークルホールド (AVH) 機能が正常に作動しています。
- 車両が 10 分以上停車していると、システムは自動的にオートビークルホールド (AVH) を解除して待機状態に入ります。コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(B)が点灯し、自動的に「P」レンジへ切り替わります。
 - オートビークルホールド (AVH) 機能を有効にするには、「D」レンジに切り替えて走行した後、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

⚠ 注意

- 電源ポジションを「OK」にしたときの AVH 機能はデフォルトで OFF と設定されています。待機状態に入ると、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(B)が点灯します。

オートビークルホールド (AVH) 機能のキャンセル

- オートビークルホールド作動中に以下の操作を行うと、自動的に「D」レンジから「P」レンジへシフトします：
 - 運転席ドアを開ける。
 - 運転席シートベルトを解除する。
 - 「D」レンジで停車中に、電動パーキングブレーキ (EPB) を ON にする。
 - ブレーキペダルを離れたときにオートビークルホールド (AVH) スイッチを押して、オートビークルホールド (AVH) 機能を OFF にする。

オートビークルホールド (AVH) 機能の抑制

- 「R」レンジに切り替えて低速移動モードになると、オートビークルホールド (AVH) 機能が移動モードに入ります。「R」レンジで低速で後進したり「R」から「D」レンジに切り替え低速で走行すると、オートビークルホールド (AVH) の作動が抑制されるため移動しやすくなります。
- 低速移動モードは、オートビークルホールド (AVH) スイッチを押すか、速度が 10km/h を超えると自動的に解除されます。このとき、オートビークルホールド (AVH) 機能が待機状態になり使用できるようになります。

⚠ 警告

- 人が乗降したり、荷物の積み下ろしを行ったり、洗車機を使用したりするときなどは、AVH 機能を OFF してください。不意に動き始めて、事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを離す前に、オートビークルホールド表示灯(A)が点灯していることを確認してください。
- AVH 機能によりブレーキが保持されているときに OFF する場合は、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。ブレーキが解除された途端に車両が動き始め、事故につながるおそれがあります。

運転要領

- 敷石が設置されている道路を走行する場合は、ゆっくりと走行しながら正しい角度を保ってください。タイヤを大きく破損させるおそれがあるため、とがっているものや障害物の上を走るとは避けてください。
- 衝撃でホイールを大きく破損させるおそれがあるため、悪路を走行するときはスピードを落としてください。
- 濡れた路面を走行するときは、深い水たまりを避けてください。
- 逆風の中では、車両をコントロールできるようにゆっくり走行してください。
- 洗車や深い水たまりを通り抜けてブレーキが濡れているときは、慎重に運転しながらブレーキペダルを軽く踏んでブレーキを乾かしてください。
- 氷雪、砂石、水濡れのタイル、エポキシ樹脂系塗床などの路面の摩擦係数が低いときは、自然発車がないようにできるだけ坂道での駐車を避けてください。

警告

- ドライバーは、お子様などの乗員が誤った操作をするのを防ぐため、乗員に各機能の使い方を伝え、乗員の安全確保を心がけてください。

アドバイス

- バッテリーは車両底部にあるため、ぶつけないように注意しながら運転してください。
- 運転前に、電動パーキングブレーキが解除されており、かつ電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が消灯していることを確認してください。
- 電源ポジションが「OK」となっているときは、車両から離れないでください。
- 車両から離れる場合は、リモートキーを携帯してください。
- 長い距離の下り坂を走行するときは、スピードを落としてください。また、頻繁にブレーキを掛けると、ディスクローターが高温になり正常に機能しないおそれがあります。
- 滑りやすい路面で加速したりブレーキを掛ける場合は、車両がスリップや横滑りを引き起こすおそれがあるため、十分に注意してください。
- 生命にかかわる交通事故の発生を避けるため、走行中は窓から頭や手を出さないでください。特に、お子様を乗せているときは十分に注意してください。
- モータールームに大量の水が侵入すると、パワートレインや電気部品の破損につながります。

冬期の運転について

1. 冷却水が凍結防止の保護機能を発揮していることを点検します。
 - 本車に使われているオリジナル冷却水の型番と同じのものを使用します。冷却システムに冷却水を補充する場合は、周辺温度に応じて適切な冷却水の型番を選択してください。
 - 不適切な冷却水を使うと、冷却システムの破損につながります。
2. バッテリーやケーブルの状況を点検します。
 - 寒い気候では、モータールームの起動バッテリーの電圧が低下します。そのため、モータールームの起動バッテリーに十分な電圧を持たせて、始動できるようにしてください。
3. 氷雪によるドアロックの凍結を避けてください。
 - 凍結を防ぐために、ドアロックの鍵穴の中に除氷剤やグリセリンを吹き付けます。
4. 不凍液を含んだウォッシュ液を使います。
 - このような製品は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場やすべての自動車部品販売店で販売されています。
 - 水と不凍液の混合比は、メーカーの指示に従ってください。




注意

- ウォッシュ液として冷却水や他の代替品を使わないでください。塗装の早期劣化などにつながるおそれがあります。
5. 走行道路によっては、必要な非常用装備やアイテムを用意しておくことをおすすめします。

アダプティブクルーズコントロール (ACC) システム*

- アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) は、従来のクルーズコントロールをベースに、レーダーで先行車と本車の相対距離および相対速度を計測し、本車の走行速度を自動的に調整することで、先行車との車間距離を一定に保ちながら走る追従走行を可能にした機能です。先行車の有無により、システムがクルーズコントロールと追従型クルーズコントロールの自動切替を行います。
- クルーズコントロールボタンで本車の巡航速度および先行車との車間距離を設定することができます。本車と先行車との車間距離、また、30～150km/hの範囲内で巡航速度を設定し、0～150km/hの範囲内で車間距離を一定に保ちながら追従走行することもできます。

作動状況説明

- ACC OFF の場合：
 - システムが OFF になっています。システム機能を利用するときは、ACC システムを ON にしてください。
- ACC 待機の場合：
 - システムを ON にすると、初期設定の待機状態となりコンビネーションメーターに ACC 待機状態表示灯  が表示され、手動操作によってシステムを有効にすることができます。作動条件が揃っていないときは、ドライバーが車両状態を確認し、システムを有効にする条件を揃える必要があります。
- ACC が有効になっている場合：
 - ACC を有効にすると、システムが作動状態してコンビネーションメーターに ACC 状態表示灯  が表示されます。車両は設定速度で定速走行、または先行車との車間距離を自動的に調節して追従走行します。
- 追い越し時の加速の場合：
 - ACC を有効にした状態でアクセルペダルを踏むと、ACC が追い越しモードになり操作に反応して速度を上げます。アクセルペダルを離すと、ACC が自動的に元のモードに戻ります。
- ACC 故障の場合：
 - システムが故障すると、コンビネーションメーターに ACC システム警告灯  が表示され、すべての操作が使用できなくなります。

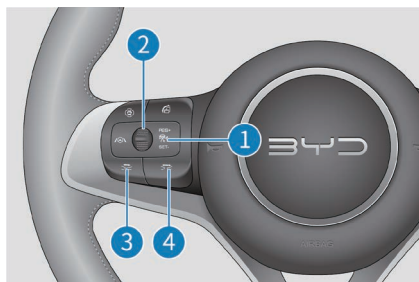
ACC システムの作動条件

- 電動パーキングブレーキ（EPB）は解除されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- 速度が $\leq 150\text{km/h}$ のとき。
- 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能が ON となっていない状態。

クルーズコントロールボタン操作

ACC ON / OFF ボタン

ボタン①を押すと（作動条件を満たしている場合、システムはスタンバイ状態）、ACC ON/OFF の切り替えができます。



RES+ / ACC リセット

上方向にレバー②を操作すると、前回設定した速度に戻すことができます。クルーズ速度が記憶されていないときは、初期設定速度の 30km/h になります。

SET- / 速度設定

- 下方向にレバー②を操作すると、ACC はスタンバイ状態から作動状態に切り替わり、現在の速度を設定速度として設定します。現在の速度が 30km/h より遅い場合は、設定速度を 30km/h に設定します。

- ACC ON の状態でレバー②を操作すると、30～150km/h 範囲内で速度を設定することができます。上または下方向にレバー②を操作すると、設定速度は 5km/h ずつ加速または減速します。ACC で走行した後、電源ポジションが「OK」のままでクルーズコントロールがスタンバイ状態のとき、システムは最後に設定した速度を記憶します。

⚠ 警告

- ACC の初期設定速度は 30km/h になっています。初期設定のまま高速道路などで RES + を押すと、30km/h に急減速して思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。そのため、高速道路などで ACC を使用するときは、必ず SET - で速度設定を行い、設定が解除されてから RES + で設定速度に戻してください。

ACC の解除

ブレーキペダルを踏むと、ACC は作動状態からスタンバイ状態になります。再度ボタン①を押すと、ACC が解除されます。

車間距離の設定

- ドライバーは、安全な車間距離を選択する責任があります。
- このシステムは、同一車線を走行する先行車と適切な距離を保つように速度を調整することができます。ドライバーは、ステアリングホイールの③または④ボタンを操作することで、車間距離を 4 段階で調整することができます。車間距離は速度に比例し変化し、速度が速いほど車間距離が広くなります。

ACC システム使用時の自動加速 / 減速

- ACC が作動している状態でアクセルペダルを踏み込みスピードを上げることで、早めに設定速度を達成することができます。このとき、システムは追い越し時の加速状態になります。設定速度で走行中にアクセルペダルを踏み込みスピードを上げ、かつ他の操作を行わないときは、スピードを上げた後にアクセルペダルを離すと、設定している速度に自動で戻ります。また、アクセルペダルを踏み込むと同時に下方向にレバー②を操作すると、現在の速度を設定速度として設定します。速度が 150km/h 以上出ている、またはアクセルペダルを 15 分以上踏み続けると、システムはスタンバイ状態になるため、再度 ACC を作動する必要があります。
- ACC が作動している状態でブレーキペダルを踏み込むと、システムはスタンバイ状態になるため、ブレーキペダルを離して再度 ACC を作動する必要があります。

先行車に追従しての停止 / 発進

- システムは、車両が通常の走行モードで先行車に追従して停車することができます。3秒以内の停車のときは、自動で先行車に追従し発進します。
- 3分以内の停車しているときは、アクセルペダルを踏み込む、または ACC ボタンを操作して再度 ACC を作動する必要があります。
- 3分以上停車すると、システムがスタンバイ状態になるため、EPB を引き上げて作動します。

! 警告

- ACC はセーフティシステム、障害物検知システム、または衝突警告システムではなく、快適な運転を支援するためのシステムです。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ACC 機能は、ドライバーを支援することはできませんが、ドライバーの代わりに運転するものではありません。ドライバーは常に交通ルールに従い車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ACC は、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。

ご注意

- ドライバーは、先行車の流れ、雨や霧などの現在の状況に合わせて追従走行時の車間距離を調整し、システムを適切に設定してください。システムを適切に設定した後、いつでも車両の速度を減速して停止できるようにしてください。
- ACC 作動時にドライバーがアクセルペダル、またはブレーキペダルを踏むと、車両のコントロールはドライバーに引き継がれ、システムでは車間距離の制御を行いません。
- 車両、渋滞の後方、料金所、自転車や歩行者など、静止またはゆっくり移動している物体に対する ACC の作動は、非常に特別な状況に限られます。
- 安全上の理由から、ESC を ON にしていない状態では、ACC を有効にすることができません。
- ACC は、歩行者や対向車を認識することはできません。
- ACC は制動力が限られているため、急ブレーキに対応できません。
- 先行車が急ブレーキをかけた場合（緊急停車）、システムが反応できなかったり反応が遅くなりブレーキが遅れるおそれがあります。このとき、ドライバーに車両制御への介入を要請するメッセージは届きません。


- 状況によっては（本車の速度に対して先行車が遅い、車線変更速度が速い、安全距離が短いなど）、システムが相対速度を落とすのに必要な時間がない場合があります。このとき、システムはどんな場合でも音声や映像で警告を出すことができるわけではないため、ドライバーが適切な操作してください。
- カーブに進入、またはカーブから抜け出す場合、先行車の選定が遅れたり干渉を受けることがあります。このようなときは、ACCが期待通りに作動しない、または作動が遅れることがあります。
- 曲がりくねった道などの急カーブでは、センサーが感知する前方の車両が数秒間消えることがあるため、ACCの走行速度が上がるおそれがあります。
- ACC付き車両が隣接車線を走行する他車との車間距離が狭い場合、ACCが作動することがあります。
- ACC作動中、他車が車線変更して本車のレーダー検知範囲内に入ってきた場合、その車両を対象車両と認識して反応するため、急激にブレーキが掛かったりブレーキが遅れることがあります。
- 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、歩行者など）場合、環境によっては、感知に影響が出たり遅れることがあるため、システムが先行車との距離を検知できないおそれがあります。このようなときは、ドライバーが速度をコントロールしてください。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けて検知の遅れや干渉が発生することがあります。
- 本車が先行車とほぼ一直線上に走行していない場合、システムは先行車を対象車両として認識できないため、ドライバーが常に車両をコントロールしてください。
- 先行車に追従し停止する場合、まれに先行車の後端を検知できずに下端（車高の高いトラックの後軸やバンパーなど）を検知することがあります。システムは、適切な停止距離を確保することができなくなるため、ドライバーは常にブレーキを掛けられるように注意してください。
- 車両が停止している状態でACCを有効にすると、システムは前方にある静止物を対象車両として認識し、停止状態に維持します。これは、発進時の安全を確保して予期せぬ発進による衝突を避けるためです。ただし、この機能はすべての障害物に対応できるわけではないため、ドライバーは正面方向に障害物や他車がないことを確認してください。
- レーダーセンサーは、振動や衝突の影響を受けるとシステム性能が低下することがあります。この場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場まで連絡してください。

- レーダーセンサーは車両前部に設置されており、汚れなどで視界が遮られると本来の機能が発揮できなくなります。特に、積雪によりセンサーが覆われると、システムが OFF になります。システムが OFF になると、HMI（ヒューマンマシンインターフェース）を通じてドライバーにシステム OFF のメッセージを伝えます。このようなときは、汚れをきれいに取り除いてから車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、レーダーセンサー検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このようなときは、車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行することで機能を回復することができます。
- 車高を下げたりナンバープレート取り付けブラケットを変更するなど、車両の構造的な改造はシステムに影響を与えるおそれがあります。
- レールや道路工事用金属板などの金属物が中距離レーダーに干渉して、正常に作動しないことがあります。
- 視界が悪い場所、坂道やカーブが続く道路、滑りやすい路面（雪道、凍結路、濡れた道路や水浸しの道路など）を走行する場合は、絶対に ACC を使わないでください。
- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場の中距離レーダーの校正、点検をしてください。
 - フロント側中距離レーダー / フロントバンパーを取り外すとき。
 - 車輪の振れにより、新たにホイールアラインメント調整を行ったとき。
 - 衝突したとき。
 - システムの性能低下、またはコンビネーションメーターからのシステム異常のメッセージに気づいたとき。

予測緊急ブレーキシステム

予測緊急ブレーキシステムは、衝突予測警報システム（PCW）と自動緊急ブレーキシステム（AEB）の2つの機能を備えています。システムは、レーダーセンサーとマルチファンクションビデオコントローラーにより、本車線の先行車と歩行者を検知し、車両が先行車や歩行者と正面衝突するおそれがあると判断した場合は、音声および視覚警告を出してドライバーに回避処置を取るよう促すと同時に、潜在的な制動力を強くしてドライバーに対して充分に対応できるための反応時間を確保することができます。衝突の可能性が高くなりつつあると判断した場合は、自動的にブレーキを掛けてドライバーが衝突を回避できるようにアシストし、衝突の被害を軽減できるようにします。

使い方


ドライバーは、 → **ADAS** → **アクティブセーフティ** の設定画面から **衝突予測警告** を ON/OFF にすることができます。始動時の初期設定は ON です。

衝突予測警告


■ 安全距離警告

システムは、本車の走行速度が 65km/h 以上で、先行車との車間距離が短い状態で長い時間追従走行すると、安全距離警告を出します。コンビネーションメーターの表示灯が点灯し、ドライバーに本車と先行車の車間距離を適切に確保するように知らせます。

■ 事前警告

システムは、本車の走行速度が 30 ~ 150km/h で、本車と先行車が追突するおそれがあると判断した場合、音声および視覚で事前に警告を出します。コンビネーションメーターの衝突予測警告表示灯  が点灯すると同時にアラームが鳴るため、ドライバーは車間距離を適切に確保するための操作を早めに行ってください。

■ 緊急警告

システムは、本車の走行速度が 30 ~ 150km/h で、ドライバーが警告を受けた後も適切な操作をせずに衝突の危険性が高くなった場合、音声および視覚で事前に警告を出します。コンビネーションメーターの衝突予測警告表示灯  が点滅すると同時にブレーキを掛けるように短い警告音を出すため、ドライバーは車間距離を適切に確保するための操作を早めに行ってください。

自動緊急ブレーキ

- 緊急警告を受けてもドライバーが反応せずに危険性がさらに高まった場合、システムは自動緊急ブレーキを作動します。能力範囲に応じて制動力を掛けて、衝突の回避あるいは被害の軽減をしようとします。
- ドライバーが緊急時にブレーキをかけたが制動力が弱い場合は、システムが最適な目標制動力を出すように追加の制動力を掛けて、衝突の回避あるいは被害の軽減をしようとします。

システムの限界

- 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、三輪車、電動自転車やバイクなど）場合、状況によっては、感知に影響を出たり遅れることがあるため、システムが前方の対象物との距離を検知できないおそれがあります。そのため、反応が遅れる、または反応できなくなります。
- 次の場合は、システムが影響を受けるまたは機能しないことがあります。
 - 雨、雪、霧、または大きな水しぶき、反射光、直射日光、照明の明るさの急激な変化。
 - センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断。
 - レーダーが他のレーダー源の干渉により故障する。たとえば、立体駐車場での強いレーダー反射。
- 交通状況が複雑な場合、システムは下記の場面に正しく対応できないことがあります。
 - ハイスピードでセンサーの検知範囲に現れた歩行者や車両。
 - 他のものに遮られている歩行者。
 - 背景と見極めができない歩行者の輪郭。
 - 特殊な衣服、または他のものに覆われているなどで検知されない歩行者。
 - 半径が小さいカーブ。

警告

- 予測緊急ブレーキシステムは、いかなる状況でも衝突の回避ができるわけではありません。交通状況が複雑な場合は、システムが車両と歩行者の認識をきちんと対応できないことがあります。また、マンホールカバーや鉄板、道路標識に反応し、誤って警告を発したりブレーキをかけるおそれがあります。
- 必ず安全運転を心がけて運転し周囲の交通状況に注意してください。いかなる場合も、通常のブレーキの代わりに自動緊急ブレーキを使用しないでください。
- 事故の発生や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、予測緊急ブレーキシステムを過信しないでください。このシステムは運転を支援するためのものであるため、ドライバーは自己責任で先行車との車間距離を適切に保って速度を制御し、必要に応じて、ブレーキを掛けたりハンドルを操作できるようにしてください。また、ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 歩行者保護をシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に避けることができません。

ご注意



- 自動緊急ブレーキシステムの作動は、走行速度が4km/hより速い場合に限られますが、最大で45km/hの速度を落とすことができます。このシステムは、いかなるモードでも正しく作動できるわけではないため、慎重に運転してください。
- ESCシステムがOFF、または警告灯が点灯している場合は、自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できません。
- 衝突予測警告システムが警告を出している場合、ドライバーは交通状況に応じてブレーキ操作で速度を落とす、またはハンドル操作で障害物を回避してください。
- 車間距離が近い状態で長時間走行すると、安全距離警告システムが車間距離を取るよう警告を出します。先行車が急ブレーキをかけると衝突は避けられません。
- 緊急警告時にドライバーが気づいている場合は（ドライバーがハンドルを切ったりアクセルペダルやブレーキペダルを踏むなど）、自動緊急ブレーキは作動しません。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長い時間走行した場合、レーダーセンサーの検出特性によりしばらく機能しないことがあります。このようなときは、車両を再始動したり通常の道路を一定距離走行すると、機能を回復することができます。

- レーダーセンサーやマルチファンクションビデオコントローラーが、表面の汚れや異物付着を誤って認識するエラーの場合は、コンビネーションメーターに関係メッセージが表示されるため（表面の汚れや異物の付着によりセンサーが感知できなくなった）、メッセージに従ってセンサー表面の異物を取り除いてください。エラーの間は、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが OFF になり、エラーが解消されると、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できるようになります。
- 歩行者保護システムは、克服できない物理的な条件の制限があるため、システムの設定速度 4 ~ 60km/h で十分に機能しないおそれがあります。そのため、ドライバーは自己責任で迅速かつ有効なブレーキ操作を行ってください。歩行者保護システムが警告を出す、またはブレーキペダルによる制動を行う、もしくは歩行者を回避するなど、いずれも実際の状況によります。
- 歩行者保護システムは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不必要な警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- 歩行者保護システムに機能上の故障がある場合は、レーダーセンサーやマルチファンクションビデオコントローラーの角度ずれなどにより、不必要な警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- 自動緊急ブレーキが作動すると、ブレーキペダルの操作フィーリングが重くなります。また、短時間でブレーキキャリパーを動かすのに大きな油圧が必要となるため、「ズズ」という音が聞こえることがあります。
- 予測緊急ブレーキシステムは、ドアを閉めてシートベルトを着用している場合に限り作動します。次の場合は、予測緊急ブレーキシステムが機能しないことがあります。
 - ドアが閉まっていない、または走行中にドアが開いたとき。
 - シートベルトを着用していない、または走行中に、シートベルトを外したとき。
 - ドライバーがブレーキペダルを踏み込んだとき。
 - ドライバーがアクセルペダルを強く踏み込んだとき。
 - ドライバーが走行中にアクセルペダルとブレーキペダルを頻繁に操作したとき。

- 次の場合は、システムが常に最適な性能を発揮することができないおそれがあります。
 - 事故や他の原因により、フロントバンパーに強い衝撃を受けたとき。
 - タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。
 - 規定に合わないタイヤを装着したとき。
 - タイヤチェーンを装着したとき。
 - 小型スペアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使ったとき。
- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で中距離レーダーの校正を行ってください。
 - 中距離レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーを取り外したとき。
 - ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節したとき。
 - 衝突したとき。
 - ACC システムの性能低下や異常。
- 紙箱、鉄板、ダミー人形などで予測緊急ブレーキシステムの作動試験を勝手に行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。

交通標識認識システム

- 交通標識認識システムは、マルチファンクションビデオコントローラーにより道路の速度制限標識を認識し、コンビネーションメーターに最高速度標識を点灯することで、ドライバーへ法定速度の範囲内に速度を抑えるように知らせます。
- 交通標識認識システムは、インテリジェントスピードリミットインフォメーション/インテリジェントスピードリミットコントロールの機能を備えています。
- インテリジェントスピードリミットインフォメーション：認識された制限速度をオーバーした場合、ドライバーに警告音を出します。

- アダプティブクルーズコントロール機能と速度制限標識認識機能を組み合わせた機能です。インテリジェントスピードリミットコントロール機能の作動条件が揃った場合、コンビネーションメーターに「SET-Activate Intelligent Speed Limit Control」が表示され、レバー②を下に操作することで、インテリジェントスピードリミットコントロール機能をONにできます。システムは、スピードオーバーにならないように、所定時間以内で自動的にアダプティブクルーズコントロールの設定速度を制限速度以下に抑制します。
- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト の設定画面から 交通標識認識システム をON/OFFすることができます。始動時の初期設定は前回の設定です。
- システムが速度制限標識を認識すると、コンビネーションメーターに認識した交通標識認識システム表示灯（例：）が表示されます。
- コンビネーションメーターに表示された速度が認識した制限速度を5km/h以上超えた場合、交通標識認識システム表示灯が点滅し、ドライバーに速度を抑えるように知らせます。システムが速度制限を解除する標識を認識する、または一定の距離を走行すると、交通標識認識システム表示灯が消灯します。



警告


- 交通標識認識システムは、安全運転を支援するシステムです。認識機能には限界があり、状況によっては、標識を認識できなかったり実際とは異なる標識を表示することがあるため、走行中はドライバーの責任で実際の標識を確認してください。

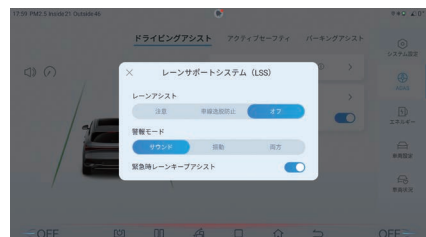
ご注意

- コンビネーションメーターの交通標識認識システム表示灯は、システムが認識してから一定の距離を走行すると消えるため、ドライバーは速度を適切な範囲内に抑える必要があります。
- 交通標識認識システムは、制限速度標識のみを認識するため、車両のアクティブ制御には関与しません。ドライバーは、常に車両をコントロールできる適切な速度で運転してください。

- 並行する車線に複数の制限速度標識がある場合は、システムが現在走行中の車線の制限速度標識を認識して交通標識認識システム表示灯を表示するため、ドライバーは正しい車線を走行してください。
- 定められたサイズに一致していない重量制限標識の場合は、誤って制限速度標識として認識されることがあります。
- 標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮断などがある場合は、カメラの認識能力が低下したり認識できなくなります。
- 交通標識認識システムの性能は、天気、照明の明るさ、道路標識の明瞭さに影響を受けます。夜間、日陰、夕暮れ、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下して標識を認識できないことがあります。
- 衝突事故が発生した、またはカメラセンサーを脱着した場合は、システム性能への支障がないようにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場ですセンサーの校正を依頼してください。

レーンサポートシステム*

- レーンサポートシステムは、車線逸脱警告と車線逸脱防止を備えています。
- 車線逸脱警告は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知し、速度が60km/h以上でドライバーの不注意により車線から逸脱した場合、システムが音声および視覚でドライバーに知らせます。
- 車線逸脱防止は、車線逸脱を防止するためにドライバーの運転を支援します。
- 緊急時車線維持支援は、車両が車線外へ逸脱しそうになる場合（実線または破線）、車線をはみ出したり対向車や隣接車線を走行する他車と衝突することを回避するため、システムが逆方向にハンドルを操作しアシストすることで、現在の車線を維持します。
- ドライバーは  → ADAS → ドライビングアシスト → レーンサポートシステム の設定画面からレーンサポートシステムをON/OFFすることができます。始動時の初期設定は前回の設定です。



- 警告のモードは、音声で警告する **サウンド**、ハンドルを振動して警告する **振動**、サウンドと振動の両方で警告する **両方** の3つがあります。

コンビネーションメーターの表示

レーンサポートシステム作動後、コンビネーションメーターには車線境界線が表示されます。

車線境界線	
グレー	機能が ON となっているが、車線境界線が認識されていない。
グリーン	機能が ON となり、車線境界線が認識されている。
レッド	機能が ON で、車両が車線変更なしにずれている。この場合は、設定した警告のモードでドライバーに警告を出し、早めに車線の中央付近に寄るように知らせます。

システムの限界

- 複雑な道路環境では、レーンサポートシステムが誤った検知をしたり車線を検知できないことがあります。次の場合は、システムが機能しない、または性能が著しく低下するおそれがあります。
 - 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
 - フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方への異物付着。
 - 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
 - トンネルの出入口など周囲環境の明るさの急激な変化。
 - 分離帯の陰に入っている車線を認識できないとき。
 - 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。

警告

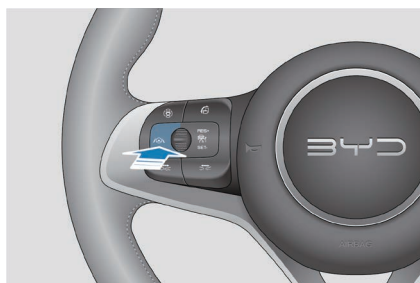
- レーンサポートシステムは、前方不注意または視界不良による危険を回避するものではなく、運転を支援するためのシステムです。システムには限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。



ご注意

- ドライバーがターンシグナルランプを点灯させ、かつターンシグナルランプの指示した方向へ車線を切り替える場合は、レーンサポートシステムが無効になります。
- 車線境界線上での走行によって、車線境界線が目立たない、細すぎる、摩耗、不明瞭、または汚れや氷雪が付着している場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 車線が広すぎたり狭すぎる場合、車線の数が多くなったりまたは少なくなる場合、誘導路や高速道路の出口など短時間で境界線が切り替わる場合、または複雑な車線を切り替える場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 坂道や曲がった道路を走行中に、先行車との距離が近すぎる、または車線境界線が先行車に遮られた場合は、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- 走行中の道路事情により激しいデコボコ路があり、急アクセルや急ブレーキ、または急ハンドル操作をすると、レーンサポートシステムが無効になることがあります。
- マルチファンクションビデオコントローラーの視界範囲内のガラス割れ、フロントガラスの着色、規則に適合しない塗膜、インストルメントパネルの上に置いた光を反射するもの、およびカメラの視界を妨げる後付け部品のすべては、システムの正常な作動に影響を与えるおそれがあります。
- 安全のために、自ら車線逸脱警告機能の作動試験を行わないでください。また、マルチファンクションビデオコントローラーの視界が遮られたり、強い光に干渉しないようにしてください。視野が一時的に遮られたり、強い光に干渉すると機能が OFF になり、視野が正常に戻ると自動で復帰します。自動で復帰しないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 下記の場合は、レーンサポートシステムを OFF にすることをおすすめします。
 - スポーティーな走りのとき。
 - 悪天候のとき。
 - 悪路を通り抜けるとき。

ナビゲーションパイロット*

- ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロールシステム（ACC）とレーンキープアシストシステム（LKS）の機能を組み合わせたシステムで、速度が0～120km/h以内において、前後左右方向への制御を支援してドライバーの運転負荷を軽減し、安全で快適な運転環境を提供します。
- 機能が作動中、ドライバーは常にハンドルを持ち、必要なときに車両のコントロールをする必要があります。
- ドライバーはスイッチ操作により、ナビゲーションパイロットのON/OFFを操作することができます。始動時の初期設定は前回の設定です。



- ナビゲーションパイロット機能をONにすると、コンビネーションメーターのスタンバイ状態表示灯が点灯します：
- ナビゲーションパイロット機能が作動すると、コンビネーションメーターの作動状態表示灯が点灯します：
- ナビゲーションパイロット機能をONにして、アダプティブクルーズコントロール機能作動後、本車の速度が0～60km/hの範囲内の場合：
 1. 左右両側の車線をいずれも認識している場合：
 - 先行車の有無を問わず、車線の中央付近を走行するように車両を維持します。
 2. 車線が明瞭な道路から車線が不明瞭、または車線がない道路に入った場合：
 - 前方に対象車両がいるときは、先行車に追従して横に小幅移動します。
 - 前方に対象車両がないときは、ナビゲーションパイロット機能が弱くなり、アダプティブクルーズコントロールのみを行います。

- ナビゲーションパイロット機能を ON にして、アダプティブクルーズコントロール機能作動後、本車の速度が 60 ~ 120km/h の範囲内の場合：
1. 左右両側の車線をいずれも認識している場合：
 - 先行車の有無を問わず、車線の中央付近を走行するように車両を維持します。
 2. 車線が明瞭な道路から車線が不明瞭、または車線がない道路に入った場合：
 - 先行車の有無を問わず、ナビゲーションパイロット機能が弱くなり、アダプティブクルーズコントロールのみを行います。

⚠ 警告

- ナビゲーションパイロットは、運転を支援するためのシステムであり、自動運転ではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、長時間ステアリングホイールから両手を離さないでください。そうしないと、警告メッセージが表示された後にシステムが OFF になります。


⚠ 注意

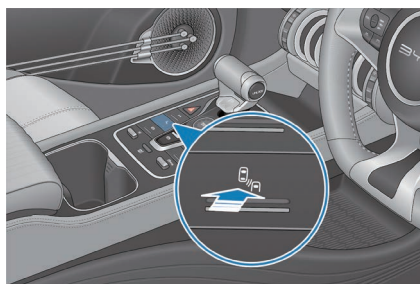
- システムを ON にしている状態でハンドルから両手を離して約 15 秒経過すると、システムから「ハンドルを握ってください」とメッセージで知らせます。ドライバーがハンドルを握らない場合は、ナビゲーションパイロット機能が OFF になります。
- ナビゲーションパイロットは、天気や照明の明るさ、車線境界線の明瞭さに影響を受けるため、日陰、夕暮れ、路面の積雪、著しい摩耗がある路面の場合は、性能が著しく低下します。
- ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) とレーンキープアシストシステム (LKS) の機能を組み合わせたシステムであるため、使用時は、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) とレーンキープアシストシステム (LKS) にかかわる注意事項を守ってください。

ブラインドスポットインフォメーション*

ブラインドスポットインフォメーション (BSD) は、ブラインドスポットインフォメーション、車線変更アシスト、リアクロストラフィックアラート、リアクロストラフィックブレーキ、後方衝突予測警告、ドアオープンワーニング*の機能を備えています。主にレーダーセンサーにより現在の交通状況を判断し、ドライバーに注意を呼びかけ安全な運転を心がけるように早めに知らせます。

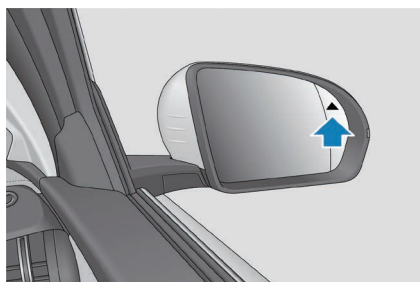
使い方

ドライバーは、センターコンソールのある「ブラインドスポットインフォメーションスイッチ」を押すか、 → ADAS → アクティブセーフティの設定画面から **ブラインドスポットアシスト** で各種機能の ON/OFF を設定することができます。始動時の初期設定は前回の設定です。



ブラインドスポットインフォメーション

走行中（速度が 30km/h 以上）、レーダーセンサーにより本車のドアミラーの死角領域にいる車両を検知した場合、該当のドアミラーのインジケーターが点灯します。このとき、同じ方向のターンシグナルランプを点灯すると、危険を知らせるためにドアミラー警告灯が点滅し、安全に注意するように知らせます。



車線変更アシスト

走行中（速度が 30km/h 以上）、レーダーセンサーにより隣接車線の接近領域内で急接近する車両を検知した場合、該当のドアミラーのインジケーターが点灯します。このとき、同じ方向のターンシグナルランプを点灯すると、危険を知らせるためにドアミラー警告灯が点滅し、安全に注意するように知らせます。

リアクロストラフィックアラート (RCTA)

- リアクロストラフィックアラートはドライバーが左右後方の安全を確認するための支援機能です。後退中、後方に接近している車両の存在をドライバーに知らせます。
- 後退中、レーダーセンサーにより後方の死角領域を走行する車両を検知し、本車と衝突するおそれがあるとシステムが判断した場合、両サイドのドアミラー内のインジケーターを点灯して、ドライバーに注意喚起をすることで衝突の可能性を低減させます。

リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)

- リアクロストラフィックブレーキは、立体駐車場や傾斜のある駐車場から出るときに後方を横断する車両が存在する場合、ドライバーに知らせるとともに自動ブレーキを掛け、後方を横断する車両との衝突を回避します。特に、ドライバーの視界が隣の車両で遮られている状況で用いられます。
- 後退中、左右のリアレーダーセンサーからの入力信号を受信し、対象車両と衝突する危険性および衝突するまでの時間を評価します。
- レーダーセンサーの検知範囲内で、対象車両までの測定距離や相対速度、アプローチアングルに基づき、システムが衝突の危険性を判断します。ブレーキアシストを介して、ドライバー自身がブレーキを踏む、または自動ブレーキの操作を支援します。

後方衝突予測警告

本車の速度が5km/h以上を超えて走行中、レーダーセンサーが後続車の急接近を検知して追突のおそれがあると判断した場合、ハザードランプおよびドアミラーのインジケーターが点灯、点滅し、ドライバーに注意喚起するとともに、後続車へ追突のおそれがあることを注意するように知らせます。

ドアオープンワーニング (DOW) *

- ドアオープンワーニングは、停車中にドアを開けようとした場合、後方の安全状況を監視しインジケーターで警告することで、事故の危険を回避することができます。
- 車両後部のレーダーセンサーにより、後方および横から接近してくる対象車両の認識、および後方の安全状況を監視して、インジケーターでドライバーに知らせます。
- システムの検知対象は、自転車、電動四輪車、三輪車、オートバイなどの軽車両、トラック、乗用車、バスなどのモータービークル、歩行者および交通安全に危害をおよぼす他の移動する対象を含みます。

⚠ 警告

- ブラインドスポットインフォメーションは、左右ドアミラーの死角領域の監視を支援するものですが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。

⚠ 注意

- 対象車両が後方から高速で本車に接近してくる場合は、ブラインドスポットインフォメーションの警告機能が十分に発揮できないことがあります。
- ドライバーは、ブラインドスポットインフォメーションが正常に作動するように、泥や雪などの付着物を早めに取り除き、ブラインドスポットインフォメーションレーダーの設置部位を良好な状態に維持する必要があります。
- 状況によっては、検知に影響を受けたり遅れることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、電動車、歩行者など）場合は、システムが対象物を認識できずに誤って警告を出すことがあります。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響で、検知が遅れたり干渉を受けることがあります。
- 道路工事中の道路脇の大型防護柵、大型看板、トンネル内の反射板、反射断面積が大きい物体など、後側方や後方にある無関係の対象物を誤って対象車両として認識し、ブラインドスポットインフォメーションが警告を出すことがあります。
- 状況によっては、感知システムに影響を受けたり遅れることで、システムが運転を支援できない場合があります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限りません。
 - 後方から接近してきた車両が突然車線を切り替えたとき。
 - 急カーブや坂道などで後方から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
 - 後方から接近してきた車両の相対速度が 80km/h を超えたとき。
 - 対象車両が遮られたとき。
 - 対象車両のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、電動車など）とき。
 - カーブの半径が小さすぎる、またはカーブを出入りするとき。
 - 雨、雪などの悪天候のとき。
- ブラインドスポットインフォメーションレーダーセンサーの校正が、振動や衝突による影響でシステム性能が低下することがあります。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

車載されるレーダーについて

77V12FLR:


- 本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。認証番号：215-JRA003
本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります。)

77V13CRN:

- 本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。認証番号：204-B00217
本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります。)

タイヤ空気圧モニタリング

システムについて

- タイヤ空気圧モニタリングシステム (TPMS) は、モニタリングモジュール、制御モジュールおよび表示部から構成されています。タイヤ空気圧などのデータをリアルタイムに監視し、音声および視覚でドライバーに知らせることで、走行の安全性や快適性を向上し、空気圧不足によるタイヤの早期摩耗やエネルギー消費量の増加を低減することができます。
- コンビネーションメーターの情報には、走行情報と指示メッセージがあり、指示メッセージがない場合は常に走行情報を表示します。ドライバーは、ステアリングホイールのボタンを操作してタイヤ空気圧の表示画面  を表示することができます。
- 本車の適正空気圧は、[車両諸元](#)を参照してください。

システムの基本機能

- 電源ポジション「ON」時の警告について
 - 電源ポジションを「OFF」にするときにタイヤ空気圧が不足していると、次に電源ポジションを「ON」にしたとき、タイヤに空気を補充してから走行するように低圧警告が表示されます。
- タイヤ空気圧不足時の警告について
 - システム作動状態でいずれかのタイヤ空気圧が、適正空気圧の 75% 以下になったとき、システムが 1 分以内にタイヤ空気圧警告信号を発信し、空気圧不足のタイヤの位置を指示します。
 - 低圧警告が表示されたときは、適正空気圧になるまでタイヤに空気を補充してください。タイヤ空気圧が適正空気圧の 95% になると、低圧警告の表示が消えます。

■ タイヤ空気大量漏れ警告

- システム作動状態で1つまたは複数のタイヤから空気が漏れており、かつ空気漏れのスピードが設定値以上になると、システムは15秒以内にタイヤ空気大量漏れ警告を出し、空気漏れのタイヤの位置を指示します。
- 空気漏れ警告が表示されたときは、早めに安全な場所に停車して警告が表示されたタイヤを点検し、タイヤに問題がないことを確認してから運転を再開してください。

■ シグナル異常警告機能

- システム作動状態で故障が起きると、警告を出します。

■ リアルタイムでタイヤ空気圧を表示します

- システムは、作動状態で各タイヤの空気圧情報をリアルタイムで表示します。

警告の表示について

タイヤ空気圧警告灯：

メッセージ	表示方法	対応
タイヤ空気圧が不足している	1. タイヤ空気圧警告灯が点灯する 2. タイヤ空気圧の値が黄色になる	関係するタイヤに少量の空気漏れがないかを点検し、空気圧を適正な範囲内にしてください。
信号異常	1. タイヤ空気圧警告灯が点滅してから常時点灯する 2. タイヤ空気圧の数値表示：信号異常	関係するモニタリングモジュールが正常であるか、長時間強い電界範囲に囲まれていないかを点検してください。
システム故障	1. タイヤ空気圧警告灯が点滅してから常時点灯する 2. 文字メッセージ：タイヤ空気圧モニタリングシステムを点検してください 3. タイヤ空気圧の数値表示：信号異常	モニタリングモジュール、制御モジュールに異常があるかを点検し、モニタリングモジュールや制御モジュールを交換してください。

ご注意

- モニタリングモジュールの使用時間は、毎日の走行距離などの要素に関係します。

- モニタリングモジュールは、タイヤ空気圧などの情報を定期的にコンビネーションメーターに送信しています。走行中にタイヤ空気圧が急に低下したり、バーストが起きた場合は、次回システムが立ち上がるまではデータをコンビネーションメーターに送信することができないため、運転が制御不能になることがあります。タイヤ破損とともにモニタリングモジュールも破損し情報が発信できなくなる、またはタイヤが破損している疑いがある場合は、コンビネーションメーターに警告が表示される前に、ただちに車両を安全な場所に停車してください。
- モニタリングモジュールの取り付けを誤ると、タイヤの気密性に影響を与えるため、モニタリングモジュールの取り付けや交換は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- タイヤの装着位置やモニタリングモジュールを交換した場合は、システムが作動できなくなるおそれがあるため、タイヤ空気圧モニタリングシステムに対するキャリブレーションを行う必要があります。キャリブレーション作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- タイヤ空気圧は外気温度により変わるため、コンビネーションメーターに表示された空気圧および適正空気圧に合わせて空気の調整をしてください。
- タイヤ空気圧モニタリングシステムはワイヤレスでデータを送信しているため、干渉が強い環境では、タイヤ空気圧モニタリングシステムの受信能力が低下することがあります。

警告


- システムは、タイヤ空気圧に異常がある場合でも走行を停止しないため、ドライバーは、電源ポジションを「ON」にした状態でタイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧になっていることを運転を始める前に点検してください。メーカー推奨の適正空気圧になっていないと、車両を破損させたり自身や他人に怪我を負わせるおそれがあるため、空気圧を調整してから運転してください。
- 運転中にタイヤ空気圧の異常が見つかった場合は、ただちに空気圧を点検してください。タイヤ空気圧警告灯が点灯しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避けながら速度を落とし、安全な場所に停車してください。空気圧不足のまま走行し続けると、タイヤの破損や交換につながり、タイヤを大きく破損すると、死傷者が出るほどの交通事故につながるおそれがあります。

BYD アラウンドビューシステム *

マルチメディアタッチスクリーンを**車両イメージ**画面以外の状態にし、ステアリングホイールのBYD アラウンドビューシステムを押す、またはシフトレバーを「R」レンジに入れると、BYD アラウンドビューシステムがONになります。



■ 横画面表示の場合：

- マルチメディアタッチスクリーン左下のフロント側、リア側、レフト側、ライト側を表示するアイコンをタッチすると、左側の画面にフロントビュー、リアビュー、ライトビュー、レフトビューのシングルビューが表示されます。
- フロントビュー、リアビューのシングルビューで映像領域をダブルタップすると、180° 視角の全画面表示に切り替わります。
- BYD アラウンドビューシステムのレーダーアイコンをタッチすると、レーダー表示をONにでき、再度タッチするとOFFになります。レーダー表示をONにして障害物に接近すると、映像に障害物が映って警告音が鳴ります。



■ 縦画面表示の場合：

- マルチメディアディスプレイ下側のフロント、リア、レフト、ライトのいずれか2つの領域に表示されるアイコンをタッチすると、上側と右下の映像領域に選択された2つのシングルビューが表示されます。

- 左側のボディビューをタッチすると、透明ボディと現物ボディの切り替えができます。
- 始動後、透明の全景画面に前回電源ポジション「OFF」時の画像が表示されます。このとき、車両の底部や周辺の死角領域にある物体は、実際のものとは異なることがあります。発進すると画像がリアルタイムに更新されて、ボディ長さ相当の距離以上を走行すれば更新が完了します。新規または更新は、車間距離を超えた後にのみ完了できます。



⚠ 警告

- システムは広角魚眼カメラが搭載しているため、表示画面に映っているものには若干の歪みが発生することがあります。
- BYD アラウンドビューシステムは、駐車や走行を補助するためのものであり、車両前後には死角領域が存在しています。システムだけに頼るのは危険なので、駐車または走行中の事故を避けるためには、他の方法で車両周辺の状況を確認してください。
- ドアミラーが最後まで展開されていない場合は、BYD アラウンドビューシステムを使用しないでください。BYD アラウンドビューシステムを通じて車両を操作するときは、すべてのドアが閉まっていることを確認してください。
- BYD アラウンドビューシステムの画面に映されている距離は、目視で確認した距離とは異なることがあります。特に、障害物が車両に近いくときは、複数の手段で車両と障害物の距離を判断する必要があります。
- カメラは、フロントバンパー、左右ドアミラーの下側およびリアライセンスプレートの上側に搭載されています。必ずカメラの視界が異物などで遮られないようにしてください。
- 高圧洗浄機でボディーを洗浄する場合は、カメラ性能への影響を避けるために、可能な限りカメラに直接噴射しないでください。また、カメラに水分やほこりが付着しているときは、早めに拭き取ってください。
- カメラの故障や破損につながるおそれがあるため、カメラを叩かないでください。
- 始動直後のマルチメディアシステムが完全に立ち上がっていない状態では、BYD アラウンドビューシステムのスイッチ操作やシフトレバーをリバースレンジに入れても、BYD アラウンドビューシステム表示画面への出力が遅れたり画面がちらつことがあります。これは、カメラ起動時の電源投入プロセスで正常な現象です。
- 低速走行中、透明全景機能は速度の変化やブレーキ操作の繰り返しによる影響を受けるため、車両底部の画像位置が車外の画像と一致しないことがあります。

駐車支援システム

- 駐車支援システムはセンサーで障害物を検知しており、駐車時にマルチメディアタッチスクリーン*に表示する映像やスピーカーの警告音で、車両と障害物の距離をドライバーに伝えます。
- 駐車支援システムはバック駐車を支援するための機能です。バック時は、車両後部や周辺の状況を目視で確認してください。
- シフトポジションを「R」レンジに入れると、システムは自動でバックビューになります。
- 走行の安全を確保するため、バックモニター画面を表示している間は、音量関係や電話関係のボタン以外のすべてのボタンが操作できません。
- 「R」レンジから別のレンジにすると、画面が元に戻ります。

バックモニター画面

- 図に表示される2本の線は、バック時の後方距離の目安線です。
 - 赤：約0～0.5m範囲内
 - 黄：約0.5～1m範囲内
 - 緑：約1～3m範囲内
- 映るエリアは、車両の進行方向や道路状況の違いにより異なります。




4

使用および運転

警告

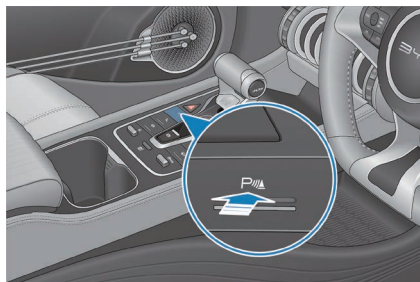
- 駐車支援システムは、ドライバーの駐車操作を支援するものであり、ドライバー自身の判断に取って代わるものではありません。車両周辺を確認したうえで操作してください。
- 速度が10km/hを超えると、駐車支援システムは作動が停止します。
- センサーの作動範囲内に他のものを取り付けないでください。
- センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。

後方レーダーの電源スイッチ

ドライバーは、センターコンソールのある「後方レーダースイッチ*」を押すか、 → ADAS → パーキングアシスト の設定画面から後方レーダー の ON/OFF を設定することができます。

電源ポジションを「OK」にすると、EPB がリリース状態に入って駐車支援システムが自動的に立ち上がります。

システム ON 時に車両周辺に障害物がある場合は、警告メッセージが表示されます。OFF にすると警告メッセージは表示されません。

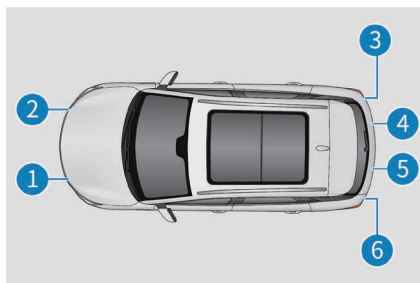


センサータイプ

センサーが障害物を検知すると、障害物の方位や車両と障害物の距離により、画像がマルチメディアタッチスクリーン* に表示されます。

縦列駐車や車庫入れをする場合、センサーが車両と障害物の距離を検知してマルチメディアタッチスクリーンおよびスピーカーでお知らせします。当該システムを利用するときは、必ず周辺の環境に注意してください。

- ① 左前側面センサー *
- ② 右前側面センサー *
- ③ 右後側面センサー *
- ④ ⑤ リア中央センサー *
- ⑥ 左後側面センサー *




距離表示およびブザー

センサーが障害物を検知した場合、マルチメディアタッチスクリーンに障害物の向きおよび車両と障害物との距離が表示されてブザーが鳴ります。

中央部センサーの作動例

大体の距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 700 ~ 1200		低速
約 300 ~ 700		高速
約 0 ~ 300		鳴り続ける

角度センサーの作動例

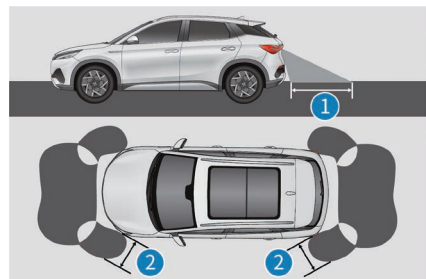
大体の距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 300 ~ 600		高速
約 0 ~ 300		鳴り続ける

作動するセンサーおよびその検知範囲

車両がバックすると、すべてのセンサーが作動します。

図はセンサーの検知範囲を示しています。検知範囲は限られているため、車両周辺の状況を観察して慎重にバックしてください。

- ① 約 1200mm
- ② 約 600mm



i アドバイス

- システムの正常な作動に影響を与えるため、センサーが障害物を検知するための箇所に、アクセサリやその他のものを置かないでください。
- 状況によっては、システムが正常に作動せず障害物に接近しても検知しないことがあります。そのため、常に車両周辺の状況を確認してシステムだけに頼らないでください。

センサーからの検知情報

- 車両状況や周辺の環境によっては、障害物を正しく検知するセンサー性能に影響を与える場合があります。影響を与える可能性がある特定の状況を以下に示します。
 - センサーに汚れ、水分や曇りがあるとき。
 - センサー上に雪や氷が付着しているとき。
 - センサーが何かに覆われているとき。
 - 車両が明らかに傾いたり、最大積載量を超えているとき。
 - デコボコが激しい道路、坂道、砂利道や草原を走っているとき。
 - センサーを新たに塗装したとき。
 - ホーンの音、バイクのエンジン音、大型車両のエアブレーキの作動音や超音波が発生するその他の騒音、車両付近が非常に騒がしいとき。
 - 近くに駐車支援システムを搭載した車両があるとき。
 - 車両にけん引フックを取り付けたとき。
 - バンパーやセンサーが強い衝撃を受けたとき。
 - 車両が高い縁石または曲がりくねった縁石に接近したとき。
 - 炎天下や厳しい寒さのとき。
 - 純正品でない、車高の低いサスペンションキットを取り付けるとき。
- 上記の他に、障害物自身の形状により、センサーが実際の距離を感知できないことがあります。

- 障害物の形状や材料は、センサーの検知を妨げることがあります。特に下記に示す障害物に注意してください。：
 - 電線、柵、ロープなど。
 - 綿、雪、その他の電波を吸収する材料。
 - 角がとがっているもの。
 - 低い障害もの。
 - 上部が外側に向き、車両の方に伸びている高い障害物。
 - バンパー下にあるもの。
 - 車両に近づいているもの。
 - 車両近くの人（服装のパターンによる）。
- マルチメディアタッチスクリーン* に画像が表示されたりスピーカーが鳴っている場合は、センサーが障害物を検知している、またはセンサーが外部からの干渉を受けている可能性があります。このような現象が続くときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

⚠ 注意

- センサーの故障につながるおそれがあるため、水や蒸気でセンサー部位を洗淨しないでください。

安全運転支援システム

安全運転支援システムは、走行中の安全性を向上するために、さまざまな走行条件に合わせて自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものであり、車両を運転するときは、システムに過度に頼るべきではないことに注意してください。

インテリジェントパワーブレーキシステム

- インテリジェントパワーブレーキシステムは、先端的な分離型電気油圧式ブレーキシステムで、マスターバック、電子真空ポンプおよびアンチロックブレーキシステム（ABS）、横滑り防止装置などの機能を集積しています。
- インテリジェントパワーブレーキシステムは、ドライバーの制動操作上の必要性に応じて車両の制動を支援し、運転の安定性や快適性、制動エネルギーの回生効率を上げることができます。

ビークルダイナミクスコントロールシステム（VDC）

走行中に急に方向を変えて車両がドライバーの目的の走行ルートから外れると、VDCは横滑り制御を支援して、車両の方向安定性を保つために関係する車輪に制動力を加えて修正をします。

トラクションコントロールシステム（TCS）

TCSは、加速走行時に駆動輪のスリップを防止します。走行条件が悪いときは、TCSの作動により車両の発進、加速、上り坂の走行が容易になり、必要なときに制動力を加えて駆動輪の空転を防止します。

警告

- TCSは走行安定性を向上させるもので、急転回することで引き起こされる衝突事故を防止するものではありません。作動にも限界があるため、滑りやすい路面では速度を落とし安全運転を心がけてください。
- 下記の場合は、TCSの機能が効果的に発揮できないことがあります。
 - 滑りやすい路面を走行するときは、TCSが正常に作動しますが、方向が制御できなかったり必要な駆動力が出ないことがあります。
 - 安定性や動力が維持できなくなる状況で車両を運転しないでください。

ヒルスタートホールドコントロール（HHC）システム

ブレーキペダルを離した後、HHCが約1秒間ブレーキ油圧を保持して車両の後退を防止します。

⚠ 警告

- 滑りやすい路面の坂道ではスリップして後退することがあるため、HHC の機能を過信せず、安全運転に心がけてください。
- 駐停車時に HHC を使用しないでください。停車時はブレーキペダルを踏み続ける、また、駐車時は電動パーキングブレーキのスイッチを引き上げてパーキングブレーキを掛けてください。

ハイドロリックブレーキアシスト (HBA) システム

ドライバーが素早くブレーキペダルを踏んだ場合、HBA が緊急ブレーキと認識してブレーキ油圧を能動的に高めることで、ABS をより早く介入させて制動距離を効果的に短くすることができます。


減速度制御 (CDP) システム *

電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると、CDP 機能が作動します。車両が停止するまで一定の減速度（ブレーキを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを引き上げるときの減速度が 0.4g、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると同時にブレーキペダルを踏むときの減速度が 0.8g）で制動します。ドライバーが電動パーキングブレーキスイッチを解除すると、CDP 機能が停止します。

ヒルディセントコントロール (HDC) システム

HDC は、ESC システムのバリューアップを図る機能で、車両の快適性を改善させるものです。能動的に制動力を加えることにより、低速で下り坂を下りていくように車両の速度を制御します。

■ HDC の ON、OFF :

- ドライバーは、 → **ADAS** → **アクティブセーフティ** の設定画面から **ヒルディセントコントロール (HDC)** を ON/OFF することができます。
- 速度が 38km/h 未満の場合は、HDC アイコンをタッチすることで機能を ON にすることができます。ON にすると、コンビネーションメーターの HDC 機能表示灯が常時点灯します。





- HDC 機能を OFF にする場合は、再度 HDC アイコンをタッチします。このとき、コンビネーションメーターの表示灯が消灯します。また、速度が約 65km/h を超えると、HDC は自動で OFF になります。

- HDC 作動中にタイヤのスリップ率が ABS の作動しきい値を超えると、ABS が作動して安全でスムーズに下り坂を下りたり後退することができます。
- HDC 速度の制御：
 - HDC は、速度が約 11 ～ 38km/h の範囲内で機能し、範囲内の場合にはアクセルペダルやブレーキペダルを踏んだり離して速度を調整し、アクセルペダルまたはブレーキペダルを離れたときの速度を維持します。HDC 作動中にコンビネーションメーターの HDC 表示灯が点滅しているときは、HDC が機能していることを表します。
- HDC 機能故障：
 - 長い下り坂を走行するなどの特別な状況では、ブレーキが高温になり HDC 機能が一時的に使えなくなります。
 - このとき、コンビネーションメーターに「ヒルディセントコントロールシステム確認」のメッセージが表示されるため、安全運転を心がけてください。また、機能を復帰させるときは、安全な場所に停車してブレーキが冷えるまで待つ必要があります。

ESC システム操作について

インテリジェントパワーブレーキシステムは、従来の ESC システムに対して、次の機能を追加しています。

- ブレーキペダル制御モード
 - ブレーキペダル制御モードは、ブレーキペダルフィーリングを調整する場合に使用します。ブレーキペダルの深さと車両減速度の関係曲線がモードによって異なるため、ドライバーはお気に入りのブレーキペダルフィーリングを選択することができます。
 - ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から **ブレーキアシストモード** で **コンフォート/スポーツ** の制御モードを選択できます。
- コンフォートブレーキ
 - コンフォートブレーキは、緊急時以外の減速や停止時にインテリジェントパワーブレーキシステムが 4 つのブレーキの油圧を制御することにより、停車時のサスペンションの揺れや衝撃を軽減し、ドライバーにスムーズなコンフォートブレーキを提供します。
 - ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から **コンフォートブレーキ** の ON/OFF を設定することができます。
 - コンフォートブレーキが作動すると、制動距離が約 2 ～ 5cm 長くなる可能性があるため、停車前に先行車や前方障害物との距離を適切にあげてください。

■ ブレーキディスクワイピング

- ブレーキディスクワイピングは、ワイパースイッチを ON、または雨量センサーが雨滴を検知した場合、インテリジェントパワーブレーキシステムが 4 つのブレーキに油圧を軽く加えてブレーキパッドをブレーキディスクに当てることで、ブレーキディスクに付いている水分を落としてブレーキの素早い発揮や制動距離の短縮を図ります。
- システムが雨滴やワイパーの ON 信号を検知すると、安全性を向上させるために一定間隔でブレーキディスクの拭き取りを繰り返します。


■ ESC 作動時

- 坂道発進時、車両が滑ったり後退する、いずれかの駆動輪が空転する可能性がある場合は、ESC が作動して ESC 故障警告灯が点滅します。

■ ESC の使用禁止について

- 車両が積雪やぬかるみでスタックすると、ESC はモーターからホイールへの出力を下げる場合があります。スタックなどを脱出するときは、ESC を OFF にする必要があります。

■ ESC を OFF にする場合

- ESC システムを OFF にする必要があるときは、ESC OFF スイッチを押すか、 → **ADAS** → **アクティブセーフティ** の設定画面から **ESC OFF** を **ON** にします。また、ESC はリアルタイムで作動状態を確認しており、ESC 作動中に ESC を OFF にすると、すぐに OFF せず能動的に制御に介入し、制御介入が完了するまでは ESC が OFF にはなりません。
- ESC を OFF にした後、ESC を OFF にする、または速度がしきい値 (80km/h) を超えると、ESC が再度 ON になります。ESC が車両走行の制御に介入していない場合のみ、再度 ESC を ON にすることができます。

■ ESC OFF スイッチの誤操作 *

- ESC OFF スイッチを押し続ける時間が 10 秒を超えると、ESC は誤操作と判断してすべての内部機能の正常作動を保ちます。


■ 電源ポジション「OFF」後の ESC 再開

- ESC を OFF にしてから再度電源ポジションを「ON」にすると、ESC 作動が自動で ON になります。

■ 速度連動による ESC の作動

- ESC が OFF の状態で速度がしきい値 (80km/h) を超えると、車両の姿勢が極めて不安定になるため、ESC が自動で ON になります。

■ ESC 起動時

- ESC 故障警告灯  が点滅しているときは、慎重に運転してください。

■ ESC を OFF にした場合

- 細心の注意を払いながら、道路状況に応じた速度で運転してください。ESC は、車両安定性と駆動力を確保してくれるため、必要がない状況を除き OFF にはしないでください。

■ タイヤの交換

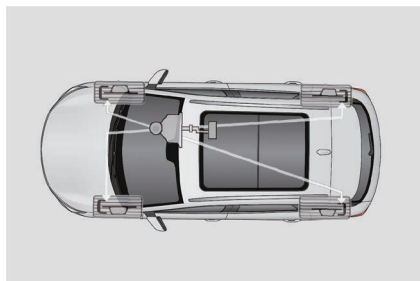
- すべてのタイヤは、寸法、ブランド、トレッドパターン、輪荷重を同一にしてください。また、推奨空気圧になるまでタイヤに空気を入れてください。
- 異なる種類のタイヤを装着すると、ABS と ESC が正常に作動できなくなります。
- タイヤやホイールの交換については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

■ タイヤおよびサスペンションの処置

- 不具合があるタイヤの使用やサスペンションの改造は、安全運転支援システムに影響を与えてシステムの故障を引き起こすおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

ABS の油圧システムは、独立する 2 つの回路がありそれぞれの回路は対角線上にあります (右側フロントタイヤブレーキと左側リアタイヤブレーキとの接続など)。1 つの回路が故障しても、残り 2 つのホイールに制動力を加えることができます。



ABS は、急ブレーキや滑りやすい路面でのブレーキ操作時に、車輪のロックやスリップを防止してステアリング制御の維持に役立ちます。

フロントタイヤがスリップしたときは、ハンドル操作ができずにハンドルを回しても車両が直進します。脈動する急ブレーキは、人間の反応よりもはるかに速いため、ABS は車輪のロックを防いでステアリング制御の維持に役立ちます。

- ABSが効かなくなるおそれがあるため、ブレーキペダルをポンピングして踏まないでください。危険を回避するためにハンドルを操作する場合は、ABSが作動するようにブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルが振動して作動音が聞こえることがあります。これは、ABSがポンピングブレーキによるもので異常ではありません。ABS作動の速さは、タイヤの駆動力（グリップ力）の強さによって決まります。

安全上の重要なメッセージ

⚠ 警告

- ABSは、車両を停止させるのに必要な時間および距離を短縮させることはできません。この機能は、ブレーキを掛けたときのステアリング制御を支援するものであるため、ドライバーは常に安全な車間距離を保ってください。
- 軟弱な路面やデコボコ路（砂利道や積雪路面）を走行する場合、ABS搭載車は、ABS非搭載車と比べると制動距離が長くなります。
- 下記の場合は、ABSを効果的に発揮できません。
 - グリップ力が弱いタイヤを使っているとき（雪が積もっている路面で過度な摩耗があるタイヤを使うなど）。
 - 高速で滑りやすい路面を走行するとき、または車両がスリップしたとき。

⚠ 注意

- ABS故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。
- ABSは、急旋回や急な車線変更などのハンドル操作によるスリップを防ぐことはできません。路面状況および天候を問わず、常に安全な速度で慎重に運転してください。

⚠ 注意（続き）

- ABSは、安定性の低下を防ぐことはできないため、急ブレーキ時は適切なハンドル操作を行ってください。また、大きなカーブや急カーブでは、対向車線に飛び出したり道路からはみ出しすおそれがあります。


車両接近通報装置 (AVAS)

車両接近通報装置 (AVAS) は、低速走行するときに歩行者に車両の接近を知らせるものです。

■ 前進時：

- 速度が $0\text{km/h} < V \leq 20\text{km/h}$ の場合、警告音はスピードアップするにつれ強くなります。
- 速度が $20\text{km/h} < V \leq 30\text{km/h}$ の場合、警告音はスピードアップするにつれ弱くなります。
- 速度が $V > 30\text{km/h}$ の場合、警告音は自動的に止まります。

■ 後退中は、車両から一定間隔で警告音を出し続けます。

- 警告音の音源は、 → **車両設定** → **スマートリマインダー** の設定画面から **車両接近通報 (AVAS)** を操作することで音源の切り替えができます。音源モードは、**スタンダード / ブランド** の2種類があり、発する警告音が異なります。



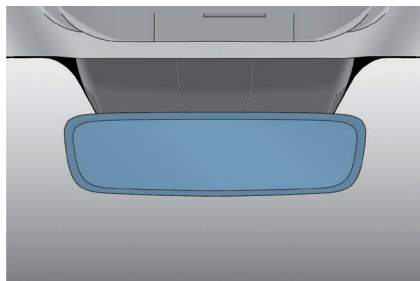
⚠ 警告

- 低速走行中に車両接近通報装置の通報音が聞こえない場合は、車両を安全で静かな場所に駐車し、ウィンドウガラスを開けてから「D」レンジで 20km/h の一定速度で走行（このときの音量が最大）して通報音が聞こえるかを確認してください。通報音が聞こえないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

ルームミラー

自動防眩ルームミラー*

自動防眩ルームミラーは、自動防眩機能を搭載しているため、車両周囲の環境に合わせてルームミラーのガラス色を自動的に調整し、強い反射光によるまぶしさを軽減します。








⚠ 警告

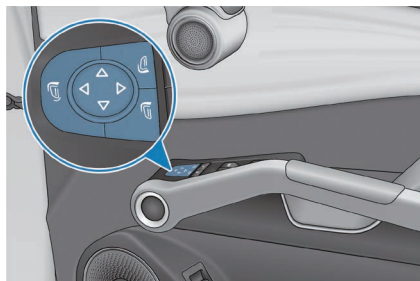
- ルームミラーに重量物を掛けたり、力強く揺らしたり引っ張らないでください。
- ルームミラーを手動で調節する場合に引っ掛かりがあるときは、ルームミラーが脱落しないように乱暴に調整しないでください。
- 運転に集中できず、死傷につながる思わぬ事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは、走行中にルームミラーを調節しないでください。

電動ドアミラー

ドアミラーの調整ボタン

電動可倒式ドアミラー

- 格納ボタン  を押すと、左右のドアミラーが同時に格納します。再度格納ボタンを押すと、左右のドアミラーが設定した位置まで開きます。
- 左側の電動ドアミラー調節スイッチ  を押すと、左側のドアミラーを選択できます。
- 右側の電動ドアミラー調節スイッチ  を押すと、右側のドアミラーを選択できます。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **サイドミラー** の設定画面から **ドアミラー自動格納** のON/OFFを設定することができます。
- ドアミラーのガラスは上下左右方向に調節することができ、 ボタンの上下左右に合わせて動きます。



警告


- 車両の操縦を誤り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあるため、走行中にドアミラーを調節しないでください。

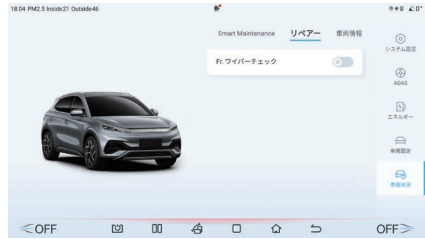
アドバイス

- ドアミラーが凍り付いた場合は、コントローラーを操作したり、ドアミラーの表面を削ったりしないでください。解氷スプレーでドアミラー表面の氷を落としてください。

ワイパー

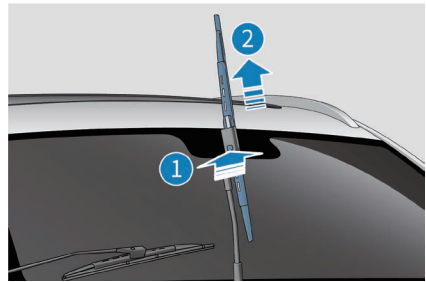
ワイパーブレードの交換

電源ポジション「OK」の状態で、 → **車両状況** → **リペアー** の設定画面から **Fr. ワイパーチェック** で、フロントワイパー点検機能を ON/OFF することができます。対象ワイパーの点検設定を **ON** にすると、ワイパーが自動で動いて点検や交換ができるようになります。



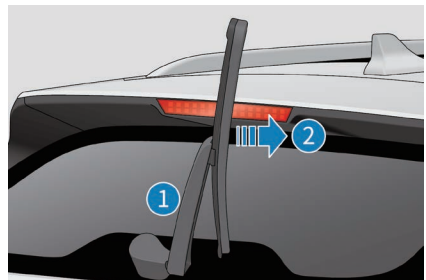
フロントワイパーの交換

1. 始めに運転席側のワイパーアームを立て、次に助手席側のワイパーアームを立てます。
2. ブレードロックボタン **①** を押します。
3. ブレード留め具を持ち、図に示す方向 **②** に取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



リアワイパーの交換

1. リアワイパーのワイパーアームを立てます。
2. ワイパーアーム位置 **①** を持ち、図に示す方向 **②** にブレードを真っすぐに抜き出します。
3. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



⚠ 注意

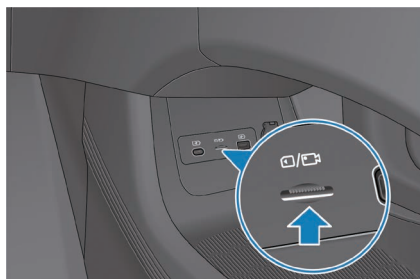
- ボンネットおよびワイパーアームが破損するおそれがあるため、ワイパーアームを立てている状態でボンネットを開けないでください。
- 洗車後にワイパーブレードを戻す場合は、ブレードがフロントガラスに直接ぶつかるようにワイパーアームを直接押し倒さないでください。
- ワイパー作動時、ワイパーブレードを折り曲げたり手などでワイパーブレードの動きを阻止しないでください。
- ワイパーブレードを交換する場合は、ワイパーアームを立てた後に手でしっかり支え、ブレード交換後はゆっくりと倒してください。ブレードを取り付けていない状態で誤ってワイパーアームがガラスに当たると、ガラスを破損させるおそれがあります。

ドライブレコーダー*

- ドライバーは、マルチメディアトップページから **ダッシュカム** を選択することで、ドライブレコーダーを操作することができます。始動時の初期設定は前回の設定です。
- ダッシュカムは、**リアルタイム画像**、**プレイバックリスト**、**設定** の3つの操作画面があり、走行情報を調べたり設定する場合に使います（操作の詳細については、**電子版ユーザーマニュアル**を参照してください）。
- ドライブレコーダーのカメラは、



- センターコンソールの下段にはドライブレコーダー専用のSDカードスロットが設置されています。



ドライブレコーダーの映像*

画面について

■ 画面に入ります。

- ドライバーは、マルチメディアトップページから **ダッシュカム** をタッチしてドライブレコーダーに入ります。

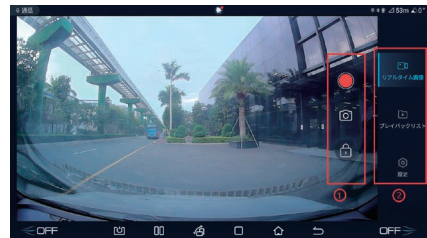


■ ① ファンクションメニューバー

- 録画、撮影、ファイルロックに対応します。

■ ② メニューバー

- リアルタイム画像、プレイバックリスト、設定を切り替えることができます。



リアルタイム画像：

映像録画

■ 次の手順で映像を録画することができます。

1. SD カードをセットします。
2. DVR をタッチし、ドライブレコーダー画面に入ります。
3. ファンクションメニューバー内の赤の録画アイコンをタッチし、録画を開始します。システムが前方の様子をリアルタイムで録画します。
4. 再度赤の録画アイコンをタッチすると、録画機能を OFF にすることができます。
5. 録画済みの映像は、プレイバックリストから選択して再生できます。

📌 アドバイス

- 車両に SD カードが付いていない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせたうえで、自ら適用の型番で購入し、セットしてください。

写真撮影

- ドライブレコーダーファンクションメニューバー画面から **カメラ** をタッチすると、システムは前方の車両映像を撮影してSDカードに記憶します。

ファイルロック

- ドライブレコーダーファンクションメニューバー画面から **ロック** をタッチすると、システムは現在録画している映像の衝撃前の20秒から衝撃後の10秒分をロックします。

アドバイス

- ロックされた映像は上書きされません。

プレイバックリスト

- 録画した走行映像やロックしたファイル、および撮影した写真を調べることができます。

設定

- この画面で映像の録画時間、解像度およびデータ削除を設定することができます。

注意

- 削除データは復旧できないため、削除前にすべてのデータを消す必要があるかを慎重に考えてください。

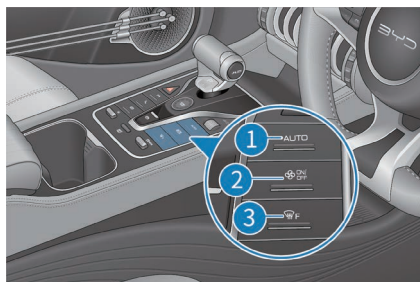
5-1 空調システム	207
エアコンパネルイメージ	207
エアコン操作画面	207
機能定義	210
吹き出し口	215
空気清浄システム *	216
クラウドサービス APP での エアコン操作	218
5-2 小物入れ	219
ドアポケット	219
グローブボックス	219
センターコンソール ボックス	220
シートバックポケット	220
カップホルダー	220
5-3 その他の装置	222
サンバイザー	222
アシストグリップ	222
USB ポート	223
12V アクセサリー電源	223
ワイヤレス充電エリア	224
リアシェルフ *	226
カーペット	227
5-4 マルチメディアシステム	228
マルチメディアコントロール パネル PAD	228
ナビゲーションバー	230
ジェスチャーおよび応答	231
BYD インテリジェント 音声制御機能	231
Bluetooth 電話	232
ファイル管理	233

5-5 BYD APP について ……	234
BYD APP について ……	234
アカウント登録 ……	234
車両状態および	
車両制御システム ……	235
個別センターおよび	
車両管理 ……	235
キャンプモード * ……	236


エアコンパネルイメージ

フロントエアコンボタン：

- ① オートボタン
- ② エアコン ON / OFF ボタン
- ③ フロントガラスデフロスターボタン



エアコン操作画面

- ドライバーは、 → 車両設定 → A/C の設定画面から、エアコンの各種機能を設定できます。



- 1 通話中風量低下
- 2 駐車時オートリサキュレーション
- 3 リモートコントロール空調の運転時間 (m)
- 4 自動 A/C モード *
- 5 自動空気清浄 *

通話中風量低下

- このアイコンをタッチすると、Bluetooth 通話中風量低下の設定が ON になります。
- 再度このアイコンをタッチすると、Bluetooth 通話中風量低下の設定が OFF になります。

駐車時オートリサキュレーション

- このアイコンをタッチすると、駐車時自動内気循環の設定が ON になります。
- 再度このアイコンをタッチすると、駐車時自動内気循環の設定が OFF になります。

リモートコントロール空調の運転時間 (m)

- リモートコントロール空調の運転時間を設定することができます。

自動 A/C モード *

- エコノミー モードまたは コンフォート モードを設定することができます。

自動空気清浄 *

- このアイコンをタッチすると、自動浄化機能が ON になります。
- 再度このアイコンをタッチすると、自動浄化機能が OFF になります。

フロントエアコン操作画面



- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1 エアコン設定アイコン | 9 フロントガラスデフロスター |
| 2 空気浄化システム* | 10 リアガラスおよびドアミラーデフロスター* |
| 3 シートヒーティングアイコン* | 11 外気導入 / 内気循環切替 |
| 4 エアコン操作画面アイコン | 12 換気 |
| 5 ファン ON / OFF | 13 助手席側エアコン温度調節 |
| 6 オートモード | 14 吹き出しモード選択 |
| 7 エアコン ON / OFF | 15 風量調節 |
| 8 最大エアコン | 16 運転席側エアコン温度調節 |

機能定義

オートモード

- このアイコンをタッチすると、アイコンが点灯し（フロントエアコンパネルの AUTO アイコン表示灯が点灯）、コンプレッサーの状態、風量の強さ、吹き出しモードを自動的に調節します。
- 風量や吹き出しモードを設定すると、オートモードが OFF になります。設定した操作機能を除き、その他の機能はオートモードのままです。

ファン ON / OFF

- エアコンが ON の状態でこのアイコンをタッチすると、エアコンを OFF にすることができます。
- エアコンが OFF の状態でこのアイコンをタッチすると、エアコンを ON にすることができます。



最大エアコン

- このアイコンをタッチすると、エアコンが最大冷房制御に入り、コンプレッサーが ON になり、温度が Lo、風量が最大、外気導入 / 内気循環状態が内気循環、吹き出しモードが上半身送風になります。
- 再度このアイコンをタッチすると、エアコンの最大冷房制御が OFF になります。

エアコン ON / OFF

- このアイコンをタッチすると、エアコンのコンプレッサーを ON にすることができます。アイコンが点灯しコンプレッサーが作動して冷房が機能します。
- 再度このアイコンをタッチすると、コンプレッサーが OFF になりコンプレッサーが停止します。

外気導入 / 内気循環切替

- 外気導入 / 内気循環アイコンをタッチすると、アイコンが  になり、外気導入モードから内気循環に切り替わります。
- 再度外気導入 / 内気循環アイコンをタッチすると、アイコンが  になり、内気循環モードから外気導入に切り替わります。

⚠ 警告

- 内気循環を長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなり視界が損なわれて危険なため、一時的な使用にしてください。
- 吹き出し風が長時間当たらないように注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- フロントガラスデフロスターを ON にしているときに、エアコンの設定温度を低くしないでください。フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。
- 湿気が多いときは、フロントガラスに冷風を吹き付けないでください。フロントガラスの車内外での温度差により、フロントガラスが曇ることがあります。
- お子様や介護を必要とされる方、ペットを車内に置き去りにしないでください。エアコンの設定をしても、自動停止などにより車内が高温または低温になることがあり、死亡につながるおそれがあります。

i アドバイス

- 駐車時オートリサキュレーションの設定が ON になっている場合は、車内の空気の質を確保するため、排気ガスが車内に入らないように駐車時循環モードが内気循環に切り替わります。

換気

- このアイコンをタッチすると、エアコンの換気制御が ON になり、外気が送り込まれます。
- 再度アイコンをタッチすると、エアコンの換気制御が OFF になります。

温度調節

- エアコン温度調節
 - 上側の矢印をタッチする、または下にスライドして、温度を上げます。下側の矢印をタッチする、または上にスライドして、温度を下げます。
 - 温度を最小に調節したときは、「L0」と表示されます。温度を最高に調節したときは、「HI」と表示されます。

フロントガラスデフロスター

- このアイコンをタッチすると、アイコンが点灯し（フロントエアコンパネルのフロントガラスデフロスター表示灯が点灯）、エアコンがフロントガラスデフロスター制御に入り、吹き出しモードがフロントガラスデフロスターモードに切り替わります。
- 再度このアイコンをタッチすると、アイコンが消灯し（フロントエアコンパネルのフロントガラスデフロスター表示灯が消灯）、エアコンのフロントガラスデフロスター制御が OFF になります。

リアガラスおよびドアミラーデフロスター *

- リアガラスおよびドアミラーデフロスターのアイコンをタッチすると、ドアミラー内蔵のヒーターの作動により、ドアミラーがきれいに映るようになります。再度操作しない場合、15分作動してから自動的に OFF になります。
- 再度このアイコンをタッチすると、リアガラスおよびドアミラーデフロスター機能を OFF にすることができます。
- この機能は、雨滴を乾燥させたり、雪を溶かしたりするものではありません。



注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。

アドバイス

- 長時間ドアミラー内蔵のヒーターで除霜機能を使う場合は、ガラスの早期劣化につながるおそれがあるため、不要なときは早めにデフロスターを OFF にしてください。

風量調節

- エアコン風量調節
 - ご希望の風量調節アイコンを押します。数が多いほど風量が強くなります。
 -  をタッチすると最小風量になり、 をタッチすると最大風量になります。

吹き出しモード選択

- エアコン画面から、目的の吹き出しモードを選択できます。
- 吹き出しモードは自由に組み合わせることが可能で、ご希望に応じて吹き出しモードを3つまで同時にONにすることができます。
- 右記の吹き出しモードイメージから調節することができます。



ご利用要領

- 車内の温度が高い場合は、車内の温度を素早く下げるために窓を開けて数分間運転してください。熱気を車外へ出すことで、素早く車内を冷やすことができます。
- 車内の温度を素早く下げるには温度を「Lo」に調節し、内気循環モードで数分間エアコンを稼働してください。
- フロントガラス前のエアインレットグリルが、落ち葉や雪などで詰まっていないことを確認してください。
- 車内の空気が循環できるように、フロントシートの下に荷物を置かないでください。
- ウィンドウガラスの曇りを低減するため、寒いときはエアコンの風量を強の方に設定して1分間稼働し、吸気経路にある雪や湿気を取り除いてください。
- 車内の温度が低い場合は、車内の温度を素早く上げるために内気循環モードで数分間エアコンを稼働します。フロントガラスが曇らないように、車内が温まった後は外気導入モードにします。
- ほこりが多い道路で他車の後ろを走行する場合、または風とほこりがある状況で走行する場合は、すべてのウィンドウガラスを閉めることをおすすめします。また、エアコンを内気循環に設定し、エアコンをONにします。
- 暖房運転時、エアコン ON/OFF アイコンを押してアイコンが点灯（エアコンをON）すると、空気中の湿気を減らすことができます。
- 換気モードでは、車外の自然な空気を車内に導入するため、春や秋の運転に適しています。

i アドバイス

■ エアコンの異臭について：

- エアコン作動時に吹き出した風からカビの臭いがすることがありますが、エアコンからの異臭発生は異常ではありません。エアコン使用中は、エバポレーターに結露が付着しやすく、フィルターにキャッチされなかった人の汗やタバコの煙などが湿ったエバポレーターに吸着されます。暗く湿ったエバポレーター表面にはカビが発生しやすいため、カビが長期間にわたって発酵することにより、異臭が発生しやすくなります。

■ 異臭の防止について：

- 停車前にエアコンを消し、外気導入で換気することにより、比較的乾燥した状態を保つことができます。
- エアフィルターを定期的に点検、清掃、交換します。
- できるだけ車内を清潔にし、車内の空気をきれいに保ちます。

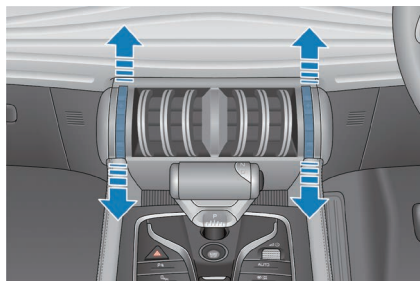
■ 異臭対策を行っても異臭が発生する場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で修理してください。

■ エアコンから発生する異臭を改善するため、エアコン作動状態で電源ポジションを「OFF」にして施錠すると、エアコンのブロワーがしばらく作動を続けることがあります。ブロワーが作動する目的は、エバポレーター表面の結露を乾かし、エバポレーター表面のカビによる異臭を避けるためです。車両施錠後も、エアコンのブロワーが自動的に作動していても異常ではありません。

吹き出し口

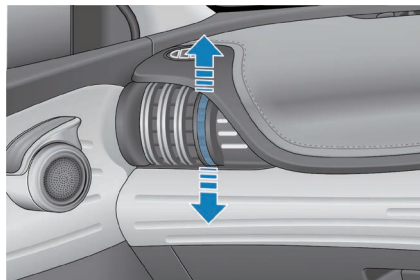
フロント側中央吹き出し口

- 調節ダイヤルで風量や吹き出し口の開度を調節することができます。
- 左右方向に吹き出し口中央部のノブを操作すると、風の向きを調節することができます。



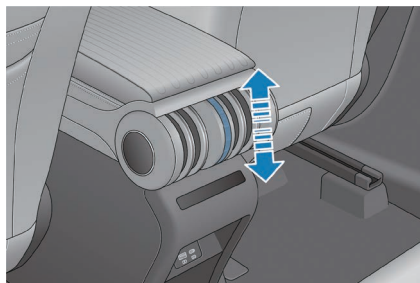
フロント側サイド吹き出し口

- 調節ダイヤルで風量や吹き出し口の開度を調節することができます。
- 左右方向に吹き出し口中央部のノブを操作すると、風の向きを調節することができます。



リア側吹き出し口

- 調節ダイヤルで風量や吹き出し口の開度を調節することができます。
- 左右方向に吹き出し口中央部のノブを操作すると、風の向きを調節することができます。



空気清浄システム*

空気清浄システムは、車内のPM2.5を清浄します。この機能により、エアコンをONにして車内に送り込まれた空気中のPM2.5をきれいに取り除きます。

空気清浄操作画面

ドライバーは、フロントエアコン操作画面から**空気清浄**をタッチすると、空気清浄画面を表示できます。



- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 空気清浄操作画面のアイコン | ④ 急速清浄 |
| ② 車外のPM2.5濃度および指数の表示 | ⑤ 車内のPM2.5濃度および指数の表示 |
| ③ PM2.5 detection | |

PM2.5 detection

- このアイコンをタッチすると、アイコンが点灯してリアルタイムに車内 / 車外の PM2.5 濃度を検出します。
- 画面に車内 / 車外の PM2.5 の値をリアルタイムに表示します。アイコンが消灯すると、車内 / 車外の PM2.5 の検出を停止します。

急速清浄

- 急速清浄機能は、短時間で車内空気中の PM2.5 濃度を素早く低減させることができます。
- このアイコンをタッチしてアイコンが点灯すると、急速清浄機能が ON になります。再度タッチしてアイコンが消灯すると、急速清浄機能が OFF になります。

車内の PM2.5 濃度および指数の表示

- 車外 / 車内の検出濃度および指数を表示します。
- 車載空気清浄システム (PM2.5) 検出器は、検出器を搭載した車両周辺の大気中の PM2.5 を短時間で検出する装置です。国や関係省庁が発表する日報やリアルタイムの大気中 PM2.5 濃度とは異なります。

空気質指数の参考：

PM2.5 濃度範囲	空気質指数
0-35	非常に良い
36-75	良い
76-115	敏感体質の方に良くない
116-150	健康に悪い
151-250	健康に非常に悪い
251-999	危害が生ずる

i アドバイス

- 下記の環境では、PM2.5 検出の使用頻度を下げてください。
 - 砂嵐などの極めて過酷な環境。
 - 寒冷地（周囲温度 < -20℃）。
 - 高湿度な環境（相対湿度 > 90%）。
 - 寒い環境から暖かい室内や駐車場に入るなど温度変化を繰り返す環境（結露が発生しやすい）。
- 内気循環モードで最大風速にすると、車内空気中の微粒子濃度を素早く下げることができます。

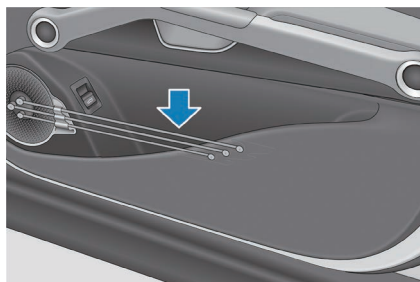
クラウドサービス APP でのエアコン操作

BYD APP トップページで **A/C** をタッチすると、エアコン制御画面に入ります。制御画面でエアコンの温度や作動時間の調節、予約などが行えます。

- **+** または **-** をタッチすると、エアコンの設定温度を調節することができます。また、**強** 冷房モード、または **弱** 冷房モードでエアコンを起動することもできます。
- **その他の設定** からエアコンの作動時間と循環モードを設定できます。
- **予約** から 24 時間以内の指定した時間にエアコンの起動予約ができます。

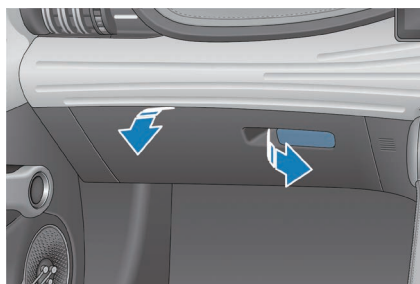
ドアポケット

- それぞれのドアには、ペットボトルや小物などを格納するためのドアポケットが付いています。



グローブボックス

- ノブを引くと、グローブボックスを開けることができます。
- グローブボックスを押し上げると、閉めることができます。



5

車内装置

⚠ 警告

- 思わぬ事故や急ブレーキ時に怪我をする可能性を減らすため、運転時はグローブボックスを閉めてください。
- グローブボックスはゆっくり開けてください。開いたときに身体に当たると、怪我につながるおそれがあります。
- 可燃性ガスの入ったスプレー缶やガスライターを、グローブボックスなどの小物入れに入れたままにしたり、床やシートの隙間に落としたままにしないでください。引火して爆発や火災につながるおそれがあります。

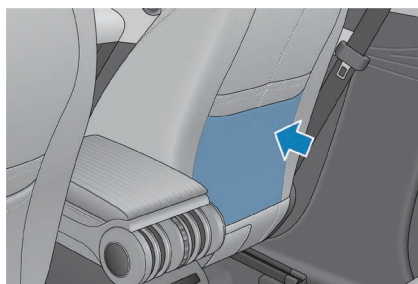
センターコンソールボックス

- フロントシートの中央部にあり、センターコンソールボックススリッドを開けると使えます。



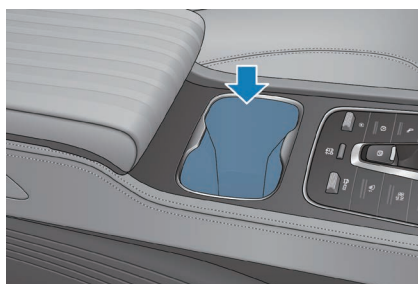
シートバックポケット

- フロントシートバックには、雑誌、新聞などを入れるためのシートバックポケットが付いています。



カップホルダー

- フロントシートのカップホルダーは、センターコンソールの中央部にあります。



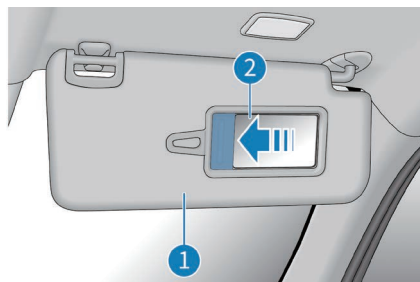
⚠ 警告

- 運転中は、カップホルダーから飲み物を出し入れしないでください。前方不注意により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかりと蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れないでください。スイッチや配線などの電気部品にかかると故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 熱い飲み物は、カップホルダーに置かないでください。急発進や急ブレーキでこぼれて飛び散ると、乗員がやけどをするおそれがあります。
- ビンなどの硬いものは入れないでください。側面衝突のときに、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車内のスイッチや、マルチメディアコントロールパネル PAD などに飲み物をこぼさないでください。故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

サンバイザー

① サンバイザー

- 前方からの光を遮るには、サンバイザーを下方方向に操作してください。
- 側方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下げた状態でフックから外し、横へ回します。



② バニティーミラー

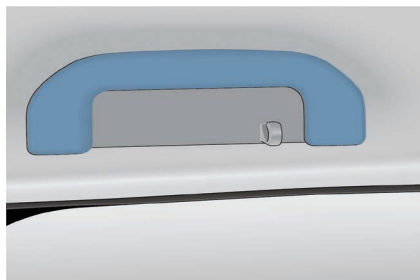
- バニティーミラーを使うときは、サンバイザーを下方方向に操作し、バニティーミラーの蓋をスライドさせます。

i アドバイス

- 正しく適切にサンバイザーを使うと、運転時の快適性や安全性を向上させることができます。

アシストグリップ

- アシストグリップを使うときは下に引き、使わないときは手を離すと自動で戻ります。



⚠ 注意

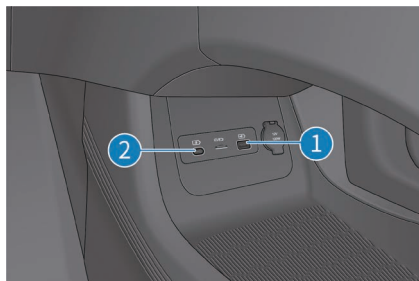
- 怪我やアシストグリップの破損を避けるため、アシストグリップに重量物をかけないでください。

USB ポート

フロント側 USB ポート

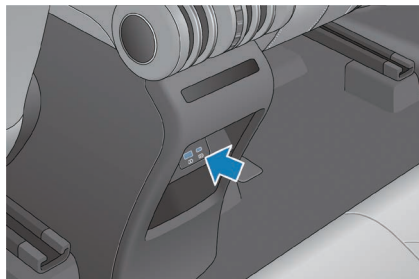
センターコンソールの下段に二つのポートが設置されています。

- ① Type-A ポートで、データの伝送に対応します。
- ② Type-C ポートで、充電用です。使う場合は、事前に車両の電源ポジションを「OK」にしてください。



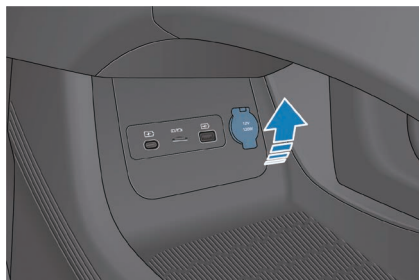
リア側 USB ポート

- USB ポートは充電用で、複数の機器を接続することはできません。
- 使う場合は、事前に車両の電源ポジションを「OK」にしてください。



12V アクセサリー電源



- 作動電圧 DC12V、かつ作動電流が 10A までのアクセサリーに対応します。
- 12V アクセサリー電源を使う場合は、蓋を開けて車両の電源ポジションを「OK」にしてください。

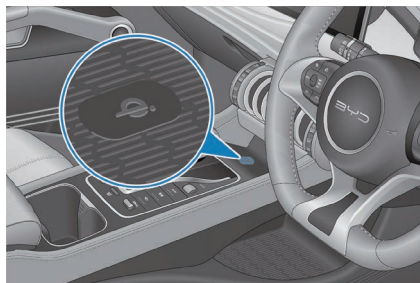


⚠ 警告

- 電源ソケットを使う場合は、下記の事項を守ってください。不適切な使用によりフューズが切れるだけでなく、車両火災や乗員がやけどするおそれがあります。
 - 消費電力 120W 以下の電気器具を使用する
 - アクセサリーのプラグは電源ソケットの奥まで挿入する
 - 電源ソケットに水をかけない
 - 電源ソケットに異物を入れない
- 電源ソケットやアクセサリーのプラグは熱くなることがあります。

ワイヤレス充電エリア

- ワイヤレス充電器は、電源ケーブルを使わずに電磁誘導で携帯電話を充電するものです。
- マルチメディアタッチパネル PAD の **ショートカットメニュー** から、**ワイヤレス充電機能設定**  をタッチすると、アイコンが点灯してワイヤレス充電機能が ON になります。
- 車両始動後に、携帯電話の画面を上向きにしてワイヤレス充電エリアに置くと、携帯電話が自動的にワイヤレス充電モードになります。
- ワイヤレス充電機能を OFF にする場合は、マルチメディアタッチパネル PAD の **ショートカットメニュー** から、**ワイヤレス充電機能設定**  をタッチすると、アイコンが消灯してワイヤレス充電機能が OFF になります。
- ワイヤレス充電機能は、すべての携帯電話ではなく、Qi 認証取得済みの携帯電話のみに対応しています。
- カードの焼損を防ぐため、充電中はキャッシュカードなどのチップ付きカードを携帯電話ケースと携帯電話の間に入れしないでください。



⚠ 警告

- 運転中に、携帯電話の充電状況を長時間確認しないでください。交通事故につながるおそれがあります。
- やけどをするおそれがあるため、ワイヤレス充電中は携帯電話とゴムパッドの間に詰まった金属製の異物を、素手で取り除かないでください。

⚠ 注意

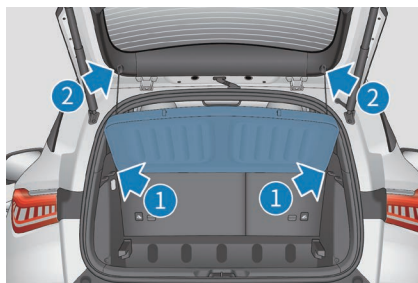
- ワイヤレス充電機能が作動しているときは、リモートキーをワイヤレス充電エリアから 25cm 以内に置かないでください。
- 事故にかかわるワイヤレス充電機能の異常を避けるため、コインや金属キー、金属リング、金属成分を含んでいる他のものを、携帯電話と一緒にワイヤレス充電エリアに置かないでください。
- 充電エリアの破損を避けるため、充電エリアには重量物を置かないでください。また、ワイヤレス充電機能が故障して正常に使えないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 誤った使い方による問題について、当社はいかなる責任も負いません。製品の解体や改造があった場合、無償保証サービスが受けられなくなります。
- 火災などにつながるおそれがあるため、ドライバーが車内にいない状態で携帯電話を充電しないでください。
- より良い充電効果を得るためには、携帯電話のコイルの中心をワイヤレス充電器の中心（充電エリアの印字部）に合わせてください。合わせないと充電できないことがあります。
- 充電エリアに水がかからないようにしてください。水がゴムパッドの隙間からワイヤレス充電器に侵入し、充電器が故障するおそれがあります。
- 温度が高すぎると携帯電話の充電が止まることがあります。温度が下がると充電が再開します。
- 外付けのワイヤレス充電コイルによる不具合について当社は一切保証できませんので、注意してご使用ください。

① アドバイス

- 一度に1台の携帯電話しか充電できません。
- 携帯電話ケースが厚すぎる場合は、充電できないことがあります。
- 悪路を走行中は、ワイヤレス充電機能が充電停止と充電再開を繰り返すことがあります。
- 可能な限り、携帯電話の裏側を充電モジュールと密着するように置いてください。携帯電話がワイヤレス充電エリアからずれて充電が止まったときは、携帯電話をワイヤレス充電エリアに戻してください。
- 携帯電話が正常に充電できないときは、始めにワイヤレス充電エリアに異物がないか確認し、ワイヤレス充電エリアが冷えてから充電を再開してください。それでも充電できないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 車両の電源ポジション「OFF」後、携帯電話がワイヤレス充電エリアにある状態で運転席側ドアを開けると、コンビネーションメーター内のブザーが1回鳴り、「携帯電話 置き忘れ注意」のメッセージが5秒ほど表示されます。
- 充電するしないにかかわらず、携帯電話は横置きでご使用ください。携帯電話を縦置きにすると、ワイヤレス充電エリアからはみ出し、Rレンジへのシフトチェンジを妨げることがあります。

リアシェルフ*

- プライバシーを守って直射日光を避けるため、リアシェルフで荷物を覆うことができます。
- リアシェルフのフック部①を両側のCピラーパネル下部の突起にはめ込んでから、リアシェルフの紐②をかけます。
- リアシェルフの取り外し方は取り付けと逆の手順です。



⚠ 警告

- リアシェルフを取り付けるときは、リアシェルフがしっかり取り付けられていることを確認してください。
- リアシェルフにものを置かないでください。
- お子様をリアシェルフに乗せないでください。リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

カーペット

専用のカーペットが設定されていますので、正しく固定してご使用ください。

⚠ 警告

- 運転前に、カーペットが正しく固定されていることを定期的を確認してください。車内のクリーニング後は必ず確認してください。
- 運転席にカーペットを敷く場合は、カーペットでペダルを覆ったり、重ねて敷いたり、前後逆さまや裏返して使用しないでください。
- タバコの火種をカーペットに落とさないでください。火災につながるおそれがあります。

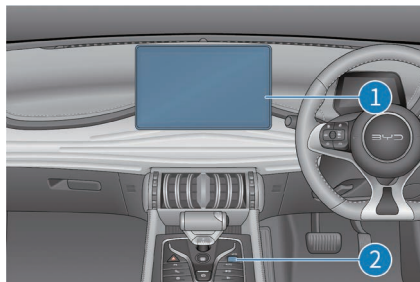
マルチメディアコントロールパネル PAD

車両の電源ポジションを「OK」にすると、初期画面を数秒表示してからシステムが作動します。マルチメディア関連の機能（たとえば、APP やインターネット通話など）を活用するときは、インターネットに接続してから使用してください。

初めてシステムを起動すると、警告ページが表示されます。「同意する」をタッチすると、システムインターフェイスに入ります。

マルチメディアタッチスクリーンをカスタマイズし、必要に応じて項目を選択できます。Wi-Fi、Bluetooth、モバイルデータ接続、音量、明るさ、一般的な制御機能などの項目を設定することで利便性を高めることができます。

- 1 マルチメディアタッチスクリーン
- 2 ホイールボタン



- マルチメディアが作動している状態でホイールボタン②を1回押すと、オーディオがOFFになります。再度押すと、オーディオがONになります。3秒以上長押しすると、マルチメディアが再起動します。
- マルチメディアが作動している状態で上方向（フロント方向）にホイールボタン②を回すと、音量が上がります。下方向（リア方向）にホイールを回すと、音量下がります。音量は0～39の範囲内で変化し、音量が0のときは、ステータスバーにミュートマークが表示されます。

工場出荷時設定に戻す場合

- 工場出荷時設定に戻すをタッチすると、マルチメディア機器に設定されているすべてのデータが工場出荷時の状態に戻ります。
 - 工場出荷時の状態に戻している間は、車両の電源は切らないでください。また、エラーの発生を防ぐためマルチメディア機器のアイコンに触れないでください。
 - 工場出荷時の状態に戻す作業は、2～5分掛かるためしばらくお待ちください。

⚠ 警告

- 車内でハイパワーインバーターを使わないでください。マルチメディアシステムの異常につながるおそれがあります。
- オペレーティングシステム入れ替えや Root 化は禁止です。マルチメディアシステムや車両の異常につながるおそれがあります。
- 安全運転のために、運転中はマルチメディアタッチスクリーンを横向きにして使ってください。
- 前方不注意になるおそれがあるため、運転中は絶対にオーディオなどをマルチメディアタッチスクリーンで操作しないでください。
- オーディオの音量を大きくしすぎると、車外の状況が分からないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンターテインメント機能の使用は、駐車中だけにしてください。運転中の使用は交通事故につながるおそれがあります。
- 運転中のテキスト送信の禁止やハンズフリーの使用義務など、電話の使用に関する法規に従ってください。Bluetooth を ON にした状態でも、運転中の携帯電話の使用やプログラミングは交通事故につながるおそれがあります。
- アップグレードプロセス中は車両は走行できず、施錠 / 解錠、室内ランプ、ウィンカーおよび窓の開閉機能を除いた車両機能は一時的に無効となります。

▲ 注意

- タッチスクリーンの破損を防ぐために
 - 指でタッチスクリーンを軽くタッチしても反応がないときは、タッチスクリーンから指を離し、再度タッチしてください。
 - タッチスクリーンを拭くときは柔らかい布を使用し、洗剤は使わないでください。
- タッチスクリーンを使う場合は
 - タッチスクリーンの温度が低いと、表示された画像が暗く見えたり、システムの作動がいつもより遅いときがあります。
 - サングラスをかけてタッチスクリーンを見ると、暗く見えたりきれいに見えないときがあります。タッチスクリーンの角度を変えるか、サングラスを外してください。
 - 灰色のアイコンは操作できません。
- タッチスクリーンの表示は参考表示であり、具体的には現物に準じます。
- マルチメディアシステムに故障があった場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

ナビゲーションバー

- ↶ : 前の画面に戻す、またはプログラムを終了します。
- 🏠 : メイン画面アイコンをタッチすると、メイン画面に戻ります。
- : マルチタスクアイコンをタッチすると、最近利用していた APP を調べることができます。
- 🔄 : スクリーン回転アイコンをタッチすると、マルチメディアタッチスクリーンが横向き、または縦向きに回転します。
- 📺 : 画面分割アイコンをタッチすると、画面分割に対応する APP が画面分割状態になります。
- 🔒 : 画面ロックキーをタッチすると、スクリーンセーバーの状態になります。
- 🚗 : タッチすると、車両設定画面になります。
- 自車はマップアプリをカスタマイズすることができ*、目的地の検索、ルート検索、ナビゲーション（オンラインおよびオフライン）、リアルタイムな道路交通情報および交通渋滞情報、音声放送、最適な経路推薦などの機能に対応しており、地点登録や家 / 会社の設定などが可能です。
- マップ画面全体の対話型コントロールがマルチメディアタッチスクリーンに設定されているため、最寄りの充電スポットや駐車場などを簡単に調べることができます。



ジェスチャーおよび応答

ジェスチャー操作および応答は次の通りです。

- **タッチ**：APP を立ち上げる、機能を選択する、スクリーン上のキーを押す、スクリーンのキーで文字を入力する場合は、スクリーンをタッチしてください。
- **ドラッグ**：アイコン、サムネイル、またはプレビューを新規位置へ移動する場合は、押しながら目的の位置にドラッグして離してください。
- **スワイプ**：メイン画面、または APP の画面でこの操作を行うことができます。
- **ダブルタップ**：ダブルタップすると写真を拡大表示することができます。再度ダブルタップすると戻ります。
- **ピンチアウト / ピンチイン**：指 2 本で画面をタッチして間隔を広げると、画像の一部を拡大表示できます。間隔を縮めると縮小表示できます。

BYD インテリジェント音声制御機能

BYD インテリジェント音声制御機能は、ナビゲーション起動、音楽再生 / ラジオ放送、電話発信、エアコンなどの車内装置の制御を、音声指示で実現できます。

- **音声制御による起動方法**：
 - ステアリングホイール上のキー  を短く押します。
 - インフォテインメントシステム上のアイコン  をタッチします。
 - 音声起動ワード：「ハイ、BYD」。
- ドライバーが BYD インテリジェント音声制御機能を起動した後、ドライバーの音声指示を受信して認識を開始します。
- このとき、ドライバーは音声で任意の指示を出すことができます。
 - 例：「目的地を家にする（家の場所を事前登録する必要があります）」、「歌を聞きたい」、「〇〇に電話して（アドレス帳を登録し携帯電話の Bluetooth に接続する必要があります）」、「エアコンの温度を 23 度に調整して」、「運転席のシートヒーター機能を ON にして」などを指示できます。BYD インテリジェント音声制御機能が音声指示を識別した後に該当の操作を行います。



Bluetooth 電話

Bluetooth 接続

1. Bluetooth 電話画面に入り **Bluetooth 接続** アイコンをタッチすると、ジャンプ接続します。
2. **デバイスを検索** をタッチして、利用可能なデバイスを検索します。
3. 接続可能な機器を選択しペアリングをします。携帯電話とマルチメディアタッチスクリーンのペアリングコードが合っていることを確認します。
4. 接続完了後、Bluetooth に対して様々な設定を行うことができます。

Bluetooth 電話

Bluetooth に接続した後、ダイヤル画面に入ります。

- 連絡先、最近の通話記録および不在着信記録をタッチして発信することができます。または、テンキーパッドで電話番号を入力して電話を掛けることもできます。
-  をタッチするとダイヤル画面が縮小表示されます。再度タッチするとフルスクリーンのダイヤル画面に戻ります。
-  をタッチするとダイヤルキーボードを表示します。再度タッチするとキーボードを隠します。
- 映像画面が表示されている状態で着信がある場合は、受信画面が最小化ウィンドウで開きドライバーに伝えます。

ファイル管理

新規作成

- ファイル管理ページに入るとフォルダを新規作成できます。カーソルの位置に、新規フォルダの名称を入力して **確定** をタッチします。 **キャンセル** をタッチすると、フォルダの新規作成を終了することができます。
- メイン画面の上側をタッチすると、ファイルソースを切り替えることができます。

検索

- メイン画面の左上の **検索** をタッチすると検索画面に入ります。また、検索ボックスにファイル名を入力した場合もファイルを検索できます。

移動またはコピー

- メイン画面のファイルアイコンを長押しして該当のファイルを選択します。対象の操作 (**コピー**、**移動**、**削除**) を選択して **確定** をタッチすると、該当コマンドの編集状態に入ります。

名前変更

- メイン画面のファイルアイコンを長押しし、表示されたダイアログボックスから **名前変更** を選択します。名前を変更する対象フォルダを選択し、表示されたダイアログボックスにフォルダ名を入力して **確定** をタッチすると完了します。

削除

- メイン画面のファイルアイコンを長く押し、削除するファイルを選択すると削除ができます。

並び替え

- ファイルは名前順で並んでいます。名前、サイズ、タイプ、時間の4つからファイルを並び替えできます。

プロパティ

- メイン画面のファイルアイコンを長押ししてファイルを選択します。詳細をタッチすると、ファイルの **プロパティ** を確認できます。

BYD APP について

- BYD APP は、BYD が自ら開発した車両のインターネット関連モバイル APP で、遠隔制御や車両状況チェックなどの機能を手軽に確認でき、お客様を車のインターネットクラウド時代に導いてくれます。
- Google Play 市場または App Store でキーワード「BYD」を検索して、BYD APP をダウンロード・インストールしてください。



アカウント登録

BYD APP をダウンロードしてインストールした後、携帯電話の案内または次の手順に従って、登録およびアカウントへのサインインを行います。

1. APP を立ち上げて **登録** をタッチし、**登録** 画面に入ります。
2. ご購入の際にディーラーで登録したメールアドレスを入力して **メールを送信** をタッチし、キャプチャ認証文字を取得します。その後 APP に戻りキャプチャ認証文字を入力します。
3. サインインパスワードの設定画面に入ってパスワードを設定した後、**登録完了** をタッチするとメイン画面に入ります。

⚠ 注意

- 必ずディーラーで登録したメールアドレスを入力してください。そうしないと、登録が完了できません。
- APP 右上で国を選択することができます。初期設定はお客様の携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域となっています。ご購入先の地域が携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域に一致していない場合は、ご購入先の地域を選択してください。そうしないと、お客様のデータを取得できません。

車両状態および車両制御システム

APP トップページに入ると、車両に関連する情報や該当の制御項目を調べることができます。

1. トップページでは、車両の航続可能距離、バッテリー残量、異常情報、走行状態、充電状態、エアコン作動情報、ドアとウィンドウの状態、シートに通気・加熱状態、タイヤ空気圧の異常などを調べることができます。
2. 施錠、解錠、パッシング・ホーン鳴らし、パッシングのアイコン4つのいずれかをタッチすると、該当の機能を直接制御することができます。
3. エアコンは、トップページで ON/OFF することができ、**A/C** をタッチすることでエアコン制御画面に入り、温度などを設定することができます。
4. **シート、ドアとウィンドウ、タイヤ空気圧** は、トップページ下側の各制御項目をタッチして該当の画面に入り、状態を調べることができます。
5. お客様の同一アカウントに複数台車両が登録されている場合は、車両名称をタッチすることで車両を切り替えることができます。

⚠ 注意

- APP の制御機能は主に遠隔制御シーンに対応するものであり、当該機能を利用する際は、携帯電話と車両をインターネットに接続している状態にしてください。

個別センターおよび車両管理

トップページ右上のアイコンをタッチすると、個別センター画面を表示することができます。

- **車両管理** にアクセスすると車名とナンバーを変更できます。
- **アカウントとセキュリティ** に入ると、パスワードのリセットまたは変更ができます。
- **設定** に入ると、プッシュ通知の対象項目の選択や自動ログインなどの機能を ON・OFF できます。
- **当社について** に入って、プライバシーポリシーをご閲覧いただき、ご意見をフィードバックするようお願いいたします。

キャンプモード*

キャンプモードにアクセス：センターディスプレイのドロップダウンリストにある場面モードから選択する、またはBYD インテリジェント音声制御からキャンプモードに入ります。キャンプモードに入る場合は、バッテリーSOCが20%以上で「P」レンジにする必要があります。

- ドア施錠後、アンビエントライトや外部ライトが自動的に消灯し、再度ドアを開けると外部ライトがONになります。
- サンルーフ、サンシェードは閉まります。キャンプモードでは、サンルーフを開けたままサンシェードを閉めることができます。
- 4つのドアガラスが閉まり、4つのドアも自動的に施錠します。
- エアコンがONになります。

キャンプモード終了：センターディスプレイのドロップダウンリストにある場面モードで選択する、またはBYD インテリジェント音声制御でキャンプモードを終了できます。

次の場合は、キャンプモードが自動的に終了します。

- バッテリーSOCが15%以下
- 「P」レンジになっていない

注意

- キャンプモードでは、シフトレバーパネルのエアコンスイッチボタンが使用できません。
- ベビーモード*とキャンプモード*を同時にONにすることはできません。

6-1	メンテナンス上の ご注意	238
	メンテナンス周期および メンテナンス内容	238
6-2	定期メンテナンス	245
	定期メンテナンス	245
	車両の防食について	245
	塗装メンテナンスのお願い	246
	洗車	247
	車内の清掃	249
6-3	セルフメンテナンス	252
	セルフメンテナンス	252
	サンルーフの メンテナンスについて	256
	車両の保管	258
	ボンネット	259
	冷却システム	260
	ブレーキシステム	261
	ウォッシャー	261
	空調システム	262
	ワイパーブレード	262
	タイヤ	264
	フューズ	268

メンテナンス周期およびメンテナンス内容

車両メンテナンス計画

- メンテナンス計画は、安定した走行、故障の低減、安全運転およびエコ運転を実現するために設計されています。
- メンテナンスの間隔は、メンテナンス周期表を参照して走行距離や時間間隔に合わせて判断し、いずれかの早い方に準じます。
- 期限切れのメンテナンス項目も、同じ時間間隔でメンテナンスを行う必要があります。
- ホース（冷暖房システム、ブレーキシステムなどに使われるホース）は、メンテナンス周期表に従い、専門の技術者に点検を依頼してください。
- これらは特に重要なメンテナンス項目であるため、それぞれのメンテナンス間隔がメンテナンス周期表に記載されています。ホースに劣化や破損がある場合はただちに交換してください。
- メンテナンス周期表には、車両を常に最適な状態に保つために必要なすべてのメンテナンス項目を記載しています。
- メンテナンス作業はBYDの基準および規格に従い、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で実施してください。
- メンテナンス周期表に記載されている点検項目および走行時間や走行距離は、車両を通常の交通手段である乗員や荷物の搬送に使用する用途として想定しているため、過積載がないようにしてください。

注意

- BYDの「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的の実施してください。

メンテナンス計画について

通常のメンテナンス周期表に従って、車両のメンテナンスを実施してください。
下記の状況が1つ以上当てはまる場合は過酷な使用条件となり、一部項目のメンテナンス周期が異なります。

■ 路面状況

- 悪路、ぬかるんだ路面、融雪路
- ほこりの多い路面

■ 運転状況

- キャンピングトレーラーを含むトレーラーの使用

メンテナンス周期表

メンテナンス時の走行距離と使用時間のうち、いずれか早い方に準じます。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
シャーシ各部固定ネジの確認および締付*	12ヶ月、または20000km毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキペダルと電動パーキングブレーキスイッチの点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は24ヶ月、または40000kmで点検する。その以後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その以後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。
ブレーキパッドとディスクの点検	12ヶ月、または20000km毎に点検する。
ブレーキシステムのラインおよびホースを点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は24ヶ月、または40000kmで点検する。その以後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その以後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ブレーキキャリパー ASSY のガイドピンを確認	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。
ステアリング、タイロッドの点検	初回は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その後は 24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。
ドライブシャフトダストブーツの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
ボールジョイントダストブーツの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
前後サスペンションの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤと空気圧の確認 (TPMS を含む)	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
前後輪アライメントの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤローテーション	毎月 1 回以上空気圧とタイヤを点検し、10000km 毎に位置を交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ドアストッパーの確認	湿らせた柔らかい布でチェックロッドのほこりを取り除き、チェックロッド、リベットジョイント、回転軸に0.3～0.8gのグリスを塗布する。12ヶ月、または20000km毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ホイールベアリングの遊びを確認	24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。
サブタンクのクーラントレベルを確認	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーモーター冷却水の交換	4年、または100000km毎にロングライフ有機酸系クーラントを入れ替える。いずれかの早い方に準ずる
ブレーキフルードの点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキフルードの交換	2年、または40000km毎に入れ替える。
車両モジュールの故障コードを確認 (記録後にクリア)	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリートレイ、ガード、クラッシュバー、取付部のトルクを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリー セルフキャリブレーション	72000km、または6ヶ月毎に (アドバイスを参照)

メンテナンス項目	メンテナンス周期
トランスミッションギアオイルの交換	ギアオイル入れ替えの初回は24ヶ月、または40000kmで、その後は24ヶ月、または40000km毎にギアオイルを入れ替える。
パワートレインに液漏れや衝突などがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧ワイヤーハーネスまたはコネクタの緩みがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧モジュールの外観部品の変形、油の付着の有無を確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
各充電コネクタのインターフェースに異物、焼損などがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
HECフィルター（クリーンエアフィルター）の確認* (HEC: High-Efficiency-Carbon)	12ヶ月、または20000km毎に定期点検を行う。いずれかの早い方に準ずる。 必要に応じて交換する。環境が極端に悪い地域では、6ヶ月毎に点検し、必要に応じて交換する。
電球とLEDが正常に点灯しているかを確認	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ハイビームアシストが正常かを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ロービームの高さ調整が正常かを確認	10000km毎に校正する
EPSグラウンドに異物や焼損がないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
EPS コネクタの緩みがないか、コネクタのピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU が腐食していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
EPS ECU とモーターの接続に異物や腐食がないかを確認*	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧部品に浸水の痕跡がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ワイパーアームロックナットのトルクを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ボンネットロックおよびストライカーを確認	12 ヶ月毎に点検する
※ シャーシ各部固定ネジの確認および締付の点検をするとき、シャーシ部品に異常や破損が見つかった場合は、早めに交換してください。	

i アドバイス

パワーバッテリーセルフキャリブレーションとは、パワーバッテリーを最適な状態に保つため、定期的（最小6ヶ月、または72000kmで、いずれか早い方に準ずる）にフル放電とフル充電を行い、バッテリーの自己校正による活性化を目的とするものです。普段車両の利用頻度が低く、15～100%の充電をされない方は点検を受けてください。
BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にバッテリー容量のテストおよび校正を依頼してください。

過酷な使用条件とは：

- ほこりの多い地域を走行する、または塩分を含む空気にさらされる場合。
- デコボコ路、浸水路や山道を走行する場合。
- 寒冷地を走行する場合。
- 頻繁にブレーキを掛ける、または急ブレーキを掛ける場合。
- トレーラーをけん引する場合。
- タクシーとして使用する場合。
- 32℃以上の気温で交通量の多い市街地を走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 30℃以上の気温、120km/h以上の速度で走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 過積載で走行する場合。

定期メンテナンス

- 車両を最適な稼働効率で運転して故障の発生を減らすため、メンテナンス周期表に従ってメンテナンスを実施してください。
- メンテナンスの間隔は、メンテナンス周期表を参照して走行距離や時間間隔に合わせて判断し、いずれかの早い方に準じます。
- 期限切れのメンテナンス項目も、同じ時間間隔でメンテナンスを行う必要があります。
- メンテナンス作業はBYDの基準および規格に従い、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で実施してください。
- メンテナンス周期表に記載されている点検項目および走行時間や走行距離は、車両を通常の交通手段である乗員や荷物の搬送に使用する用途として想定しているため、過積載がないようにしてください。

⚠ 注意

- BYDの「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的 to 実施してください。

車両の防食について

車両腐食でよくある要因：

- 車両の下にアルカリ性土壌、ほこりや湿気が付着する。
- 湿度が高い環境、または車両のある部位が長期間高湿高温にさらされる。
- 軽微な衝突、または小石や砂利で塗装や下地が傷付く。

車両腐食を防ぐため、下記のルールを守ってください。

- こまめに洗車する。
 - 冬場に塩分のある路上を走行する場合、または海沿いに住んでいる場合は、毎月1回以上、土や泥がよく付着する箇所を洗浄してください。高圧洗浄機や蒸気でシャーシとホイールハウスを洗浄することで腐食を軽減します。また、冬が終わったらシャーシ部分を徹底的に洗浄してください。
- ボディーの塗装とアクセサリーを点検する。
 - 塗装の破片や塗装割れがある場合は、腐食を防ぐためにただちに補修してください。塗装剥がれがある場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で補修してください。

- 車内を点検する。
 - 水分やほこりがカーペット下に堆積すると腐食につながるため、カーペット下をよく点検し、これらの部位を乾燥状態に保ってください。
 - 化学品、洗浄剤、化学肥料、塩などを運ぶ場合は特に注意してください。適切な容器で運び、あふれたりや漏れがあるときは、すぐに洗浄して乾かしてください。
- 車両を十分に換気された乾燥した場所に駐車してください。

塗装メンテナンスのお願い

- 色違いや配合不良を防ぐため、塗装に明らかな擦り傷がない場合は、安易に再塗装しないでください。
- 長期間車両を放置する場合は、車庫や風通しの良いところに駐車してください。また、冬場は専用のボディーカーバーで覆ってください。一時的に駐車するときは、直射日光が当たらない涼しい場所を選んでください。
- ボディーの塗装への強い衝撃を避け、当たり傷や擦り傷などを防いでください。塗装に傷、へこみ、剥がれがあるときは早めに補修するため、可能な限り専門のカーケアショップで補修してください。
- 化学反応を避けるため、油で汚れた手でボディー塗装の表面を触ったり油で汚れた布で塗装の表面を拭く、また、油汚れが付いている工具や有機溶剤を含んだ布をボディーの上に置かないように注意してください。
- 毎月1回、またはボディー表面の撥水性が落ちた場合、車用ワックスを塗布して定期的に（四半期毎に1回）手入れを行い、早めにボディー塗装の輝きを取り戻してください。
- なお、ボディーコーティングなどのBYD商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくは、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にお問い合わせください。

▲ 注意

- 再度塗装が行われ、かつ高温の塗装ブースに置く間は、高温によりバンパーを破損させるおそれがあるため、車両の樹脂製バンパーを取り外してください。

洗車

- 下記の場合は、塗装剥がれまたはボディーや部品の錆びを引き起こすおそれがあるため、早めに車両を洗浄してください。
 - 沿海部で走るとき。
 - 凍結防止剤をまいている道路を走るとき。
 - コールタールが付いている道路を走るとき。
 - 樹脂、鳥の糞や虫の死骸が付いたとき。
 - 煙塵、石炭灰、ほこり、鉄くずや化学物質を大量に含んでいる地域を走るとき。
 - ほこりや泥で車両が明らかに汚れているとき。
 - 雨が降った後。

手洗い洗車をするとき

日が当たらない涼しい場所に車両を止め、車両が十分に冷えてから洗車をします。

1. ホースで表面の汚れを洗い落とし、下回りやホイールの奥に付いているすべての泥や塩分汚れをきれいに洗い落とします。
2. 中性洗剤で洗浄する場合は、洗剤の取扱説明書に従って洗剤を混ぜ合わせてください。柔らかい布に洗剤を浸け、水流方向に上から下へ拭きます。円を描くように拭いたり、横方向に拭かないでください。
3. 水で十分に洗い落とします。洗剤が乾くと痕が残るため、暑い時期に洗車する場合は、水で各部分を素早くきれいに洗い流してください。
4. 水痕が残らないように、清潔な柔らかいタオルでボディーの水分を拭き取ってください。また、塗装が傷付くおそれがあるため、強く拭いたり押し付けて拭かないでください。

警告

- 下回りを洗うときは、手を怪我をしないように注意してください。
- 電気部品が故障するおそれがあるため、モータールーム内に水をかけないでください。
- 故障や感電につながるおそれがあるため、高圧洗浄機で精密機器のセンサーやカメラ部に衝撃を与えないでください。

i アドバイス

- 強アルカリ性の粉石鹼、石鹼水、洗剤、脱脂洗剤、有機物質（ガソリン、灯油、揮発油、または強溶剤）を使わないでください。
- コンビネーションランプのレンズ割れにつながるおそれがあるため、コンビネーションランプを洗浄する場合は、ガソリン、アルコール、シンナー、希釈剤、四塩化炭素などの化学溶剤で、コンビネーションランプの表面を拭かないでください。
- 沿海部や汚染が深刻な地域で走る車両については、毎日1回の洗車をおすすめします。
- ボディーの汚れをカッターで削ったり、ガソリンで洗わないでください。有機物質によって、プラスチック製ホイールトリムが損傷します。有機物質がホイールトリムに付いた場合は、必ず水で洗い流してから部品の傷みがないかを点検してください。著しい破損があるプラスチック製ホイールトリムは、移動中にホイールトリムが外れて事故を起こすおそれがあるため、早めに交換してください。
- 研磨剤を含んだ洗剤でバンパーを拭かないでください。
- メッキ処理の金属部品の洗浄は、専用の洗剤を使って、定期的に専用ワックスを塗布することをおすすめします。

自動洗車をするとき

塗装面に傷が付くおそれがあるため、自動洗車機で洗車する場合は、ブラシのタイプ、ろ過されていない洗浄水、または洗車機に設定された洗浄プログラムに注意してください。特に色が濃い車両は、塗装表面の擦り傷により塗膜の耐久性や光沢度が低下します。可能な限り、洗車前に洗車専門店のスタッフに問い合わせて、塗装面に最も安全な洗車プログラムを確認してください。

車内の清掃

i アドバイス

- 内外装を洗浄する場合は、水が直接インストルメントパネルや床、近くの電気部品に流れ込まないようにしてください。水の侵入により機能の異常につながるおそれがあります。
- ボディー腐食を避けるため、水で車両の床を洗浄しないでください。

カーペット

- 高品質の泡タイプの洗剤でカーペットを洗浄してください。
- まずは、できるだけ掃除機でほこりをきれいに掃除します。使える泡タイプ洗剤が数種類あり、スプレーや粉末、液体で水と混合して泡を発生させるものもあります。泡立てたスポンジやブラシでカーペットを洗浄し、円を描くように拭きながら洗浄します。
- 水を使わず、できるだけカーペットを乾燥状態に保ってください。

▲ 警告

- カーペットがペダルに干渉しないように、運転席のカーペットが正しく固定されていることを確認してください。また、カーペットの上に別のカーペットやその他のカバーを重ねないでください。

シートベルト

- シートベルトは、中性石鹼水やぬるま湯でクリーニングすることができます。
- スポンジや柔らかい布でシートベルトを拭きます。洗浄中に、シートベルトに過度な摩耗、破れや切れがないかを点検してください。

▲ 注意

- シートベルトの強度が落ちるおそれがあるため、染色剤や漂白剤でシートベルトを洗浄しないでください。
- シートベルトは、乾燥するまで使わないでください。

ドアおよびドアガラス

- ドアおよびドアガラスは、一般家庭用の洗剤で洗浄できます。
- 定期的にドアチェッカーを点検してください。ドアチェッカーのロッドにほこりが付着している場合は、水で濡らした布でドアチェッカーのロッドを拭いて、表面のほこりを落としてください。

▲ 注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。

エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチ

- エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチは、水で濡らした柔らかい布でクリーニングします。
- 水や温水で濡らしたきれいな布でほこりを軽く拭き取ります。

▲ 注意

- 表面の変色、シミや剥がれにつながるおそれがあるため、有機物質（溶剤、灯油、アルコール、ガソリンなど）、酸性やアルカリ性溶液を使わないでください。
- 洗剤や艶出し剤を使う場合は、その組成に上記の物質を含んでいないことを確認してください。
- 新規の液体洗剤を使う場合は、液体を車内の表面にこぼさないでください。液体に上記の成分を含んでいる可能性があるため、液体をこぼしたときは、素早くきれいに拭き取ってください。

車内の人工皮革部分

- 人工皮革部分は、毛織物に使える中性洗剤で洗浄することができます。
- 中性洗剤の溶液を浸けた柔らかい布でほこりを拭き取ってから、水で濡らしたきれいな布で残りの洗剤を完全に拭き取ります。
- 洗浄後または人工皮革が濡れている場合は、清潔な柔らかい布で水分を拭き取り、風通しが良い涼しいところで人工皮革を乾かします。
- 車両の洗浄についてご質問がある場合は、現地のBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。

▲ 注意

- 中性洗剤で汚れが取れない場合は、有機溶剤を含まない洗剤で洗浄することができます。
- 人工皮革の色落ちにつながるため、揮発油、アルコール、ガソリン、酸性やアルカリ性溶液などの有機物質で、人工皮革を洗浄しないでください。
- ナイロンブラシや人造繊維製の布などを使うと、人工皮革表面の模様が傷付きます。
- 汚れている人工皮革部分はカビが生えることがあります。特に油汚れに注意し、人工皮革部分を常に清潔に保ってください。
- 長時間日光に当たると、人工皮革の表面が固くなったり縮むことがあります。特に夏場は、日が当たらない涼しい場所に駐車してください。
- 夏の暑い時期は車内の温度が上昇しやすく、人工皮革に固着してしまうおそれがあるため、人工皮革部分の上にポリエチレン製やワックスを含む材料で作ったものを置かないようにしてください。
- 人工皮革部分の洗浄を誤ると、色が落ちたり、まだらになります。

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス上のご注意

- 自らがメンテナンスを行う場合は、本章に記載されている手順で正しくメンテナンスをしてください。
- 不適切で不完全なメンテナンスは、車両の正常な使用に影響を与えることをご了承ください。
- 本章には、ユーザーが実施できるメンテナンスのみを記載しています。そのため、資格のある技術者が専用工具を使って作業する必要があるメンテナンス項目は、数多くあります。
- メンテナンスを実施する場合は、思わぬ怪我を防ぐために下記の注意事項を必ず守り、細心の注意を払ってください。

⚠ 警告

- 高電圧システムで感電するおそれがあるため、パワーバッテリー充電接続表示灯が点灯・点滅しているときは、整備作業を行わないでください。
- メンテナンスを行うときは、車両から充電コネクタを取り外してください。
- モータールーム内の作業時は、電源ポジションを「OFF」にしてください。EV システム作動中に、手や工具などを入れると思わぬ怪我をするおそれがあります。
- ルーフに積もった雪は落としてください。フロントガラスに滑り落ちる雪が視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両を長期間駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながるおそれがあるため注意してください。
- 電装システムの破損や火災につながるおそれがあるため、規定の容量以外のフューズや、フューズの代わりに針金などを絶対に使用しないでください。
- 自動車で使用される液体（バッテリー酸、バッテリー冷却水、ブレーキフルード、フロントガラス用ウォッシュ液など）の中には有毒なものがあるため、これらの液体を吸入または飲み込んだり傷口に触れさせないでください。安全のため、液体容器に表示されている説明を必ず読み、指示に従ってください。

▲ 注意

- 車両の一部回路や部品には高電流や高電圧がかかっているため、ショートさせないように細心の注意を払ってください。
- 冷却水があふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、乾燥した布や紙できれいに拭き取ってください。
- ブレーキフルードがあふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、水できれいに洗い流してください。
- ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーでガラス表面に傷が付かないようにしてください。
- ボンネットを閉めるときは、工具や布などがモータールーム内に残っていないかを点検してください。
- 車内や車外を問わず、異物や液体が目に入らないように、作業時は保護メガネをかけてください。
- ブレーキフルードは皮膚や目を傷めるため、ブレーキフルードを注入する場合は注意してください。ブレーキフルードが皮膚や目に付着したときは、ただちに水で付着部位を洗い流してください。まだ、手や目に痛みなどがあるときは、ただちに医師の手当てを受けてください。

点検

使用状況や推奨の走行距離に従い、下記の項目を点検してください。

- 冷却水レベル——充電の度にラジエーターの冷却水レベルを点検してください。
- ウォッシュ液——毎月1回リザーブタンクのウォッシュ液の残量を点検してください。悪天候で頻繁にウォッシュ液を使った場合は、充電の度にウォッシュ液の残量を点検してください。
- フロント・リアガラスワイパー——毎月1回ワイパーを点検してください。ワイパーがフロント・リアガラスをきれいに拭き取れない場合は、摩耗、亀裂やその他の損傷がないかを点検します。
- ブレーキフルードレベル——毎月1回レベルを点検してください。
- ブレーキペダル——ブレーキペダルがスムーズに操作できるかを点検してください。
- 電動パーキングブレーキスイッチ——スイッチが正常に機能していることを点検してください。
- 起動バッテリー——毎月1回バッテリーの状況および端子の腐食状況を点検してください。
- 空調システム——毎週エアコン装置の稼働状況を点検してください。

- タイヤ——毎月1回タイヤ空気圧を点検してください。タイヤトレッドの摩耗状況および異物の挟み込みがないかを点検します。
- ガラスデフロスター——毎月、暖房装置やエアコンを使うときは、デフロスター装置の吹き出し口を点検してください。
- ライト——毎月1回ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト、ハイマウントストップランプ、ターンシグナルランプ、リアフォグランプ、ブレーキランプおよびリアライセンスプレートランプの状況を点検してください。
- ドア——テールゲートおよび他のドア（リアドアを含む）のスイッチが、すべて確実にスムーズに施錠できるかを点検してください。
- ホーン——ホーンに異常がないかを点検してください。

i アドバイス

- 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせるおそれがあります。

コンビネーションランプ

フロントコンビネーションランプの光軸調整

- 工場出荷時、フロントコンビネーションランプの光軸調整が行われています。重い荷物を運ぶことが多い場合は、新たにフロントコンビネーションランプの光軸調整を行う必要があります。フロントコンビネーションランプの光軸調整については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

ライトの曇り

- 大雨や洗車の後、コンビネーションランプ、テールライト、またはドアミラーのターンシグナルランプには曇りが発生することがあります。これは、雨天時に車内側のフロントガラスが結露することと似ていますが、故障ではありません。
- ライトは、空間が相対的に密閉しており狭く、かつ点灯時の温度が高いため（レンズ、リフレクターなどが高温で変形しやすい）、放熱用の通気口が必要です。点灯時は放熱するため、ケースに設置された放熱用通気口を通じて周辺環境と対流を発生し、温度差が高いほど対流が活発になります。対流中に空気中の水蒸気がライト内部に持ち込まれるため、日光、対流、ランプ発熱量などによって、温度が低い箇所の表面に結露や水滴が発生します。この現象は、ライト曇りと呼ばれています。

⚠ 警告

- 事故などで破損したライトのまま走行しないでください。内部に水が入ることにより、火災につながるおそれがあります。

i アドバイス

- コンビネーションランプの内側、ドアミラー内のターンシグナルランプの内側に曇りが発生する場合は、空気の湿度が高い、または車両と周辺環境の温度差が大きいことが考えられます。コンビネーションランプやターンシグナルランプを付けてしばらく走行することで、ライト内の水蒸気が消えます。
- ライト内に明らかに水が入っている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

サンルーフのメンテナンスについて

パノラマサンルーフのメンテナンスについて *

1. 濡れた布でサンルーフ外側のウェザーストリップに付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、拭き取り時はウェザーストリップが傷付かないように注意してください。
2. 濡れた布でフロントルーフガラスの成型部に付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、拭き取り時はウェザーストリップが傷付かないように注意してください。
3. ほこり、砂、落ち葉などにより排水口が詰まり、サンルーフの排水不具合が起きることを防ぐため、リアルーフガラスの先端部をよく掃除してください（フロントルーフガラスを全開にした後）。
4. ほこり、砂、落ち葉などにより排水口が詰まり、サンルーフの排水不具合が起きることを防ぐため、両サイドのレールおよびフロント排水溝をよく掃除してください。
5. 洗車中に、高圧洗浄機でウェザーストリップに水を直接吹き付けないようにしてください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーストリップの変形や破損につながりやすく、車内への水漏れも起きやすくなります。
6. 冬場はサンルーフがよく凍り付きます。この状態で強制的にサンルーフを開けると、ウェザーストリップや他のサンルーフ部品を破損させるおそれがあります。そのため、しばらく暖機運転を行うと同時に、エアコンの暖房システムを使用してサンルーフを解凍し、車内が一定の温度まで温まってから、再度サンルーフを開けてください。また、サンルーフの凍結を避けるため、サンルーフに残った水分を拭き取ってください。
7. デコボコが激しい道路では、サンルーフを全開にしないでください。サンルーフとガイドレール間の強い振動により関係部品が変形し、モーターまで破損させるおそれがあります。また、雨天時や洗車時はサンルーフを開けないでください。

普通のサンルーフのメンテナンスについて*

1. 濡れた布でウェザーストリップに付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、拭き取り時はウェザーストリップが傷付かないように注意してください。
2. 濡れた布でルーフ板金周りに付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、サンルーフを閉めるときは、ウェザーストリップに摩耗が発生しないように注意してください。
3. ほこり、砂、落ち葉などにより排水口が詰まり、車内への水漏れが起きるのを防ぐため、レールおよびフロント排水溝などの部品をよく掃除してください。
4. 洗車中は、高圧洗浄機でウェザーストリップに水を直接吹き付けしないでください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーストリップの変形や破損につながりやすく、車内への水漏れも起きやすくなります。
5. 冬場はサンルーフがよく凍り付きます。この状態で強制的にサンルーフを開けると、ウェザーストリップや他のサンルーフ部品を破損させるおそれがあります。そのため、しばらく暖機運転を行うと同時に、エアコンの暖房システムを使用してサンルーフを解凍し、車内が一定の温度まで温まってから、再度サンルーフを開けてください。また、サンルーフの凍結を避けるため、サンルーフに残った水分を拭き取ってください。
6. デコボコが激しい道路では、サンルーフを全開にしないでください。サンルーフとガイドレール間の強い振動により関係部品が変形し、モーターまで破損させるおそれがあります。また、雨天時や洗車時はサンルーフを開けないでください。

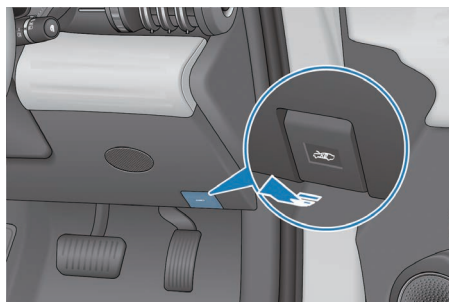
車両の保管

- 長期間（1 ヶ月以上）車両を放置する場合は、下記に示す準備を実施することで、車両性能などの劣化を効果的に防止できます。また、可能な限り屋内に駐車してください。
- 推奨の時間通り充電します。
- ボディーの外部を徹底的に洗浄し、乾かします。
- 車内を掃除し、カーペット、床などを完全に乾かします。
- パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを「P」レンジに切り替えます。
- ウィンドウガラスを1枚少し下げます（屋内駐車の場合）。
- モータールームのバッテリーのマイナス端子を取り外します。
- フロントワイパーアームがフロントガラスに接触しないように、ワイパーアームの下に折りたたんだタオルや布を入れておきます。
- 固着を軽減させるために、すべてのドアのシール部にシリコン潤滑剤を塗り付け、ドアウェザーストリップ接触部の塗膜表面にボディーワックスを吹き付けます。
- 布のような「多孔質材料」で作られた通気性カバーでボディーを覆います。ビニールシートのような無孔質材料では湿気が溜まるため、ボディー表面の塗膜を破損させるおそれがあります。
- 可能な限り、定期的に車両を始動させます（毎月1回を推奨）。1年間、またはそれ以上に放置した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で全体のメンテナンスを行ってください。

ボンネット

ボンネットの開け方

1. インストルメントパネル下の右側にあるボンネットリリースレバーを2回連続で引き上げると、ボンネットが解錠され、少し隙間ができるように開きます。



2. ボンネットを持ち上げて、ボンネットステーでボンネットを支えます。
3. ボンネットを閉めるときは、フロントグリルから約30cm高い位置に下げたところから両手を離し、自由落下させてロックします。
4. ボンネットを閉めたら、確実にロックされているかをコンビネーションメーターで確認してください。



6

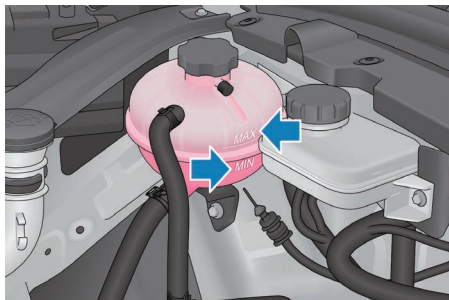
お手入れとメンテナンス

! 警告

- ボンネットが閉まっており、確実にロックされていることを確認します。ロックされていないと、運転中にボンネットが突然開いて事故につながるおそれがあります。
- 強風時は、ボンネットをしっかり持ちゆっくり開けてください。
- 開けたボンネットに頭などをぶつけないよう注意してください。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

冷却システム

- 液面がリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。
- 冷却水は、添加剤を入れずに BYD 指定の冷却水と同じ仕様のもので使ってください。異なるブランドや型番の冷却水を混ぜ合わせて使用しないでください。



- 最小値 (MIN) の目盛りを下回る場合は、最大値 (MAX) の目盛り到達するまで冷却水を補充し、冷却システムの漏れがないかを点検します。

⚠ 警告

- ラジエーターなどの高温部に触れると、やけどをするおそれがあります。
- モーターが完全に冷えていないときにリザーバタンクの蓋を開けると、冷却水の噴出により、重度のやけどにつながるおそれがあります。

⚠ 注意

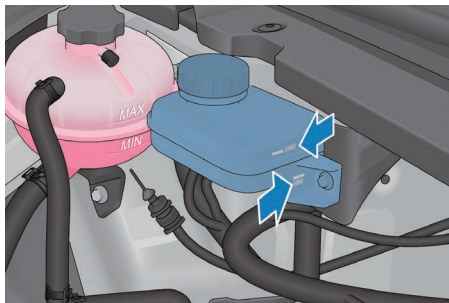
- 冷却システム内に防錆剤や他の添加物を絶対に追加しないでください。添加物は、冷却水やモーターの部品と相性が悪い可能性があります。
- リザーバタンクの蓋を開ける前に、モーター、集積型高電圧電気制御モジュール、リザーバタンクおよびラジエーターがすべて冷えていることを確認してください。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場ではバッテリー専用の冷却水を注入してください。

i アドバイス

- バッテリー冷却水は、直射日光などの紫外線が強い環境にさらされると色落ちするおそれがあります。車両の使用やメンテナンスなどでボンネットを開ける必要があるときは、直射日光を避けるようにしてください。

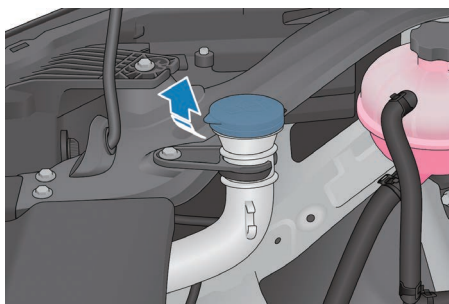
ブレーキシステム

- 毎月 1 回、ブレーキフルードリザーバタンク内のフルードレベルを点検してください。ブレーキフルードは、定期メンテナンス表に記載された走行時間と走行距離に従い交換してください。
- ブレーキフルードは、純正品のブレーキフルードと同じものを使用してください。また、規格外のブレーキフルードを混ぜ合わせて使用しないでください。
- フルードレベルがリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば問題ありません。
- コンビネーションメーターにブレーキフルードレベルが低いと表示された場合は、ブレーキシステムからの液漏れやブレーキパッドの摩耗がないかを点検してください。



ウォッシャー

- 毎月 1 回以上、ウォッシャー液タンクのレベルを点検してください。
- 悪天候でウォッシャーをよく使う場合は、ウォッシャー液タンクのレベルを確認する頻度を増やしてください。
- 高品質のウォッシャー液を使用することで、汚れをよく落として凍結を防ぐことができます。



6

お手入れとメンテナンス

⚠ 警告

- 出火するおそれがあるため、ウォッシャー液を高温部にかけないでください。

⚠ 注意

- 絶対にウォッシュ液タンクに酢水溶剤を注入しないでください。
- 適合したウォッシュ液を使用してください。

i アドバイス

- ウォッシュ液補充時にこぼれた場合は、清潔な布で拭き取ってください。拭き取った布でワイパーブレードのゴム刃を清掃すると、ゴム刃を良好な状態に保つことができます。

空調システム

- 空調システムはクローズドシステムです。大事なメンテナンス作業のすべては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。
- 空調システムを正常に機能させるため、下記の内容を確認してください。
 - ラジエーターおよびエアコンコンデンサーを定期的に点検します。
 - 異物が詰まると空気の流れを妨げて冷房能力が落ちるため、前側の表面に詰まっている落ち葉や虫、ほこりを取り除きます。
 - 冷媒に含まれている潤滑油を循環させるため、寒い季節は毎週 1 回以上、毎回 10 分以上エアコンをつけてください。
- 空調システムの冷房能力が通常より落ちている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

⚠ 注意


- 空調システムの点検は、冷媒の再循環装置を確実に使用してください。この装置は、冷媒をリサイクルすることができ、冷媒を大気に出すことで発生する環境汚染を防ぎます。

ワイパーブレード

ワイパーブレードの材質は合成ゴムで消耗品です。車両の使用環境やドライバーの使用習慣により、ワイパーブレードが破損するおそれがあります。ワイパーブレードの寿命と安全を確保するため、下記の内容に注意してください。

- フロントガラスの表面に付いている氷をワイパーブレードでは拭き取らないでください。氷は車両専用のアイス・スクレーパーを使ってください。
- 汚れや油、ワックスが付着しているフロントガラスの表面をブラシでこすらないでください。
- ガラスの表面をきれいに保ってください。また、ガラスの表面に付着しているほこりや砂、虫、異物などを取る時は、ガラスの表面をこすらないでください。
- 洗車やボディー塗装のメンテナンス時は、フロントガラスに専用ワックスを吹き付けしないでください。夜間走行時にワックス層が光を反射して視界が悪くなり、安全な走行に影響を与えます。また、洗車後は水でワイパーブレードを洗い、専用のワックス除去剤でフロントガラスに付着したワックスを落としてください。
- ワイパーブレードの破損を防ぐため、洗車時は高圧洗浄機をワイパーブレードに直接吹き付けしないでください。

メンテナンス細則

- 定期的にフロントガラスとワイパーブレードを洗浄してください（1週間～2週間毎に1回を推奨）。
 - 定期的にワイパーを作動させてください（1日～2日毎に1回を推奨）。ワイパーブレードでフロントガラスを拭くときは、ガラスを濡らしてから拭いてください（雨が降っていないときはウォッシュ液をガラスに噴射してください）。
 - フロントガラスを専用の洗剤で洗浄します。
 - フロントガラスに付着している泥、虫の死骸は、早めに布できれいに拭き取ってください。
 - フロントガラスに飛び石などの傷が付いている場合は、早めに修理してください（フロントガラス修復用樹脂製品の使用を推奨。傷が多かったり大きいときは、フロントガラスの交換を推奨）。
 - ワイパーブレードを定期的（半年に1回）に交換することをおすすめします。
 - フロントガラスを洗浄するときは、事前にワイパーアームを立てておく必要があります。操作方法の詳細は次の通りです。
1. 作業者は、 → **車両状況** → **リペアー** の設定画面から **Fr. ワイパーチェック** を **ON** すると、ワイパーアームが立てられる位置に移動します。
 2. ワイパーアームの上側を持ち、ワイパーアームとブレードアセンブリをしっかりと引き上げます。

タイヤ

- 安全運転のために、自車に適合する型番やサイズのタイヤを選定してください。また、トレッドパターンが良好で、空気圧を適正にする必要があります。

⚠ 警告

- 過度な摩耗、空気圧の不足、または空気圧が高すぎるタイヤを使うと、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 本マニュアルに記載されている空気圧調整およびメンテナンスに関する内容に従ってください。
- 著しく摩耗に差のあるタイヤや、空気圧が規定値と著しく異なるタイヤは装着しないでください。車両の性能を発揮できず、安全性を損なって故障の原因となるおそれがあります。

空気を入れるとき

- タイヤ空気圧の適切な調整は、操縦性、タイヤトレッドの寿命および運転快適性の最適な組み合わせを実現します。
- 空気圧不足のタイヤを使用すると、タイヤの偏摩耗が起こったり操縦性やエネルギー消費に影響を与えるだけでなく、過熱による空気漏れにつながるおそれがあります。
- 空気圧が高すぎるタイヤを使うと、車両の快適性が悪くなり路面のデコボコによりタイヤが傷付くため、最悪の場合は、バーストを引き起こすおそれがあります。また、タイヤの偏摩耗が起こりタイヤの寿命が短くなります。
- 冷間時（タイヤ空気圧モニタリングシステム装備車）、コンビネーションメーターに表示されたそれぞれのタイヤ空気圧により、空気補充の必要性を判断することができます。
- タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。冷間時とは、少なくとも停車してから3時間後に測定することを意味します。タイヤ空気圧を測定する前に走行する必要があるときは、走行距離が1.6kmを超えなければ冷間時と考えて問題ありません。
- 温間時（数kmほど走った後）のタイヤ空気圧を点検する場合は、圧力計の指示値が冷間時より30～40kPa（0.3～0.4bar）高くなりますが、異常ではありません。また、空気圧不足につながるため、指示値が推奨の冷間時空気圧になるまで空気を抜かないでください。

i アドバイス

- 推奨するタイヤ空気圧のラベル（運転席側ドア開口部に貼ってあります）には、推奨の冷間時空気圧が明記されています。
- チューブレスタイヤは、パンク時に一気に空気が抜けにくく、少しずつ空気が漏れていきます。タイヤ空気圧が下がり出したら、空気漏れの位置を特定してください。

点検

- タイヤ空気圧を点検するときは、タイヤの傷や摩耗状態、異物などが刺さっていないかも合わせて点検してください。
 - タイヤトレッドや側面の傷および膨らみのいずれかがあった場合は、タイヤを交換してください。
 - タイヤ側面の擦り傷や割れ、切れ、カーカスおよびビードワイヤーが見えた場合は、タイヤを交換してください。
 - タイヤトレッドの過度な摩耗。
- タイヤトレッド内部にスリップサインが設置されています。タイヤトレッドの摩耗によりスリップサインが現れると、溝の深さが1.6mm以下であることを意味します。摩耗がここまで進んだタイヤは、滑りやすい路面で走るときのグリップ力が悪くなります。
- タイヤトレッドにスリップサインが現れるまで摩耗した場合は、タイヤ性能が著しく落ちるため、タイヤを交換してください。



メンテナンス

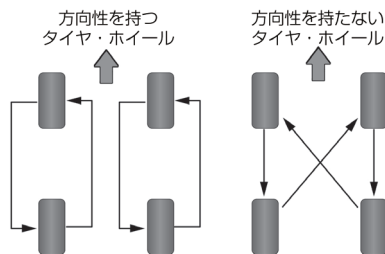
- 適切な空気補充以外に、正確なホイールアライメントもタイヤトレッドの摩耗を効果的に軽減します。
- タイヤの偏摩耗が起きた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールアライメントの点検を行ってください。
- 工場出荷前にホイールアライメント調整が行われていますが、一定時間走行後に、ホイールアライメント調整を新たに行う必要があります。
- 比較的速い速度（80km/h）で運転中に継続的に振動を感じているが、低速時は振動を感じない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのタイヤの点検をしてください。
- 補修したタイヤが1つでもある場合は、必ずホイールアライメント調整を新たに行ってください。
- 新しいタイヤを装着したり、新しいホイールに交換した場合は、必ずホイールアライメント調整を行ってください。

⚠ 注意

- バランスウェイトの取り付けを誤ると、ウェイトが脱落し、走行時に自車や周りのものを破損させるおそれがあります。
- バランスウェイトの取り付けを誤ると、アルミホイールを破損させるおそれがあります。

タイヤの位置交換

- タイヤの摩耗を一定に保って長持ちさせるため、タイヤの位置を定期的に交換すると同時に、ホイールアライメントの点検・調整を行う必要があります。
- タイヤを購入する際、「方向性」が決まっているタイヤがあります。このようなタイヤは同じ回転方向で位置交換してください。方向性が決まっているタイヤを使う場合は、図のようにフロントタイヤ、リアタイヤの入れ替えしかできません。
- タイヤの装着位置を交換すると、専用診断機によるキャリブレーションを行う必要があります。実施する際は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へお問い合わせください。



タイヤとホイールの交換

- 本車のオリジナルタイヤは、車両性能を最大限に引き出すために選定されたもので、それと同時に、操縦性や乗り心地の良さおよび使用寿命の最適な組み合わせとなっています。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にて指定タイヤに交換してください。
- ABS（アンチロックブレーキシステム）は、タイヤの回転数を比較することで機能するものです。タイヤを交換する場合は、オリジナルタイヤと同じサイズのものを使用してください。タイヤのサイズおよび構造は、ホイールの回転数に影響を与え、システム動作の不一致につながるおそれがあります。
- ホイールを交換する必要がある場合は、オリジナルホイールの仕様と同じホイールを選定してください。新品ホイールは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から購入することができます。交換する前に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

⚠ 警告

- サイズ、負荷範囲、定格回転数および最大の冷間時空気圧（タイヤの側面に表示）が異なるラジアルタイヤに交換したり、ラジアルタイヤとダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用すると、車両の制動能力、駆動力（グリップ力）および操舵精度の低下につながるため、安全性が損なわれて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを誤って装着すると、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 4つのタイヤを同時に交換し、1つのタイヤだけを交換しないでください。車両の操縦性に著しい影響をあたえます。

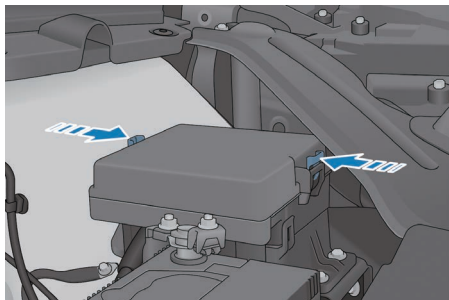
i アドバイス

- 下記の内容を守ってください。運転中の代表的な危険を引き起こして、車両が制御できなくなるおそれがあります。
- ラジアルタイヤ、バイアスタイヤやダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用しないでください。
 - メーカーの推奨サイズ以外のタイヤを使わないでください。

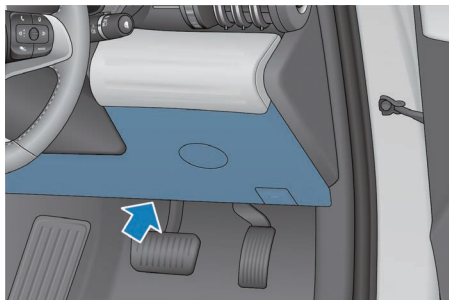
フューズ

ショートや過負荷を防ぐため、回路毎にフューズを設置しています。フューズは、モータールームのフューズボックスとインストルメントパネルのフューズボックスに格納されています。フューズボックスの中にはフューズのラベルが貼ってあり、ラベルでフューズと電気部品との関係を特定できます。

- モータールームのフューズボックスは、モータールームの左側後部にあります。開けるには、モータールームの化粧板を取り外して図のようにクリップを押すと、フューズボックスが開きます。



- 車内のインストルメントパネルのフューズボックスは、運転席側インストルメントパネルの下側にあります。インストルメントパネル下側を取り外すと、フューズの点検ができます。



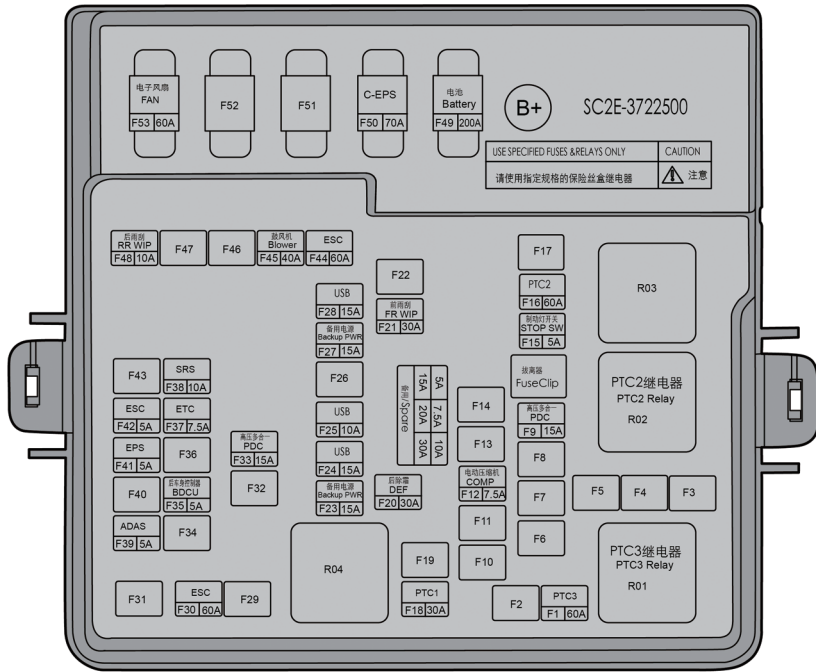
- アンペア数が高いフューズで、切れたフューズを入れ替える場合は、対象電気システムを破損させる可能性が極めて大きくなります。

- 回路に適合するアンペア数の代替フューズがない場合は、代替品としてアンペア数が比較的小さいフューズを使ってください。

i アドバイス

- 定格アンペア数より高いフューズを使わないでください。また、著しい破損を引き起こしたり火災を招くおそれがあるため、フューズの代わりに他のものを使わないでください。
- フューズが切れたら、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場点検や交換をしてください。

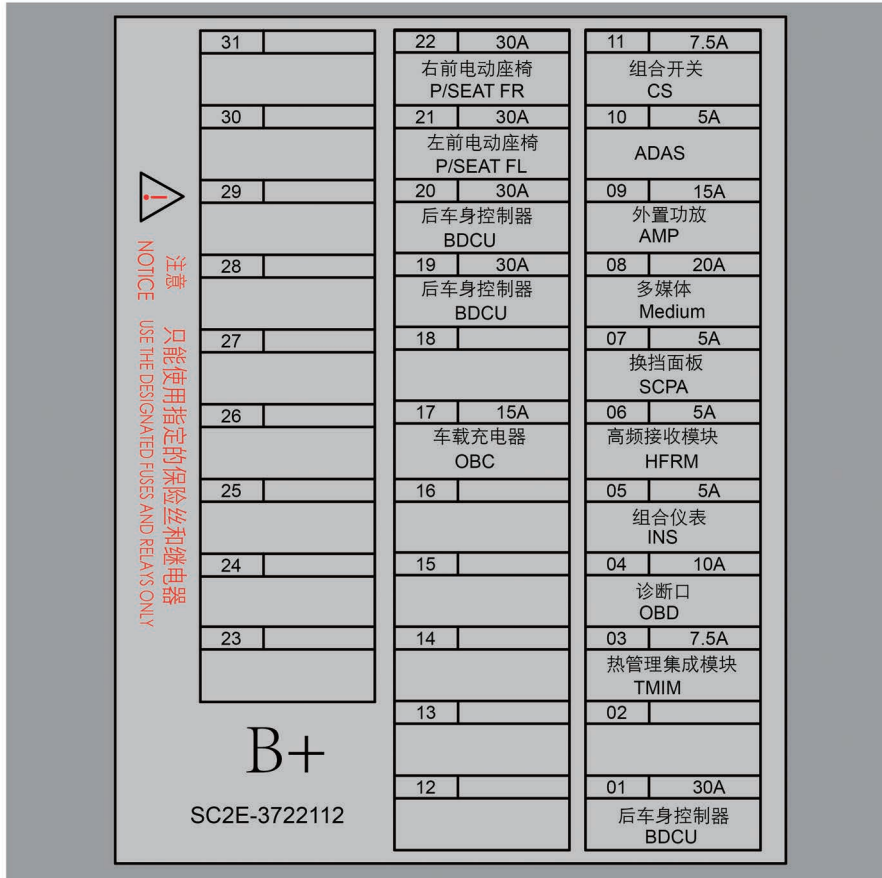
モータールームのフューズボックスラベル



番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F1	60	PTC3
F2	-	-
F3	-	-
F4	-	-
F5	-	-
F6	-	-
F7	-	-
F8	-	-
F9	15	高電圧統合 PDC コントローラー
F10	-	-
F11	-	-
F12	7.5	電動コンプレッサー
F13	-	-
F14	-	-
F15	5	ブレーキランプスイッチ
F16	60	PTC2

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F17	-	-
F18	30	PTC1
F19	-	-
F20	30	リアデフロスター
F21	30	フロントワイパー
F22	-	-
F23	15	アクセサリ電源
F24	15	USB
F25	10	USB
F26	-	-
F27	15	アクセサリ電源
F28	15	USB
F29	-	-
F30	60	ESC
F31	-	-
F32	-	-
F33	15	高電圧統合 PDC コントローラー
F34	-	-
F35	5	リアボディーコントロールモジュール
F36	-	-
F37	7.5	ETC
F38	10	SRS
F39	5	ADAS
F40	-	-
F41	5	EPS
F42	5	ESC
F43	-	-
F44	60	ESC
F45	40	ブローワー
F46	-	-
F47	-	-
F48	10	リアワイパー
F49	200	バッテリー
F50	70	C-EPS
F51	-	-
F52	-	-
F53	60	電子制御ファン

インストルメントパネルのフューズボックスラベル



番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
01	30	リアボディーコントロールモジュール
02	-	-
03	7.5	サーマルマネジメント用統合モジュール
04	10	診断用ポート
05	5	コンビネーションメーター
06	5	高周波受信モジュール
07	5	シフトレバーパネル
08	20	マルチメディア
09	15	外付けアンプ

6
お手入れとメンテナンス

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
10	5	ADAS
11	7.5	コンビネーションスイッチ
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-
16	-	-
17	15	車載充電器
18	-	-
19	30	リアボディーコントロールモジュール
20	30	リアボディーコントロールモジュール
21	30	左フロントパワーシート
22	30	右フロントパワーシート
23	-	-
24	-	-
25	-	-
26	-	-
27	-	-
28	-	-
29	-	-
30	-	-
31	-	-

アドバイス

- 車種仕様によっては、一部のフューズ（マルチメディア）のアンペア数が異なるため、修理や交換時は現物に準じてください。

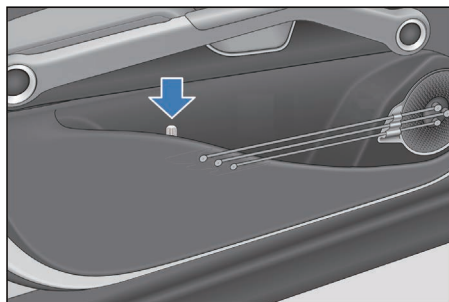
7-1 故障が発生	274
非常信号灯	274
リモートキーのバッテリーが 切れたら	274
緊急時シャットダウン システム	275
車両火災が発生したら	276
バッテリーの液漏れが 発生したら	277
レッカー移動が必要なとき ..	279
タイヤの空気漏れが 発生したら	280
バッテリーが切れたら	284
車両を ジャッキアップするとき	286

非常信号灯

高速道路や踏切などで故障・事故により緊急停車したときに使用します。

使い方

1. 非常信号灯を助手席側ドアポケットのホルダーから取り出します。
2. 本体のスイッチを入れ、点滅を確認します。
3. 底部のマグネットで車体に設置して、後続車に危険を知らせます。



▲ 注意

- 強い衝撃を与えないでください。
- 底部のマグネットで車体に傷付けないようご注意ください。
- 取り付けのまま走行せず、元の保管場所に戻してください。
- 非常時に使用できるように、動作確認を定期的に行ってください。

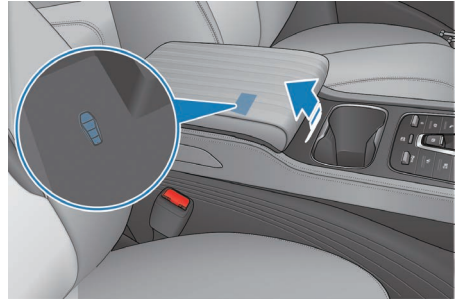
リモートキーのバッテリーが切れたら

リモートキー表示灯が点滅せず、スタート機能で車両を始動することができない場合は、バッテリーが切れていることが考えられます。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場でバッテリーを交換してください。この場合は、電池レスモードで車両を始動することができます。

▲ 注意

- 温度が高い場所にリモートキーを置かないでください。
- 固いものでリモートキーを叩いたり、投げ付けないでください。
- 磁気を帯びた機器からリモートキーを遠ざけてください。
- ドアを施錠してイモビライザーが作動状態で車両を使わない場合は、リモートキーを車両から遠ざけてください。車両がリモートキーに電波を自動的に送信し続けるため、起動バッテリーの電気エネルギーが消費されます。

1. メカニカルキーで解錠します。
2. ブレーキペダルを踏み込んでから「スタート / ストップ」ボタンを押します。このとき、リモートキーシステム警告灯が点灯し、ブザーが 1 回鳴ります。
3. ブザーが鳴ってから 30 秒以内にリモートキーを電池レスモードのマークにかざすと、リモートキーシステム警告灯が消灯し、5 秒以内に始動します。



緊急時シャットダウンシステム

- 次の条件を満たした場合、緊急時シャットダウンシステムが ON になり、高電圧システムが自動的に OFF になります。
 - 前方衝突後、エアバッグが作動しなかった。
 - 後面衝突。
 - 車両システム故障。
- 上記の衝突や車両システム故障が発生すると、走行可能表示灯（「OK」表示灯）が OFF になります。
- 上記の衝突で緊急時シャットダウンシステムが作動することにより、傷害または思わぬ事件の発生リスクを最小限に低減することができます。
- 一度、緊急時シャットダウンシステムが ON になると、システムは走行可能状態に入らなくなります。電源ポジションを走行可能に切り替えても、システムはすぐに OFF になるため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に救援を依頼してください。

車両火災が発生したら

車両火災が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にし、車両から離れてください。
2. 火勢が弱い場合は、身の安全を確保している状態で乾燥粉末消火器で鎮火し、すぐに119番に通報してください。
3. 火勢が強く勢いよく燃え広がる場合は、ただちに車両から遠く離れ、消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。

注意

- 車両を解体する場合は絶縁手袋を着用してください。水での消火や消火器の使い方を誤ると感電につながるおそれがあるため、指定された消火器で火を消してください。
- 特別な状況により、部品（内装部品やガラス）などが飛ばされるおそれがあるときは車両から離れてください。また、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に現場対応を依頼してください。

バッテリーの液漏れが発生したら

衝突後にバッテリーの液漏れが発生し、車内に酸性の臭いがする、または酸性の液体が明らかに流出してバッテリーパック内部から煙が出ている場合は、以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば、ボンネットを開けて起動バッテリー（12V）を切り離します。
2. ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、消防や救援者に対しては、パワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。

衝突事故が発生したら

衝突事故が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば、ボンネットを開けて起動バッテリー（12V）を切り離します。
 2. ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場までご連絡いただき、救援を要請してください。
 3. 状況に応じて、簡単な点検を行ってください。たとえば、パワーバッテリートレイの縁に割れがないか、明らかな液体の流出がないかなど。
- いずれの場合でも高電圧部品の破損が識別できるわけではないため、破損した部品やアクセサリ、他の金属品をそれらの部品に触れさせないでください。
 - 漏れた液体が身体に付着した場合は、ただちに大量の水で10～15分ほど洗い流してください。痛みを感じたときは、2.5%のグルコン酸カルシウムジェルを塗り付ける、または2～2.5%のグルコン酸カルシウム溶液に浸けて痛みを止めます。効果がなく気分が悪いときは、すぐに医師の手当てを受けてください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルや他の高電圧部品に対して勝手に作業をしないでください。高電圧システム作業の資格を取得しているBYD指定サービス工場で、高電圧システムに対する作業を依頼してください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルの破損、変更、取り外し、または高電圧配線網から切り離さないでください。
 - 消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えてください。

▲ 警告

- 漏れ出した液体には触らず、液漏れした場所やパワーバッテリーから遠く離れてください。
- 漏れ出した液体は、水や土壌などへみだりに流さないでください。
- 本車のシステムは高電圧の直流電源を使用します。車両を始動させる前後および電源ポジションを「OFF」にすると、システムには大量の熱が発生するため、高電圧や高温に注意してください。
- 高電圧のバッテリー部品および接続ケーブルに対して、解体や移設、変更をしないでください。コネクタによっては、重度のやけどや感電が発生し、怪我や死亡につながるおそれがあります。オレンジ色の接続ケーブルである高電圧ワイヤーハーネスを自ら修理しないでください。修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。
- リモートキーや高電圧部品は、身体に医療機器が付いている方に影響を与えるため、傷害を負わせるおそれがあります。
- 高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れないでください。
- 走行中に床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検してください。床下に損傷が見られる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 事故により車両が損傷した場合は、車両から離れて BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 事故により車両が損傷し、板金・塗装による修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

レッカー移動が必要なとき

レッカー車でけん引し移動する必要がある場合は、BYD 指定サービス工場またはけん引サービス専門業者、もしくはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。

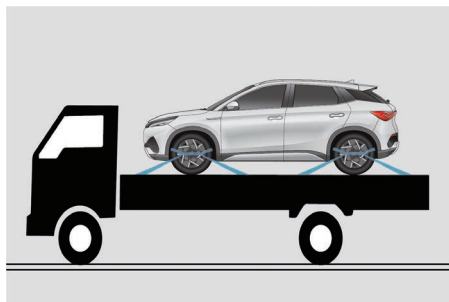
⚠ 警告

■ ロープやチェーンだけでのけん引はしないでください。

通常のけん引方法：

■ 積載車

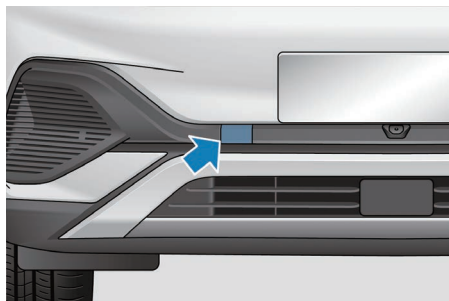
- 前輪の回転により高電圧部品が破損するおそれがあるため、故障で車両をけん引するときは積載車を呼んでください。



けん引フック

けん引フックの取り付け位置は図の通りです。

1. マイナスドライバーで取り付け位置のカバーを開けます。
2. けん引フックを差し込み口に取付けます。



i アドバイス

- けん引フックを使用した車両の搬送はおすすめしません。可能な限り、けん引サービス専門業者、またはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、車載工具に入っているけん引フックのみ使用してください。

タイヤの空気漏れが発生したら

- 直線走行を保ちながらゆっくりと速度を落とし、交通量の多い場所を離れて、安全な場所に移動します。
- 車両を堅固で平坦な地面に駐車し、高速道路の中央分岐に停車しないようにしてください。
- 電動パーキングブレーキスイッチを引き、「P」レンジにします。
- 電源ポジションを「OFF」にし、ハザードランプを点滅させます。高速道路では三角表示板を置き、非常信号灯を使用して、後続車に危険を知らせてください。
- 乗員全員が車両から降り、ガードレールの外など安全な場所に避難します。
- 自然発車を防ぐため、車両を確実に固定します。空気が漏れているタイヤの対角線上にあるタイヤに、輪留めを設置してください。



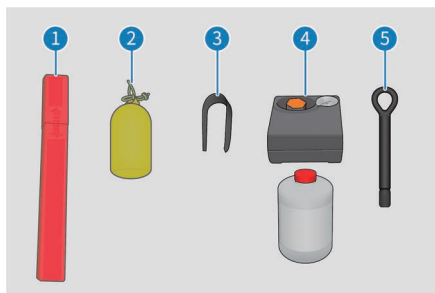
▲ 注意

- タイヤから空気が漏れたまま運転を続けしないでください。短距離走行でも、修復できないほどタイヤが破損するおそれがあります。

車載工具

車載工具は、テールゲートの下の工具箱に格納しています。

車載工具は、三角表示板、反射ベスト、ホイールナットキャップの取り外しクリップ、パンク修理剤、けん引フックなどを用意しています。



i アドバイス

- 故障で緊急停車する場合は、車載工具に入っている反射ベストを早めに着用してください。

三角表示板の設置

アドバイス

- 故障や電欠でやむなく道路上に駐停車する場合は、後方車両に知らせるため、三角表示板の赤い反射部を後方車両進行方向に向け、車両後部から50m以上離れた場所に設置してください。移動の準備ができれば、三角表示板を回収してください。

三角表示板は後方車両に危険を知らせることで、高速走行する後方車両が停車中や修理中の前方車両に衝突するのを避けるためのものです。

三角表示板の使い方：

1. ケースから三角表示板を取り出します。
2. 三角表示板を組み立てます。
3. 三角表示板の足を広げます。設置後の状態を図に示します。



パンク修理キット*を使用する

- パンク修理剤は、小さいパンク穴、特にトレッドパターン内の穴を塞ぐことができます。パンク修理剤で補修するのは、最寄りのサービス工場まで走行できる状態まで復旧するための応急処置にすぎません。タイヤからエアが漏れていないとしても、緊急時の短距離走行に対応するだけです。

警告

- パンク修理剤は、トレッドパターン内に開いた直径6mmまでの穴を補修することができます。直径が6mmより大きい穴、またはタイヤの他の位置に開いた穴は、パンク修理剤を使わずにロードサービスを依頼してください。
- パンク修理剤は、引火性が高く、かつ健康に害をおよぼすため、蒸気を吸い込まないでください。修理中は、裸火の使用や喫煙を禁止し、皮膚や服、目に付着することを避けてください。また、お子様の手が届かないところに保管してください。

▲ 警告 (続き)

パンク修理剤に触れたとき：

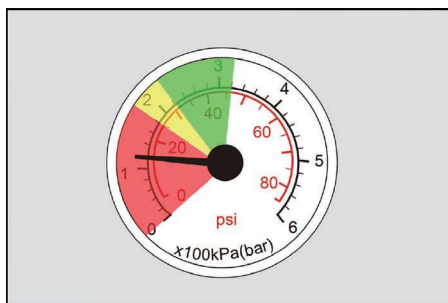
- パンク修理剤が皮膚や目に付着した場合は、ただちに多量の水で付着部位を洗い流してください。
- ただちに汚れた服を脱いでください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤ってパンク修理剤を飲み込んだ場合は、ただちにうがいで口の中をきれいに洗い、多量の水を飲んでください。その後、吐かせずに速やかに医師の手当てを受けてください。

パンク修理剤の使い方について

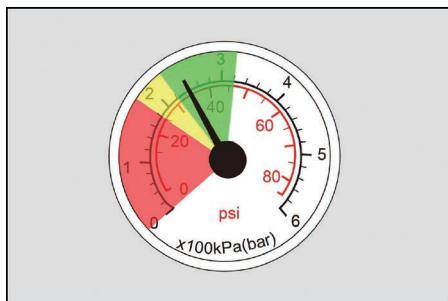
- パンク修理剤の使い方の詳細については、コンプレッサーおよびパンク修理剤容器の本体に貼り付いているラベルの記載を参照してください。
- コンプレッサーに電源を接続する必要がある場合は、車内の 12V ソケットに電源プラグを挿し込み、車両を始動してコンプレッサーのスイッチを ON にします。コンプレッサーのホースを通してエアと共にパンク修理剤をタイヤ内に注入します。

i アドバイス

- 電源プラグを車内の 12V ソケットに挿し込む場合は、コンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。
- コンプレッサーは、最大 10 分まで稼働することができます。
- コンプレッサーに付属の空気圧計を使い、空気圧を確認します。
 - タイヤ空気圧が 10 分以内に 180kPa (1.8bar) にならない場合 (図中の赤色のエリア) は、コンプレッサーを OFF にして BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



- タイヤ空気圧が 180 ~ 320kPa (1.8 ~ 3.2bar) の範囲内にある場合 (図中の緑色エリアと黄色色のエリア) は、できるだけ早くパンク修理剤を取り外して、1分以内に 80km/h 以下の速度で最大 10km を走行してタイヤ全体にパンク修理剤を広げてください。



- 車両を止めて、コンプレッサーの空気圧計を再度確認します。
 - タイヤ空気圧が 220kPa (2.2bar) を超えている場合は、80km/h 以内の速度で最寄りのサービス工場へお越しください。
 - タイヤ空気圧が 130 ~ 220kPa (1.3 ~ 2.2bar) の範囲内にある場合は、パンク修理剤を注入して空気圧計を確認する作業を繰り返してください。
 - タイヤ空気圧が 130kPa (1.3bar) にならない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

i アドバイス

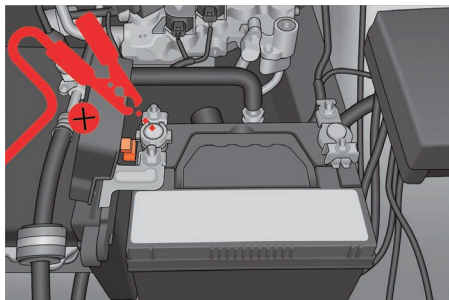
- パンク修理剤で破損したタイヤを補修するのは応急処置のみです。可能な限りお早めに専門のサービス工場でのタイヤ交換し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。また、タイヤの中にパンク修理剤が入っていることを整備士に伝えてください。
- タイヤパンク修理剤で補修したときは、急発進や高速でカーブを曲がることを避けてください。
- 80km/h の最高制限速度を守ってください。走行中に激しい振動や走行性能が不安定になったり、騒音が聞こえた場合は、運転を止めてください。
- パンク修理剤の有効期限が切れたときは (有効期限はパンク修理剤の容器に付いているラベルを参照)、新品のパンク修理剤に入れ替えてください。
- パンク修理剤を使用した後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での新品のパンク修理剤を購入してください。

バッテリーが切れたら

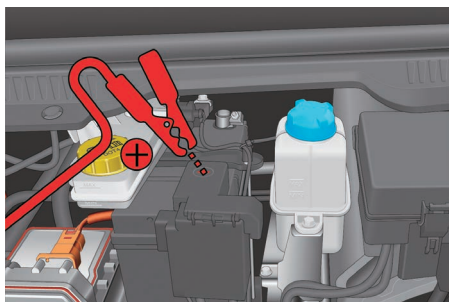
起動バッテリーが消耗している場合

起動バッテリーの電圧不足で始動できない場合は、下記の手順で始動させてください。

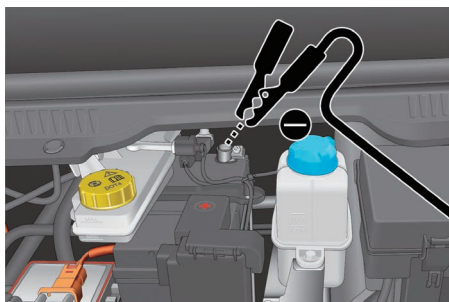
1. ボンネットを開けます。(ボンネットの開け方の内容を参照)
2. 赤い正極 (+) ブースターケーブルの片側を故障車の電圧がかかっていないバッテリーの正極 (+) 端子に接続します。



3. 赤い正極 (+) ブースターケーブルのもう片側を救援車の電圧がかかっているバッテリーの正極 (+) 端子に接続します。



4. 黒い負極 (-) ブースターケーブルの片側を救援車の電圧がかかっているバッテリーの負極 (-) 端子に接続します。



5. 黒い負極 (-) ケーブルのもう片側を自車の適切な接続部 (きれいで塗装されていない、しっかりと接地された金属部分) に接続します。
6. 始めに救援車を始動し、一定時間経過したら自車を始動します。

7. 自車が正常に始動後、救援車の電源を OFF にして、接続と逆の順でブースターケーブルを取り外します。
8. ボンネットを閉めます。

⚠ 警告

- ブースターケーブルの取り付け・取り外し手順を誤るとショートが発生し、車両を破損させたり人が怪我を負うおそれがあります。
- ジャンピングスタート時にショートの発生を避けるため、ブースターケーブルが互いに接触したり、ケーブル接続部以外の導電部位に当たっていないことを確認してください。
- 起動バッテリーを交換する場合は、必ず同じ型式と交換し確実に固定してください。固定ができていないと、ショートなどの原因となるおそれがあります。
- ブースターケーブルは、救援車の振動で外れたりしないように確実に接続してください。
- ブースターケーブルの取り付け・取り外し時は、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

⚠ 注意

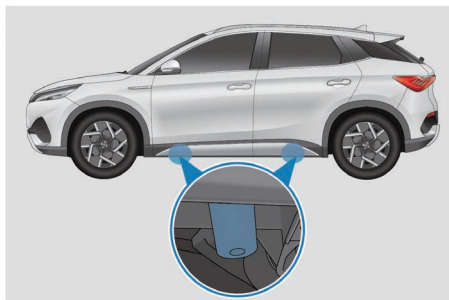
- ジャンピングスタートを複数回行っても、故障車が始動できない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に対応を依頼してください。
- ジャンピングスタート時の救援車はバッテリーの定格電圧が 12V でなければなりません。

車両をジャッキアップするとき

車両にサポートが必要な場合

リフトやジャッキで車両を持ち上げる必要がある場合は、図に示すジャッキアップポイントにリフトアームやジャッキをセットしてください。

安全を確保するため、リフトやジャッキで車両を持ち上げる前に、下記の事項に注意してください。



- 車両を堅固で平坦な地面に駐車してください。
- 車両の電源ポジションを「OFF」にし、乗員は車両から降ります。
- 車両がずれるのを防ぐため、ジャッキで車両を持ち上げる場合は、フロントホイールの前側またはリアホイールの後側に、輪止めを設置してください。

⚠ 警告

- リフトアームやジャッキをパワーバッテリーの上に置かないでください。
- リフトやジャッキで車両を持ち上げる場合は、安全確認をきちんとしてください。車両を破損させたり人に傷害を負わせるおそれがあります。
- ジャッキで車両を持ち上げる場合は、身体を車両の下に入れないでください。
- 車が発進し、重大な事故につながるおそれがあるため、ジャッキアップ中は電源ポジションを「ON」にしないでください。
- 充電中以外でも、充電ケーブルを接続しているときは、車両を持ち上げないでください。
- ボルトやナットにエンジンオイルや潤滑油を使用しないでください。ナットを締めすぎてボルトが損傷する、またはナットが緩んでホイールが脱落し、事故につながるおそれがあります。

8-1 データ情報	288
車両諸元	288
車両の表示	291
8-2 指示メッセージ	293
警告ラベル	293
マイクロ波通信用 ウィンドウ	295
8-3 適合証明	296
リモートキー	296

車両諸元

車両諸元明細

車両寸法：

全長 (mm)	4455
全幅 (mm) (ドアミラーを含まない)	1875
全高 (mm)	1615
ホイールベース (mm)	2720
フロントトレッド (mm)	1575
リアトレッド (mm)	1580
フロントオーバーハング (mm)	888
リアオーバーハング (mm)	847
アプローチアングル (°)	19
デパーチャーアングル (°)	24

車両重量：

車両重量 (kg)	1750
車両総重量 (kg)	2025
車両総重量前軸荷重 (kg)	1030
車両総重量後軸荷重 (kg)	995
乗車定員 (人)	5

駆動モーターの諸元：

型式	TZ200XSQ
種類	永久磁石同期モーター
駆動方式	4 × 2 前輪駆動
定格出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/ N・m)	65/4433/140
最高出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/ N・m)	150/4620/310

動力性能データ：

最高速度 (km/h)	160
最大登坂角度 (%)	30

車両の経済性データ：

WLTC モード時の 100km 当たりの消費電力量 (kW・h/100km)	≤12
WLTC モード時の航続可能距離 (km)	470

▲ 注意

■ 消費電力量の実績は、車の状況、道路条件、運転習慣などにかかわっています。

ホイールとタイヤの諸元：

タイヤの呼び	235/50R18 ; 215/55R18
タイヤ空気圧 (kPa)	250
ホイールバランス (g)	≤10

ホイールアライメント調整値 (車両重量時)：

フロントタイヤキャンバー角 (°)	-0.9 ± 0.75
フロントタイヤトーイン (°)	0.116 ± 0.16
キングピン角 (°)	11.47 ± 0.75
カスター角 (°)	3.23 ± 0.75
リアタイヤキャンバー角 (°)	-1.07 ± 0.5
リアタイヤトーイン (°)	0.17 ± 0.2

ブレーキシステム技術諸元：

ブレーキペダルの遊び (mm)	≤5
フロントディスクローターの厚みの適正範囲 (mm)	24 ~ 26
リアディスクローターの厚みの適正範囲 (mm)	10 ~ 12
フロントディスクパッドの厚みの適正範囲 (mm)	2 ~ 8
リアディスクパッドの厚みの適正範囲 (mm)	2 ~ 6.5

パワーバッテリー諸元：

パワーバッテリータイプ	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー
パワーバッテリー定格容量 (Ah)	150

油脂類諸元：

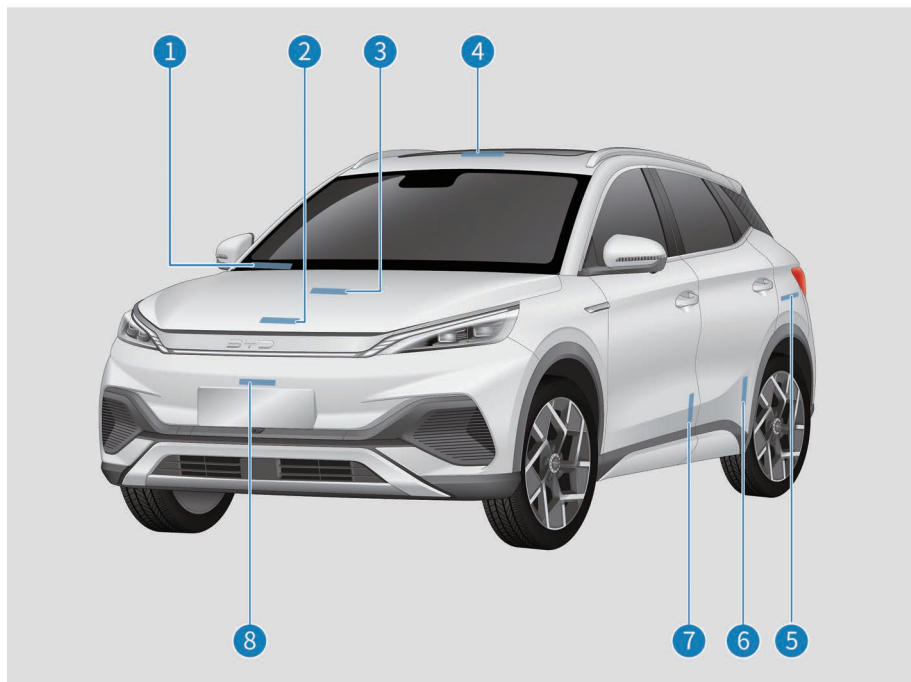
メンテナンス項目	型番 / 規格
トランスミッションオイルの型番	Castrol BOT384 (推奨)、 Castrol ON D2
トランスミッションオイルの注入量 (mL)	600 ± 50
モーター冷却水の規格	エチレングリコール系有機酸冷却液 -25/-40
モーター冷却水の注入量 (L)	3.9 ± 0.1
ブレーキフルードの規格	DOT4、または HZY6
ブレーキフルード注入量 (mL)	1050 ± 50

シート諸元 (クッション深さ測定時)：

フロントシートの設定 シートバック角度	23°
フロントシートの設定シート前後位置	設計位置から前へ 200mm、 後ろへ 60mm、レール傾角 4.5°
フロントシートバックの通常使用状態	シートバックが設計位置から 前へ 22.5°、後ろへ 52.5°
リアシートの設定シートバック角度	27°
リアシートの設定シート前後位置	設計状態で、調節不可 (解錠後に倒す)
リアシートバックの通常使用状態	27°

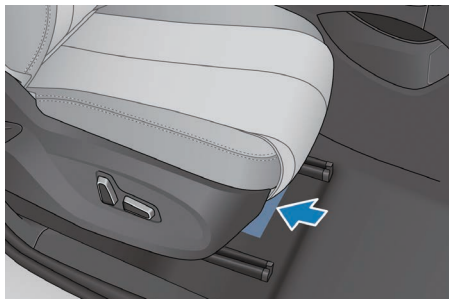
車両の表示

車両識別番号 (VIN コード)



- ① 右側フロントガラスのクロスシル、アッパーパネルのVINコード溝に貼ってあります。
- ② トランスミッションの本体に貼ってあります。
- ③ ボンネット内の板金表面に貼ってあります。
- ④ テールゲート板金の右下に貼ってあります。
- ⑤ 左リアタイヤのフェンダ表面に貼ってあります。
- ⑥ 左リアドアのサイドシル内側板金の表面に貼ってあります。
- ⑦ 左フロントドア左下のドア内側に貼ってあります。
- ⑧ フロントクロスメンバーの板金表面に貼ってあります。

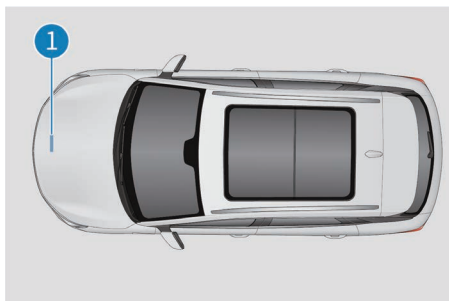
VIN コードは右側フロントシート下側のメンバーに刻印されています。



注) 車両 VDS の接続を通じて車種を選定してから、右上で車両識別番号 (VIN) を読み出します。詳細は VDS 取扱説明書を参照してください。

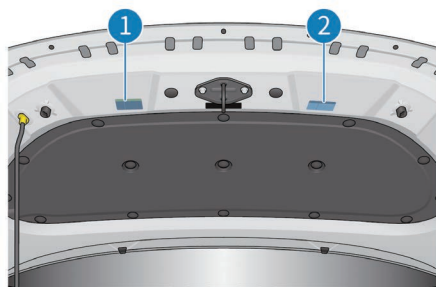
駆動モーターの型式および番号

- 1 駆動モーターの型式および番号は、ボンネット真下のストライカー近くに付いています。

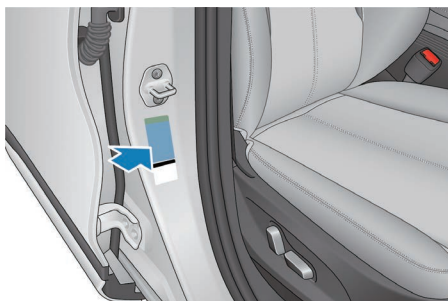


警告ラベル

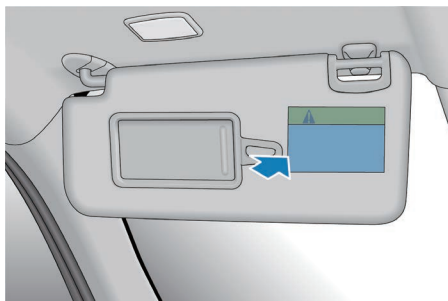
- ① 空調システム、冷却ファンラベル
- ② バッテリー搭載位置ラベル



サイドエアバッグ警告ラベルは、左右Bピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



エアバッグ警告ラベルは、左側サンバイザーの表側・裏側に貼ってあります。



⚠ 警告

■ 絶対に前側にエアバッグが装備されているシートで後向きにチャイルドシートを使わないでください。お子様の死亡や重傷につながるおそれがあります。

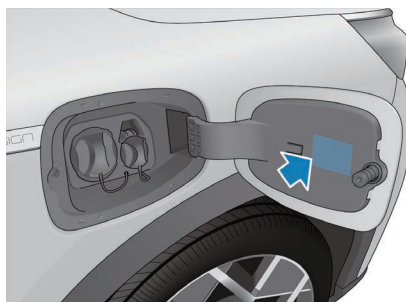
タイヤ空気圧ラベルは右側 B ピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



チャイルドロックのマークは、左/右リアドア板金の表面に刻印しています。

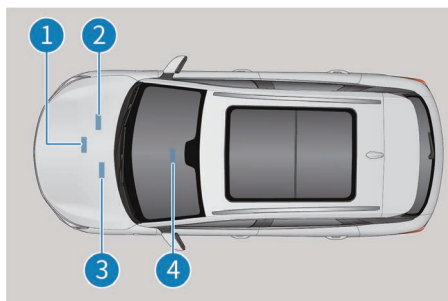


充電コネクタの警告ラベルは、充電ポートフラップ裏側の表面に貼ってあります。



■ 高電圧ラベル

- ① 高電圧ユニットのダイナミックドメインコントローラー上部のフューズカバー、モーターエンドキャップに貼ってあります。
- ② モータールーム内の AC 充電ケーブルに貼ってあります。
- ③ 高電圧ケーブルに貼ってあります。
- ④ パワーバッテリーパックのフロントカバーの上端部に貼ってあります。



マイクロ波通信用ウィンドウ





マイクロ波通信用ウィンドウは、フロントガラスの左上にあります。



⚠ 注意

- 車検検査標章を貼り付けるとき、ガラスのプリント部や他の物体への重なりを避けてください。

リモートキー

	<p>ブラジル</p> <p>型番：D0-92/D1-92</p> <p>本デバイスは、有害な妨害から保護する対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。</p>
	<p>ウズベキスタン</p> <p>型番：D0-92/D1-92</p>
	<p>EU 地域</p> <p>型番：D0-92/D1-92</p>
<p>FCC ID : 2A5DH-DAEA-92</p>	<p>アメリカ</p> <p>型番：D0-92/D1-92</p>
	<p>日本</p>

数字

12V アクセサリー電源 ……………223

アルファベット

A

ACC システムの作動条件 ……………162

AC 充電スタンドでの充電 ……………121

B

Bluetooth 電話 ……………232

BYD APP について ……………234

BYD アラウンドビューシステム ……184

BYD インテリジェント

音声制御機能 ……………231

D

DC 急速充電 ……………123

E

E-Call ……………104

EPB 作動音 ……………155

EPB システム表示灯 ……………155

N

NFC カードキー …………… 63

NFC カードでの施錠 / 解錠 …………… 69

P

PM2.5 detection ……………217

U

USB ポート ……………223

かな

あ

アカウント登録 ……………234

アシストグリップ ……………222

アダプティブクルーズコントロール

(ACC) システム ……………161

安全運転支援システム ……………192

安全運転上のご注意 ……………137

アンチロックブレーキシステム

(ABS) ……………196

い

一般充電故障の診断 ……………115

イモビライザー …………… 38

飲酒運転厳禁 ……………137

インストルメントパネルの

フューズボックスラベル ……………271

インテリジェント

アンビエントライト ……………108

インテリジェント

パワーブレーキシステム ……………192

う

ウィンドウロックキー …………… 99

ウォッシュャ ……………261

運転支援スイッチユニット ……………101

運転席および助手席エアバッグ …… 24

運転前の準備について ……………150

運転前の点検 ……………149

運転要領 ……………159

え

エアコン操作画面 ……………207
 エアコンパネルイメージ ……………207
 エアコンパネル、カーオーディオ、
 インstrumentパネル、
 コントロールパネルとスイッチ ……250
 エアバッグが作動しないケース …… 28
 エアバッグが作動するケース …… 27
 エアバッグについて …………… 22
 エアバッグの作動条件 …………… 27
 液晶コンビネーションメーター …… 46

お

オートビークルホールド (AVH) ……156

か

カーペット …………… 227,249
 回生ブレーキの設定 ……………130
 外部給電方法 …………… 125,126
 火災の予防 ……………144
 カップホルダー ……………220
 家庭用 AC 普通充電 ……………117
 冠水路の走行 ……………142

き

キーについて …………… 60
 起動バッテリー (12V) ……………135
 起動バッテリーが消耗している場合…284
 機能定義 ……………210
 機能を ON にする場合 …………… 75
 客室に荷物を積み込む場合 ……………141
 キャンプモード ……………236
 急速清浄 ……………217
 距離表示およびブザー ……………188
 緊急時シャットダウンシステム ……275

く

空気清浄システム ……………216
 空気清浄操作画面 ……………216
 空気を入れるとき ……………264
 空調システム ……………262
 駆動モーターの型式および番号 ……292
 クラウドサービス APP での
 エアコン操作 ……………218
 クルーズコントロールボタン操作 …162
 車の運転 ……………149
 車のご利用についてのアドバイス …138
 車の始動 ……………147
 車を始動する場合 …………… 75
 グローブボックス ……………219

け

警告灯 / 表示灯について …………… 49
 警告の表示について ……………182
 警告ラベル ……………293
 けん引フック ……………279

こ

航続距離の表示 ……………129
 交通標識認識システム ……………171
 後方レーダーの電源スイッチ ……188
 故障時のリリース機能 ……………154
 ご注意 ……………164,169,172,175,182
 個別センターおよび車両管理 ……235
 ご利用要領 ……………213
 コンビネーションメーターイメージ… 46
 コンビネーションメーターの表示 …174
 コンビネーションランプ ……………254

さ

サイドカーテンエアバッグ	26
作動状況説明	161
作動するセンサーおよび その検知範囲	189
サンシェードスイッチ	106
サンバイザー	222
サンルーフスイッチ	105
サンルーフの挟み込み防止機能	107
サンルーフのメンテナンスについて	256

し

シートについて	78
シートバックポケット	220
シートヒーターシステム	79
シートベルト	249
シートベルトについて	16
シートベルトの緊急ロック機能	17
シートベルトのプリテンショナー/ ロードリミット機能	17
シートベルトリマインダー	20
シートベルトを着用するとき	18
ジェスチャーおよび応答	231
システムについて	181
システムの基本機能	181
システムの限界	168,174
自動緊急通報システム E-Call	104
自動洗車をするとき	248
自動で EPB が掛かる	152
自動防眩ルームミラー	199
シフト機構	150
車載工具	280
車載されるレーダーについて	181
車内の PM2.5 濃度および 指数の表示	217
車内の人工皮革部分	250
車内の清掃	249

車両火災が発生したら	276
車両識別番号 (VIN コード)	291
車両状態および車両制御システム	235
車両諸元	288
車両諸元明細	288
車両接近通報装置 (AVAS)	198
車両データの処理	40
車両にサポートが必要な場合	286
車両の第三者への譲渡、および オフラインモード	43
車両の表示	291
車両の防食について	245
車両の保管	258
車両メンテナンス計画	238
車両を安全運転可能な状態に保つ	138
車両をジャッキアップするとき	286
集中ドアロック	99
集中ドアロックの施錠 / 解錠	73
充電上のご注意	112
充電について	111
充電方法	117
充電ポート盗難防止ロック機能	128
充電ポート盗難防止ロックの 非常解錠	129
手動で EPB を解除する	153
手動で EPB をかける	152
衝突事故が発生したら	277
初期化方法	107
助手席側ウィンドウスイッチ	101

す

ステアリングホイール	82
ステアリングホイール コンビネーションスイッチ	82
ステアリングホイールの手動調節	87
スマートエントリー & スタートシステム	75
スマート充電機能	124

せ

セキュリティ表示灯 39
 セルフメンテナンス252
 セルフメンテナンス上のご注意252
 センサータイプ188
 洗車247
 前席サイドエアバッグ 25
 センターコンソールボックス220

そ

走行距離切替スイッチ100
 速度の抑制138

た

タイヤ264
 タイヤ空気圧モニタリング181
 タイヤチェーン146
 タイヤとホイールの交換267
 タイヤの位置交換266
 タイヤの空気漏れが発生したら280

ち

チャイルドロック 77
 駐車支援システム187

つ

使い方167

て

手洗い洗車をするとき247
 定期メンテナンス245
 データの収集および処理 40
 テールゲートスイッチ100
 テールゲートの緊急時解錠 72
 テールゲートの施錠 / 解錠 70

電気の省エネで

車を長持ちさせる方法について139
 点検 253,265
 電動ドアミラー200
 電動パーキングブレーキ (EPB)152
 電動フロントシートの調節 79

と

ドアおよびドアガラス250
 ドアの施錠 / 解錠 64
 ドアポケット219
 ドアミラーの調整ボタン200
 冬期の運転について160
 当局への個人情報開示 43
 塗装メンテナンスのお願い246
 ドライブレコーダー202
 ドライブレコーダーの映像203
 トランクルームに
 荷物を積み込む場合142
 トレーラーのけん引137

な

ナビゲーションバー230
 ナビゲーションパイロット176
 慣らし運転期間137

に

荷物の積み込み141

の

ノブ操作でドアを開けるときの 64

は

ハイビームアシストシステム	92
ハザードランプスイッチ	102
挟み込み防止機能	98
発車時に自動的に EPB を解除する	153
バッテリーが切れたら	284
バッテリー特性	131
バッテリーの液漏れが発生したら	277
バッテリーの使い方について	132
パノラマサンルーフ	105
パノラマサンルーフの メンテナンスについて	256
パワーウィンドウスイッチ	96
パワーステアリングモードの設定	87
パワーバッテリー	131
パワーバッテリーの回収	134
パンク修理キット	281

ひ

非常信号灯	274
左側 / 右側リアルームランプ スイッチ	108
表示灯 / 警告灯の標識	47

ふ

ファイル管理	233
吹き出し口	215
普通のサンルーフの メンテナンスについて	257
フェーズ	268
ブラインドスポット インフォメーション	178
ブレーキシステム	261
フロントエアコン操作画面	209
フロント側 USB ポート	223
フロント側サイド吹き出し口	215
フロント側中央吹き出し口	215

フロントシートの調節	79
フロントルームランプ	108
フロントワイパーとウォッシュャ	94

へ

ヘッドライトの高さ調節	93
ヘッドレスト	81
ヘッドレストの調節	81

ほ

ボンネット	259
ボンネットの開け方	259

ま

マイクロスイッチ操作での 施錠 / 解錠	68
マイクロスイッチ操作での 窓開 / 閉	69
マイクロ波通信用ウィンドウ	295
マルチメディアコントロール パネル PAD	228

め

メーターのその他故障について	57
メーター表示灯	47
メカニカルキー	62
メカニカルキーでの施錠 / 解錠	64
メカニカルキーでの全ドア緊急施錠	74
メンテナンス	266
メンテナンス計画について	239
メンテナンス細則	263
メンテナンス周期および メンテナンス内容	238
メンテナンス周期表	239

も

モータールームの
 フューズボックスラベル ……………269
 モードスイッチユニット ……………102

ゆ

ユーザーのデータ保護の権利 …………… 44

よ

幼児用補助装置
 (チャイルドシート) …………… 33
 幼児用補助装置の取り付けについて… 34
 予測緊急ブレーキシステム ……………167

ら

ライトスイッチ …………… 88

り

リア側 USB ポート ……………223
 リア側吹き出し口 ……………215
 リアシートの収納 …………… 80
 リアシェルフ ……………226
 リアワイパーとウォッシュャ …………… 95
 リモートキー …………… 60,296
 リモートキー操作での施錠 / 解錠 …… 65
 リモートキー操作での窓開 / 閉 …… 67
 リモートキーのバッテリーが
 切れたら ……………274
 リモートキーの
 「リモートスタート機能」 ……………148
 リモートスタート機能 ……………148

る

ルームミラー ……………199
 ルームランプスイッチ ……………108

れ

冷却システム ……………260
 レーンサポートシステム ……………173
 レッカー移動が必要なとき ……………279

わ

ワイパー ……………201
 ワイパースイッチ …………… 94
 ワイパーブレード ……………262
 ワイパーブレードの交換 ……………201
 ワイヤレス充電エリア ……………224

略語

略語	名称	略語	名称
ECU	エレクトロニック コントロールユニット	ISOFIX	幼児用補助装置 固定システム
ABS	アンチロック ブレーキシステム	AUTO	自動
ACC	アダプティブクルーズ コントロール *	USB	ユニバーサルシリアルバス
ECO	エコモード	NORMAL	ノーマルモード
SPORT	スポーツモード	SOC	パワーバッテリー残量
AVH	オートビークルホールド	EPB	電動パーキングブレーキ
PCW	衝突予測警告	AEB	自動緊急ブレーキ
BSD	ブラインドスポット インフォメーション	RCTA	リアクロス トラフィックアラート
DOW	ドアオープンワーニング	TPMS	タイヤ空気圧 モニタリングシステム
VDC	ビークルダイナミクス コントロール	TCS	トラクション コントロールシステム
HHC	ヒルスタートホールド コントロール	HBA	ハイドロリック ブレーキアシスト
CDP	減速度制御	HDC	ヒルディセント コントロール
PM2.5	空気浄化システム	MAX	最大値
MIN	最小値	VIN	車両識別番号

